

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

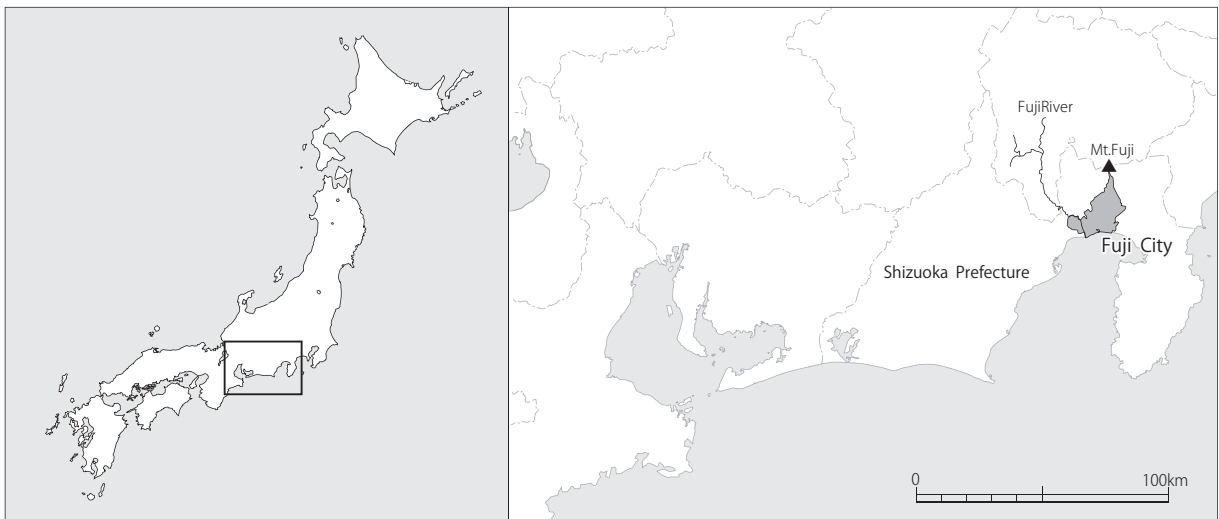
—平成30年度—

2019年11月

富士市教育委員会

例 言

- 1 本書は、富士市教育委員会が平成 30 年度に富士市内において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
ただし、一部には平成 30 年度以前に調査された調査成果の報告も含んでいる。
- 2 調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、実務は市民部文化振興課職員がこれにあたった。
調査の一部は『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。
調査体制、担当者は第 1 章第 1 節に譲る。
- 3 本書の執筆は、第 1 章第 1 節・第 5 章および出土遺物については佐藤祐樹（市民部文化振興課 主査）、第 3 章第 1 節・
第 3 章第 3 節は伊藤 愛（前 市民部文化振興課職員・現 長野県埋蔵文化財センター）、その他は若林美希（市民部文化
振興課 発掘調査員）が担当した。
編集は佐藤・若林による。
- 4 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。
池谷初恵 大谷宏治 菊池吉修 小崎 晋 鈴木一有 田村隆太郎 豊島直博 堀内秀樹(五十音順、敬称略)
- 5 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会（富士市埋蔵文化財調査室）
で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。






凡 例

1 本書で示す座標は、平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰釉陶器・陶器 

4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。

5 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

目 次

例 言

凡 例

目 次

第 1 章 平成 30 年度の調査

第 1 節	調査体制と調査概要	1
第 2 節	平成 30 年度の発掘調査報告	5
第 3 節	工事立会の報告	69
第 4 節	埋蔵文化財包蔵地の内容変更	71

第 2 章 柏原遺跡の調査

第 1 節	柏原遺跡の概要	73
第 2 節	第 13 地区の調査成果	75

第 3 章 東平遺跡の調査

第 1 節	東平遺跡の概要	83
第 2 節	第 101 地区の調査成果	89
第 3 節	第 102 地区の調査成果	93
第 4 節	第 103 地区の調査成果	104

第 4 章 国久保遺跡の調査

第 1 節	国久保遺跡の概要	109
第 2 節	第 8 地区の調査成果	111

第 5 章 琴平古墳の調査

第 1 節	琴平古墳の概要	117
第 2 節	測量調査の成果	119
第 3 節	発掘調査の成果	121
第 4 節	総 括	126

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章 平成30年度の調査		
第1節 調査体制と調査概要		
第1図 地元中学生の調査現場見学の様子(神谷古墳群)	2	
第2図 平成30年度調査地の位置と地形区分	2	
第2節 平成30年度の発掘調査報告		
第3図 柏原遺跡第12地区 位置図	5	
第4図 柏原遺跡第12地区 トレンチ配置図	5	
第5図 柏原遺跡第12地区 トレンチ平面図・セクション図	5	
第6図 柏原遺跡第12地区 出土遺物実測図	5	
第7図 沖田遺跡第157次調査地点 位置図	6	
第8図 沖田遺跡第157次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	6	
第9図 川坂遺跡第5地区 位置図	7	
第10図 川坂遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図	7	
第11図 中島遺跡第12地区 位置図	7	
第12図 中島遺跡第12地区 トレンチ配置図・セクション図	8	
第13図 厚原遺跡第8地区 位置図	8	
第14図 厚原遺跡第8地区 トレンチ配置図・セクション図	8	
第15図 中島遺跡第13地区 位置図	9	
第16図 中島遺跡第13地区 トレンチ配置図・セクション図	9	
第17図 滝川4古墳群第3地区 位置図	9	
第18図 滝川4古墳群第3地区 トレンチ配置図	9	
第19図 滝川4古墳群第3地区 セクション図	10	
第20図 東平遺跡第95地区 位置図	10	
第21図 東平遺跡第95地区 トレンチ配置図	10	
第22図 東平遺跡第95地区 トレンチ平面図・セクション図	11	
第23図 東平遺跡第95地区 SH1001平面図・エレベーション図	11	
第24図 東平遺跡第95地区 出土遺物実測図	12	
第25図 東平遺跡第96地区 位置図	13	
第26図 東平遺跡第96地区 トレンチ配置図	13	
第27図 東平遺跡第96地区 トレンチ平面図・セクション図	13	
第28図 東平遺跡第96地区 出土遺物実測図	14	
第29図 東平遺跡第97地区 位置図	14	
第30図 東平遺跡第97地区 トレンチ配置図	14	
第31図 東平遺跡第97地区 トレンチ平面図・セクション図	15	
第32図 東平遺跡第97地区 出土遺物実測図	16	
第33図 国久保遺跡第7地区 位置図	16	
第34図 国久保遺跡第7地区 トレンチ配置図・セクション図	16	
第35図 国久保遺跡第7地区 出土遺物実測図	17	
第36図 東平遺跡第98地区 位置図	17	
第37図 東平遺跡第98地区 トレンチ配置図	17	
第38図 東平遺跡第98地区 トレンチ平面図・セクション図	18	
第39図 東平遺跡第98地区 出土遺物実測図	18	
第40図 高德坊遺跡第5地区 位置図	19	
第41図 高德坊遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図	19	
第42図 三度蒔B遺跡第4地区 位置図	19	
第43図 三度蒔B遺跡第4地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図	20	
第44図 中桁・中ノ坪遺跡第13地区 位置図	20	
第45図 中桁・中ノ坪遺跡第13地区 トレンチ配置図	21	
第46図 中桁・中ノ坪遺跡第13地区 トレンチ平面図・セクション図	21	
第47図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 位置図	22	
第48図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 トレンチ配置図	22	
第49図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 トレンチ平面図・セクション図	22	
第50図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 出土遺物実測図	23	
第51図 清水岩の上遺跡第1地区 位置図	23	
第52図 清水岩の上遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	23	
第53図 東平遺跡第99地区 位置図	24	
第54図 東平遺跡第99地区 トレンチ配置図	24	
第55図 東平遺跡第99地区 トレンチ平面図・セクション図	24	
第56図 中桁・中ノ坪遺跡第15地区 位置図	25	
第57図 中桁・中ノ坪遺跡第15地区 トレンチ配置図・セクション図	25	
第58図 善得寺廃寺跡第5地区 位置図	26	
第59図 善得寺廃寺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図	26	
第60図 花守遺跡第5地区 位置図	27	
第61図 花守遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図	27	
第62図 東平遺跡第100地区 位置図	27	
第63図 東平遺跡第100地区 トレンチ配置図・セクション図	28	
第64図 天間沢遺跡第50地区 位置図	28	
第65図 天間沢遺跡第50地区 トレンチ配置図・セクション図	29	
第66図 天間沢遺跡第51地区 位置図	29	
第67図 天間沢遺跡第51地区 トレンチ配置図・セクション図	29	
第68図 包蔵地外大淵地先 位置図	30	
第69図 包蔵地外大淵地先 トレンチ配置図	30	
第70図 包蔵地外大淵地先 トレンチ平面図・セクション図	30	
第71図 包蔵地外大淵地先 トレンチ平面図・セクション図	31	
第72図 沖田遺跡第158次調査地点 位置図	31	
第73図 沖田遺跡第158次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	32	
第74図 沖田遺跡第158次調査地点 出土遺物実測図	32	
第75図 川窪遺跡第4地区 位置図	33	
第76図 川窪遺跡第4地区 トレンチ配置図	33	
第77図 川窪遺跡第4地区 セクション図	34	
第78図 清水久保遺跡第1地区 位置図	34	
第79図 清水久保遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	34	
第80図 石坂2古墳群第5地区 位置図	35	
第81図 石坂2古墳群第5地区 トレンチ配置図・セクション図	35	
第82図 石坂2古墳群第5地区 ニタ子塚第2号墳丘測量図	36	
第83図 石坂2古墳群第5地区 ニタ子塚第2号墳平面図・エレベーション図	37	
第84図 石坂2古墳群第5地区 1Tr・2Tr平面図・セクション図	38	
第85図 花守遺跡第6地区 位置図	39	
第86図 花守遺跡第6地区 トレンチ配置図・セクション図	39	
第87図 天間沢遺跡第52地区 位置図	39	
第88図 天間沢遺跡第52地区 トレンチ配置図・平面図・セクション図	40	
第89図 東平遺跡第104地区 位置図	40	
第90図 東平遺跡第104地区 トレンチ配置図・セクション図	40	
第91図 柏原遺跡第14地区 位置図	41	
第92図 柏原遺跡第14地区 トレンチ配置図・セクション図	41	
第93図 柏原遺跡第14地区 出土遺物実測図	41	
第94図 天間沢遺跡第53地区 位置図	42	
第95図 天間沢遺跡第53地区 トレンチ配置図・セクション図	42	
第96図 神谷古墳群第11地区 位置図	43	
第97図 神谷古墳群第11地区 トレンチ配置図・セクション図	43	
第98図 神谷古墳群第11地区 SZJ-07平面図・セクション図	44	

第99図	神谷古墳群第11地区	SZJ-07	セクション図	45	第150図	東平遺跡第109地区	出土遺物実測図	64
第100図	神谷古墳群第11地区	SZJ-09	平面図・セクション図	46	第151図	中島遺跡第14地区	位置図	64
第101図	神谷古墳群第11地区				第152図	中島遺跡第14地区	セクション図	65
		SX1001	平面図・エレベーション図	47	第153図	川窪遺跡第5地区	位置図	65
第102図	神谷古墳群第11地区	8Tr	平面図・セクション図	47	第154図	川窪遺跡第5地区	トレンチ配置図・セクション図	66
第103図	神谷古墳群第11地区		出土遺物実測図	47	第155図	砂山遺跡第1地区	位置図	66
第104図	東平遺跡第105地区		位置図	48	第156図	砂山遺跡第1地区	トレンチ配置図・セクション図	67
第105図	東平遺跡第105地区		トレンチ配置図・セクション図	48	第157図	中里3古墳群第7地区	位置図	67
第106図	丸崎遺跡第3地区		位置図	48	第158図	中里3古墳群第7地区	トレンチ配置図	67
第107図	丸崎遺跡第3地区		トレンチ配置図・セクション図	49	第159図	中里3古墳群第7地区	セクション図	68
第108図	元吉原宿遺跡第4地区		位置図	49	第160図	東平遺跡第110地区	位置図	68
第109図	元吉原宿遺跡第4地区				第161図	東平遺跡第110地区		
			トレンチ配置図・セクション図	49			トレンチ配置図・平面図・セクション図	68
第110図	二本松遺跡第1地区		位置図	50	第3節	工事立会の報告		
第111図	二本松遺跡第1地区		トレンチ配置図・セクション図	50	第162図	天間沢遺跡第45地区	位置図	69
第112図	中桁・中ノ坪遺跡第16地区		位置図	50	第163図	天間沢遺跡第45地区	工事立会 出土遺物実測図	69
第113図	中桁・中ノ坪遺跡第16地区		トレンチ配置図	51	第4節	埋蔵文化財包蔵地の内容変更		
第114図	中桁・中ノ坪遺跡第16地区		出土遺物実測図	51	第164図	天念寺遺跡の範囲変更		71
第115図	中桁・中ノ坪遺跡第16地区				第165図	厚原横道下遺跡の範囲変更		72
			トレンチ平面図・セクション図	51	第166図	滝下遺跡の範囲変更		72
第116図	舟久保遺跡第63地区		位置図	51	第2章	柏原遺跡の調査		
第117図	舟久保遺跡第63地区				第1節	柏原遺跡の概要		
			トレンチ配置図・平面図・セクション図	52	第167図	柏原遺跡の位置		73
第118図	東平遺跡第106地区		位置図	53	第168図	柏原遺跡 調査履歴図		74
第119図	東平遺跡第106地区		トレンチ配置図	53	第2節	第13地区の調査成果		
第120図	東平遺跡第106地区		トレンチ平面図・セクション図	53	第169図	柏原遺跡第13地区	位置図	75
第121図	東平遺跡第107地区		位置図	54	第170図	確認調査トレンチおよび本調査区	配置図	76
第122図	東平遺跡第107地区		トレンチ配置図・セクション図	54	第171図	確認調査トレンチ	平面図・セクション図	77
第123図	東平遺跡第107地区		出土遺物実測図	54	第172図	本調査区	平面図・セクション図	78
第124図	東平遺跡第108地区		位置図	55	第173図	SD2001・SD2002・SD2003・SD2004		
第125図	東平遺跡第108地区		トレンチ配置図・セクション図	55			平面図・セクション図	79
第126図	夷城跡第1地区		位置図	55	第174図	SD2005・SX2001	平面図・セクション図	80
第127図	夷城跡第1地区		トレンチ配置図・セクション図	55	第175図	土坑・ピット	平面図・セクション図	81
第128図	川坂遺跡第6地区		位置図	56	第176図	出土遺物	実測図	82
第129図	川坂遺跡第6地区		トレンチ配置図・セクション図	56	第3章	東平遺跡の調査		
第130図	大石遺跡第3地区		位置図	56	第1節	東平遺跡の概要		
第131図	大石遺跡第3地区		トレンチ配置図	56	第177図	東平遺跡の位置		83
第132図	大石遺跡第3地区		セクション図	57	第178図	東平遺跡 調査履歴図		85
第133図	土手内・中原2古墳群第16地区		位置図	57	第2節	第101地区の調査成果		
第134図	土手内・中原2古墳群第16地区				第179図	東平遺跡第101地区	位置図	89
			トレンチ配置図・セクション図	57	第180図	確認調査トレンチおよび工事立会範囲		
第135図	宇東川遺跡第27地区		位置図	57			配置図・セクション図	91
第136図	宇東川遺跡第27地区		トレンチ配置図	58	第181図	本調査区	平面図・セクション図	92
第137図	宇東川遺跡第27地区		セクション図	59	第3節	第102地区の調査成果		
第138図	宇東川遺跡第27地区		出土遺物実測図	59	第182図	東平遺跡第102地区	位置図	93
第139図	比奈4古墳群第2地区		位置図	60	第183図	確認調査トレンチおよび本調査区	配置図	93
第140図	比奈4古墳群第2地区				第184図	確認調査	トレンチ平面図・セクション図	95
			トレンチ配置図・セクション図	60	第185図	本調査区	全体図	96
第141図	天間沢遺跡第53地区		位置図	61	第186図	本調査区	基本土層図	96
第142図	天間沢遺跡第53地区		トレンチ配置図	61	第187図	土坑・ピット平面図(西側)		98
第143図	天間沢遺跡第53地区		セクション図	61	第188図	土坑・ピット平面図(東側)		99
第144図	上の段遺跡第3地区		位置図	62	第189図	土坑・ピット	個別平面図・セクション図1	100
第145図	上の段遺跡第3地区		トレンチ配置図	62	第190図	土坑・ピット	個別平面図・セクション図2	101
第146図	上の段遺跡第3地区		セクション図	62	第191図	土坑・ピット	個別平面図・セクション図3	102
第147図	東平遺跡第109地区		位置図	62	第192図	出土遺物実測図		103
第148図	東平遺跡第109地区		トレンチ配置図・セクション図	63	第4節	第103地区の調査成果		
第149図	東平遺跡第109地区	3Tr	平面図・セクション図	64	第193図	東平遺跡第103地区	位置図	104

第 194 図	トレンチ配置図	104
第 195 図	2 トレンチ 平面図・セクション図	105
第 196 図	出土遺物実測図	107
第 4 章	国久保遺跡の調査	
第 1 節	国久保遺跡の概要	
第 197 図	国久保遺跡第 8 地区 作業の様子	109
第 198 図	国久保遺跡の位置	109
第 199 図	国久保遺跡 調査履歴図	110
第 2 節	第 8 地区の調査成果	
第 200 図	国久保遺跡第 8 地区 位置図	111
第 201 図	確認調査トレンチおよび本調査区 配置図	112
第 202 図	確認調査トレンチ 平面図	113
第 203 図	確認調査トレンチ セクション図	113
第 204 図	出土遺物 実測図	113
第 205 図	本調査区 平面図・セクション図	114
第 206 図	SD2001 平面図・セクション図	114
第 207 図	土坑・ピット 平面図・セクション図	115
第 5 章	琴平古墳の調査	
第 1 節	琴平古墳の概要	
第 208 図	琴平古墳 位置図	117
第 209 図	琴平古墳全景（南西から）	118
第 210 図	琴平古墳周辺地形図	118
第 2 節	測量調査の成果	
第 211 図	琴平古墳測量調査の様子	119
第 212 図	琴平古墳 墳丘測量図	120
第 213 図	墳丘・周溝全景（北西から）	121
第 214 図	墳丘北側及び墳裾（西から）	121
第 215 図	琴平古墳 墳丘復元図	121
第 3 節	発掘調査の成果	
第 216 図	中里 3 古墳群第 6 地区 位置図	121
第 217 図	トレンチ配置図	122
第 218 図	トレンチ平面図	123
第 219 図	1 トレンチ 平面図・セクション図	124
第 220 図	2 トレンチ 平面図・セクション図	125
第 4 節	総括	
第 221 図	琴平古墳周辺の古墳立地	126
第 222 図	駿河・伊豆における主要古墳の変遷	128

挿表目次

第 1 章	平成 30 年度の調査	
第 1 節	調査体制と調査概要	
第 1 表	平成 30 年度発掘調査一覧表	3
第 2 節	平成 30 年度の発掘調査報告	
第 2 表	柏原遺跡第 12 地区 出土遺物観察表	5
第 3 表	東平遺跡第 95 地区 出土遺物観察表	10
第 4 表	東平遺跡第 96 地区 出土遺物観察表	14
第 5 表	東平遺跡第 97 地区 出土遺物観察表	16
第 6 表	国久保遺跡第 7 地区 出土遺物観察表	17
第 7 表	東平遺跡第 98 地区 出土遺物観察表	18
第 8 表	中桁・中ノ坪遺跡第 14 地区 出土遺物観察表	23
第 9 表	沖田遺跡第 158 次調査地点 出土遺物観察表	33
第 10 表	柏原遺跡第 14 地区 出土遺物観察表	41
第 11 表	神谷古墳群第 11 地区 出土遺物観察表	47
第 12 表	中桁・中ノ坪遺跡第 16 地区 出土遺物観察表	51
第 13 表	東平遺跡第 107 地区 出土遺物観察表	54
第 14 表	宇東川遺跡第 27 地区 出土遺物観察表	59
第 15 表	東平遺跡第 109 地区 出土遺物観察表	64
第 3 節	工事立会の報告	
第 16 表	天間沢遺跡第 45 地区工事立会 出土遺物観察表	70
第 2 章	柏原遺跡の調査	
第 1 節	柏原遺跡の概要	
第 17 表	柏原遺跡 調査履歴一覧表	74
第 2 節	第 13 地区の調査成果	
第 18 表	出土遺物観察表	82
第 3 章	東平遺跡の調査	
第 1 節	東平遺跡の概要	
第 19 表	東平遺跡 調査履歴一覧表	86
第 2 節	第 101 地区の調査成果	
第 20 表	土坑・ピット 一覧表	92
第 3 節	第 102 地区の調査成果	
第 21 表	土坑・ピット 一覧表	102
第 22 表	東平遺跡第 102 地区 出土遺物観察表	103
第 4 節	第 103 地区の調査成果	
第 23 表	東平遺跡第 103 地区 出土遺物観察表	107
第 4 章	国久保遺跡の調査	
第 1 節	国久保遺跡の概要	
第 24 表	国久保遺跡 調査履歴一覧表	110
第 2 節	第 8 地区の調査成果	
第 25 表	土坑・ピット 一覧表	116
第 26 表	出土遺物観察表	116
第 5 章	琴平古墳の調査	
第 4 節	総括	
第 27 表	周辺古墳一覧	127

写真図版目次

PL. 1

- 第1章 1 柏原遺跡 第12地区1次調査
- 2 沖田遺跡 第157次調査地点2次調査
- 3 川坂遺跡 第5地区1次調査
- 4 中島遺跡 第12地区1次調査
- 5 厚原遺跡 第8地区1次調査
- 6 中島遺跡 第13地区1次調査
- 7 滝川4古墳群 第3地区1次調査

PL. 2

- 第1章 8 東平遺跡 第95地区1次調査

PL. 3

- 第1章 8 東平遺跡 第95地区1次調査

PL. 4

- 第1章 9 東平遺跡 第96地区1次調査
- 10 東平遺跡 第97地区1次調査

PL. 5

- 第1章 12 東平遺跡 第98地区1次調査

PL. 6

- 第1章 11 国久保遺跡 第7地区1次調査
- 12 東平遺跡 第98地区1次調査

PL. 7

- 第1章 13 高德坊遺跡 第5地区1次調査
- 14 三度蒔B遺跡 第4地区1次調査
- 15 中桁・中ノ坪遺跡 第13地区1次調査
- 16 中桁・中ノ坪遺跡 第14地区1次調査

PL. 8

- 第1章 17 清水岩の上遺跡 第1地区1次調査
- 18 東平遺跡 第99地区1次調査
- 19 中桁・中ノ坪遺跡 第15地区1・2次調査
- 20 善得寺廃寺跡 第5地区1次調査

PL. 9

- 第1章 21 花守遺跡 第5地区1次調査
- 22 東平遺跡 第100地区1次調査
- 23 天間沢遺跡 第50地区1次調査
- 24 天間沢遺跡 第51地区1次調査

PL.10

- 第1章 25 包蔵地外 大淵地先
- 26 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査
- 27 川窪遺跡 第4地区1次調査
- 28 清水久保遺跡 第1地区1次調査

PL.11

- 第1章 26 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査

PL.12

- 第1章 29 石坂2古墳群 第5地区1次調査

PL.13

- 第1章 29 石坂2古墳群 第5地区1次調査
- 30 花守遺跡 第6地区1次調査
- 31 天間沢遺跡 第52地区1次調査

PL.14

- 第1章 32 東平遺跡 第104地区1次調査
- 33 柏原遺跡 第14地区1次調査
- 34 天間沢遺跡 第53地区1次調査

PL.15

- 第1章 35 神谷古墳群 第11地区1次調査

PL.16

- 第1章 35 神谷古墳群 第11地区1次調査

PL.17

- 第1章 35 神谷古墳群 第11地区1次調査

PL.18

- 第1章 36 東平遺跡 第105地区1次調査
- 37 丸崎遺跡 第3地区1次調査
- 38 元吉原宿遺跡 第4地区1次調査
- 39 二本松遺跡 第1地区1次調査
- 40 中桁・中ノ坪遺跡 第16地区1次調査

PL.19

- 第1章 41 舟久保遺跡 第63地区1次調査
- 42 東平遺跡 第106地区1次調査
- 43 東平遺跡 第107地区1次調査

PL.20

- 第1章 44 東平遺跡 第108地区1次調査
- 45 夷城跡 第1地区1次調査
- 46 川坂遺跡 第6地区1次調査
- 47 大石遺跡 第3地区1次調査
- 48 土手内・中原2古墳群 第16地区1次調査

PL.21

- 第1章 49 宇東川遺跡 第27地区1次調査

PL.22

- 第1章 50 比奈4古墳群 第2地区1次調査
- 51 天間沢遺跡 第54地区1次調査
- 52 上の段遺跡 第3地区1次調査
- 53 東平遺跡 第109地区1次調査

PL.23

- 第1章 54 中島遺跡 第14地区1次調査
- 55 川窪遺跡 第5地区1次調査
- 56 砂山遺跡 第1地区1次調査
- 57 中里3古墳群 第7地区1次調査

PL.24

- 第1章 58 東平遺跡 第110地区1次調査
- 工事立会い (天間沢遺跡 第45地区)

PL.25～28

- 第2章 柏原遺跡 第13地区

PL.29～31

- 第3章 東平遺跡 第101地区

PL.32～35

- 第3章 東平遺跡 第102地区

PL.36～38

- 第3章 東平遺跡 第103地区

PL.39～40

- 第4章 国久保遺跡 第8地区

PL.41～42

- 第5章 中里3古墳群 第6地区 (琴平古墳)

第1章 平成30年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

1 調査体制

平成30年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
(平成30年12月23日まで)

森田 嘉幸

(平成30年12月24日から)

[担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一
文化振興課 課長 久保田伸彦
文化財担当 統括主幹 植松 良夫
主幹 石川 武男
調査担当者 主査 佐藤 祐樹
主事 伊藤 愛
臨時職員 小島 利史

若林 美希

志崎江莉子

(平成30年12月1日から)

2 調査件数

平成30年度は、文化財保護法（以下、法という。）第99条に基づき、確認調査69件、本発掘調査6件実施した。確認調査費用の一部には『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』（平成30年4月2日付け29庁財第635号交付決定）及び『静岡県文化財保存費補助金』（平成30年6月15日付け教文第529号交付決定）を使用している。確認調査の事業目的は個人住宅建設が18件と最も多く、次いで宅地造成に伴う調査が13件である。本発掘調査は、宅地造成目的が3件と最も多く、住宅、工場、店舗が1件ずつある。

3 届出・通知の周知徹底と件数

法93条に基づく届出は252件と前年の199件から大幅に増加している。内訳は電気（電柱）、ガス工事に伴うものが最も多く104件を数え、次いで個人住宅建設に伴い72件の届出がなされた。一方、法94条に基づく公共工事については、平成29年度

の2月に、次年度の公共事業の全リストを提出するように庁内各課に求め、そのリストを基に通知の必要な事業、事前の確認調査の実施が必要な事業などを関係課に回答した。平成30年度は下水道設置に伴う通知8件を含む22件の通知がなされた。

4 発掘調査の概要

縄文時代 沖田遺跡第155次調査地点では大量の湧水の中、本発掘調査を行い晩期の大洞式系の土器片数点が出土した（別途報告）。宇東川遺跡Z地区では、中期の曾利V式の埋甕1基や包含層からまとも土器が出土した。時期は曾利V式、加曾利E4式の土器がほとんどでまとも土器を示している（別途報告）。また、Z地区の北東に隣接した27地区でも加曾利E4式の土器が比較的まとも土器確認された（1章2節49）。

弥生時代 前述の沖田遺跡第155次調査において富士山の溶岩上層の黒色土中から縄文土器に加えて弥生時代後期の土器が出土した（別途報告）。

古墳時代 静岡県指定史跡琴平古墳の周溝部分の調査を行った。琴平古墳は愛鷹南西麓の丘陵上に立地する円墳であり、昭和33年に静岡県史跡に指定されている。墳丘盛土の崩落が著しいことから平成29年度には測量調査を行い直径29.5m程度の円墳に復元された。平成30年度は墳丘北側の鉄塔舗装改修工事に合わせて墳丘北側の周溝の確認調査を行った。その結果、幅8.5m、深さ75cmと想定される周溝を検出した。また、これまで古墳時代中期前半の築造が想定されていたが、周溝覆土最下層には古墳時代中期末に富士山の側火山から噴出すると考えられる大淵スコリアが含まれており、埴輪を伴わないことも合わせると後期初頭の築造の可能性が高くなった（第5章）。

神谷古墳群における確認調査では、石室の露出していた須津J-09号墳の西側に埋没した石室を検出した。『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』の分布図に

において、かつて認識されていた須津 J-07 号墳であると考えられる（第1章2節35）。

石坂2古墳群に存在する二タ子塚第2号墳の範囲確認調査を行った。二タ子塚第2号墳はこれまでも墳丘南側部分の範囲確認調査を行っており、平成24年の確認調査で石室長9.5mを測る市内でも最大級の石室を有することが明らかとなっている（富士市教委2015）。平成30年度は墳丘西側においてトレンチ調査を行い、墳裾と考えられる地山の傾斜変換と墳丘盛土に加えて、それを覆う崩落土と考えられる土層を確認した。墳丘は楕円形に復元され東西11.5m、南北12.7m程度と想定される。築造年代を示す遺物は確認されなかった（第1章2節29）。

奈良・平安時代 駿河国富士郡家である東平遺跡に隣接する三日市廃寺跡（東平遺跡第95地区）では、布目瓦の破片を含む建物跡や土坑が複数検出された。瓦の出土量が少なく、破片も比較的小さいことから寺院中心域からは外れるものと考えられる（第1章2節8）。また、東平遺跡第103地区では、検出幅4.2m、底部幅約2.8m、深さ約1.6mの断面逆台形を呈する大規模な溝を検出した。覆土は最下層以外はすべて人為的な埋土とみられ、埋土中からは9世紀から10世紀の土器片が出土している。この溝がいつの時期にどのような目的で機能していたのかは明らかではないが、寺域を画する溝などの機能も想定されよう。今後、所属時期を含めて検討を有す

る成果である（第3章第4節）。

沖田遺跡第155次調査地点では、9世紀の土坑から「南寺」と書かれた墨書土器が出土した。また、建物の台輪を再利用して、柱の礎板としている掘立柱建物跡1棟も確認されている（別途報告）。また、第155次調査地点から北側230mの第158次調査地点では古墳時代の土器などとともに10世紀前半の島田市旗指窯産と考えられる灰釉陶器がほぼ完形で2点出土した。明確な遺構は認識されなかったが、富士山の溶岩が露頭し、湧水が認められるというロケーションは、三日市廃寺跡周辺と類似したものがあり、奈良・平安時代の寺院や比較的まとまった集落が展開していたと想定される（第1章2節26）。

中世 明確な遺構は確認されなかったが、東平遺跡第102地区の本調査において、数片の遺物が確認されている。



第1図 地元中学生の調査現場見学の様子（神谷古墳群）



第2図 平成30年度調査地の位置と地形区分

第1表 平成30年度発掘調査一覧表

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査担当者
H30-101	別途 本報告	沖田遺跡 第155次調査地点4次調査	本調査	20180403 ～20180511	比奈 643番1 工場新設	290.597	縄文・弥生 古墳・奈良 平安	畦畔・溝・ビット 掘立柱建物跡 土坑・遺物集中	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器 灰釉陶器・石器 木器・鉄滓	佐藤・伊藤 若林
H30-102	2章	柏原遺跡 第13地区2次調査	本調査	20180709 ～20180717	中柏原新田 87-1 ほか 宅地分譲	122.387	縄文・奈良	溝状遺構 土坑・ビット	土器(縄文・奈良)	佐藤・小島
H30-103	3章	東平遺跡 東平第102地区2次調査	本調査	20181023 ～20181122	伝法 2551-1 ほか 宅地造成	293.325	奈良・平安 中世	土坑・ビット	土器(奈良・平安) 陶磁器(中世)	伊藤・小島
H30-104	4章	国久保遺跡 第8地区2次調査	本調査	20181030 ～20181102	国久保三丁目1999-9 ほか 集合住宅新築	38.672	奈良・平安	溝状遺構 土坑・ビット	土器(奈良・平安)	佐藤・若林
H30-105	別途 本報告	宇東川遺跡 Z地区2次調査	本調査	20190207 ～20190322	原田 628-1 ほか 宅地分譲造成	295.528	縄文	埋甕 土坑・ビット	縄文土器	佐藤・伊藤 若林・志崎
H30-106	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第101地区4次調査	本調査	20190129	浅間上町 2984-1 ほか サインポール設置	16.585	奈良・平安	土坑・ビット	なし	佐藤・伊藤 若林・志崎
H30-01	1章 2節1	柏原遺跡 第12地区1次調査	確認	20180410	西柏原新田 138番6 不動産売買	167.580 6.285	奈良・平安	堅穴建物跡	土師器・須恵器	佐藤・小島
H30-02	1章 2節2	沖田遺跡 第157次調査地点2次調査	確認	20180412	今泉二丁目 81番5 ほか 工場新築	15,266.910 40.565		なし	なし	佐藤・小島
H30-03	1章 2節3	川坂遺跡 第5地区1次調査	確認	20180416 ～20180417	天間 919-11 不動産売買	330.000 11.079	不明	ビット	なし	佐藤・小島
H30-04	1章 2節4	中島遺跡 第12地区1次調査	確認	20180416 ～20180419	原田 906-1 宅地分譲	1,276.000 63.221	不明	ビット	なし	佐藤・小島
H30-05	1章 2節5	厚原遺跡 第8地区1次調査	確認	20180423	厚原 747-2 宅地造成	331.580 6.039		なし	なし	佐藤・小島
H30-06	1章 2節6	中島遺跡 第13地区1次調査	確認	20180426	原田 926-1 宅地分譲	557.430 8.023		なし	なし	佐藤・小島
H30-07	1章 2節7	滝川4古墳群 第3地区1次調査	確認	20180517 ～20180518	原田 1369-1 不動産売買	862.000 8.591		なし	なし	佐藤・伊藤 小島
H30-08	1章 2節8	三門市廃寺跡 東平第95地区1次調査	確認	20180514 ～20180516	浅間本町 2992番4 ほか 個人住宅	318.100 39.128	奈良・平安	堅穴建物跡	土師器・須恵器 瓦	佐藤・伊藤 小島
H30-09	1章 2節9	東平遺跡 東平第96地区1次調査	確認	20180521 ～20180523	伝法 2326-4 個人住宅	995.130 14.293	奈良・平安	堅穴建物跡	土師器・須恵器	佐藤・伊藤 小島・若林
H30-10	1章 2節10	東平遺跡 東平第97地区1次調査	確認	20180529 ～20180531	伝法 2518-1 住宅展示場新設	1,147.950 79.761	奈良・平安	土坑・ビット	土師器・須恵器	佐藤・伊藤 小島・若林
H30-11	1章 2節11	国久保遺跡 第7地区1次調査	確認	20180605	国久保三丁目 1995-7 ほか 不動産売買	200.660 5.493	平安	堅穴建物跡	土師器	佐藤・小島
H30-12	2章	柏原遺跡 第13地区1次調査	確認	20180607 ～20180608	中柏原新田 87-1 ほか 宅地分譲	948.000 24.741	奈良・平安	ビット	土師器・石器	佐藤・伊藤 小島
H30-13	1章 2節12	東平遺跡 東平第98地区1次調査	確認	20180612 ～20180613	伝法 2449-1 ほか 集合住宅新築	965.220 25.519	奈良・平安	堅穴建物跡 土坑・ビット	土師器・須恵器 灰釉陶器・陶器	佐藤・伊藤 小島・若林
H30-14	1章 2節13	高徳坊遺跡 第5地区1次調査	確認	20180614 ～20180615	岩本 537-97 個人住宅新築	205.030 10.355		なし	なし	伊藤・小島
H30-15	1章 2節14	三度蒔B遺跡 第4地区1次調査	確認	20180618 ～20180619	三ツ沢 676-1 ほか 集合住宅新築	3,175.000 44.673		なし	なし	伊藤・小島
H30-16	1章 2節15	中桁・中ノ坪遺跡 第13地区1次調査	確認	20180625 ～20180626	伝法 1085-1 ほか 建売住宅建築	794.070 25.310	奈良・平安	溝・ビット	土師器・須恵器	伊藤・小島 若林
H30-17	1章 2節16	中桁・中ノ坪遺跡 隣接地(第14地区1次調査)	試掘	20180627	伝法 1439-1 ほか 公会堂新築	329.060 11.886	奈良・平安	ビット・不明遺構	土師器	伊藤・若林
H30-18	1章 2節17	清水岩の上遺跡 第1地区1次調査	確認	20180627	北松野 1616番6 個人住宅新築	276.250 7.952		なし	なし	佐藤・小島
H30-19	1章 2節18	東平遺跡 東平第99地区1次調査	確認	20180702	伝法 3011-4 ほか 宅地分譲	191.270 18.865	奈良・平安	堅穴建物跡 土坑・ビット	土師器	佐藤・若林
H30-20	1章 2節19	中桁・中ノ坪遺跡 第15地区1次調査	確認	20180703 ～20180704	伝法 1294 ほか 診療所新築	277.720 8.043		なし	なし	佐藤・小島 若林
H30-21	1章 2節20	善得寺廃寺跡 第5地区1次調査	確認	20180709	今泉 5丁目 1155-1 ほか 宅地分譲	540.000 17.637		なし	なし	伊藤・若林
H30-22	1章 2節21	花守遺跡 第5地区1次調査	確認	20180717	富士岡 297-1 ほか 個人住宅新築	410.790 4.957		なし	なし	伊藤・若林
H30-23	1章 2節22	東平遺跡 東平第100地区1次調査	確認	20180718	伝法 2754-8 集合住宅新築	406.190 25.229	奈良	堅穴建物跡 溝・ビット	土師器	佐藤・伊藤 小島・若林
H30-24	1章 2節23	天間沢遺跡 第50地区1次調査	確認	20180724	天間 1889-14 個人住宅新築	276.000 4.429		なし	なし	佐藤・若林
H30-25	1章 2節24	天間沢遺跡 第51地区1次調査	確認	20180725	天間 1884-1-1 建売住宅新築	485.120 13.530		なし	なし	伊藤・若林
H30-26	1章 2節25	包蔵地外 大淵地先	試掘	20180719 ～20180724	大淵 3784-1 ほか 工業団地建設	57,000.000 42.414		なし	なし	伊藤・小島
H30-27	1章 2節26	沖田遺跡 第158次調査地点1次調査	確認	20180730 ～20180801	比奈 967-2 不動産売買	1,177.010 56.429	弥生・古墳 奈良・平安	土坑・ビット	土師器・須恵器 陶磁器・金属製品	伊藤・小島
H30-28	1章 2節27	川窪遺跡 隣接地(第4地区1次調査)	試掘	20180730	厚原 302 駐車場造成	2,182.230 20.294		なし	なし	佐藤・若林
H30-29	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第101地区1次調査	確認	20180807	浅間上町 2984-1 店舗建設	1,225.050 8.291	奈良・平安	溝状遺構	土器	佐藤・若林
H30-30	3章	東平遺跡 東平第102地区1次調査	確認	20180806	伝法 2551-1 ほか 不動産売買	575.640 19.988	奈良・平安	ビット	なし	伊藤・小島
H30-31	1章 2節28	清水久保遺跡 第1地区1次調査	確認	20180810	入山瀬 666-4 建売住宅新築	997.910 14.288		なし	なし	伊藤・小島

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査 担当者
H30-32	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第103地区1次調査	確認	20180821	浅間上町2967-1 宅地分譲	430.000 21.661	奈良・平安	竪穴建物跡・土坑 ビット・溝	土器・瓦・鉄製品	伊藤・若林
H30-33	1章 2節29	石坂2古墳群 第5地区1次調査	確認	20180820 ～20180830	石坂618-81ほか 宅地造成	4,733.000 419.694	古墳	古墳	土器	佐藤・渡井 小島
H30-34	1章 2節30	花守遺跡 第6地区1次調査	確認	20180827	富士岡233-1ほか 個人住宅新築	314.560 6.662		なし	なし	伊藤・若林
H30-35	1章 2節31	天間沢遺跡 第52地区1次調査	確認	20180830	天間1130-2 個人住宅新築	263.000 4.845		なし	なし	佐藤・若林
H30-36	1章 2節32	東平遺跡 東平第104地区1次調査	確認	20180831	伝法2550-1 個人住宅新築	101.000 9.778		なし	なし	伊藤・小島
H30-37	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第103地区2次調査	確認	20180905 ～20180907	浅間上町2967-1 宅地分譲	430.000 100.658	奈良・平安	竪穴建物跡・溝 ビット・不明遺構	土器・陶器	佐藤・伊藤 若林
H30-38	1章 2節33	柏原遺跡 第14地区1次調査	確認	20180903	中柏原新田35ほか 宅地分譲	314.000 11.864	古墳・奈良 平安	なし	土器	佐藤・小島
H30-39	1章 2節34	天間沢遺跡 第53地区1次調査	確認	20180906	天間569番1ほか 店舗建設	4,801.740 56.246		なし	なし	佐藤・小島
H30-40	1章 2節19	中桁・中ノ坪遺跡 第15地区2次調査	確認	20180903	伝法1294 診療所新築	277.720 12.024	奈良・平安	ビット	土器	伊藤・若林
H30-41	1章 2節35	神谷古墳群 第11地区1次調査	確認	20180910 ～20181009	川尻480-1ほか 水源地新設	540.440 155.926	古墳	古墳・不明遺構	土器	佐藤・伊藤 渡井・小島
H30-42	1章 2節36	三門市廃寺跡 東平遺跡第105地区1次調査	確認	20180910	浅間本町92-1ほか 個人住宅新築	391.000 13.079		なし	なし	佐藤・若林
H30-43	1章 2節37	丸崎遺跡 第3地区1次調査	確認	20180918	南松野2194-1 宅地分譲	1,969.460 10.922		なし	なし	佐藤・若林
H30-44	別途 本報告	宇東川遺跡 Z地区1次調査	確認	20180926 ～20180927	原田628-1 宅地分譲	3,184.620 74.642	縄文	ビット	土器	佐藤・渡井 若林
H30-45	1章 2節38	元吉原宿遺跡 第4地区1次調査	確認	20180921	今井二丁目58番 個人住宅新築	218.810 1.799		なし	なし	佐藤・渡井 小島
H30-46	1章 2節39	二本松遺跡 第1地区1次調査	確認	20181001 ～20181003	伝法676番1 宅地分譲	457.770 8.035		なし	なし	佐藤・若林
H30-47	1章 2節40	中桁・中ノ坪遺跡 第16地区1次調査	確認	20181011	伝法1173番8 不動産売買	148.760 5.316	平安	竪穴建物跡	土器	佐藤・小島 若林
H30-48	1章 2節41	舟久保遺跡 第63地区1次調査	確認	20181016	今泉六丁目1590番17 個人住宅新築	172.780 6.859	奈良・平安	竪穴建物跡 ビット	土器	佐藤・若林
H30-49	1章 2節42	東平遺跡 東平第106地区1次調査	確認	20181018	伝法2863-3 個人住宅新築	227.480 4.564	奈良・平安 の可能性	竪穴建物跡? ビット・溝	なし	佐藤・若林
H30-50	4章	国久保遺跡 第8地区1次調査	確認	20181012	国久保三丁目1999-9 集合住宅新築	623.130 34.440	奈良	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑・ビット	土器	佐藤・小島 若林
H30-51	1章 2節43	三門市廃寺跡 東平遺跡第107地区1次調査	確認	20181024	浅間本町2991-6ほか 個人住宅新築	498.800 23.181		なし	土器・土製品	佐藤・若林
H30-52	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第101地区2次調査	確認	20181107	浅間上町2984-1 店舗建設	1,225.050 12.447	奈良・平安	ビット	土器	佐藤・若林
H30-53	1章 2節44	三門市廃寺跡 東平遺跡第108地区1次調査	確認	20181113	浅間上町2896番12 個人住宅新築	214.450 8.934		なし	なし	佐藤・若林
H30-54	1章 2節45	夷城跡 第1地区1次調査	確認	20181121 ～20181122	間門296-1 個人住宅新築	595.040 10.966		なし	なし	佐藤・若林
H30-55	1章 2節46	川坂遺跡 第6地区1次調査	確認	20181126 ～20181128	天間836-1 個人住宅新築	516.710 10.094		なし	なし	佐藤・若林
H30-56	1章 2節47	大石遺跡 第3地区1次調査	確認	20181204	厚原2275-1 太陽光発電設備設置	418.000 12.280		なし	なし	伊藤・小島
H30-57	1章 2節48	土手内・中原2古墳群 第16地区1次調査	確認	20181205 ～20181206	伝法120番1 生活介護施設建設	1,175.570 182.312		なし	なし	佐藤・小島
H30-58	1章 2節49	宇東川遺跡 第27地区1次調査	確認	20181217 ～20181220	原田646-1ほか 不動産売買	1,962.000 42.117	縄文	ビット	土器(縄文・奈良)	佐藤・小島 若林・志崎
H30-59	1章 2節50	比奈4古墳群 第2地区1次調査	確認	20190110 ～20190111	比奈1132-1外 社員寮建設	1,085.290 24.320	奈良・平安	なし	土器	伊藤・小島 志崎
H30-60	1章 2節51	天間沢遺跡 第54地区1次調査	確認	20190108	天間1079ほか 不動産売買	872.410 5.143		なし	なし	佐藤・若林 志崎
H30-61	1章 2節52	上の段遺跡 第3地区1次調査	確認	20190115 ～20190117	境707-17ほか 寺院客殿建設造成工事	148.000 10.080	奈良・平安	なし	土器	伊藤・小島 志崎
H30-62	5章	中里3古墳群 第6地区1次調査(琴平古墳)	確認	20190124 ～20190201	中里2164-9ほか 送電鉄塔敷地塔内舗装工事	11.545 236.000	古墳	古墳の周溝	土師器	佐藤・伊藤 小島・若林 志崎
H30-63	1章 2節53	東平遺跡 第109地区1次調査	確認	20190122 ～20190123	浅間上町2372-1 店舗建設	1,460.940 91.605	奈良・平安	竪穴建物跡 土坑	土器・鉄製品	伊藤・小島 若林・志崎
H30-64	3章	三門市廃寺跡 東平遺跡第101地区3次調査	確認	20190128	浅間上町2984-1ほか サインポール設置	16.585 16.585	奈良・平安	溝状遺構 ビット	なし	佐藤・若林 志崎
H30-65	1章 2節54	中島遺跡 第14地区1次調査	確認	20190201 ～20190205	原田862-1 不動産売買	1,408.000 35.618		なし	なし	伊藤・小島 志崎
H30-66	1章 2節55	川窪遺跡 第5地区1次調査	確認	20190206 ～20190212	厚原204-1 倉庫新設	843.160 27.670		なし	なし	伊藤・小島 志崎
H30-67	1章 2節56	砂山遺跡 第1地区1次調査	確認	20190220 ～20190226	鈴川東町563-3 介護施設建設	3,067.000 20.087		なし	なし	伊藤・小島 志崎
H30-68	1章 2節57	中里3古墳群 第7地区1次調査	確認	20190307	中里2162-2 個人住宅建設	296.700 3.330		なし	なし	佐藤・小島
H30-69	1章 2節58	東平遺跡 第110地区1次調査	確認	20190318	伝法2503-9 集合住宅新築	382.630 20.421		なし	なし	佐藤・小島

第2節 平成30年度の発掘調査報告

1 柏原遺跡 第12地区 1次調査

所在地 西柏原新田 138 番 6

調査面積 6.285 m² (対象面積 167.58 m²)

調査期間 平成30年4月10日

調査の原因 不動産売買

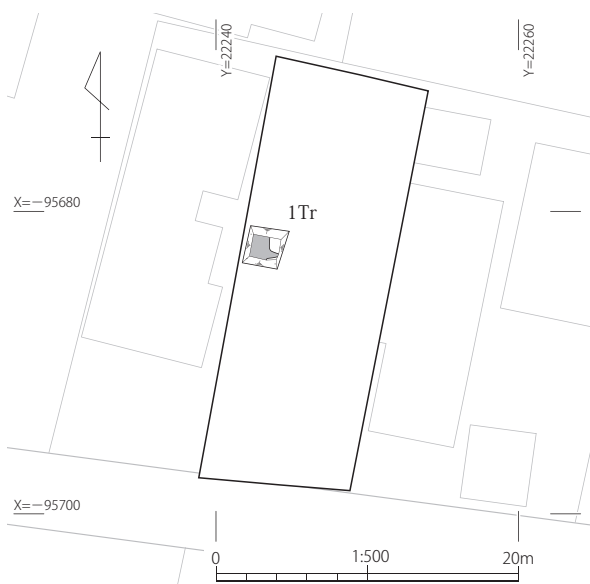
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約1.3mで、東側にカマドを有する奈良時代の竪穴建物跡1軒 (SB1001) を検出した。

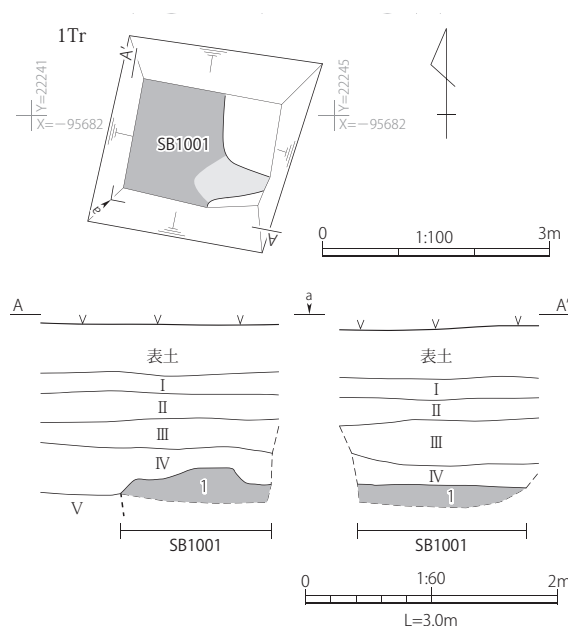
遺物は、少量の土師器片・須恵器片が出土し、2点を図示した (第6図)。1は近代の鉢と考えられる。2は8世紀代の駿東甕の口縁部で、口唇部が若干肥厚する。



第3図 柏原遺跡第12地区 位置図

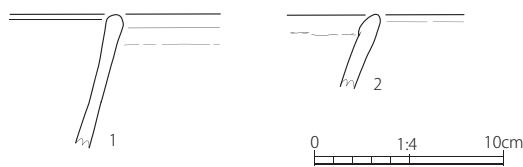


第4図 柏原遺跡第12地区 トレンチ配置図



- I 黒褐色砂質土層 (7.5YR3/2) しまりやや弱、粘性弱。
- II 黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性弱。
- III 黒褐色土層 (7.5YR3/2) しまりやや強、粘性やや弱。砂多量。
- IV 黒色土層 (10YR2/1) しまりやや強、粘性やや弱。大淵スリ少量。砂多量。
- V 黒色土層 (10YR2/1) しまりやや強、粘性やや弱。大淵スリ少量。砂多量。 地山
- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性やや弱。大淵スリ中量 SB1001 覆土

第5図 柏原遺跡第12地区 トレンチ平面図・セクション図



第6図 柏原遺跡第12地区 出土遺物実測図

第2表 柏原遺跡第12地区 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第6図1	R0001	PL.1	1Tr	土師器	鉢	近代?	-	-	(7.0)	良好	-	7.5YR7/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)
第6図2	R0001	PL.1	1Tr	土師器	甕	8C	-	-	(3.9)	良好	-	2.5Y5/6 (明赤褐)	2.5Y5/6 (明赤褐)

2 沖田遺跡 第157次調査地点2次調査

所在地 今泉二丁目81番5ほか

調査面積 40,565 m² (対象面積 15,266.91 m²)

調査期間 平成30年4月12日

調査の原因 工場新築

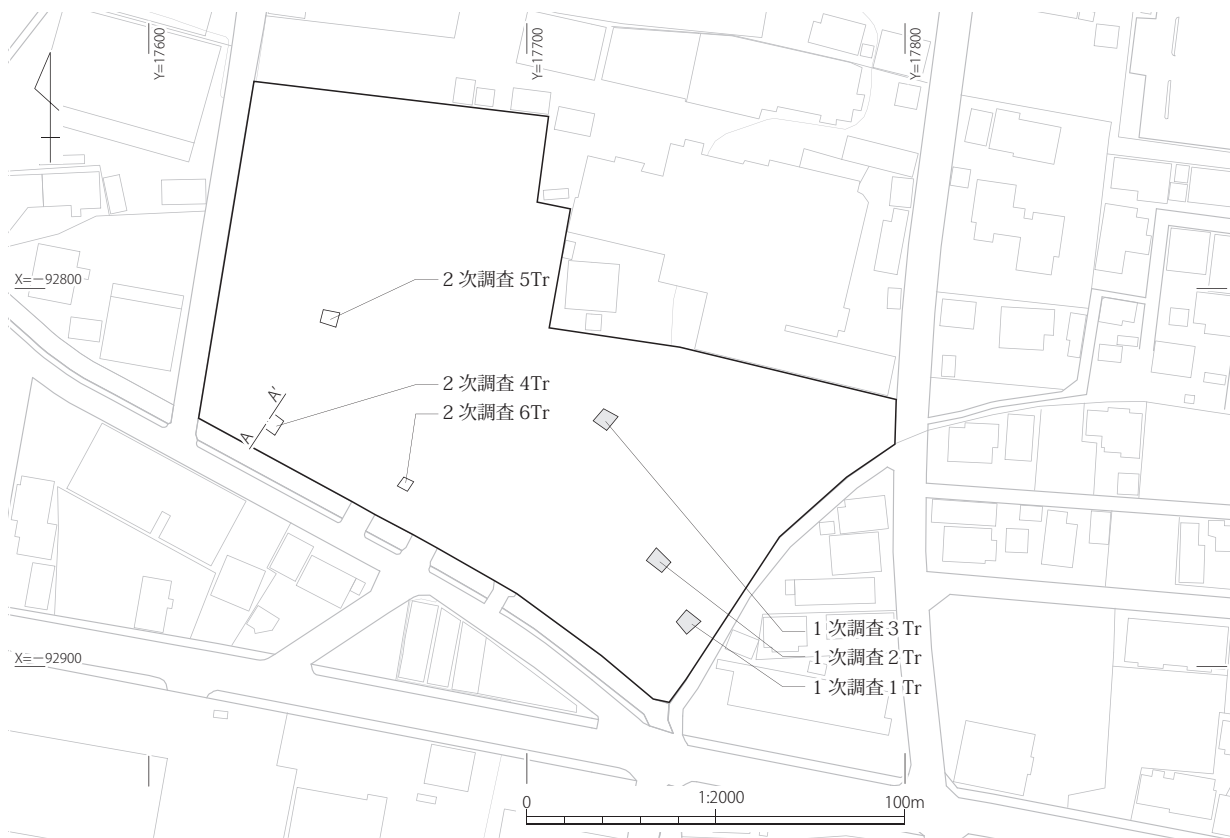
調査の概要 本地点では平成29年度に1次調査をおこなっている。

対象地の西側部分に3箇所のトレンチ(4~6Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

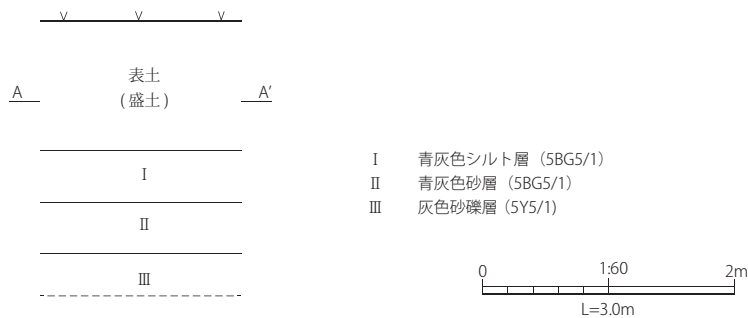
調査の結果 遺構・遺物ともに発見されず、対象地内に埋蔵文化財は存在しないと考えられる。



第7図 沖田遺跡第157次調査地点 位置図



4Tr 南北セクション西壁



第8図 沖田遺跡第157次調査地点 トレンチ配置図・セクション図

3 川坂遺跡 第5地区 1次調査

所在地 天間 919-11

調査面積 11.079 m² (対象面積 330 m²)

調査期間 平成30年4月16日～4月17日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に2箇所の特レンチ(1・2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

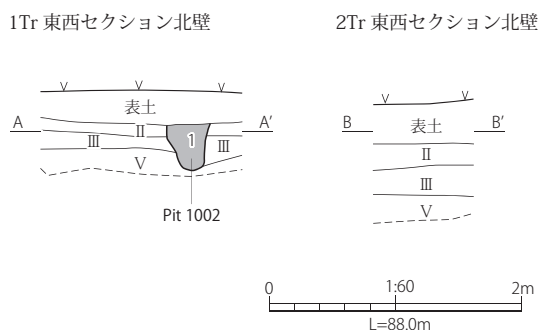
調査の結果 平面および断面観察の結果、ピット状の掘り込み(Pit1001・1002)を確認した。しかし、遺物が出土せず、時代は不明である。近年の耕作などに伴う掘り込みの可能性が高い。



第9図 川坂遺跡第5地区 位置図



第10図 川坂遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図



- II 栗色土層 (KU) 黒褐色。橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ(カワゴ平パミス)を少量含む。しまりはやや強い。
- III 富士黒土層 (FB) 黒色。橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。
- V 休場層 (YL) 明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。
- 1 黒褐色(10YR3/2) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 Pit1002 覆土

4 中島遺跡 第12地区 1次調査

所在地 原田 906-1

調査面積 63.221 m² (対象面積 1,276 m²)

調査期間 平成30年4月16日～4月19日

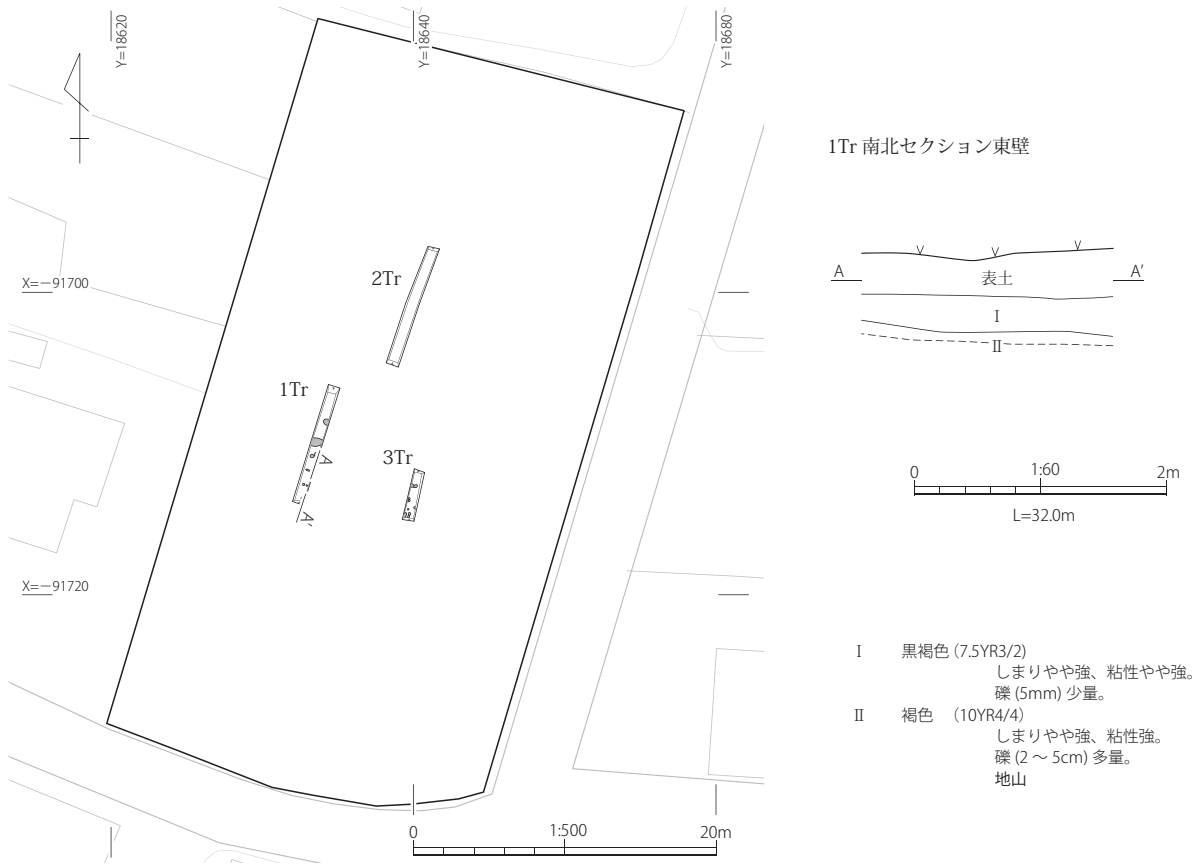
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に3箇所の特レンチ(1～3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 南側を中心に地山面において掘り込みが存在することが明らかとなったものの、土器が出土・採集されないことから、耕作などに伴う掘り込みと考えられる。



第11図 中島遺跡第12地区 位置図



第12図 中島遺跡第12地区 トレンチ配置図・セクション図

5 厚原遺跡 第8地区 1次調査

所在地 厚原 747-2

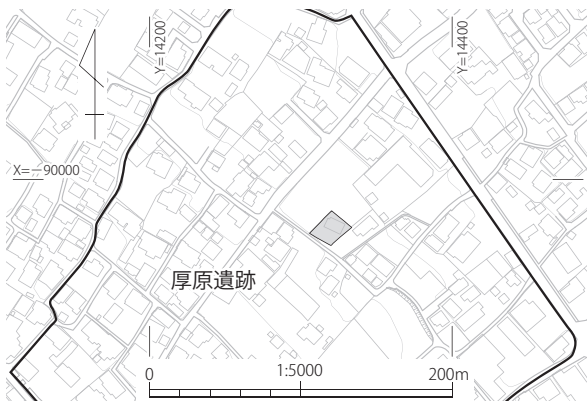
調査面積 6.039 m² (対象面積 331.58 m²)

調査期間 平成30年4月23日

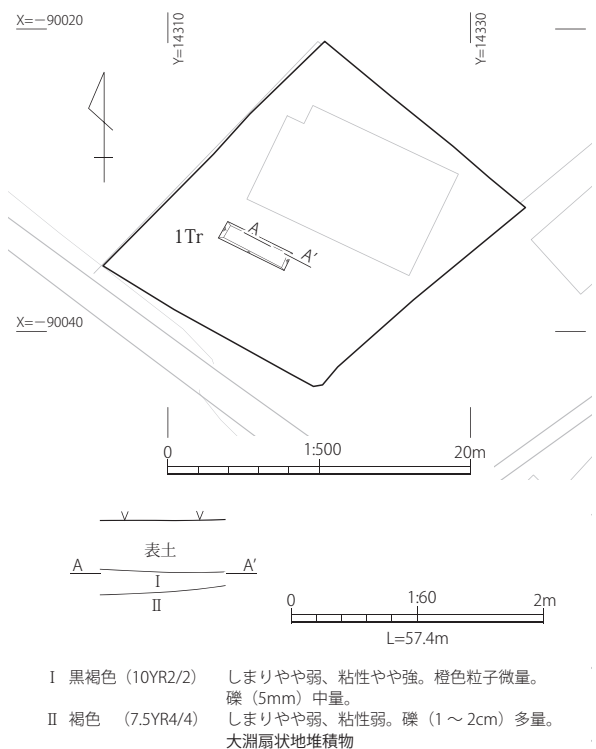
調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。



第13図 厚原遺跡第8地区 位置図



第14図 厚原遺跡第8地区 トレンチ配置図・セクション図

6 中島遺跡 第13地区 1次調査

所在地 原田 926-1

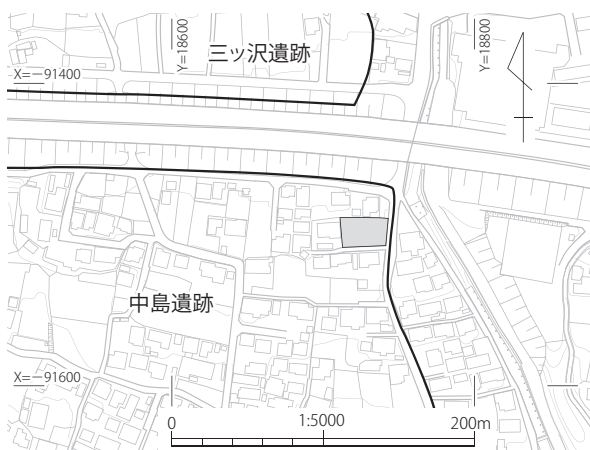
調査面積 8.023 m² (対象面積 557.43 m²)

調査期間 平成30年4月26日

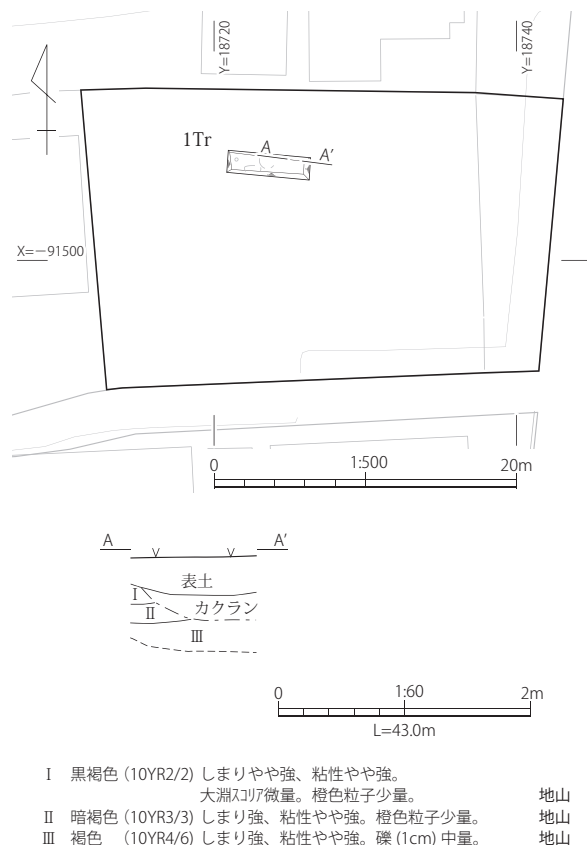
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されず、対象地内には埋蔵文化財は存在しないことが明らかとなった。



第15図 中島遺跡第13地区 位置図



第16図 中島遺跡第13地区 トレンチ配置図・セクション図

7 滝川4古墳群 第3地区 1次調査

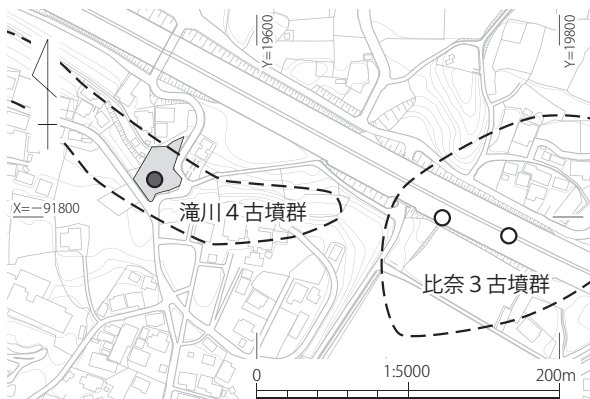
所在地 原田 1369-1

調査面積 8.591 m² (対象面積 862 m²)

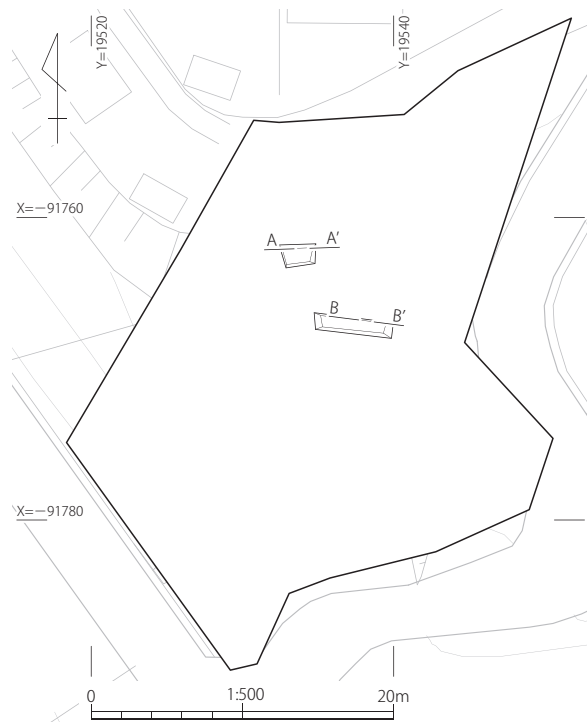
調査期間 平成30年5月17日～5月18日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ(1・2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。



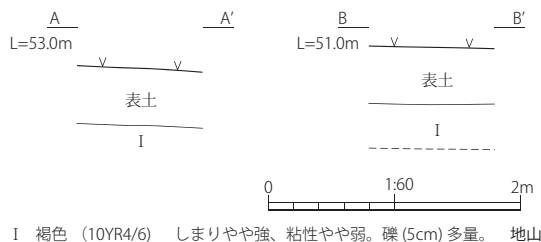
第17図 滝川4古墳群第3地区 位置図



第18図 滝川4古墳群第3地区 トレンチ配置図

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

当該地には滝川H-第60号墳が存在するとされていたが、石室の一部である可能性が示唆されていた石は、自然石の溶岩であることが明らかとなった。また、盛土等も確認されなかったことから、当該地には古墳は存在しないものと判断できる。



第19図 滝川4古墳群第3地区 セクション図

8 東平遺跡 第95地区 1次調査

所在地 浅間本町 2992 番 4、2992 番 27

調査面積 39.128 m² (対象面積 318.10 m²)

調査期間 平成30年5月14日～5月16日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

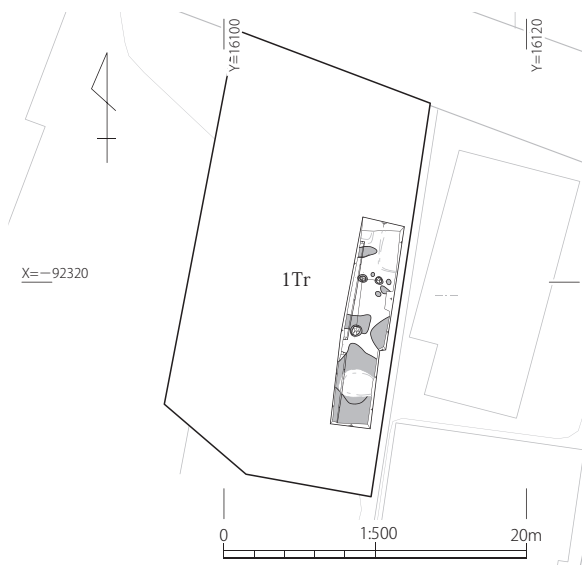
調査の結果 地表下約30cmで奈良・平安時代の建物跡3軒 (SB1001～1003) や土坑・ピット (SK1001・Pit1002～1005・SK1006) などの遺構が確認され、布目瓦や土師器・須恵器などコンテナ1箱分の遺物が出土した。トレンチ中央で検出された礎石建物跡

(SH1001) については正確な時期は不明だが、近世のものとして推測される。

遺物は11点を図示した (第24図)。1は土師器の坏で底部外面に木葉痕が認められる。7世紀後半から8世紀と考えられる。2・3はいずれも常滑産の陶器の甕と考えられる。詳細な時期は明らかではないが中世の生産と考えられる。4から11は瓦で、4から9が平瓦、10・11が丸瓦である。平瓦の大部分は格子目状のたたきが残る。



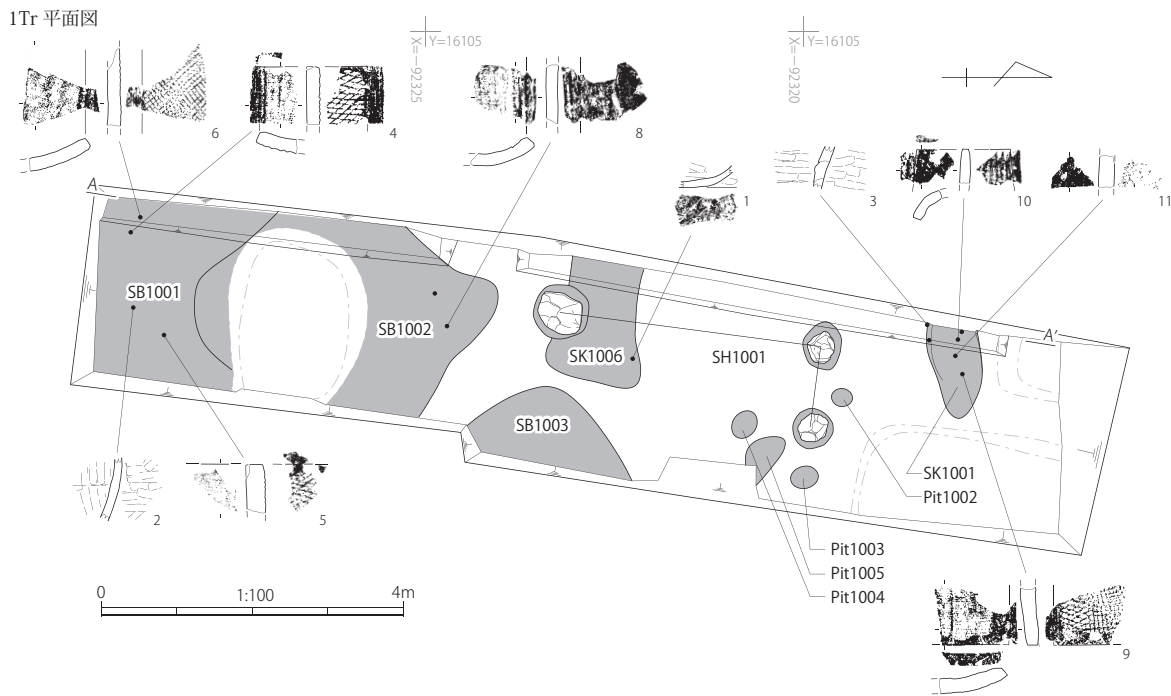
第20図 東平遺跡第95地区 位置図



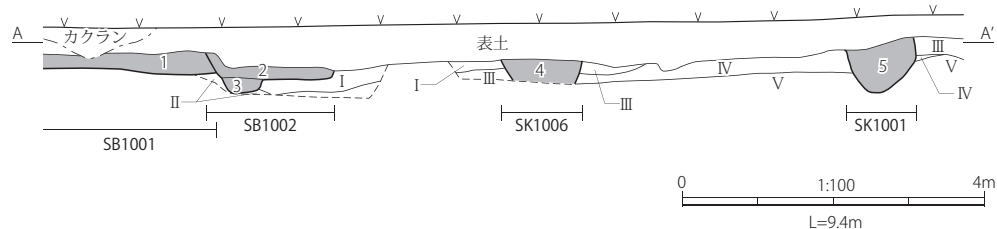
第21図 東平遺跡第95地区 トレンチ配置図

第3表 東平遺跡第95地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	法量 (cm)				焼成	残存率	内面色調	外面色調
						口径	底径	器高	幅				
第24図1	R0019	PL.3	SK1006	土師器	坏	-	-	(3.5)		良好	-	5YR7/6 (橙)	5YR7/6 (橙)
第24図2	R0014	PL.3	SB1001	陶器	甕	-	-	(10.1)		良好	-	5YR5/3 (にぶい赤褐)	5YR5/3 (にぶい赤褐)
第24図3	R0006	PL.3	SK1001	陶器	甕	-	-	(6.8)		良好	-	5YR5/3 (にぶい赤褐)	5YR5/3 (にぶい赤褐)
第24図4	R0013	PL.3	SB1001	瓦	平瓦	-	-	(9.2)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y6/1 (黄灰)
第24図5	R0015	PL.3	SB1001	瓦	平瓦	-	-	(7.7)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/1 (灰白)
第24図6	R0012	PL.3	SB1001	瓦	平瓦	-	-	(12.3)	(9.9)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y6/1 (黄灰)
第24図7	R0002	PL.3	攪乱1002	瓦	平瓦	-	-	(14.5)	(12.1)	良好	-	5YR6/4 (にぶい橙)	5YR6/4 (にぶい橙)
第24図8	R0017	PL.3	SB1002	瓦	平瓦	-	-	(9.4)	(10.1)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/1 (灰白)
第24図9	R0003	PL.3	SK1001	瓦	平瓦	-	-	(9.2)	(11.5)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y6/1 (黄灰)
第24図10	R0008	PL.3	SK1001	瓦	丸瓦	-	-	(5.3)	(5.6)	良好	-	10YR7/3 (にぶい黄橙)	10YR7/3 (にぶい黄橙)
第24図11	R0004	PL.3	SK1001	瓦	丸瓦	-	-	(5.0)		良好	-	10YR7/4 (にぶい橙)	7.5YR6/4 (にぶい橙)

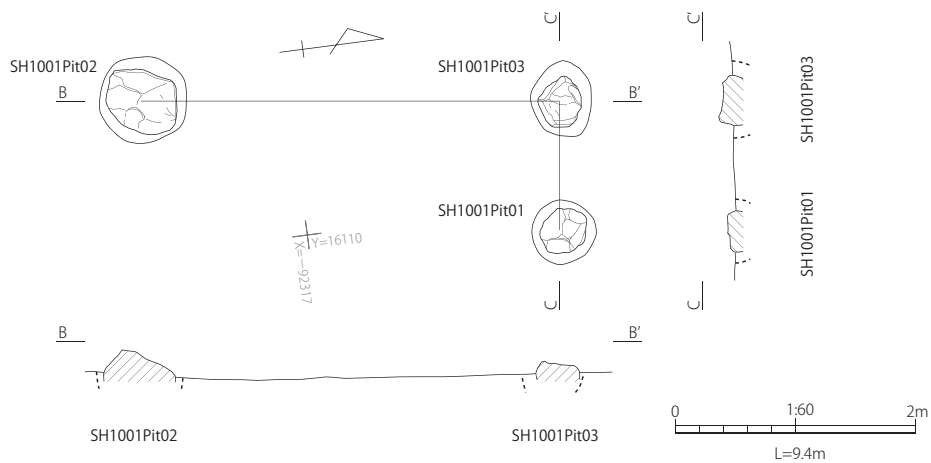


1Tr 南北セクション西壁

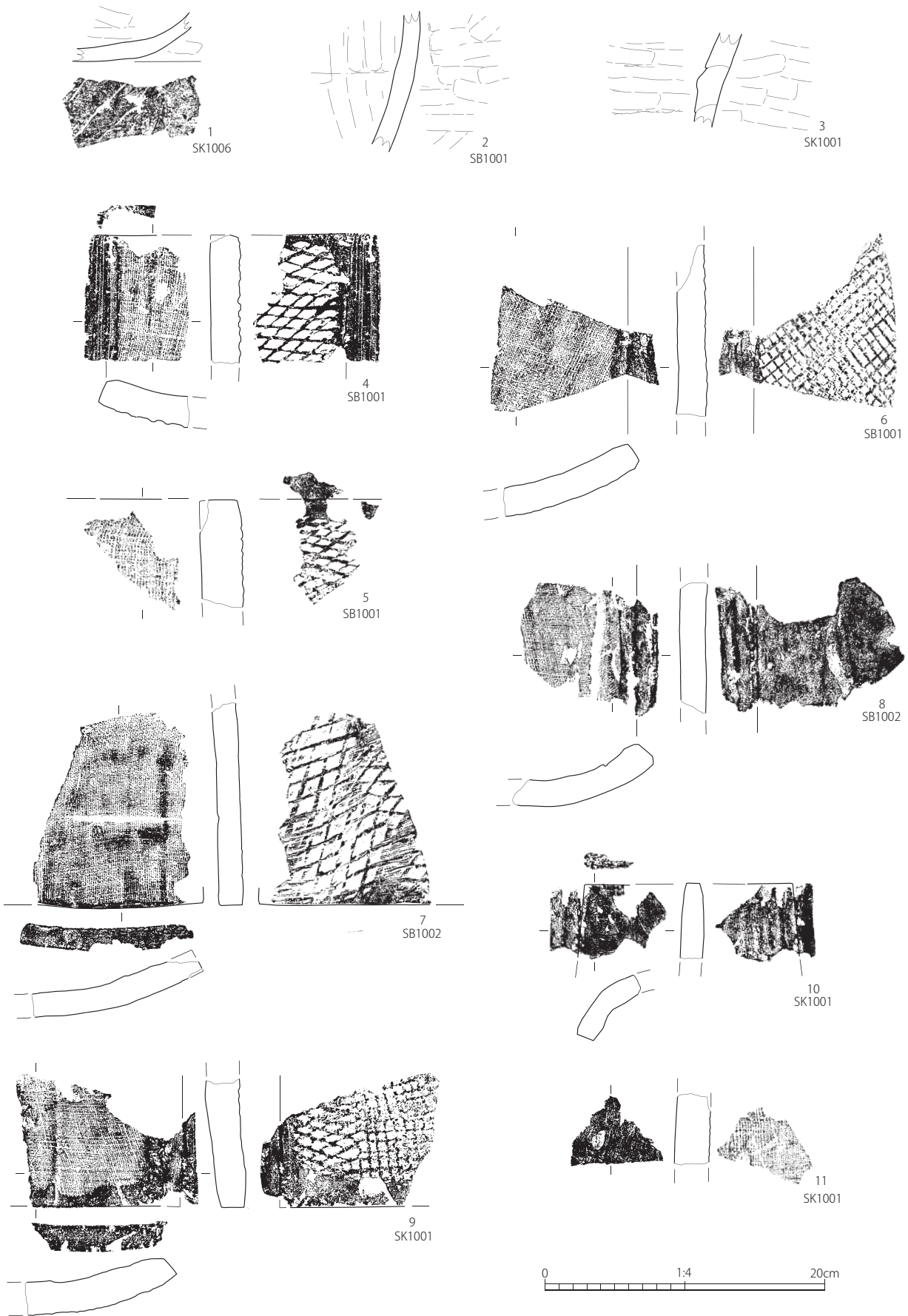


I	にぶい黄褐色 (2.5YR3/2)	しまりややあり、粘性弱。砂岩ブロックで構成される。灰色粘質土混入。	地山
II	暗褐色 (7.5YR3/3)	しまりあり、粘性なし。地山ブロック少量。灰色粘質土少量。	地山
III	黒褐色 (10YR2/2)	しまりやや弱、粘性ややあり。粘質土。地山ブロック微量。	地山
IV	黒色 (7.5YR2/1)	しまり弱、粘性なし。礫多量。	地山
V	褐色 (10YR4/4)	しまり弱、粘性なし。礫多量。	地山
1	黒褐色 (10YR3/2)	しまりやや弱、粘性弱。炭化材少量。粘土少量。細礫少量。	SB1001 覆土
2	黒褐色 (10YR3/2)	しまりやや弱、粘性弱。地山ブロック少量。黄褐色粒子少量。炭化材中量。	SB1002 覆土
3	黒褐色 (10YR3/2)	しまりやや弱、粘性弱。地山ブロック多量。炭化材少量。	SB1002 壁溝覆土
4	黒褐色 (10YR2/2)	しまり弱、粘性弱。地山ブロック多量。	SK1006 覆土
5	黒褐色 (10YR2/2)	しまり弱、粘性弱。黄褐色粒子中量。炭化材少量。細礫中量。	SK1001 覆土

第22図 東平遺跡第95地区 トレンチ平面図・セクション図



第23図 東平遺跡第95地区 SH1001 平面図・エレベーション図



第24図 東平遺跡第95地区 出土遺物実測図

9 東平遺跡 第96地区 1次調査

所在地 伝法 2326-4

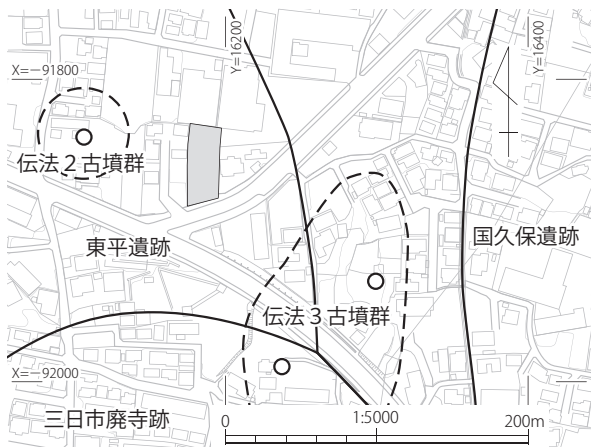
調査面積 14.293 m² (対象面積 995.13 m²)

調査期間 平成30年5月21日～5月23日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

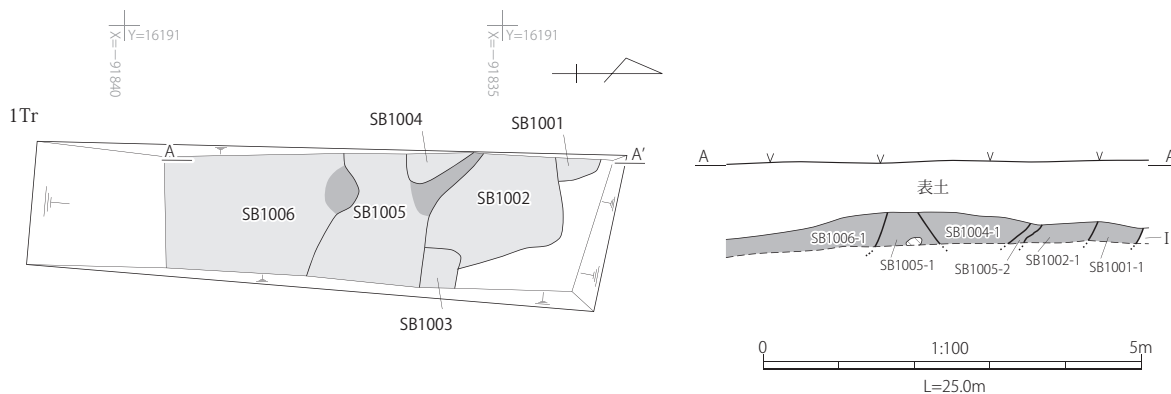
調査の結果 地表下約60cmで奈良・平安時代の竪穴建物跡6軒 (SB1001～1006) を検出した。6軒の建物は切り合っており、これまでに実施した周辺の調査でも建物跡の切り合いが多く認められていることから、継続的な集落形成を確認することができた。



第25図 東平遺跡第96地区 位置図

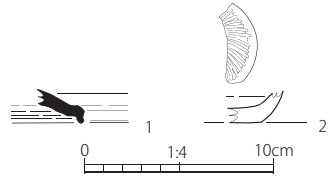


第26図 東平遺跡第96地区 トレンチ配置図



I	黒褐色 (10YR2/2)	しまりやや弱、粘性弱。溶岩を中量含む。	地山
SB1001-1	黒色 (10YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒・粘土粒を少量含む。細礫微量含む。	SB1001 覆土
SB1002-1	黒色 (10YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒中量 (部分的に多量) 含む。粘土粒少量含む。	SB1002 覆土
SB1004-1	黒色 (10YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒・粘土粒少量含む。	SB1004 覆土
SB1005-1	黒色 (10YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒・粘土粒中量、炭化材微量含む。	SB1005 覆土
SB1005-2	褐色 (7.5Y4/4)	しまりやや弱、粘性やや弱。焼土層。	SB1005 カマド煙道
SB1006-1	黒色 (10YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒・粘土粒中量、粘土塊を部分的に多量含む。	SB1006 覆土

第27図 東平遺跡第96地区 トレンチ平面図・セクション図



第28図 東平遺跡第96地区 出土遺物実測図

遺物は少量の土師器片・須恵器片が出土し、2点を図示した(第28図)。1は須恵器の坏蓋で、8世紀のものである。2は9世紀の土師器の坏で「駿東坏」とされるものである。みこみ部に放射状のヘラミガキが認められる。

第4表 東平遺跡第96地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第28図1	R0001	PL.4	1Tr	須恵器	坏蓋	8C	-	-	(1.8)	良好	-	2.5Y5/1 (黄灰)	2.5Y5/1 (黄灰)
第28図2	R0001	PL.4	1Tr	土師器	坏	9C	-	-	(1.7)	良好	25%	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)

10 東平遺跡 第97地区 1次調査

所在地 伝法2518-1

調査面積 79.761 m² (対象面積 1,147.95 m²)

調査期間 平成30年5月29日～5月31日

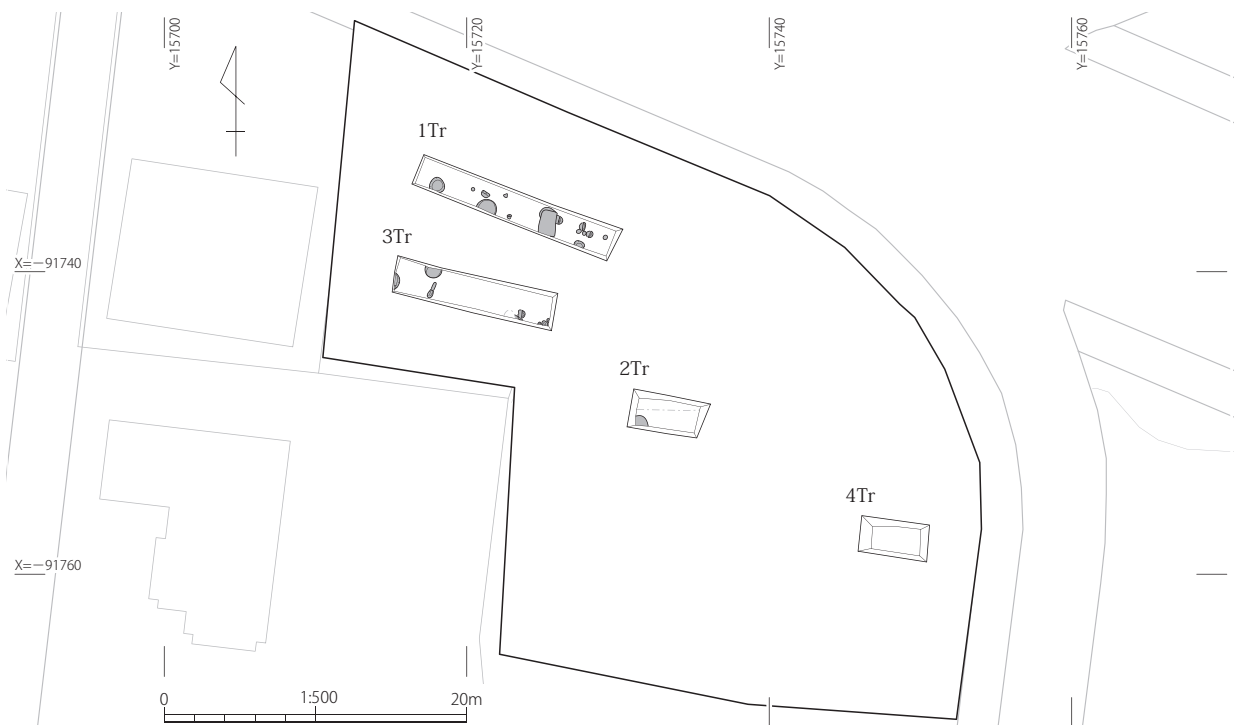
調査の原因 住宅展示場新設

調査の概要 対象地内に4箇所のトレンチ(1～4Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

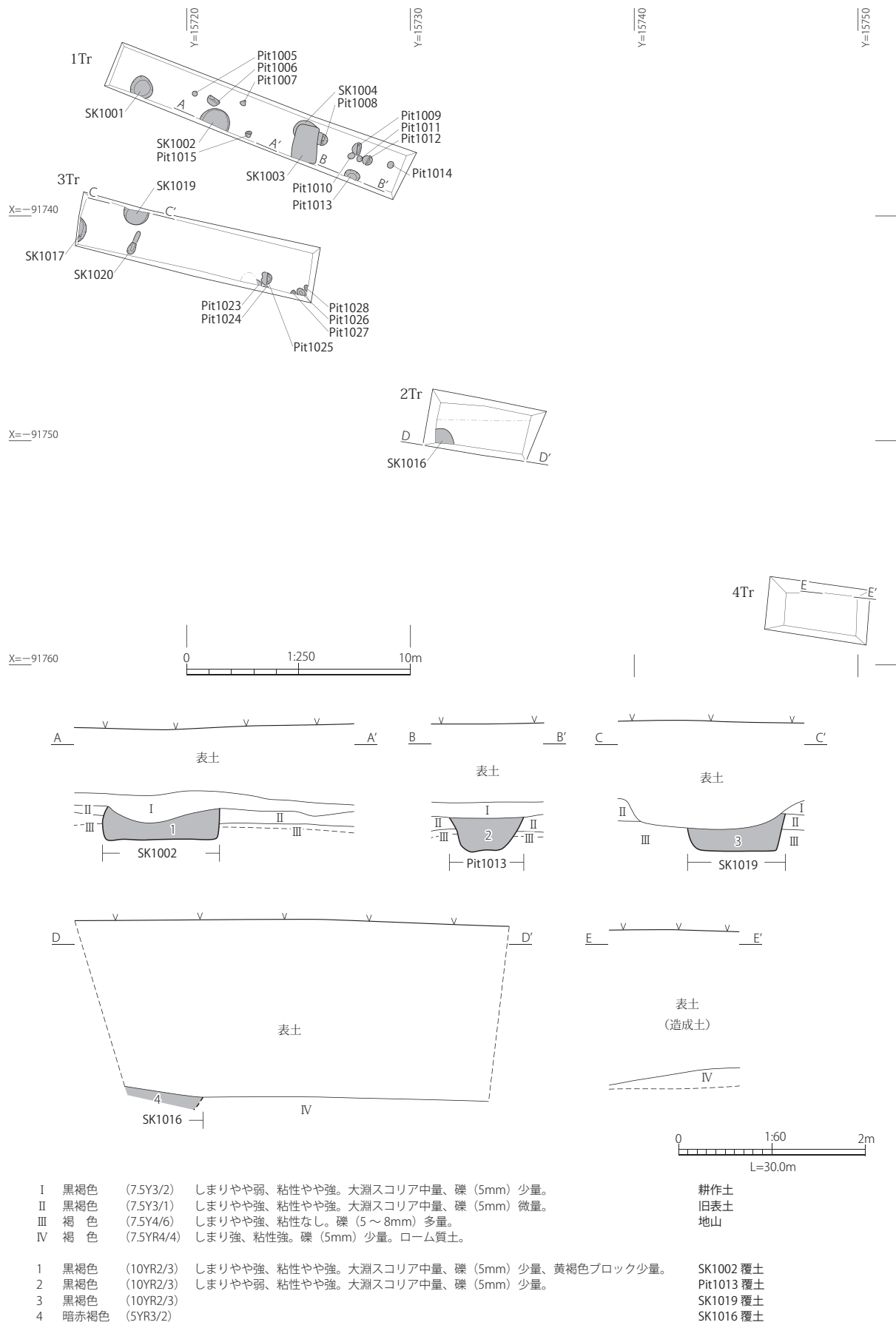
調査の結果 削平などの土地改変は認められず、多数の土坑・ピット(SK1001～Pit1028)が検出された。大半は近世以降の掘り込みとみられるが、一部は土層の特徴や出土遺物から奈良・平安時代のものと考えられる。



第29図 東平遺跡第97地区 位置図



第30図 東平遺跡第97地区 トレンチ配置図

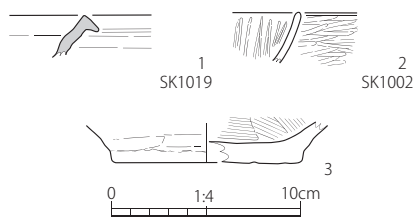


第31図 東平遺跡第97地区 トレンチ平面図・セクション図

調査地の東側（第3地区）では道路建設の際に、奈良・平安時代の竪穴建物跡群や掘立柱建物跡群が多数検出されているが、今回の調査地は遺構の希薄な範囲と考えられる。

遺物は少量の土師器片・須恵器片が出土し、3点を図示した（第32図）。1は灰釉陶器の壺で10世紀から11世紀か。2は甲斐型坏で内面・外面ともに細かなヘラミガキが認められる。9世紀から10

世紀にかけてのものと考えられる。3は駿東甕の底部で8世紀のものである。



第32図 東平遺跡第97地区 出土遺物実測図

第5表 東平遺跡第97地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調	備考
							口径	底径	器高					
第32図1	R0004	PL.4	SK1019	灰釉陶器	壺	10～11C	-	-	(2.2)	良好	-	5Y7/1 (灰白)	5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第32図2	R0001	PL.4	SK1002	土師器	坏	9～10C	-	-	(2.6)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	甲斐型
第32図3	R0002	PL.4	3Tr	土師器	甕	8C	-	[10.0]	(2.2)	良好	25%	5YR4/2 (灰褐)	5YR4/2 (灰褐)	駿東型

11 国久保遺跡 第7地区 1次調査

所在地 国久保三丁目 1995-7 ほか

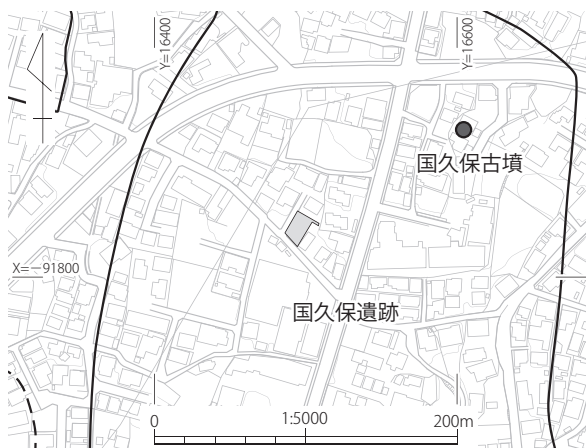
調査面積 5,493 m² (対象面積 200.66 m²)

調査期間 平成30年6月5日

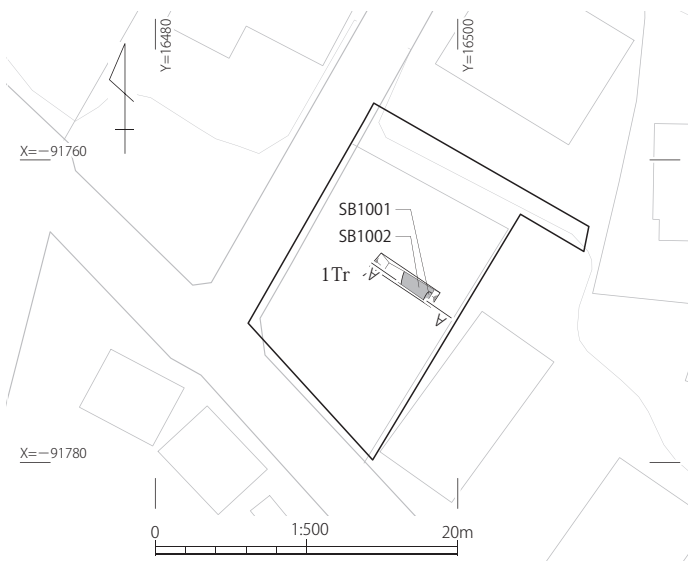
調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

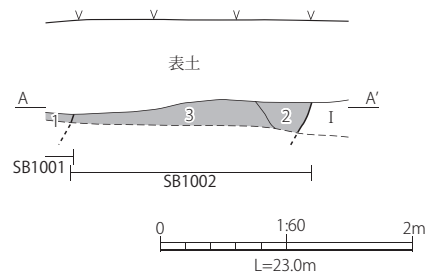
調査の結果 地表下70cmから平安時代の竪穴建物跡2軒 (SB1001・1002) を検出した。周辺の調査例からも律令期の遺構が広範囲に広がっている可能性が高い。



第33図 国久保遺跡第7地区 位置図



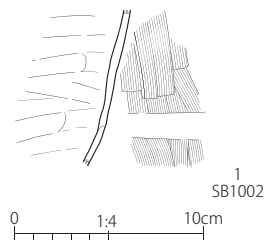
1Tr 東西セクション南壁



- 1 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強、粘性やや強。小礫微量。橙色粒子微量。 地山
- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 SB1001 覆土
- 2 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性やや強。褐色粒子微量。 SB1002 覆土
- 3 黒褐色 (10YR2/3) しまりやや弱、粘性やや強。粘土アツク多量。焼土少量。 SB1002 覆土

第34図 国久保遺跡第7地区 トレンチ配置図・セクション図

遺物は少量の土師器片が出土し、SB1002 から出土した1点を図示した(第35図)。1は駿東型長胴甕の胴部の破片である。外面には細かなハケ目調整が施され、輪積み部分をナデ消している。8世紀から9世紀のものである。



第35図 国久保遺跡第7地区 出土遺物実測図

第6表 国久保遺跡第7地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第35図1	R0001	PL.6	SB1002	土師器	長胴甕	8~9C	-	-	(8.3)	良好	-	5YR6/6 (橙)	5YR5/6 (明赤褐)

12 東平遺跡 第98地区 1次調査

所在地 伝法2449-1 ほか

調査面積 25.519 m² (対象面積 965.22 m²)

調査期間 平成30年6月12日～6月13日

調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地内にL字に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 平安時代の竪穴建物跡2軒と奈良・平安時代の土坑・ピットが多数(Pit1001～1023)検出された。

遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器の破片がコンテナ1箱ほど出土し、4点を図示した(第39図)。

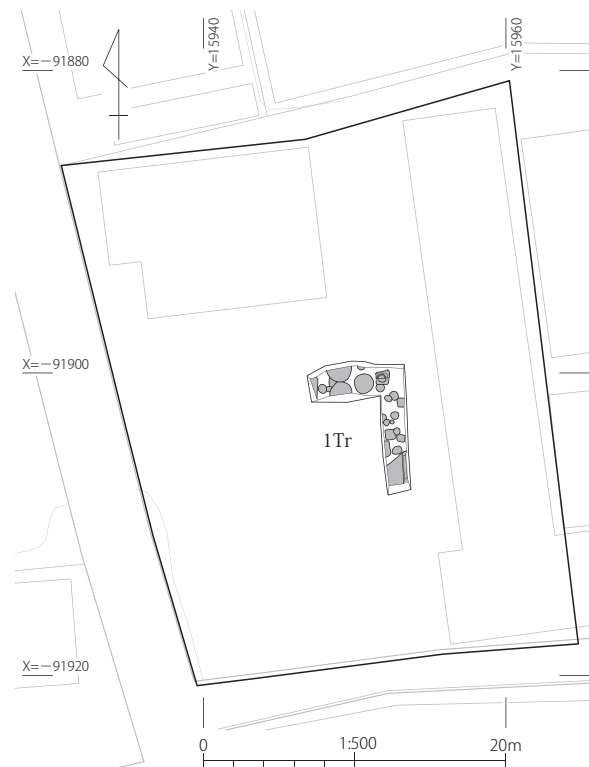
1は灰釉陶器の碗で高台端部が欠けている。全体的に厚くつくられている。みこみ部は光沢があり、人為的にみがかれた可能性がある。

2・3はいずれも底部回転糸切り後未調整の坏底部である。胎土に比較的多くの砂粒を含み、色調は橙色を呈する特徴的な土器である。いずれも10世紀から11世紀のものと考えられる。

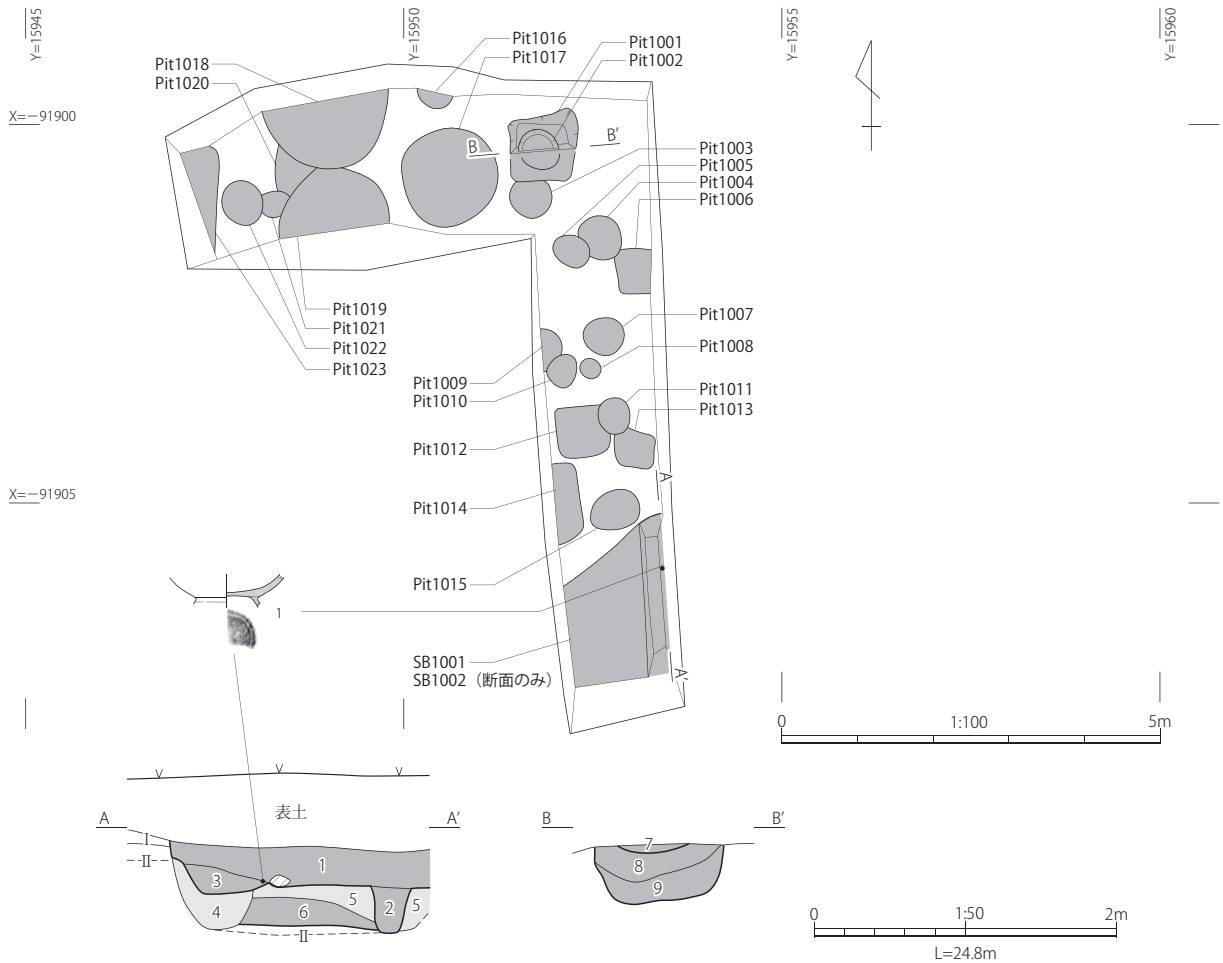
4は大甕の破片である。外面に非常に明瞭なタタキ目が残る。内面は丁寧にナデられている。



第36図 東平遺跡第98地区 位置図



第37図 東平遺跡第98地区 トレンチ配置図

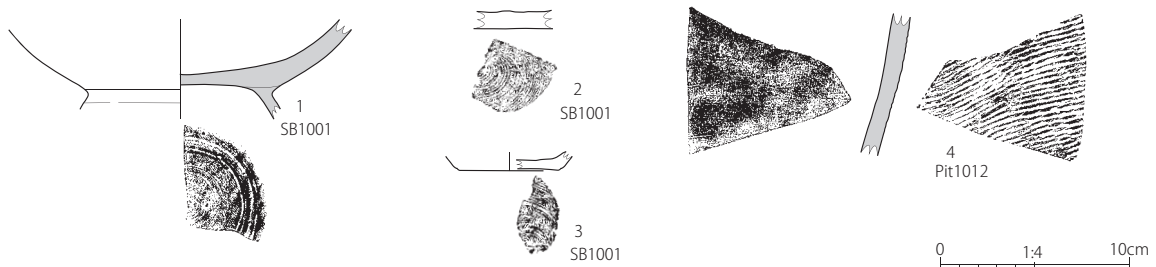


- I 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり強、粘性やや強。橙色粒子少量。
- II 褐色 (7.5YR4/4) しまり強、粘性やや弱。小礫多量

- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子中量、礫 (5mm) 少量。
- 2 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性やや弱。橙色粒子少量、礫 (5mm) 少量。
- 3 褐色 (10YR4/4) しまりやや弱、粘性やや弱。粘土中量、焼土少量、炭化物少量。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子少量、黄褐色ブロック中量。
- 5 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性やや弱。礫 (5~10mm) 少量。上面に黄褐色土。
- 6 黒褐色 (10YR3/2) しまり強、粘性やや弱。礫 (10mm) 中量、橙色粒子微量。
- 7 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性やや弱。地山粒子多量、炭化材少量。
- 8 黒色 (10YR2/1) しまりあり、粘性ややあり。地山粒子中量、炭化材少量。
- 9 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや弱、粘性やや弱。地山粒子多量、炭化材中量、細礫少量。

- SB1001 覆土
- SB1001Pit01 覆土
- SB1001 覆土
- SB1001 カマド掘り方埋土
- SB1001 掘り方埋土
- SB1002 覆土
- Pit1002 覆土
- Pit1001 覆土
- Pit1001 覆土

第38図 東平遺跡第98地区 トレンチ平面図・セクション図



第39図 東平遺跡第98地区 出土遺物実測図

第7表 東平遺跡第98地区 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第39図1	R0002	PL.6	SB1001	灰釉陶器		10~11C	-	-	(5.2)	良好	20%	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y5/1 (黄灰)
第39図2	R0008	PL.6	SB1001	土師器	坏	10~11C	-	-	(0.95)	良好	-	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)
第39図3	R0008	PL.6	SB1001	土師器	坏	10~11C	-	[5.2]	(1.0)	良好	25%	7.5YR7/4 (にぶい橙)	7.5YR7/4 (にぶい橙)
第39図4	R0004	PL.6	Pit1012	陶器	甕	10~11C	-	-	(7.5)	良好	-	10YR5/2 (灰黄褐)	10YR4/2 (灰黄褐)

13 高德坊遺跡 第5地区 1次調査

所在地 岩本 537-97

調査面積 10.355 m² (対象面積 205.03 m²)

調査期間 平成30年6月14日～6月15日

調査の原因 個人住宅新築

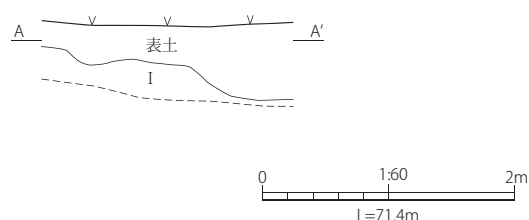
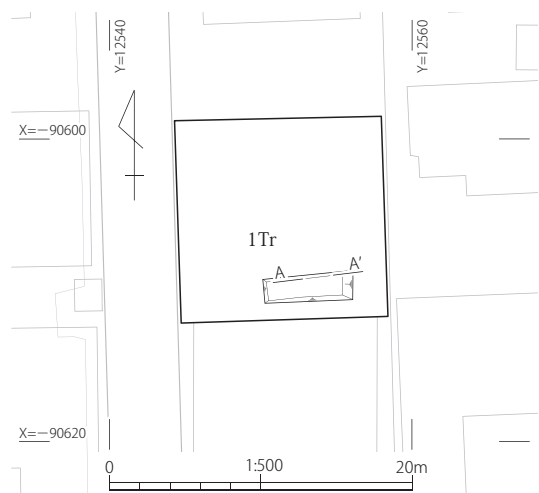
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下20～50cmで黄褐色地山 (I層) に到達し、遺構や遺物は確認されなかった。

当該地一帯において過去に行われた宅地造成工事の際、大幅な削平を受け、埋蔵文化財が残る可能性は低いと判断される。



第40図 高德坊遺跡第5地区 位置図



I 黄褐色 (10YR5/6) しまりやや弱、粘性強。礫 (20～40cm) 多量。地山

第41図 高德坊遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図

14 三度蒔B遺跡 第4地区 1次調査

所在地 三ツ沢 676-1 ほか

調査面積 44.673 m² (対象面積 3,175 m²)

調査期間 平成30年6月18日～6月19日

調査の原因 集合住宅新築

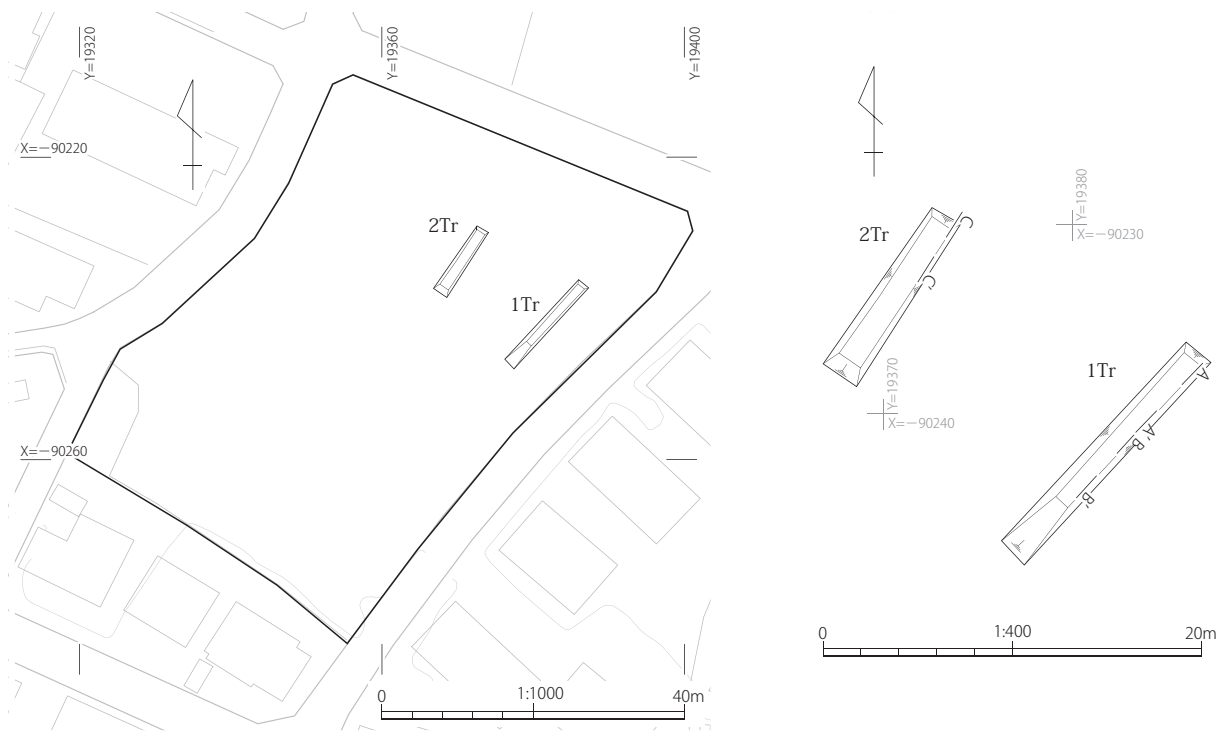
調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。

1 トレンチでは谷部の厚い堆積層が確認され、2 トレンチでは表土直下で地山に到達する。こうした状況から、当該地の旧地形は北西から南東に向かって傾斜し、谷を形成していたものと考えられ、遺跡が存在する可能性は低いと判断できる。

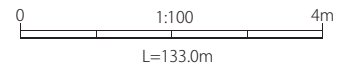
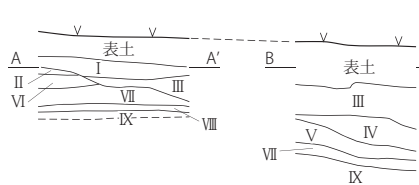


第42図 三度蒔B遺跡第4地区 位置図



1Tr 南北セクション東壁

2Tr 南北セクション東壁



I	黒褐色 (10YR3/2)	しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリア多量。砂少量。	
II	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりあり、粘性ややあり。大淵スコリア多量。細礫少量。	大淵スコリア層
III	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまり弱、粘性弱。大淵スコリア中量。砂中量。細礫少量。	谷部の堆積土
IV	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまり弱、粘性やや弱。大淵スコリア少量。細礫中量。	谷部の堆積土
V	黒色 (7.5YR2/1)	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵スコリア少量。細礫少量。	谷部の堆積土
VI	黒褐色 (10YR3/2)	しまりややあり、粘性ややあり。橙色粒子少量。	Ku
VII	黒色 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。橙色粒子極少量。	Fu
VIII	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性やや弱。地山粒子少量。	Zn
IX	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	しまりあり、粘性あり。礫 (10~40cm) 少量。	YL

第43図 三度蒔B遺跡第4地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図

15 中桁・中ノ坪遺跡 第13地区 1次調査

所在地 伝法 1085-1 ほか

調査面積 25.31 m² (対象面積 794.07 m²)

調査期間 平成30年6月25日～6月26日

調査の原因 建売住宅建設

調査の概要 対象地内に2箇所の特レンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

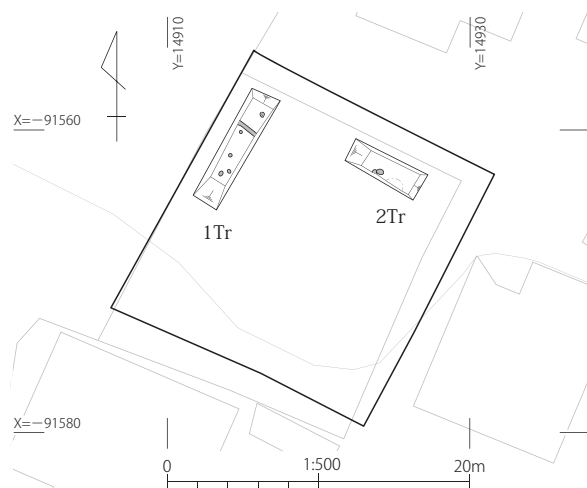
調査の結果 奈良・平安時代の溝状遺構1条 (SD1001)、ピット7基 (Pit1001～1007) が確認された。



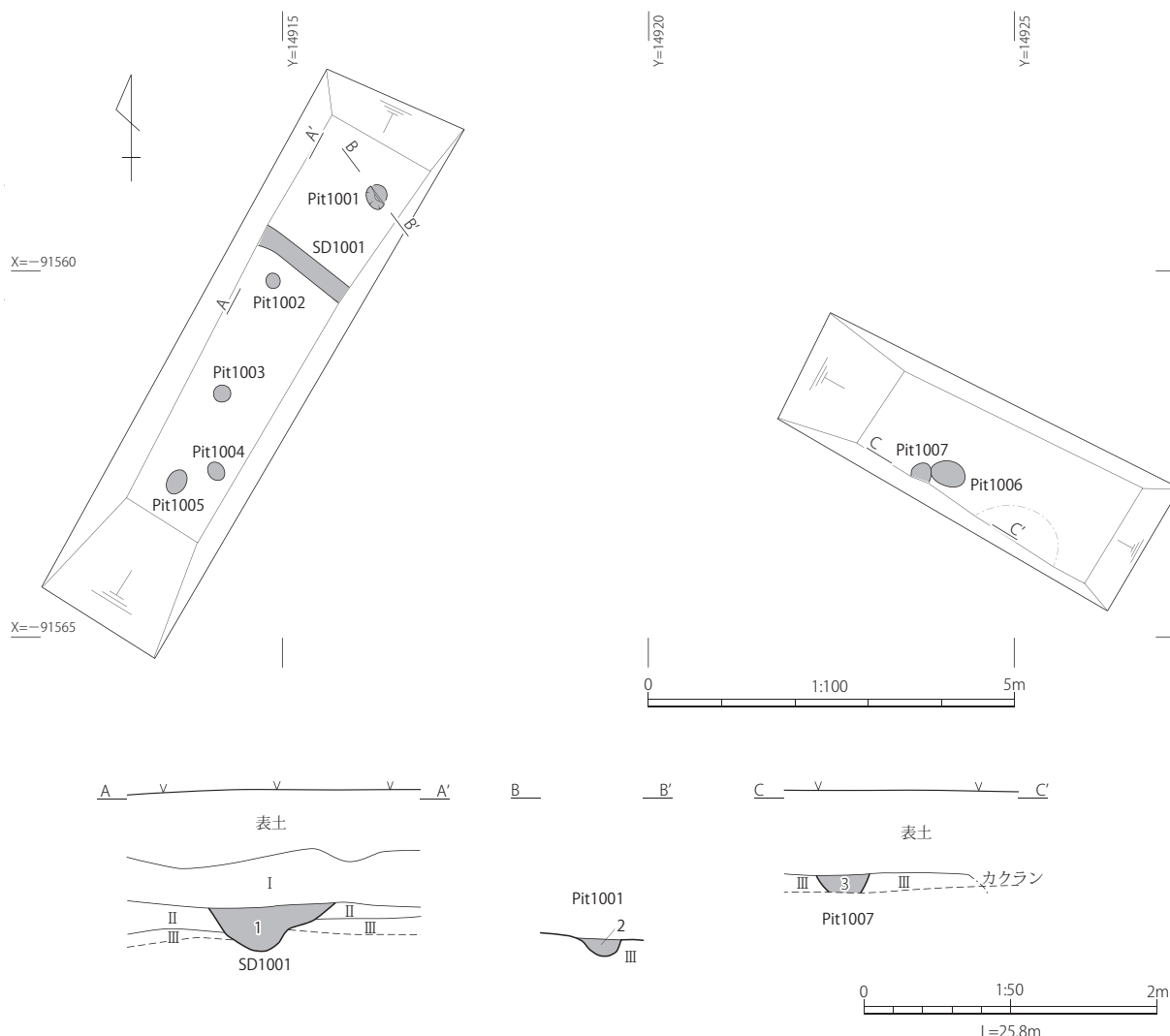
第44図 中桁・中ノ坪遺跡第13地区 位置図

2トレンチでは地表下約60cmのⅢ層で遺構を検出したが、本来の遺構面であるⅡ層は後世に削平されているものと考えられる。1トレンチは谷部にあたるため、2トレンチよりも深い地表下約80cmで遺構が確認された。

遺物は、少量の土師器片・須恵器片が出土したが、図化には至らなかった。



第45図 中柵・中ノ坪遺跡第13地区 トレンチ配置図

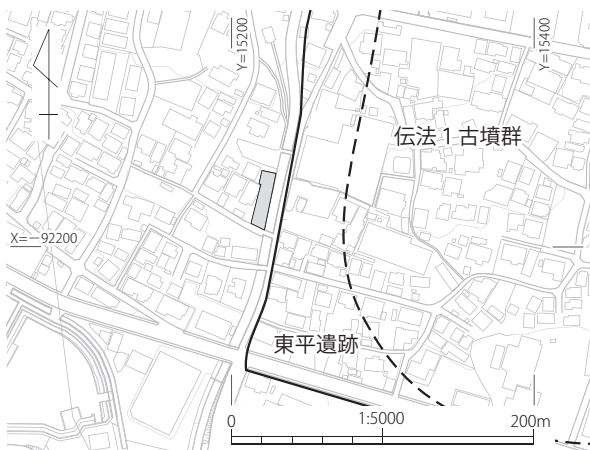


- | | | |
|------------------|--------------------------|---------------|
| I 黒褐色 (10YR2/2) | しまり弱、粘性弱。細礫中量含む。 | |
| II 暗褐色 (10YR3/3) | しまりややあり、粘性ややあり。橙色粒子少量含む。 | 奈良・平安遺構面 (地山) |
| III 褐色 (10YR4/6) | しまりややあり、粘性ややあり。礫少量含む。 | 地山 |
| 1 黒褐色 (10YR3/2) | しまりあり、粘性ややあり。橙色粒子中量含む。 | SD1001 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR3/2) | しまりあり、粘性ややあり。橙色粒子少量含む。 | Pit1001 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや弱。細礫少量含む。 | Pit1007 覆土 |

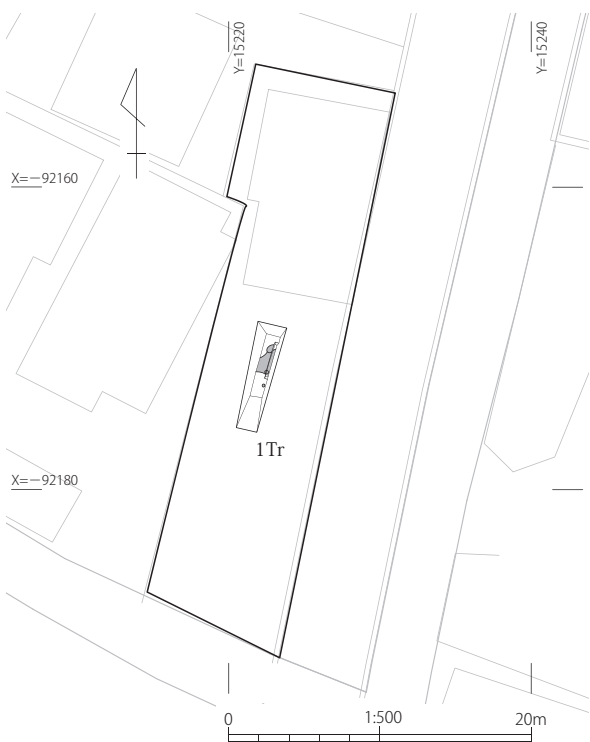
第46図 中柵・中ノ坪遺跡第13地区 トレンチ平面図・セクション図

16 包蔵地外 中桁・中ノ坪遺跡隣接地
(中桁・中ノ坪遺跡 第14地区 1次調査)

所在地 伝法 1439-1 ほか
調査面積 11.886 m² (対象面積 329.06 m²)
調査期間 平成30年6月27日
調査の原因 公会堂新築
調査の概要 対象地は埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、西に存在する中桁・中ノ坪遺跡の東端を把握するための試掘調査を行った。当該地の東隣を流れる伝法沢川の東岸には、東平遺跡が存在する。
 対象地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

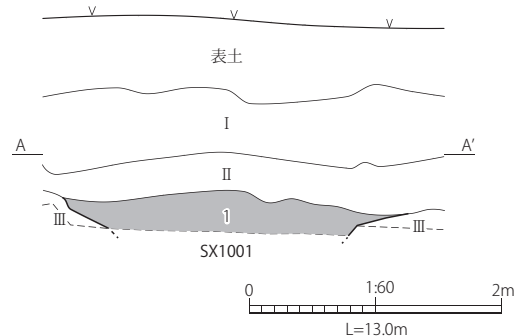
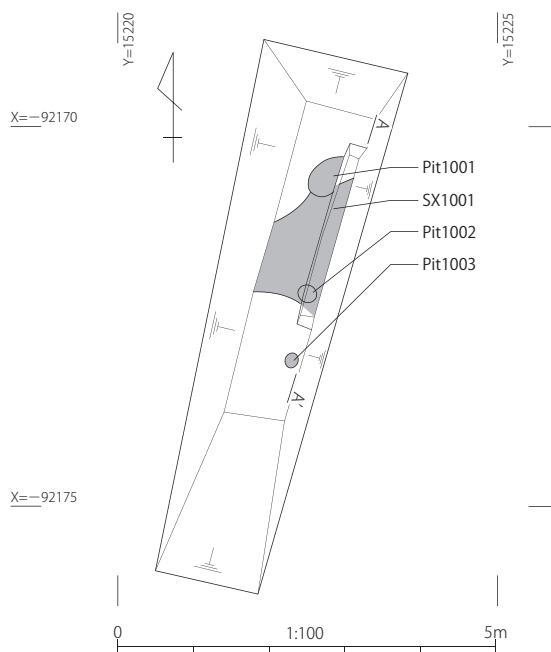


第47図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 位置図



第48図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 トレンチ配置図

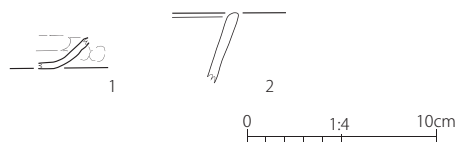
調査の結果 近世遺物を含む河川の流入土(Ⅱ層)の下で、奈良・平安時代の遺構・遺物が確認された。遺構はピット3基(Pit1001～1003)と自然流路の可能性のある性格不明遺構1基(SX1001)である。今回の調査結果により、中桁・中ノ坪遺跡は伝法沢川まで広がると想定されるため、平成30年8月3日、包蔵地範囲の変更をおこなった。



- I 黒褐色 (10YR2/2) しまり弱、粘性ややあり。黄褐色土塊を部分的に多量含む。細礫中量、炭粒少量含む。河川流入土
- II 黒褐色 (10YR3/2) しまり弱、粘性ややあり。細礫多量含む。近世遺物含む。近世の河川流入土
- III 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや弱、粘性やや弱。砂質層。細礫少量含む。古代遺物含む。遺構検出面(包含層?)
- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性やや弱。細礫多量含む。SX1001 覆土(自然流路の可能性あり)

第49図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区
トレンチ平面図・セクション図

遺物は数点の土師器片が出土し、2点を図示した(第50図)。1は土師器の坏で、外面はナデ調整後、ユビオサエが施される。8世紀から9世紀と考えられる。2は近代と考えられる鉢の口縁部である。



第50図 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 出土遺物実測図

第8表 中桁・中ノ坪遺跡第14地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第50図1	R0001	PL.7	1Tr	土師器	坏	8~9C	-	-	(1.6)	良好	-	5YR7/6 (橙)	5YR7/6 (橙)
第50図2	R0001	PL.7	1Tr	土師器	鉢?	近代?	-	-	(3.7)	良好	-	7.5YR8/3 (浅黄橙)	5YR6/8 (橙)

17 清水岩の上遺跡 第1地区 1次調査

所在地 北松野 1616 番 6

調査面積 7.952 m² (対象面積 276.25 m²)

調査期間 平成30年6月27日

調査の原因 個人住宅新築

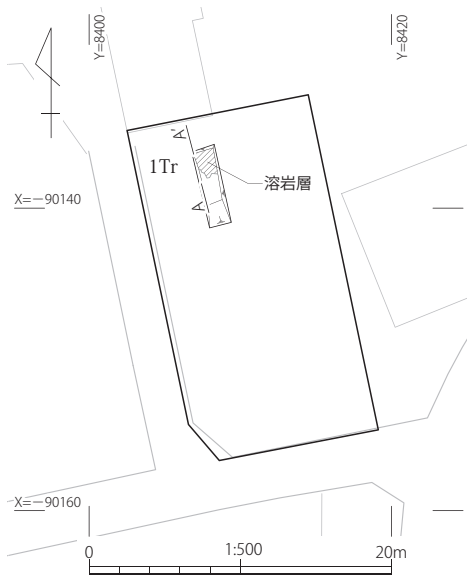
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

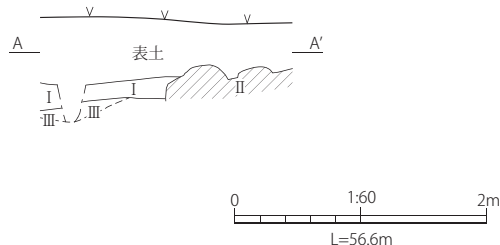
1 トレンチ北側で溶岩層が検出され、対象地が芝川溶岩に由来すると考えられる溶岩流の末端(側面)部分に当たることが明らかとなった。現在の包蔵地範囲は溶岩流の内側(対象地の北側)であり、その線引きが妥当なことが確認された。



第51図 清水岩の上遺跡第1地区 位置図



1Tr 南北セクション西壁



I 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子中量。礫(5mm)微量。

II 溶岩層

III 褐色 (10YR4/4) しまりやや弱、粘性ややあり。礫(3~5cm)少量。

芝川溶岩か
地山(ローム質)

第52図 清水岩の上遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

18 東平遺跡 第99地区 1次調査

所在地 伝法 3011-4 ほか

調査面積 18.865 m² (対象面積 191.27 m²)

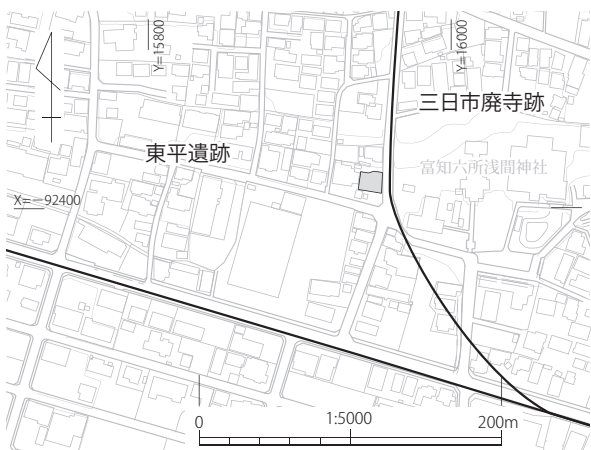
調査期間 平成30年7月2日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地上面が削平を受けており、遺構残存状況が良好ではないものの、竪穴建物跡の掘り方と想定されるプラン (SB1001) やピット7基 (Pit1001 ~ 1007) を検出した。

遺物は、竪穴建物跡から土師器片が少量出土したのみで、図化には至らなかった。



第53図 東平遺跡第99地区 位置図



第54図 東平遺跡第99地区 トレンチ配置図



I 褐色 (10YR4/4) しまり強、粘性弱。礫 (5mm) 多量、砂多量。地山
 1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりやや強、粘性弱。礫 (5mm) 少量。SB1001 覆土

第55図 東平遺跡第99地区 トレンチ平面図・セクション図

19 中桁・中ノ坪遺跡

第15地区 1次調査・2次調査

所在地 伝法1294ほか

調査面積 1次：8.043 m²

2次：12.024 m² (対象面積 277.72 m²)



第56図 中桁・中ノ坪遺跡第15地区 位置図

調査期間 1次：平成30年7月3日～7月4日

2次：平成30年9月3日

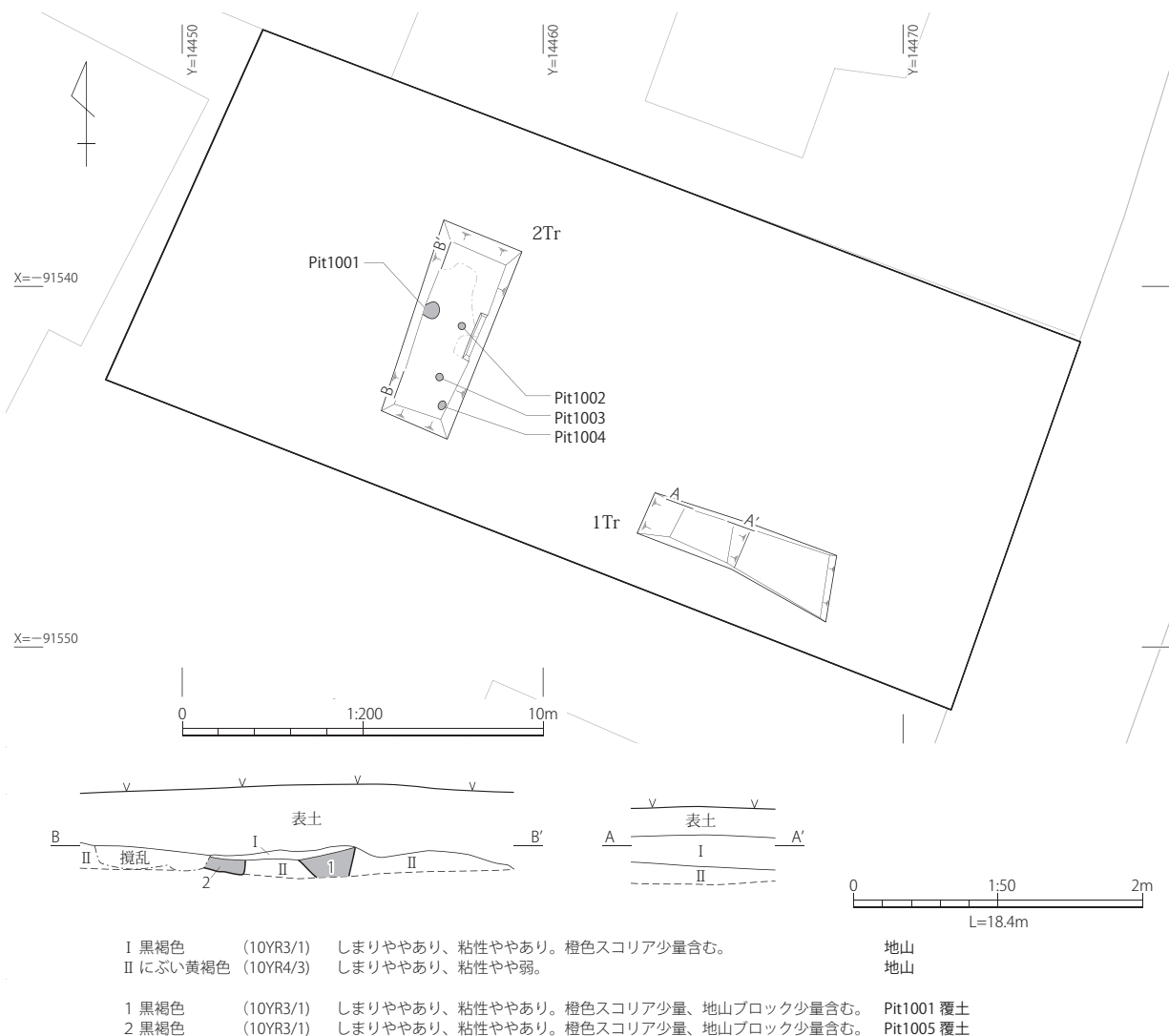
調査の原因 診療所新築

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ（1次：1Tr、2次：2Tr）を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 1トレンチでは遺構・遺物は検出されず、地表下40cm程で地山が検出されることが明らかとなった。2トレンチでは、地表下約40～50cmでピット4基（Pit1001～1004）を検出した。

後世の攪乱が入る箇所もみられたが、当該地には遺跡が残存しているものと判断できる。

遺物は、奈良・平安時代と考えられる土器片が出土したが、図化には至らなかった。



第57図 中桁・中ノ坪遺跡第15地区 トレンチ配置図・セクション図

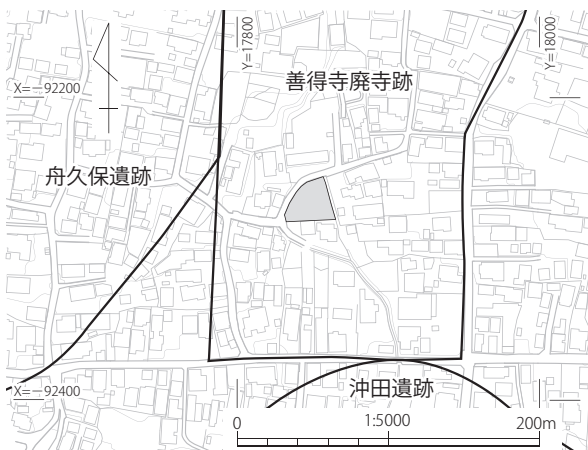
20 善得寺廃寺跡 第5地区 1次調査

所在地 今泉5丁目 1155-1 ほか

調査面積 17.637 m² (対象面積 540 m²)

調査期間 平成30年7月9日

調査の原因 宅地分譲

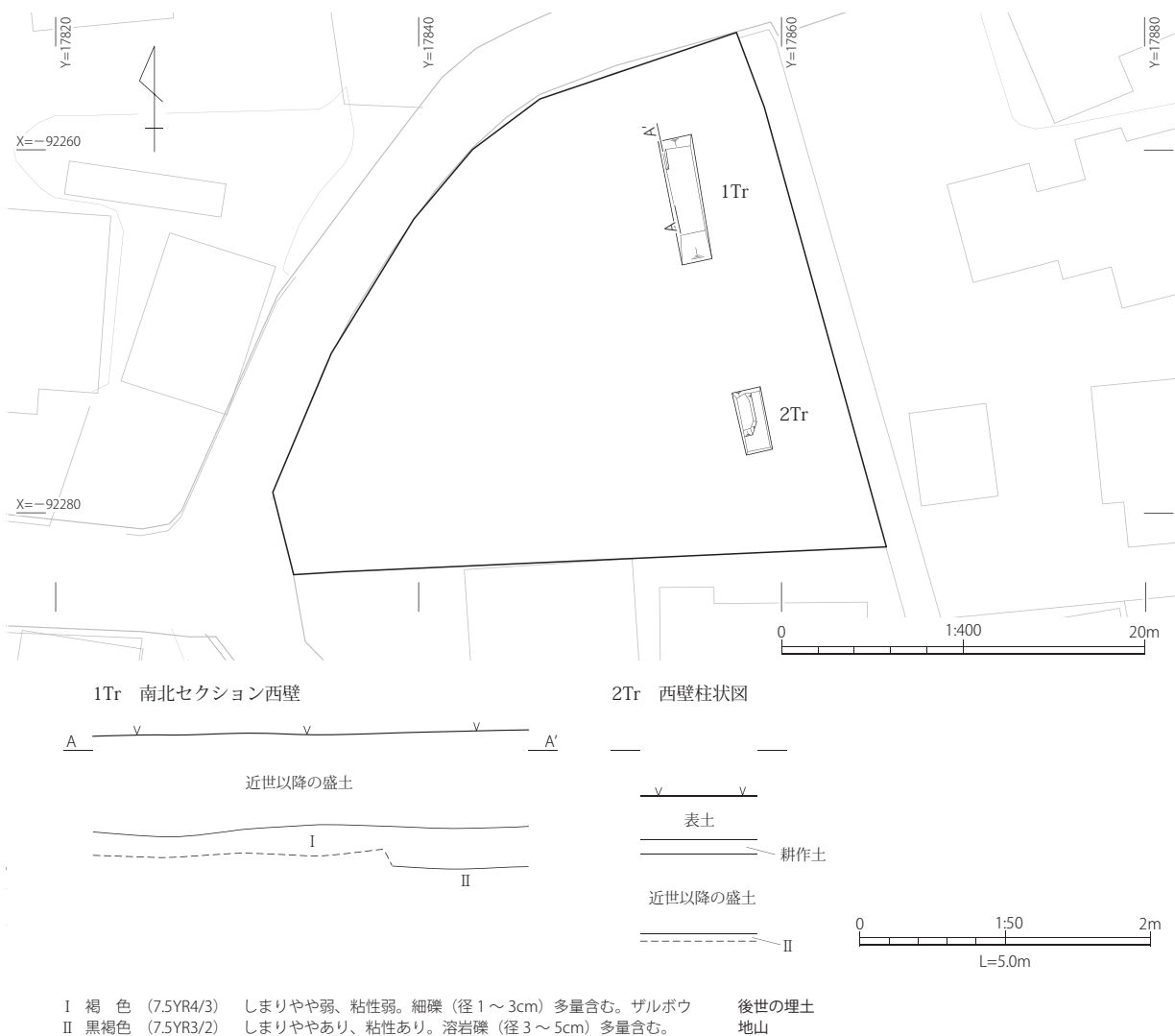


第58図 善得寺廃寺跡第5地区 位置図

調査の概要 対象地の東側部分に2箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 1トレンチでは近世から近現代の遺物を含む厚さ約60cmの盛土を経て、溶岩礫を多量に含む地山に到達した。2トレンチは耕作土の下に近世以降の盛土を確認したが、水の流れ込みが激しかったため、地表下約1.0mまで掘り下げたところで掘削を停止した。このレベルでは近現代遺物がほとんどみられなくなり、溶岩礫を多量に含んでいたことから、1トレンチで見られた地山に到達したものと考えられる。

いずれも後世の開発によって大幅に削平されており、遺構や遺物は確認できなかった。



第59図 善得寺廃寺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図

21 花守遺跡 第5地区 1次調査

所在地 富士岡 297-1 ほか

調査面積 4.957 m² (対象面積 410.79 m²)

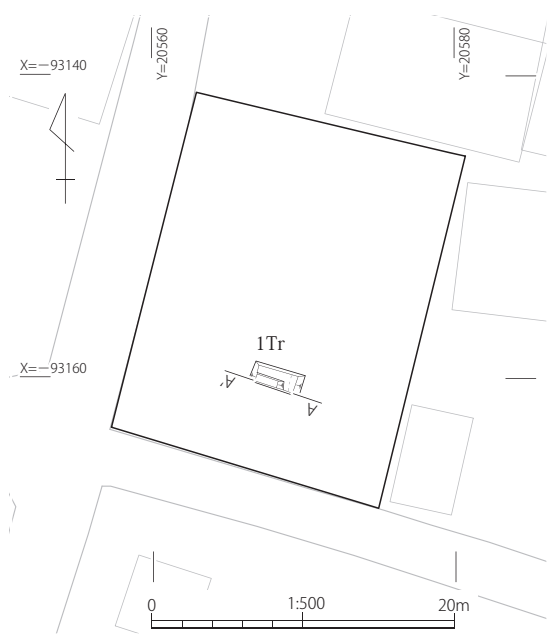
調査期間 平成30年7月17日

調査の原因 個人住宅新築

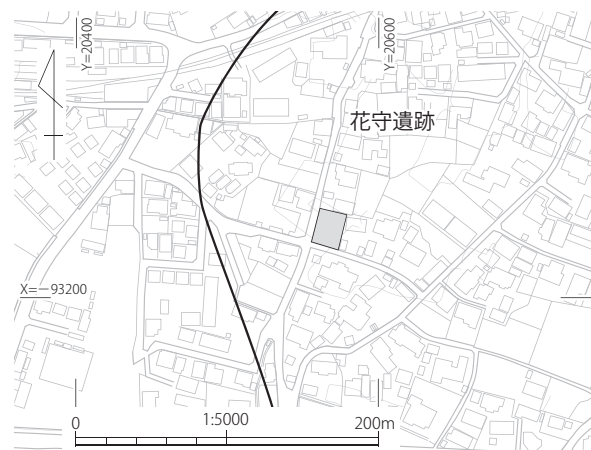
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 近世以降の撓乱による削平がみられ、遺構・遺物は確認されなかった。

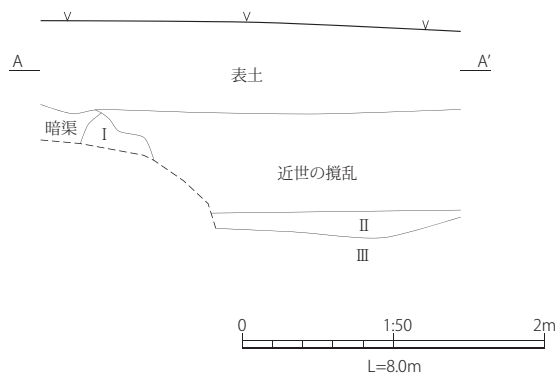
地山より下層は砂利層や粘土層が互層状に続くようである。



第61図 花守遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図



第60図 花守遺跡第5地区 位置図



- | | | |
|-------------------|-----------------|----|
| I 褐色 (7.5YR4/3) | シルト層。鉄分を中量含む。 | 地山 |
| II 黒褐色 (7.5YR3/1) | 砂利層。緑灰色粘土塊少量含む。 | |
| III 黒色 (7.5YR2/1) | 粘質土層。 | |

22 東平遺跡 第100地区 1次調査

所在地 伝法 2754-8

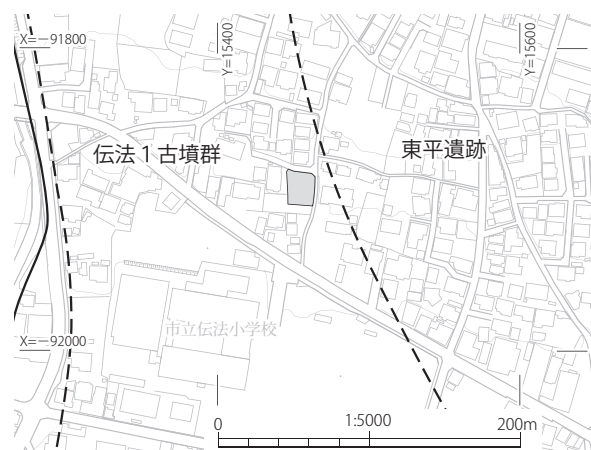
調査面積 25.229 m² (対象面積 406.19 m²)

調査期間 平成30年7月18日

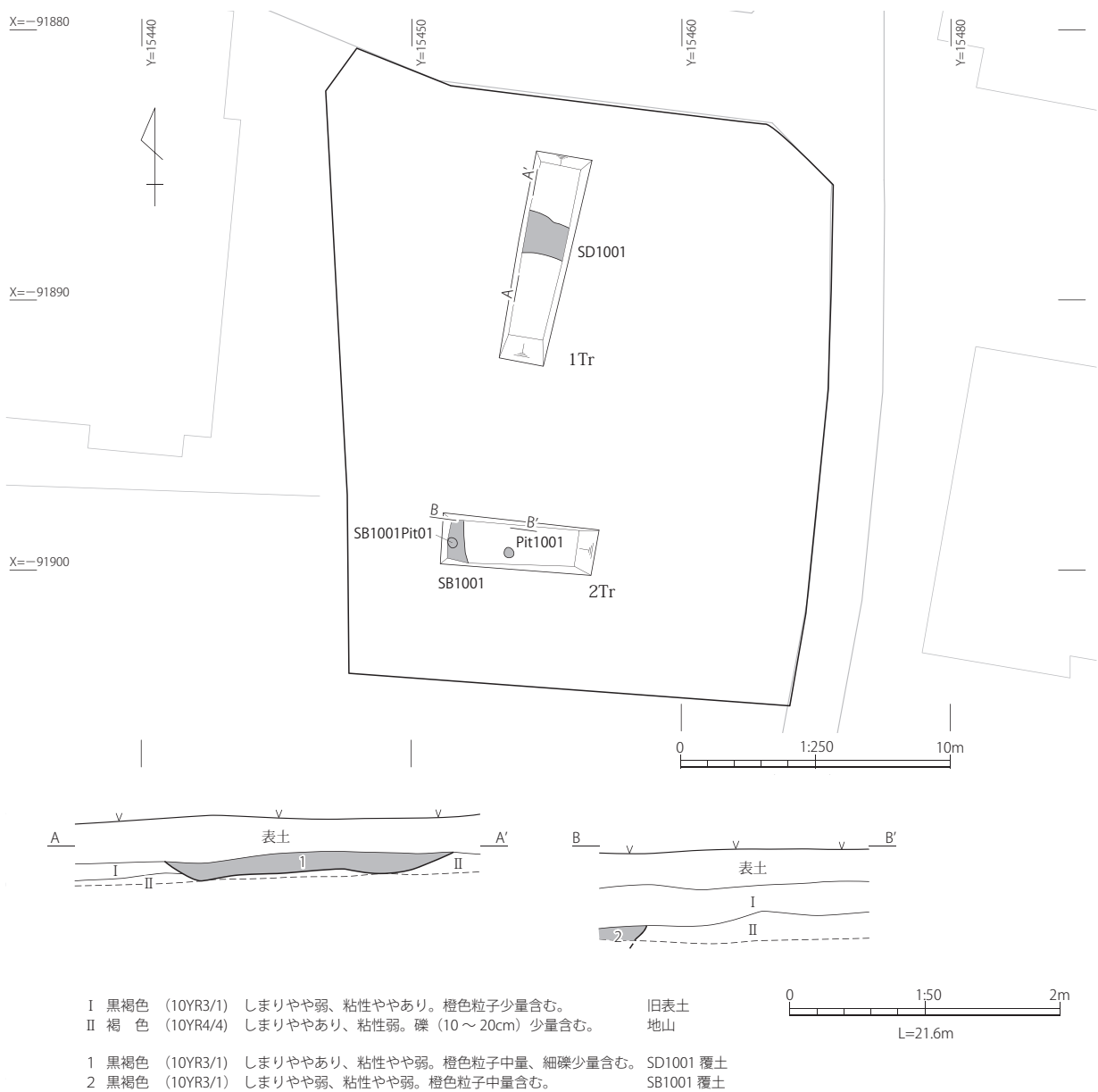
調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 竪穴建物跡1軒 (SB1001)、溝1条 (SD1001)、ピット1基 (Pit1001) 等の遺構が確認された。遺物は奈良時代の土師器片が少量出土したが、図化には至らなかった。



第62図 東平遺跡第100地区 位置図



第 63 図 東平遺跡第 100 地区 トレンチ配置図・セクション図

23 天間沢遺跡 第 50 地区 1 次調査

所在地 天間 1889-14

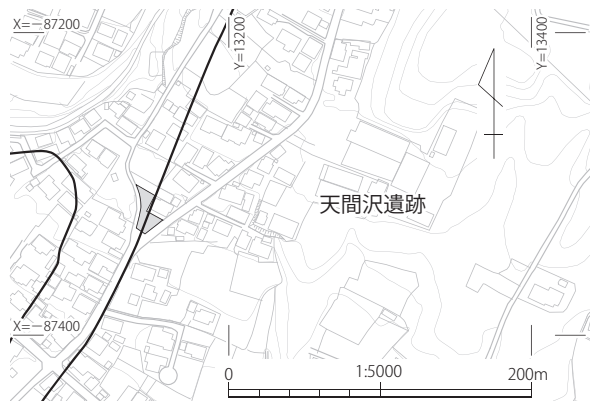
調査面積 4.429 m² (対象面積 276 m²)

調査期間 平成 30 年 7 月 24 日

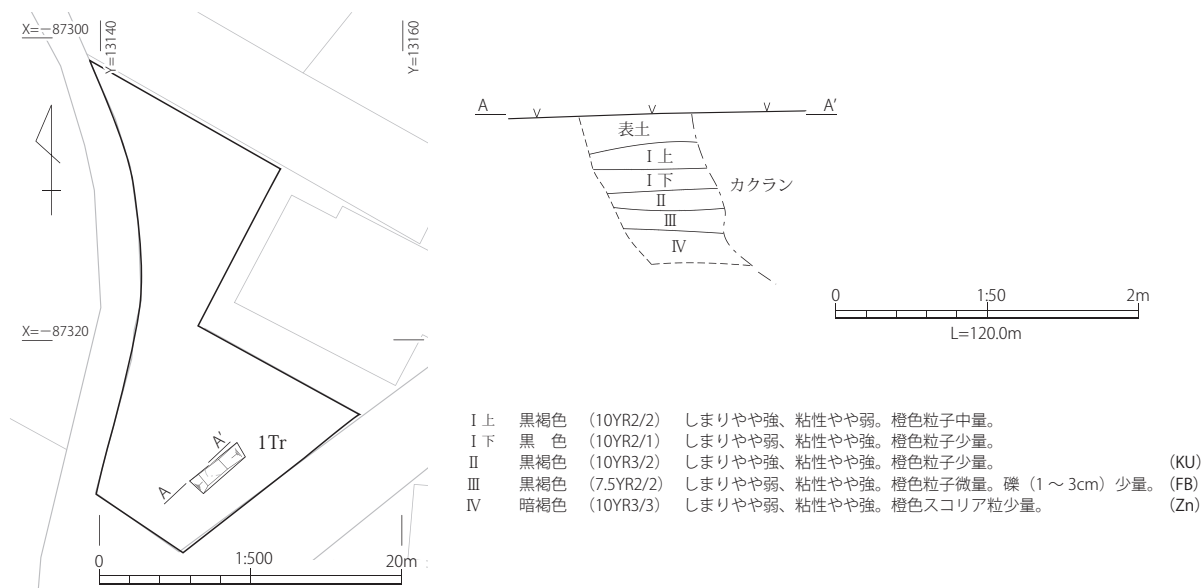
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に 1 箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 当該地は土地改変が著しいことが明らかとなった。また、地山が良好に残存する部分でも遺構・遺物を確認することはできなかった。



第 64 図 天間沢遺跡第 50 地区 位置図



第65図 天間沢遺跡第50地区 トレンチ配置図・セクション図

24 天間沢遺跡 第51地区 1次調査

所在地 天間 1884-1-1

調査面積 13.530 m² (対象面積 485.12 m²)

調査期間 平成30年7月25日

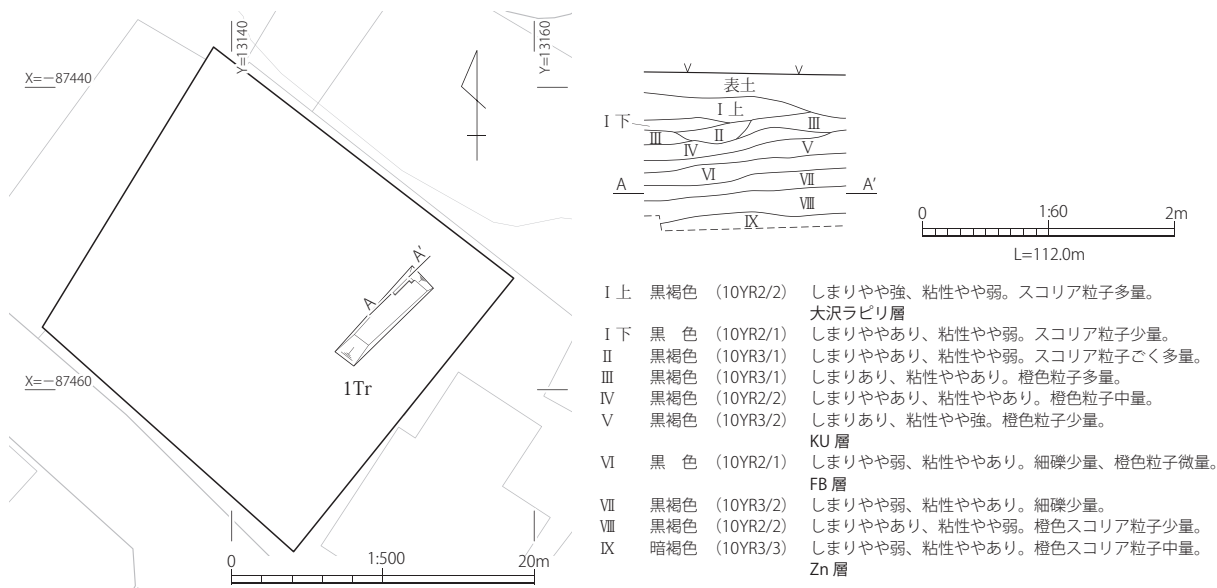
調査の原因 建売住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行った。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。
当該地は西に向かって傾斜する谷の肩部にあたりと考えられ、遺跡は存在しないものと判断できる。



第66図 天間沢遺跡第51地区 位置図



第67図 天間沢遺跡第51地区 トレンチ配置図・セクション図

25 包蔵地外 大淵地先

所在地 大淵 3784-1 ほか

調査面積 42,414 m² (対象面積 57,000 m²)

調査期間 平成30年7月19日・7月24日

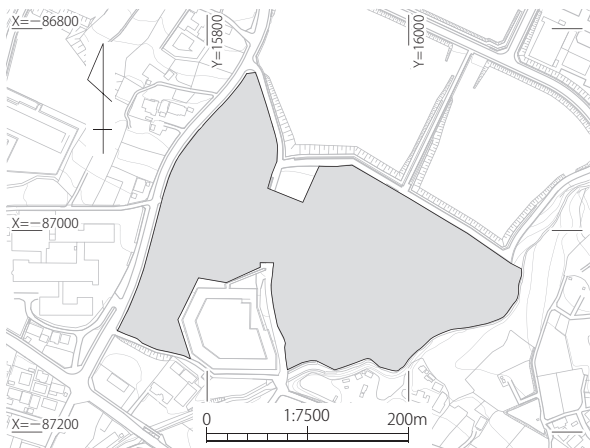
調査の原因 工業団地建設

調査の概要 対象地付近は周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが、東側を流れる沢沿いに古墳が存在する可能性があること、遺跡空白地帯の大規模開発であることなどから、試掘調査をおこなった。

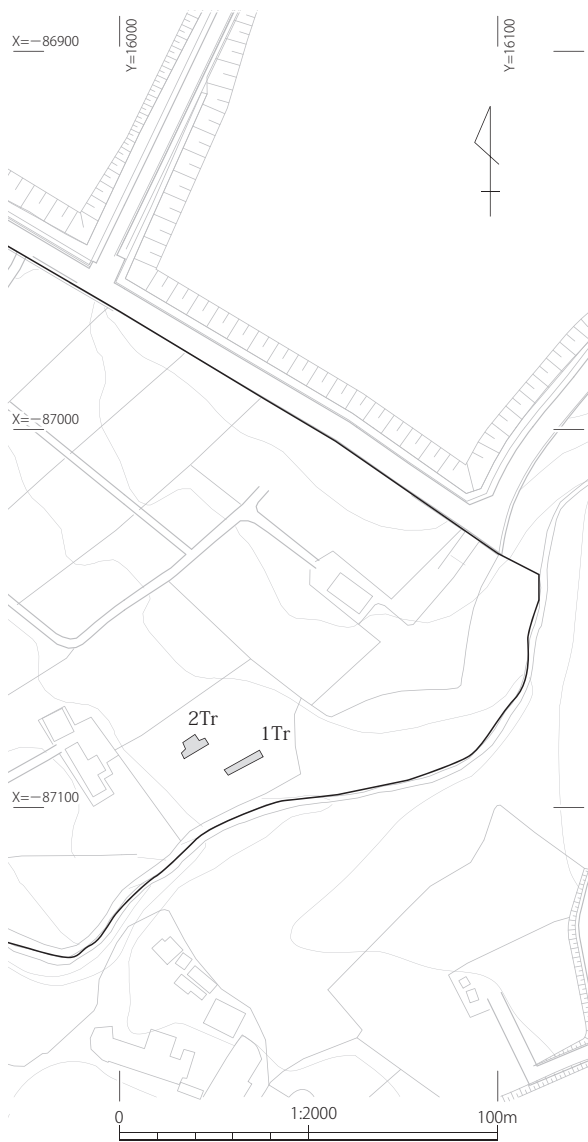
対象地の東南部に2箇所のトレンチ(1・2Tr)を設定し、重機による掘削を行った。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。

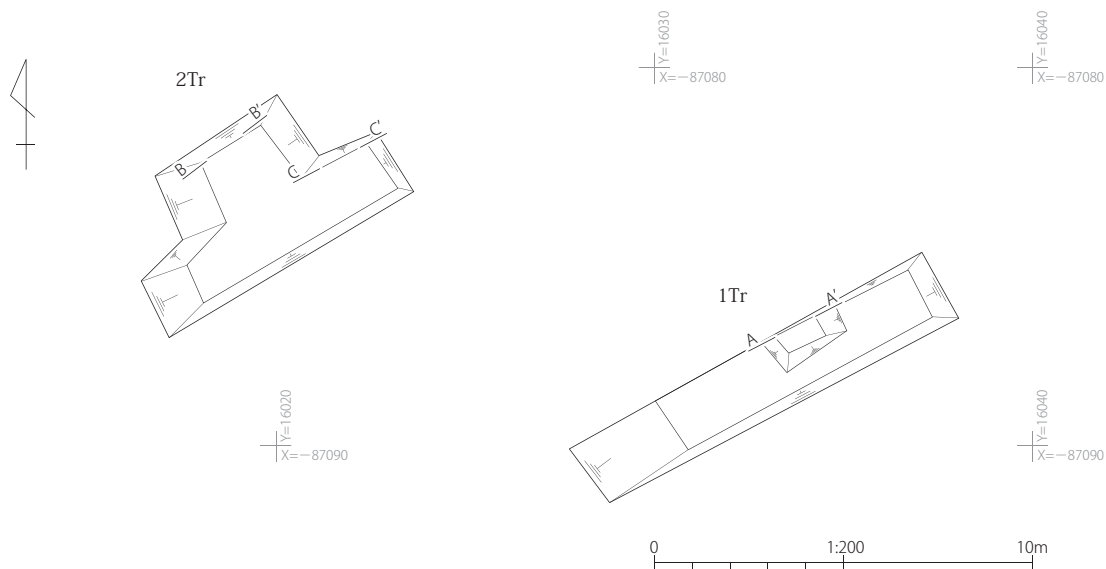
当該地には河川の砂礫層が厚く堆積しており、一部大礫を含む黒色土がみられたが、遺跡に関わるものが発見されないことから、埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。



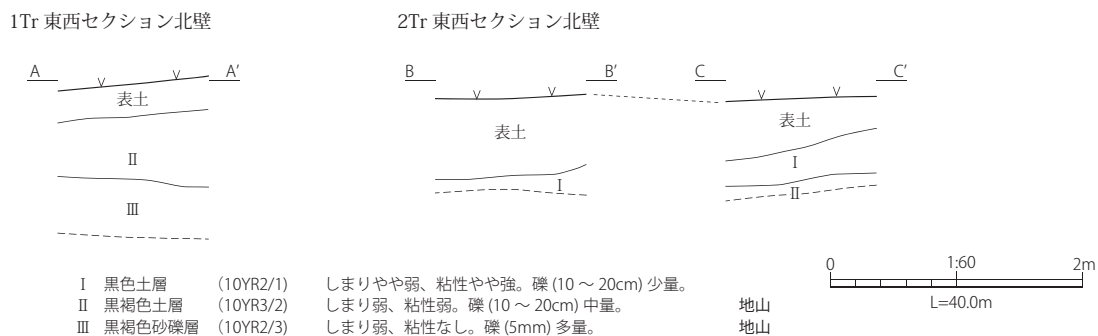
第68図 包蔵地外大淵地先 位置図



第69図 包蔵地外大淵地先 トレンチ配置図



第70図 包蔵地外大淵地先 トレンチ平面図・セクション図



第71図 包蔵地外大淵地先 トレンチ平面図・セクション図

26 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査

所在地 比奈 967-2

調査面積 56.429 m² (対象面積 1,177.01 m²)

調査期間 平成30年7月30日～8月1日

調査の原因 不動産売買

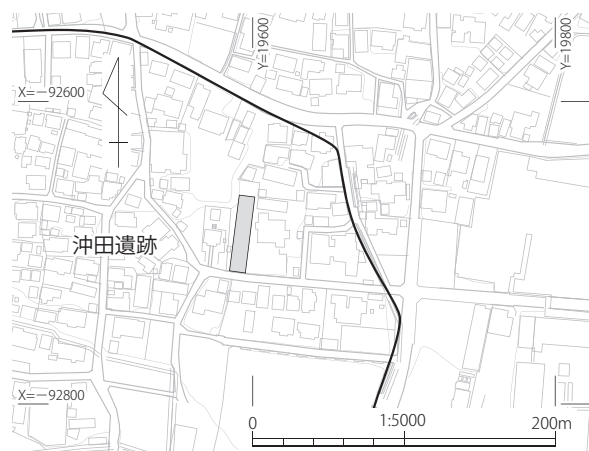
調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ(1・2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 土坑3基(SK1001～1003)やピット2基(Pit1004・1005)などの遺構を確認し、第Ⅲ層で弥生～平安時代の遺物が多量に出土した。

その上層の第Ⅱ層においても古代の遺物が混ざりますが、近世以降の遺物もみられることから、この層は近世の造成によって攪拌されたものであると考えられる。

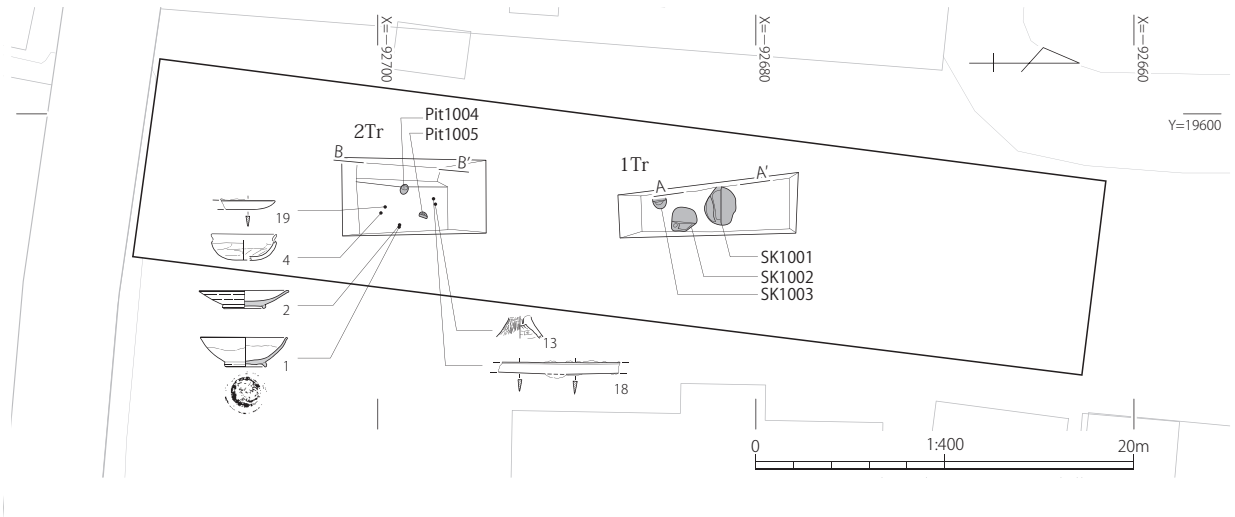
当該地北部は溶岩が露出しており、1Trでは比較的浅いところで地山に到達するが、南へ向かうにつれて堆積層が厚くなっていく様子が確認できた。

遺物は、コンテナ1箱分の土師器片・須恵器片・陶磁器片・金属製品が出土し、土器17点、金属製品4点を図示した(第74図)。1は灰釉陶器の碗、2は皿である。高台は低く厚い。1は回転糸切り後未調整で、2はナデ消している。灰釉はいずれも漬け掛けである。胎土等の特徴から、いずれも島田市旗指窯のものと考えられ、10世紀前半の生産が想定される。3は灰釉陶器の高台から底部片である。内外面に弱いナデが施され、長細く直線的に開く。10世紀頃と考えられる。4は土師器の坏底部である。調整はナデのみで、外面の凹凸が目立つ。5も4に似た調整である。底部外面に木葉痕が若干残る。

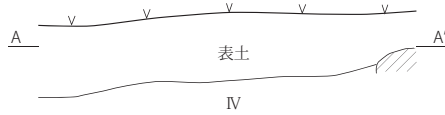


第72図 沖田遺跡第158次調査地点 位置図

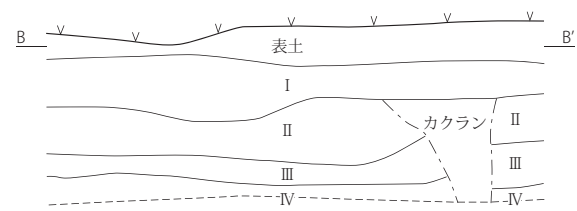
4と5のいずれも6世紀代の坏と考えられる。6は9世紀前半の甲斐型坏で、内外面ともに丁寧なヘラミガキが施される。また、外面下半にはヘラケズリが明瞭に残る。7は底部回転糸切り後未調整の坏の破片である。胎土が砂っぽい特徴を示す。10世紀後半から11世紀と考えられる。8・9は、いずれも古墳時代前期後半の壺で、9は「大廓式大型壺」とされるもので、口唇部内面を肥厚させている。10から13はいずれも高坏である。10・11の坏底部は脚部がソケット状にさしこまれる接合方法をとる。14・15は駿東甕、16・17は古墳時代後期から7世紀にかけての甕の破片と考えられる。18・19は同一個体の可能性のある刀子で、細く長い刃部を特徴とする。



1Tr 南北セクション西壁

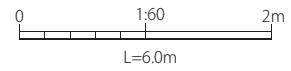


2Tr 南北セクション西壁

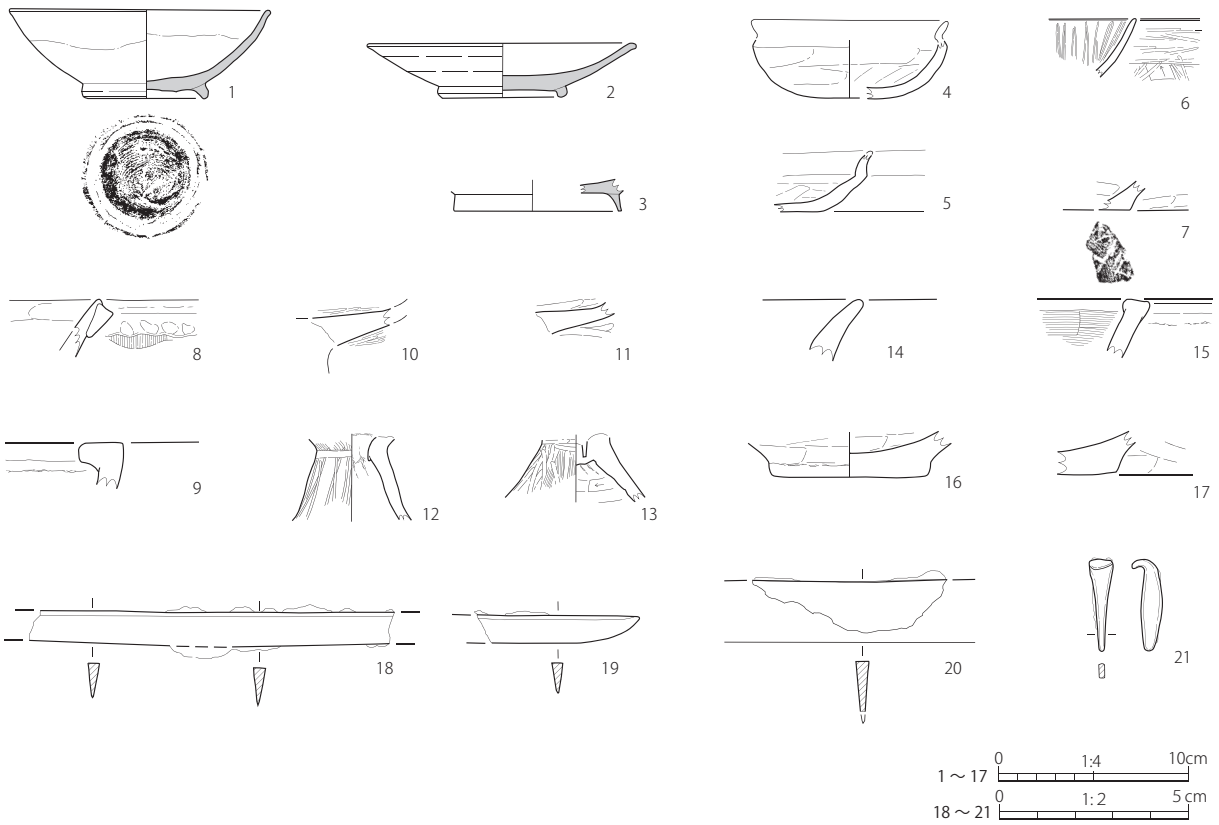


- I 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強、粘性やや強。粘土層、礫層を含む。
- II 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性やや弱。礫(5~10cm)中量。
- III 黒褐色 (10YR2/3) しまりやや強、粘性やや弱。礫(5cm)少量。
- IV にぶい黄褐色 (10YR4/3) しまりやや弱、粘性弱。礫(5~15cm)多量。

近代造成土
遺物包含層
地山



第73図 沖田遺跡第158次調査地点 トレンチ配置図・セクション図



第74図 沖田遺跡第158次調査地点 出土遺物実測図

第9表 沖田遺跡第158次調査地点 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調	
							口径	底径	器高					
第74図1	R0010	PL.11	2Tr	灰釉陶器	碗	10C	13.6	6.2	4.7	良好	70%	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/1 (灰白)	漬け掛け
第74図2	R0011	PL.11	2Tr	灰釉陶器	皿	10C	13.8	6.3	2.9	良好	90%	5Y7/1 (灰白)	5Y7/1 (灰白)	漬け掛け
第74図3	R0009	PL.11	2Tr	灰釉陶器		10C	-	[8.3]	(1.7)	良好	20%	10YR6/2 (灰黄褐)	10YR6/2 (灰黄褐)	
第74図4	R0013	PL.11	2Tr	土師器	坏	6C	-	-	(3.0)	良好	40%	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	
第74図5	R0009	PL.11	2Tr	土師器	坏	6C	-	-	(3.0)	良好	-	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	
第74図6	R0006	PL.11	2Tr	土師器	坏	9C	-	-	(3.1)	良好	-	5YR6/8 (橙)	5YR6/8 (橙)	甲斐型
第74図7	R0009	PL.11	2Tr	土師器	坏?	10C~	-	-	(1.6)	良好	-	2.5Y4/1 (黄灰)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	
第74図8	R0009	PL.11	2Tr	土師器	壺	古墳前期	-	-	(3.0)	良好	-	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	
第74図9	R0006	PL.11	2Tr	土師器	壺	古墳前期	-	-	(2.4)	良好	-	7.5YR7/4 (にぶい橙)	7.5YR7/4 (にぶい橙)	
第74図10	R0006	PL.11	2Tr	土師器	高坏	古墳中~後期	-	-	(1.9)	良好	-	5YR6/6 (橙)	5YR6/6 (橙)	
第74図11	R0006	PL.11	2Tr	土師器	高坏	古墳中~後期	-	-	(1.6)	良好	-	5YR6/8 (橙)	5YR6/8 (橙)	
第74図12	R0009	PL.11	2Tr	土師器	高坏	古墳中~後期	-	-	(4.4)	良好	40%	5YR5/8 (明赤褐)	5YR5/8 (明赤褐)	
第74図13	R0014	PL.11	2Tr	土師器	高坏	古墳中~後期	-	-	(3.6)	良好	55%	5YR7/6 (橙)	7.5YR6/6 (橙)	
第74図14	R0009	PL.11	2Tr	土師器	甕	9C	-	-	(3.2)	良好	-	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)	
第74図15	R0009	PL.11	2Tr	土師器	甕	8C	-	-	(3.1)	良好	-	5YR5/3 (にぶい赤褐)	5YR5/3 (にぶい赤褐)	
第74図16	R0006	PL.11	2Tr	土師器	甕	古墳後期~7C	-	[8.2]	(2.3)	良好	40%	10YR7/4 (にぶい黄橙)	7.5YR6/3 (にぶい褐)	
第74図17	R0018	PL.11	2Tr	土師器	甕	古墳後期~7C	-	-	(2.3)	良好	-	10YR7/6 (明黄褐)	10YR7/6 (明黄褐)	

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	法量 (cm)			重量 (g)	
						全長	刃部幅	刃部厚		
第74図18	R0006	0015	PL.11	2Tr	鉄製品	刀子	(9.6)	1.0	0.35	11.63
第74図19	R0012	PL.11	2Tr	鉄製品	刀子	(4.3)	0.75	0.3	3.12	
第74図20	R0001	PL.11		鉄製品	刀子?	(5.1)	(1.3)	0.3	5.58	
第74図21	R0009	PL.11	2Tr	鉄製品	釘	2.4			1.46	

27 包蔵地外 川窪遺跡隣接地

(川窪遺跡 第4地区 1次調査)

所在地 厚原 302

調査面積 20.294 m² (対象面積 2,182.23 m²)

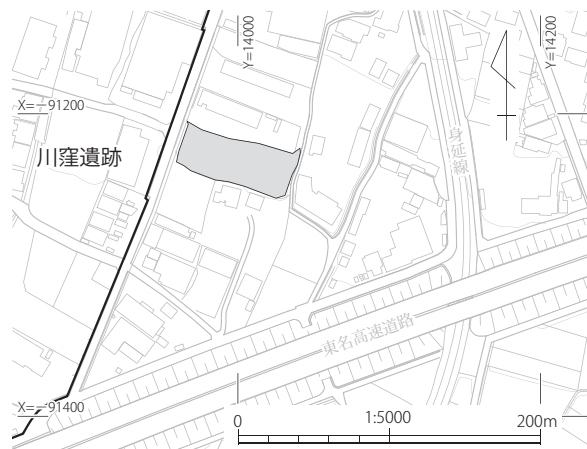
調査期間 平成30年7月30日

調査の原因 駐車場造成

調査の概要 対象地内の包蔵地に隣接する側(西側)に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物ともに発見されなかった。

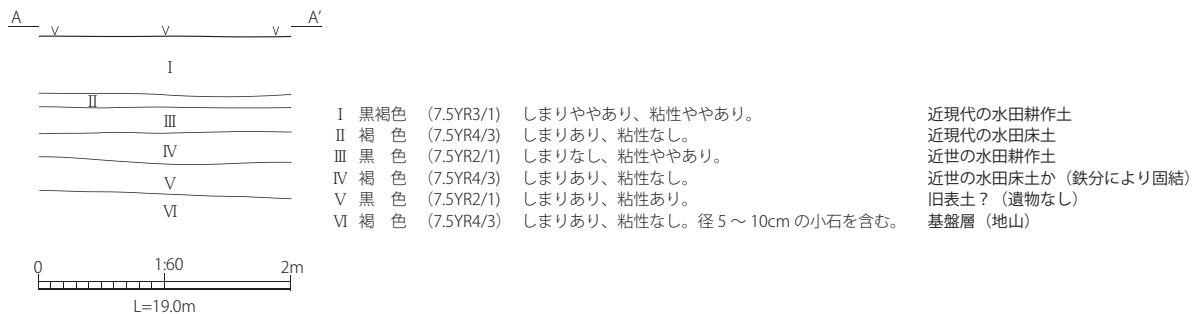
対象地には埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。



第75図 川窪遺跡第4地区 位置図



第76図 川窪遺跡第4地区 トレンチ配置図



第77図 川窪遺跡第4地区 セクション図

28 清水久保遺跡 第1地区 1次調査

所在地 入山瀬 666-4

調査面積 14.288 m² (対象面積 997.91 m²)

調査期間 平成30年8月10日

調査の原因 建売住宅新築

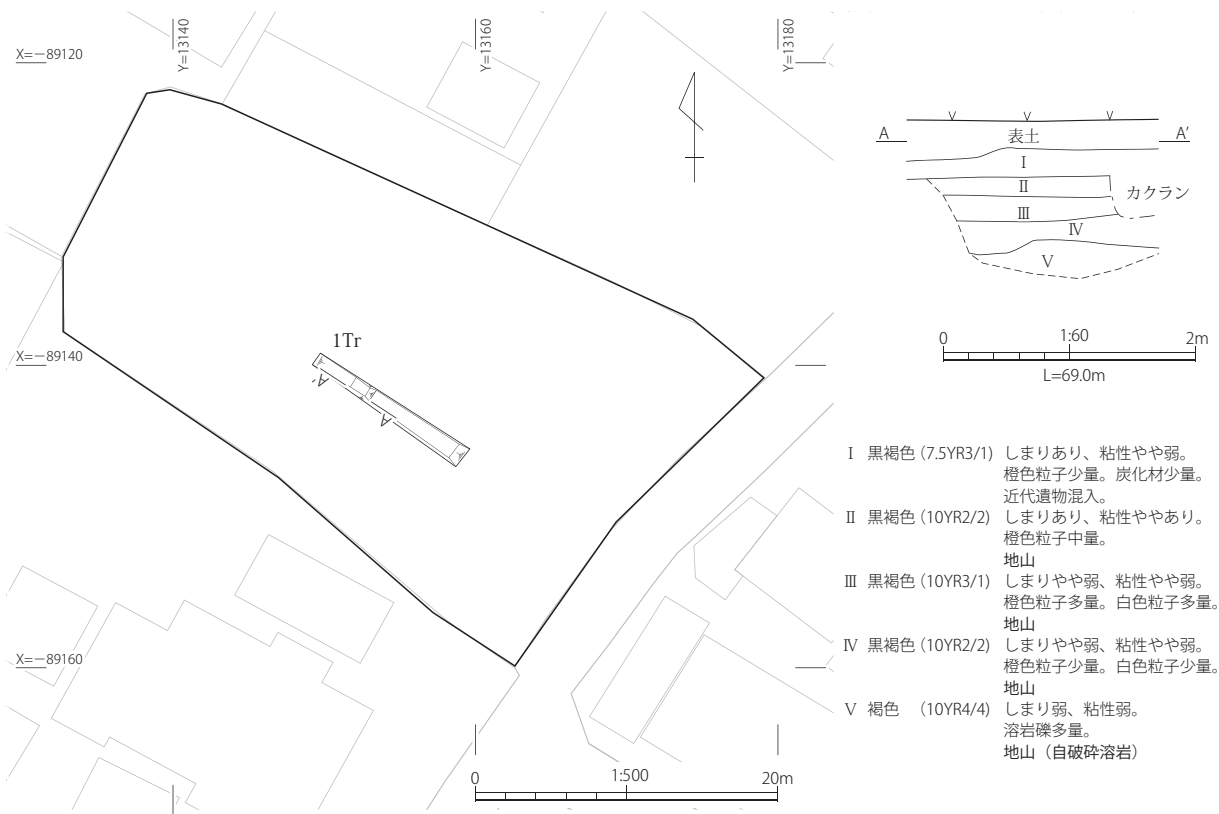
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行った。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。

上層は近代の改変を受けているものの、地山の状態は良好であり、当該地には遺跡は存在しないものと考えられる。



第78図 清水久保遺跡第1地区 位置図



第79図 清水久保遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

29 石坂2古墳群 第5地区 1次調査

所在地 石坂 618-81 ほか

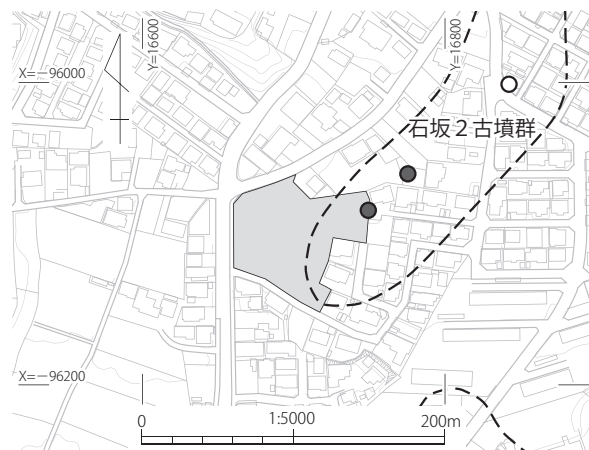
調査面積 419.694 m² (対象面積 4,733 m²)

調査期間 平成30年8月20日～8月30日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に13箇所のトレンチ(1～13Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

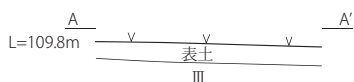
調査の結果 調査地東端に存在するニタ子塚第2号墳以外には、調査地内には古墳が存在しないことが明らかとなった。



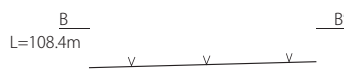
第80図 石坂2古墳群第5地区 位置図



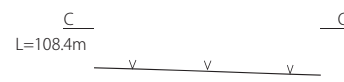
4Tr 東西セクション北壁



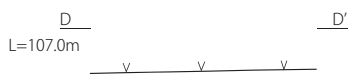
9Tr 東西セクション北壁



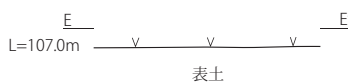
8Tr 東西セクション北壁



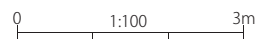
12Tr 東西セクション北壁



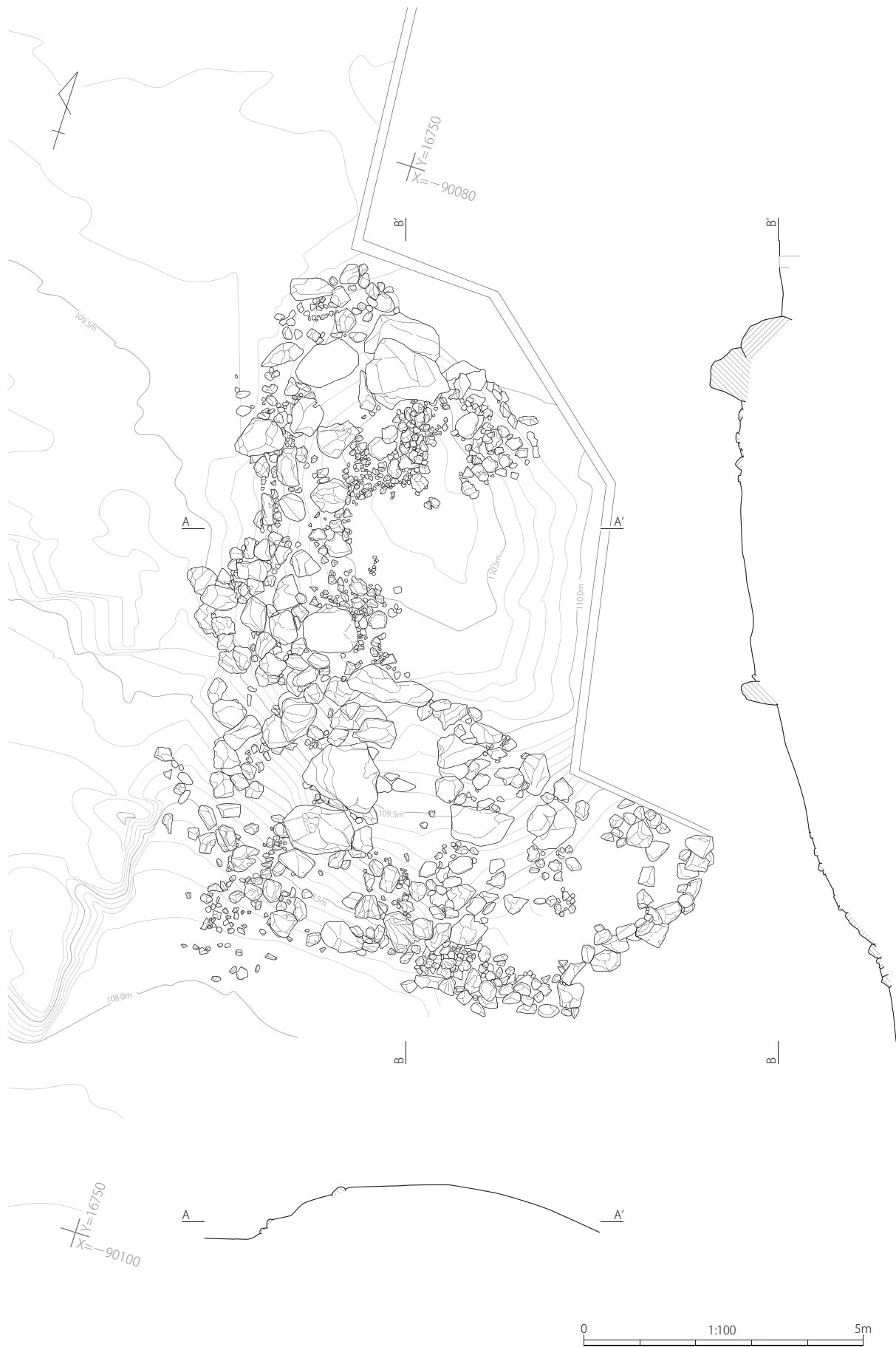
13Tr 東西セクション北壁



III 黒褐色 (7.5Y3/2)
しまりややあり、粘性ややあり。
溶岩を所々に含む。
地山



第81図 石坂2古墳群第5地区 トレンチ配置図・セクション図



第82図 石坂2古墳群第5地区 二夕子塚第2号墳丘測量図

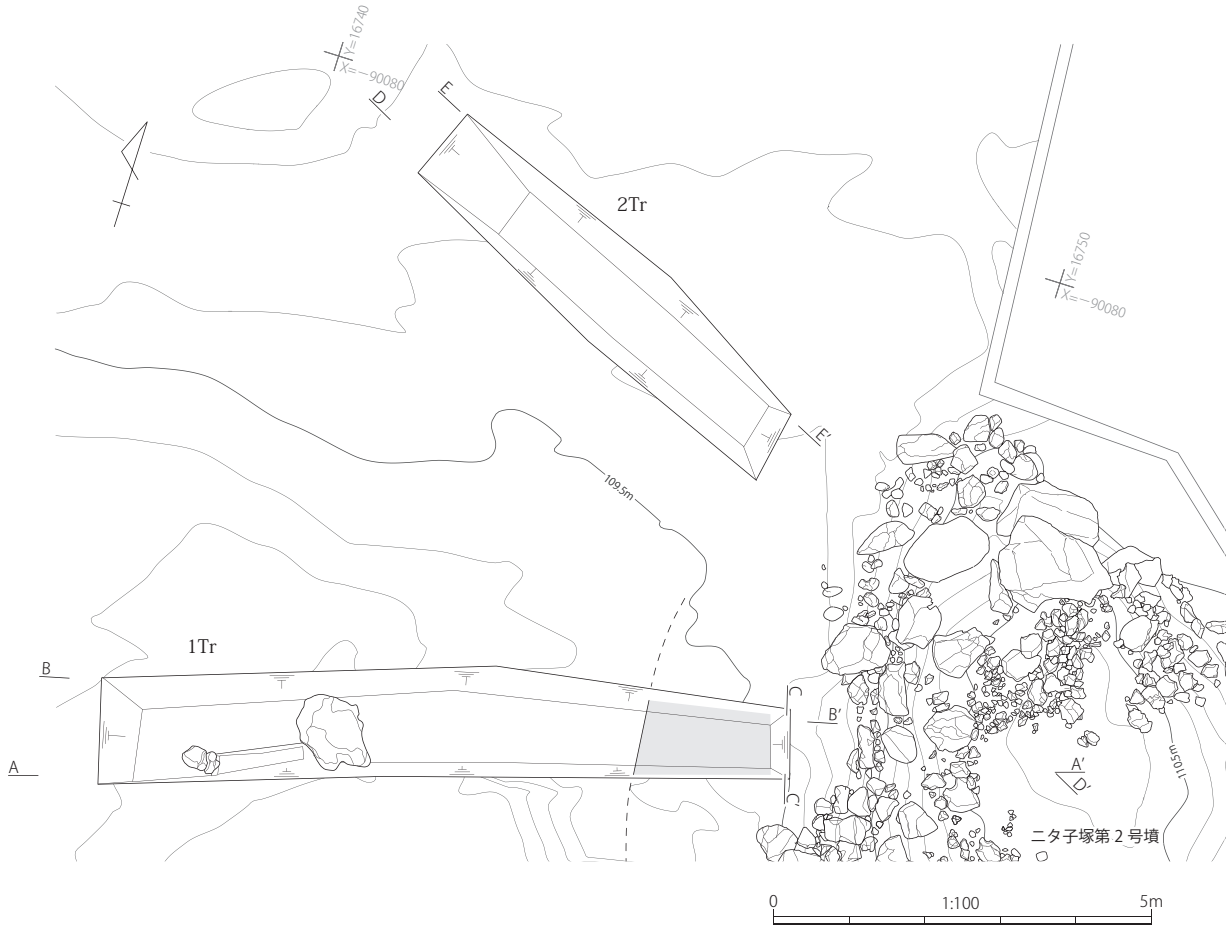
ニタ子塚2号墳に設定したトレンチ(1Tr)では
墳丘盛土の開始点や墳裾と考えられる傾斜変換を検
出した(図中の△・▲)。これらの傾斜変換点の上
層の黒褐色土(1層)を墳丘崩落土層ととらえ、墳

裾の位置を確定した。その結果、墳丘は東西11.5m、
南北12.7m程度に復元される。

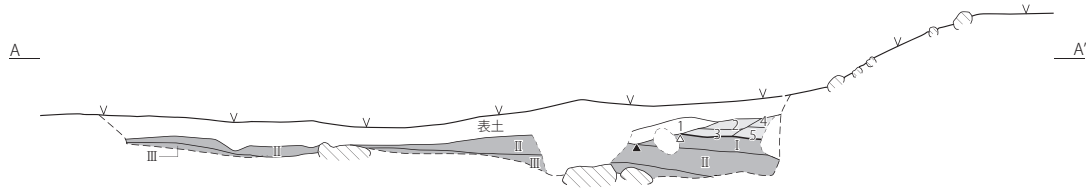
遺物は、数点の須恵器片が発見されたが、図化に
は至らなかった。



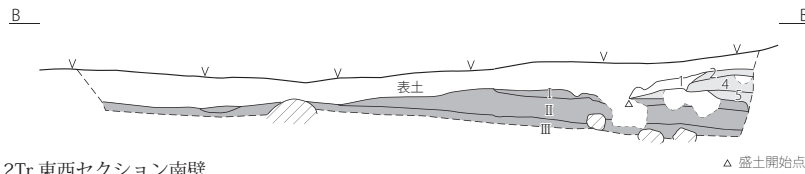
第83図 石坂2古墳群第5地区 ニタ子塚第2号墳平面図・エレベーション図



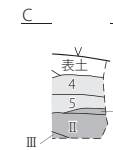
1Tr 東西セクション南壁



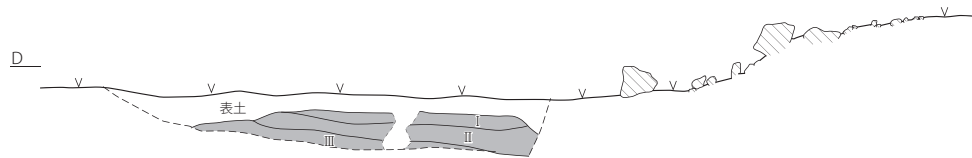
1Tr 東西セクション北壁



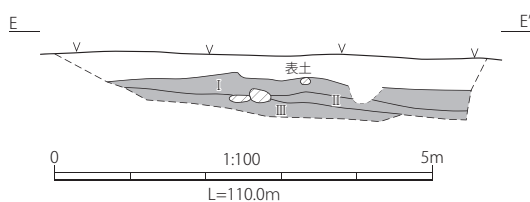
1Tr 東西セクション北壁



2Tr 東西セクション南壁



2Tr 東西セクション北壁



- | | |
|--|-------|
| I 黒褐色 (7.5Y2/1) しまりややあり、粘性なし。橙色の粒子多量含む。 | 地山 |
| II 黒褐色 (7.5Y2/2) しまりややあり、粘性ややあり。橙色の粒子多量含む。 | 地山 |
| III 黒褐色 (7.5Y3/2) しまりややあり、粘性ややあり。溶岩を所々に含む。 | 地山 |
| 1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性なし。橙色の粒子多量含む。
(I層由来) | 墳丘崩落土 |
| 2 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性なし。橙色の粒子中量含む。 | 墳丘盛土 |
| 3 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。色の粒子中量含む。 | 墳丘盛土 |
| 4 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。色の粒子中量含む。 | 墳丘盛土 |
| 5 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。II層とI層がマーブル状に混ざる。 | 墳丘盛土 |

■ 墳丘盛土
■ 地山

第84図 石坂2古墳群第5地区 1Tr・2Tr 平面図・セクション図

30 花守遺跡 第6地区 1次調査

所在地 富士岡 233-1 ほか

調査面積 6.662 m² (対象面積 314.56 m²)

調査期間 平成30年8月27日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行った。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。

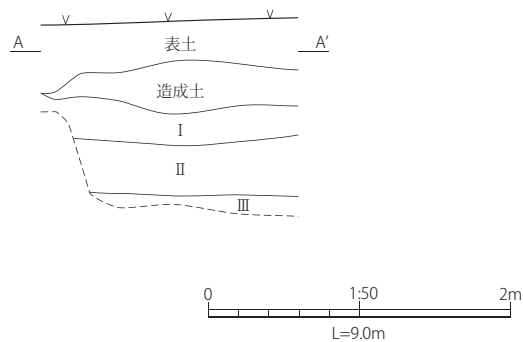
上層は近代の改変を受けているが、地山の状態は良好であり、当該地には遺跡は存在しないものと考えられる。



第85図 花守遺跡第6地区 位置図



第86図 花守遺跡第6地区 トレンチ配置図・セクション図



- | | | | |
|-----|---------------|-----------------------------------|------|
| I | 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや弱、粘性ややあり。
植物遺存体少量、鉄性中量含む。 | シルト層 |
| II | 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや弱、粘性ややあり。
鉄分多量、灰色土塊少量含む。 | シルト層 |
| III | 黒褐色 (10YR2/2) | しまり弱、粘性弱。 | 砂層 |

31 天間沢遺跡 第52地区 1次調査

所在地 天間 1130-2

調査面積 4.845 m² (対象面積 263 m²)

調査期間 平成30年8月30日

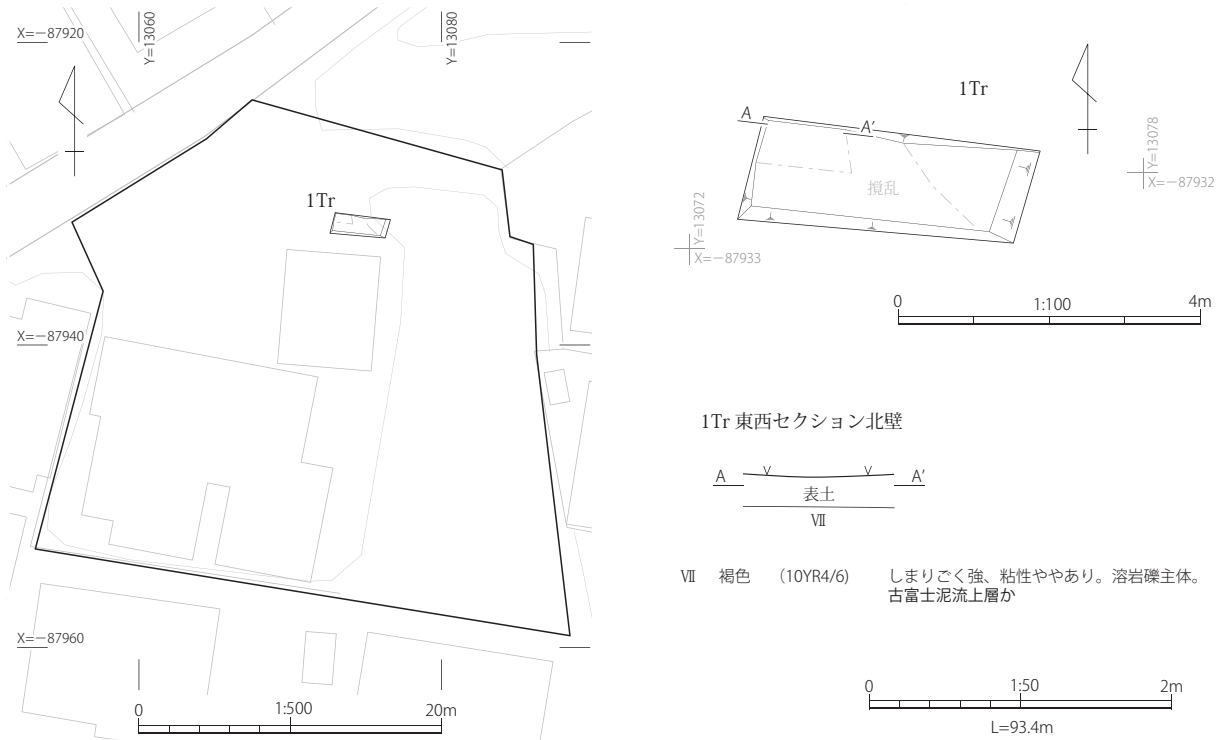
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 傾斜地の土地が大規模に削平されており、本来の土層が残存せず遺構・遺物を検出することはできなかった。ただし、対象地南側には遺構が残存している可能性がある。



第87図 天間沢遺跡第52地区 位置図



第88図 天間沢遺跡第52地区 トレンチ配置図・平面図・セクション図

32 東平遺跡 第104地区 1次調査

所在地 伝法 2550-1

調査面積 9.778 m² (対象面積 101 m²)

調査期間 平成30年8月31日

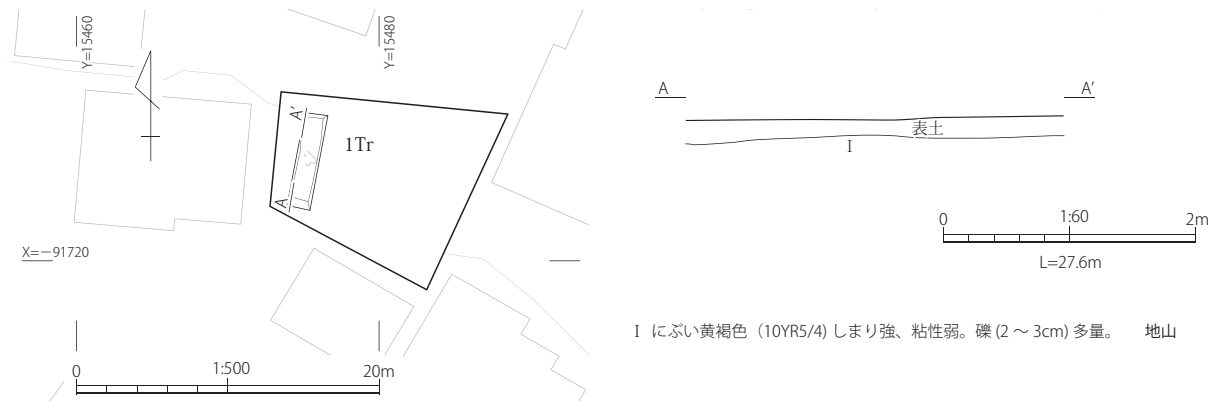
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行った。

調査の結果 遺構や遺物は確認されなかった。当該地は後世の掘削によって大幅に削平されており、遺跡は残存しないものと考えられる。



第89図 東平遺跡第104地区 位置図



第90図 東平遺跡第104地区 トレンチ配置図・セクション図

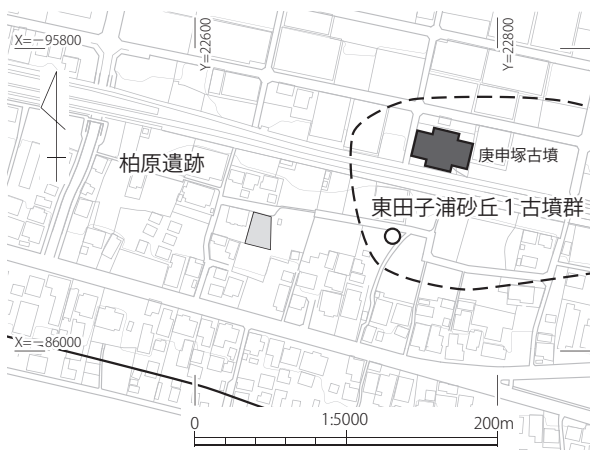
33 柏原遺跡 第14地区 1次調査

所在地 中柏原新田 35 ほか

調査面積 11.864 m² (対象面積 314 m²)

調査期間 平成30年9月3日

調査の原因 宅地分譲



第91図 柏原遺跡第14地区 位置図



第92図 柏原遺跡第14地区 トレンチ配置図・セクション図



第93図 柏原遺跡第14地区 出土遺物実測図

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約60cmで大淵スコリア(古墳時代中期後半)の純粹堆積層(Ⅲ層)に到達した。遺構は明確ではなかったものの、奈良・平安時代の遺物が数点出土した。さらにスコリア層より下の地表下1mにおいて古墳時代前期から中期前半と考えられる遺物包含層(Ⅴ層)を検出した。

出土した土器のうち、3点を図示した(第93図)。1は土師器の甕の口縁部で、比較的薄いつくりが特徴である。6世紀から7世紀か。2は古墳時代後期の甕の破片で、胎土にカワゴ平パミスを多く含む。3は外面に粗いハケ目が施される甕の破片である。時期は明らかではないが、6世紀から7世紀と考えられる。

第10表 柏原遺跡第14地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第93図1	R0001	PL.14	1Tr	土師器	甕	6~7C	-	-	(3.5)	良好	-	2.5YR6/8 (橙)	2.5YR6/8 (橙)
第93図2	R0001	PL.14	1Tr	土師器	甕	6C	-	-	(5.8)	良好	-	7.5YR7/6 (橙)	7.5YR7/6 (橙)
第93図3	R0001	PL.14	1Tr	土師器	甕	6~7C	-	-	(4.8)	良好	-	5YR6/6 (橙)	5YR6/6 (橙)

34 天間沢遺跡 第53地区 1次調査

所在地 天間 569 番 1 ほか

調査面積 56,246 m² (対象面積 4,801.74 m²)

調査期間 平成 30 年 9 月 6 日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 対象地内に 1 箇所の特レンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

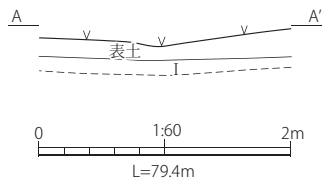
調査の結果 これまでの開発に伴う土地改変により旧来の地形が残存せず、遺構・遺物を検出することはできなかった。



第 94 図 天間沢遺跡第 53 地区 位置図



1Tr 東西セクション北壁



I 褐色 (7.5YR4/6) しまりやや強、粘性やや強。礫 (20~30cm) 多量。

地山

第 95 図 天間沢遺跡第 53 地区 トレンチ配置図・セクション図

35 神谷古墳群 第11地区 1次調査

所在地 川尻 480-1 ほか

調査面積 155.926 m² (対象面積 540.44 m²)

調査期間 平成30年9月10日～10月9日

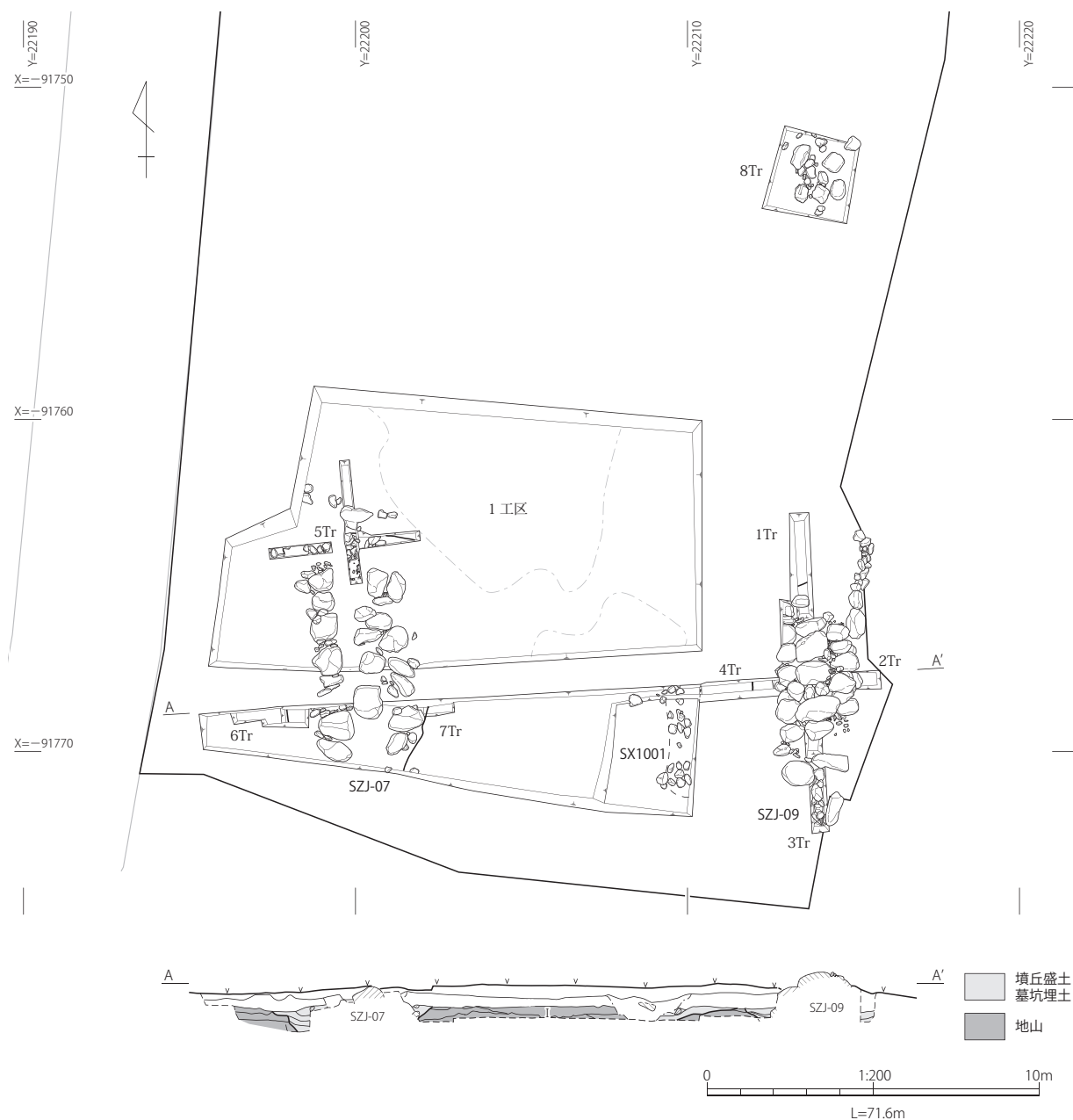
調査の原因 水源地新設

調査の概要 対象地内に工区(1工区)およびサブトレンチ(1～8Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 以前から石室が露出していた須津J-9号墳(SZJ-09)に加え、須津J-7号墳(SZJ-07)が残存していることが明らかとなった。



第96図 神谷古墳群第11地区 位置図



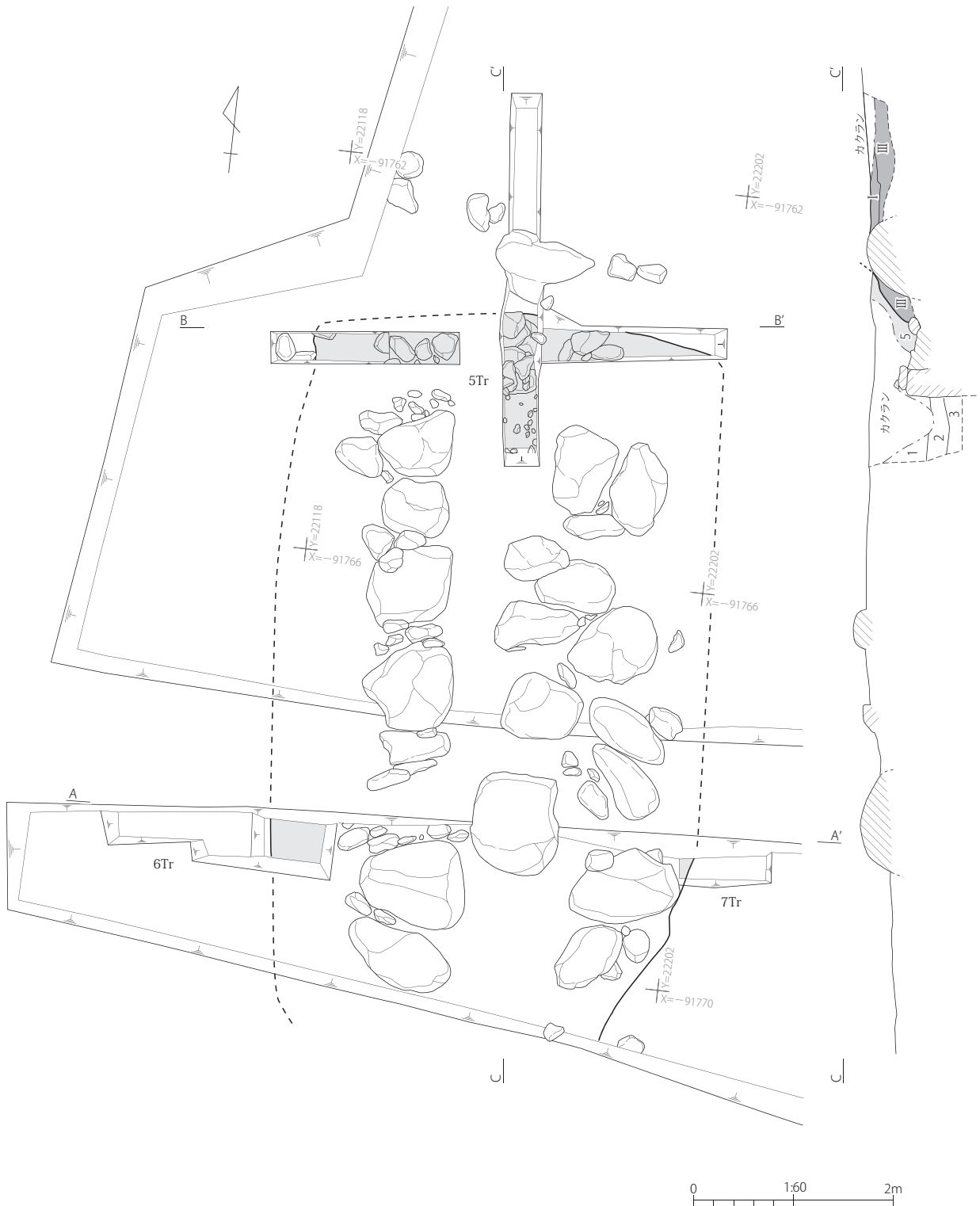
第97図 神谷古墳群第11地区 トレンチ配置図・セクション図

須津 J-7 号墳はその存在自体は認識されていたものの、近年の開発によって地中に埋没していたものである。

また、1 工区南東では SZJ-09 に伴う可能性のある石列 (SX1001) を検出した。調査地の北東に設

定した 8Tr でも石のまとまりを検出し、石室の可能性が考えられたが、調査の結果、石室ではないことが明らかとなった。

遺物は、コンテナ 1 箱ほどの須恵器片が出土し、SZJ-09 から出土した 2 点を図示した (第 103 図)。



第 98 図 神谷古墳群第 11 地区 SZJ-07 平面図・セクション図

SZJ-07

対象地の西南で検出された、開口部を南に向ける横穴式石室である。SZJ-09の西に位置し、石室中心間の距離は13.5mである。

墳丘盛土はほとんどが失われており、周溝も検出されていないため、墳丘規模は不明である。

墓坑は、トレンチ内で部分的に検出したプランから、長さ7.30m以上、幅約4.4mの長方形を呈すると推定される。6トレンチでの土層断面観察によれば、2段に掘削された竪穴構造の墓坑で、検出面からの深さは63cmを測る。当初、石室の北に存在する大型礫を石室奥壁と想定したが、その南で墓坑北端を検出したことから、大型礫は地山の石であり、これを避けて石室を構築したものと考えられる。

石室は、天井石が失われているが、側壁の下部の石は残存しているものとみられる。検出された石室西側壁は乱れが少なく、長さ1m前後の石を小口積みしている様子が確認できる。東側壁は乱れている部分が多いが、石の向きとしては西側壁と同様に小口積みとみられる。墓坑の北端から約80cm南で、石室奥壁を検出し、石室全長6.00m以上、玄室幅は1.10mほど、主軸方位はN-6.47°-Wと推定される。

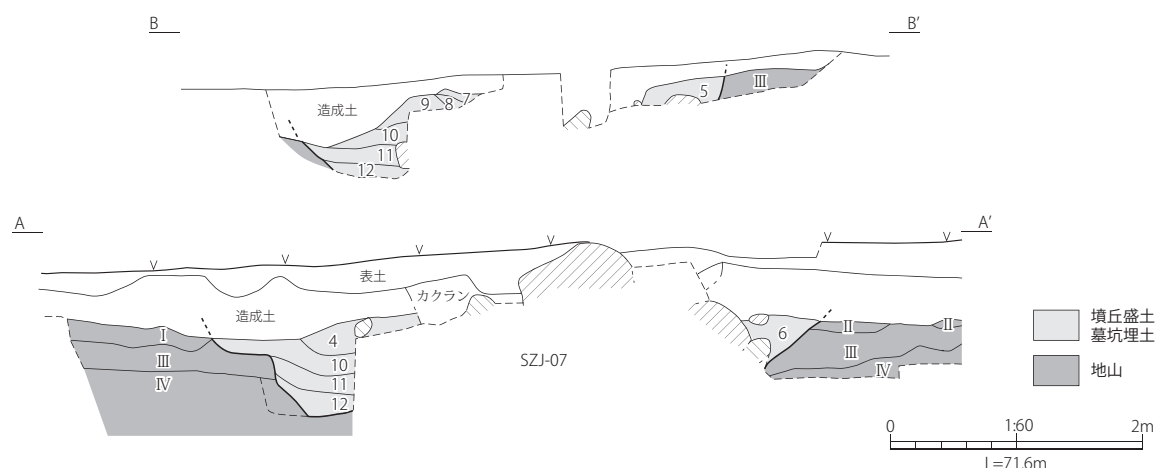
SZJ-09

SZJ-07の東に、同じく開口部を南に向けてつくられた横穴式石室である。

墳丘盛土はほとんどが失われており、周溝も検出されていないため、墳丘規模は不明である。

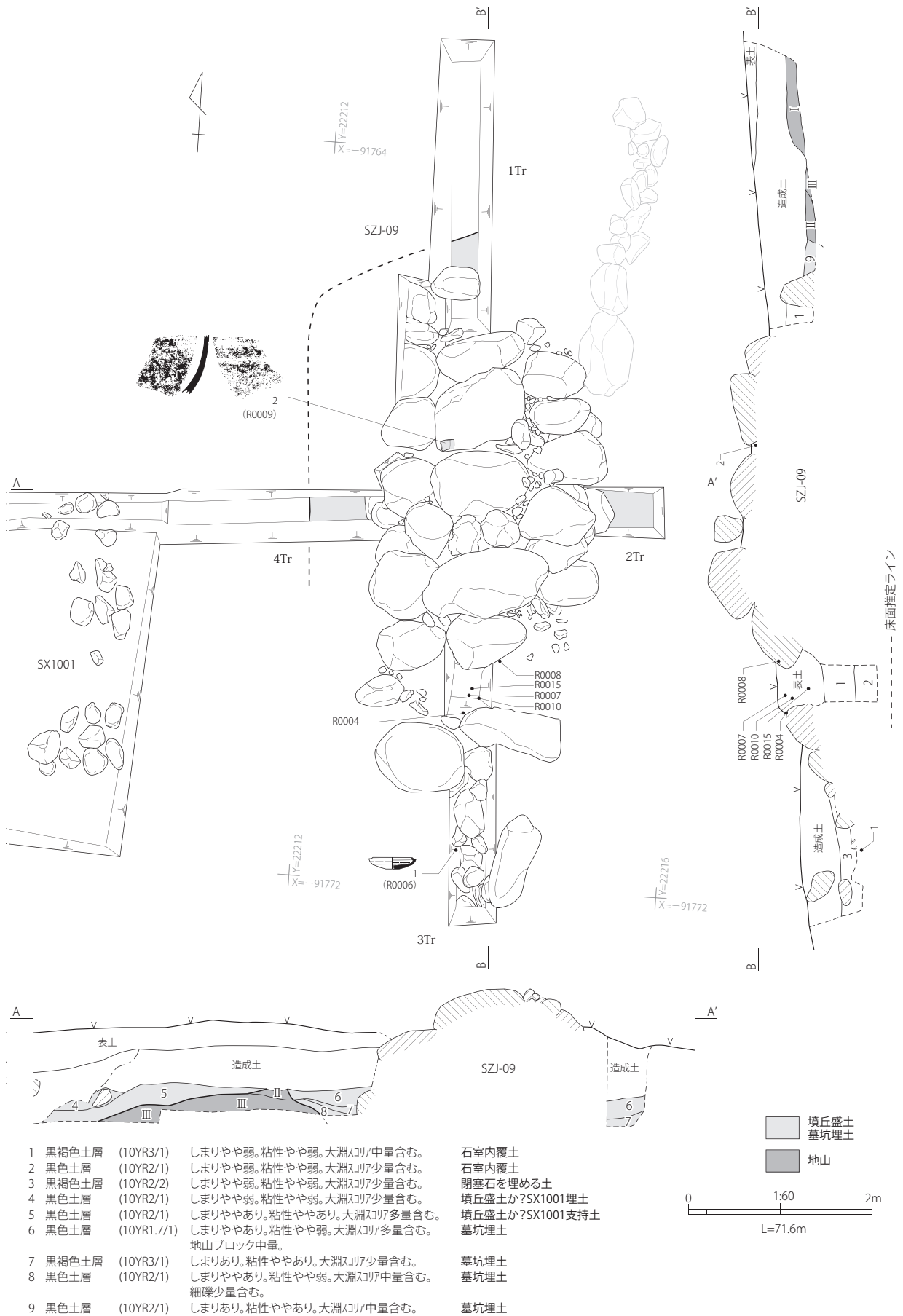
墓坑はトレンチ内で北辺と西辺の一部を検出し、長さ7.40m以上、幅約4.40mと推定される。

石室は、天井石3石を含めおおむね良好に残存している。天井石の大きさは、長さ100～135cm、幅70～80cm、厚さ50cmほどである。側壁は長さ80cm前後の石を小口積みし、東側壁で4段、西側壁で3段が確認できる。天井石が西側に傾いていることから、西側壁の4段目は抜き取られているものとみられる。墓坑北端から40cmほど南で奥壁を検出した。また、石室の南に設定した3トレンチで、閉塞石と考えられる小ぶりの石のまとまりを検出した。検出状況からは、石室全長6.70m以上、玄室長約4.90m、玄室幅約0.95mで、主軸方位はN-3.57°-Wと推定される。3トレンチ北側の底面にピンポールを刺して石室床面を探ったところ、石室覆土の検出面から約74cmの深さに石室床面があると推定できる。



- | | |
|--|----------------|
| 1 黒色土層 (10YR2/1) しまりやや弱。粘性やや弱。大淵スリア中量含む。 | 石室内覆土 |
| 2 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり弱。粘性やや弱。大淵スリア少量含む。 | 石室内覆土 |
| 3 黒色土層 (10YR2/1) しまりあり。粘性ややあり。大淵スリア中量含む。 | 石室内覆土(床面直上の層?) |
| 4 黒色土層 (10YR2/1) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア多量含む。 | 墓坑埋土 |
| 5 黒色土層 (10YR1.7/1) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア多量含む。 | 墓坑埋土 |
| 6 黒色土層 (10YR2/1) しまりあり。粘性ややあり。大淵スリア中量含む。地山ブロック中量。 | 墓坑埋土 |
| 7 黒褐色土層 (10YR3/1) しまりやや弱。粘性やや弱。大淵スリア多量含む。 | 墓坑埋土 |
| 8 黒色土層 (10YR1.7/1) しまりややあり。粘性ややあり。大淵スリア少量含む。 | 墓坑埋土 |
| 9 黒色土層 (10YR2/1) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア多量含む。 | 墓坑埋土 |
| 10 黒褐色土層 (10YR2/2) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア中量含む。地山ブロック中量。 | 墓坑埋土 |
| 11 黒色土層 (10YR2/1) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア少量含む。地山ブロック少量含む。 | 墓坑埋土 |
| 12 黒褐色土層 (10YR3/1) しまりややあり。粘性やや弱。大淵スリア少量含む。地山ブロック中量含む。 | 墓坑埋土 |

第99図 神谷古墳群第11地区 SZJ-07 セクション図

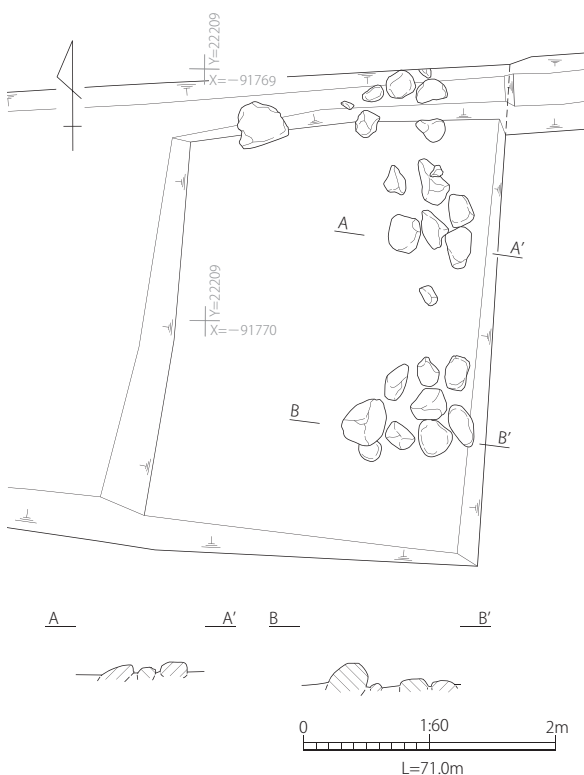


- | | | |
|--------------------|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土層 (10YR3/1) | しまりやや弱。粘性やや弱。大淵入カ7中量含む。 | 石室内覆土 |
| 2 黒色土層 (10YR2/1) | しまりやや弱。粘性やや弱。大淵入カ7少量含む。 | 石室内覆土 |
| 3 黒褐色土層 (10YR2/2) | しまりやや弱。粘性やや弱。大淵入カ7少量含む。 | 閉塞石を埋める土 |
| 4 黒色土層 (10YR2/1) | しまりやや弱。粘性やや弱。大淵入カ7少量含む。 | 墳丘盛土か?SX1001埋土 |
| 5 黒色土層 (10YR2/1) | しまりややあり。粘性ややあり。大淵入カ7多量含む。 | 墳丘盛土か?SX1001支持土 |
| 6 黒色土層 (10YR1.7/1) | しまりややあり。粘性やや弱。大淵入カ7多量含む。 | 墓坑埋土 |
| | | 地山ブロック中量。 |
| 7 黒褐色土層 (10YR3/1) | しまりあり。粘性ややあり。大淵入カ7少量含む。 | 墓坑埋土 |
| 8 黒色土層 (10YR2/1) | しまりややあり。粘性やや弱。大淵入カ7中量含む。 | 墓坑埋土 |
| | | 細礫少量含む。 |
| 9 黒色土層 (10YR2/1) | しまりあり。粘性ややあり。大淵入カ7中量含む。 | 墓坑埋土 |

第100図 神谷古墳群第11地区 SZJ-09平面図・セクション図

SX1001

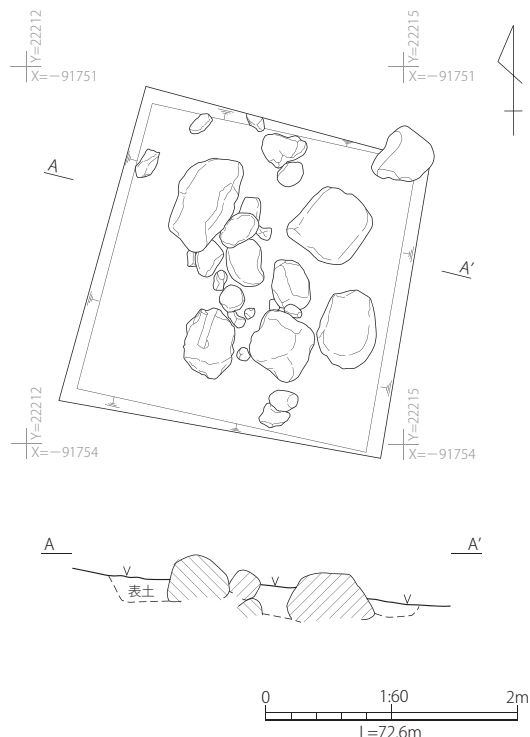
SZJ-09 石室の中心から4mほど西に、東西1mほどの範囲で検出された、径25～40cmの石のまとまりである。性格不明であるが、地山(Ⅲ層)の直上ではなく、SZJ-09 墳丘盛土の可能性がある盛土(第100図5層)上で検出されたことから、SZJ-09に関わる遺構とも考えられる。



第101図 神谷古墳群第11地区
SX1001 平面図・エレベーション図

出土遺物

SZJ-09 から出土した須恵器を2点図示した(第103図)。1は、開口部付近で出土した須恵器坏身である。口縁部の立ち上がりは短い、受部よりわずかに上へ出る。体部は浅く、体部下半から底部にかけてケズリ調整が施される。7世紀代に位置づけられる。2は石室上面から出土した甕の胴部片で、外面はタタキ目の後、ヨコナデ・ナナメナデが施され、内面はヨコヘラナデ調整である。



第102図 神谷古墳群第11地区
8Tr 平面図・セクション図



第103図 神谷古墳群第11地区 出土遺物実測図

第11表 神谷古墳群第11地区 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第103図1	R0006	PL.17	SZJ-09	須恵器	坏身	7C	[8.4]	-	2.5	良好	45%	10YR5/1 (褐灰)	10YR5/1 (褐灰)
第103図2	R0009	PL.17	SZJ-09	須恵器	甕	7C	-	-	(12.8)	良好	-	10YR6/2 (灰黄褐)	10YR5/1 (褐灰)

36 三日市廃寺跡

(東平遺跡 第105地区 1次調査)

所在地 浅間本町 92-1 ほか

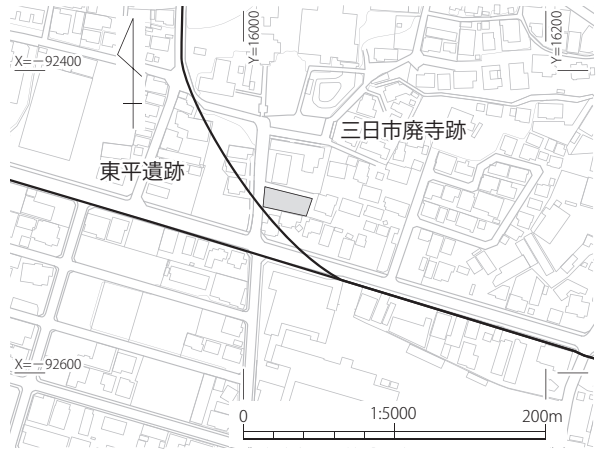
調査面積 13,079 m² (対象面積 391 m²)

調査期間 平成30年9月10日

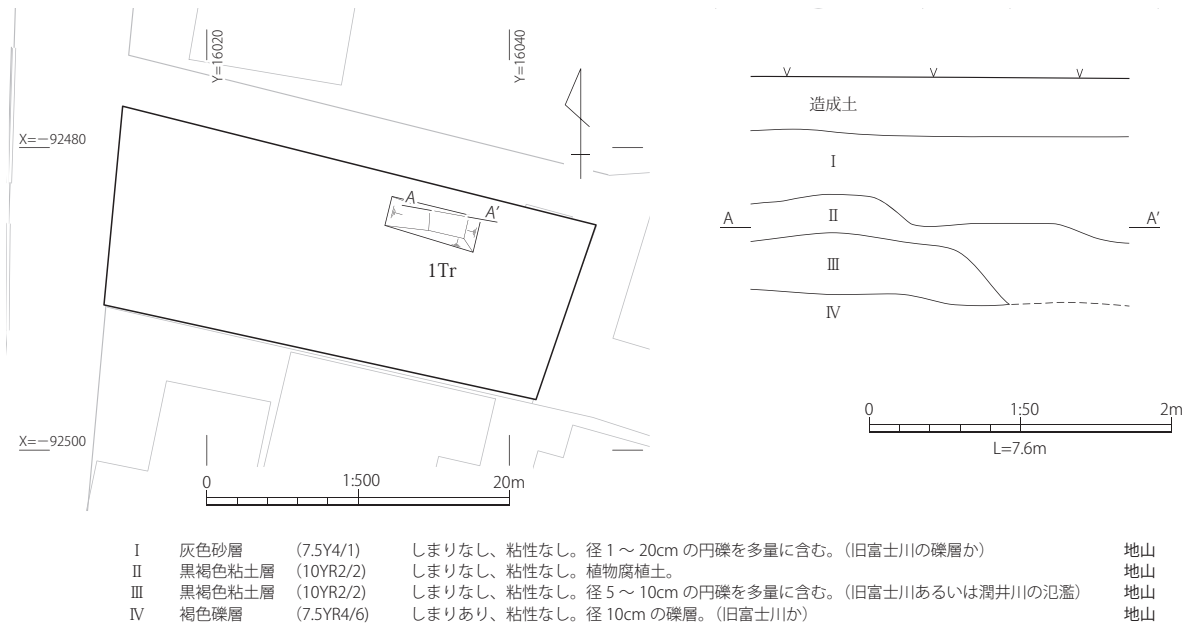
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 対象地はかつての富士川の流路内に該当することが明らかとなり、遺構・遺物は存在しないことが明らかとなった。



第104図 東平遺跡第105地区 位置図



第105図 東平遺跡第105地区 トレンチ配置図・セクション図

37 丸崎遺跡 第3地区 1次調査

所在地 南松野 2194-1

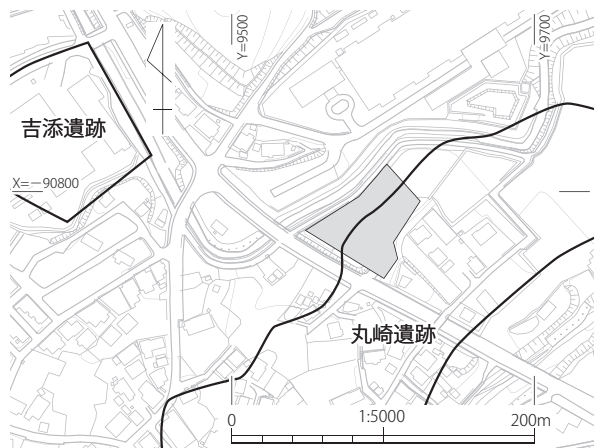
調査面積 10,922 m² (対象面積 1,969.46 m²)

調査期間 平成30年9月18日

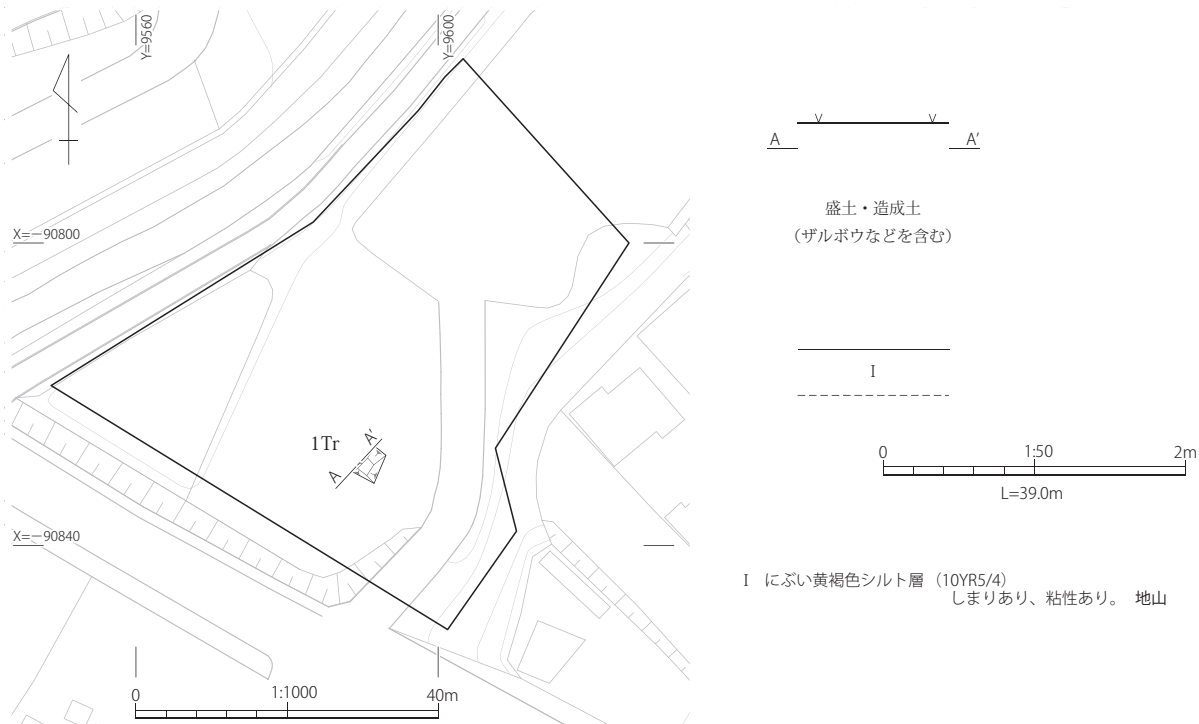
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 調査地は河川流域の低地部であることが明らかとなり、遺構・遺物は検出されなかった。



第106図 丸崎遺跡第3地区 位置図



第107図 丸崎遺跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図

38 元吉原宿遺跡 第4地区 1次調査

所在地 今井二丁目 58番

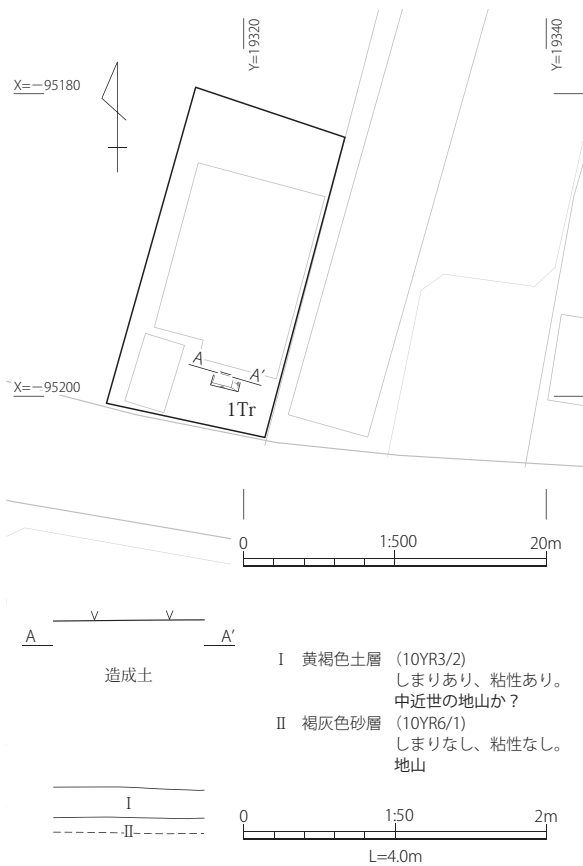
調査面積 1.799 m² (対象面積 218.81 m²)

調査期間 平成30年9月21日

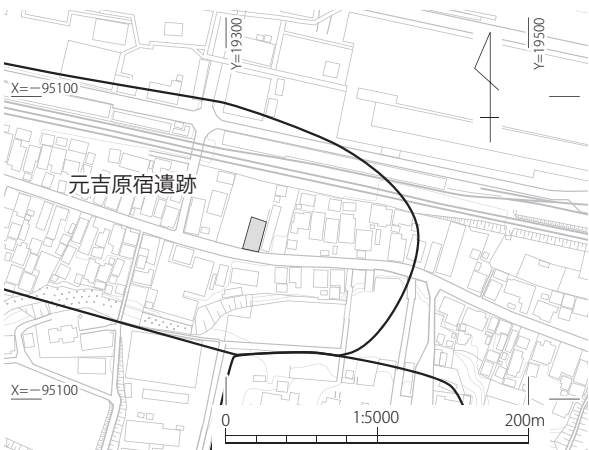
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されず、当該地は遺構が希薄な範囲と考えられる。



第109図 元吉原宿遺跡第4地区 トレンチ配置図・セクション図



第108図 元吉原宿遺跡第4地区 位置図

39 二本松遺跡 第1地区 1次調査

所在地 伝法 676 番 1

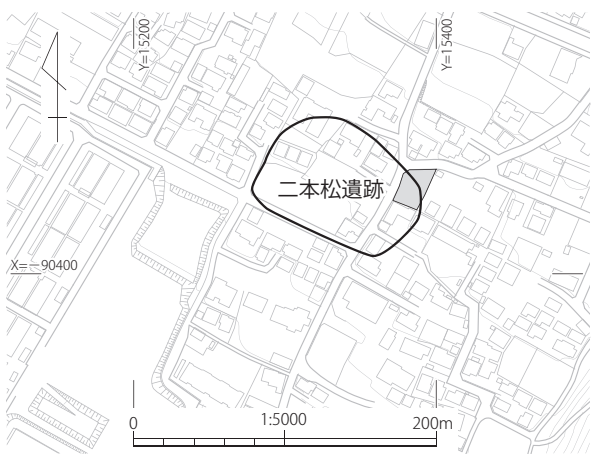
調査面積 8.035 m² (対象面積 457.77 m²)

調査期間 平成30年10月1日～10月3日

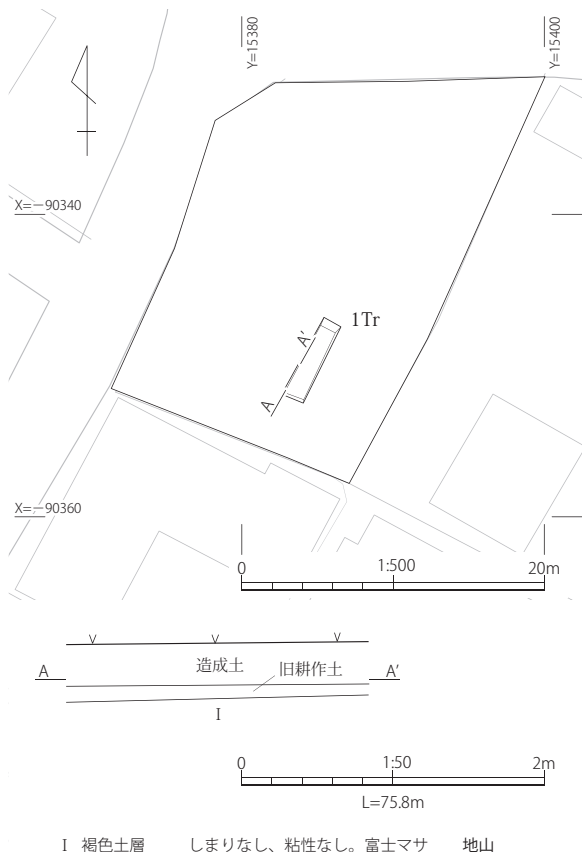
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されず、当該地は遺構が希薄な範囲と考えられる。



第110図 二本松遺跡第1地区 位置図



第111図 二本松遺跡第1地区
トレンチ配置図・セクション図

40 中桁・中ノ坪遺跡 第16地区 1次調査

所在地 伝法 1173 番 8

調査面積 5.316 m² (対象面積 148.76 m²)

調査期間 平成30年10月11日

調査の原因 不動産売買



第112図 中桁・中ノ坪遺跡第16地区 位置図

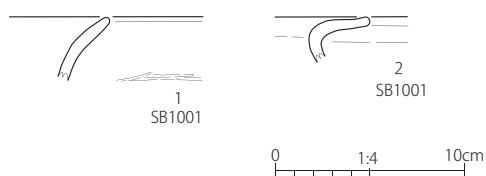
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.3mから平安時代の竪穴建物跡1軒 (SB1001) が検出され、遺跡の広がりを再確認することができた。

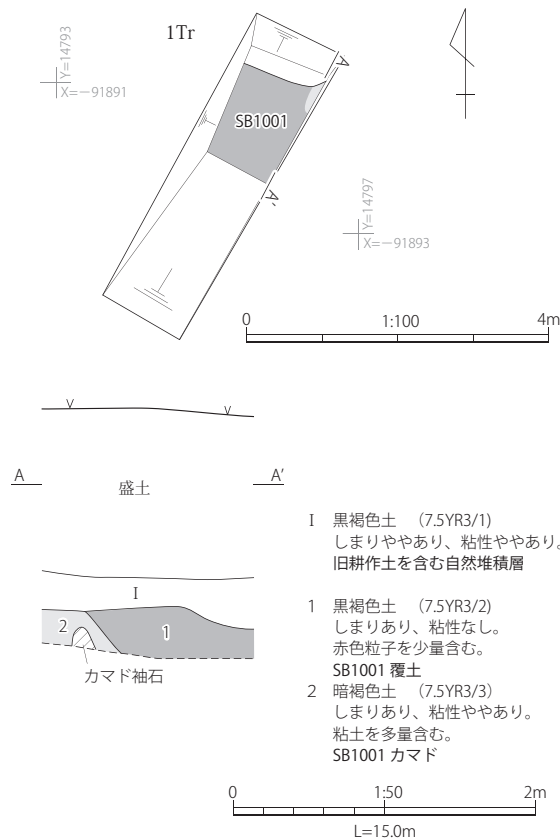
遺物は平安時代の土器片が少量出土し、2点図示した (第114図)。1は駿東型長胴甕の口縁部、2は遠江系水平口縁甕である。2は色調が黄橙色で胎土に金雲母を多く含むことから、遠江からの搬入品と考えられる。



第113図 中桁・中ノ坪遺跡第16地区 トレンチ配置図



第114図 中桁・中ノ坪遺跡第16地区 出土遺物実測図



第115図 中桁・中ノ坪遺跡第16地区 トレンチ平面図・セクション図

第12表 中桁・中ノ坪遺跡第16地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調	備考
							口径	底径	器高					
第114図1	R0001	PL.18	SB1001	土師器	甕	9C	-	-	(3.3)	良好	-	5YR4/6 (赤褐)	5YR4/6 (赤褐)	駿東型長胴甕
第114図2	R0001	PL.18	SB1001	土師器	甕	9C	-	-	(2.4)	良好	-	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)	遠江型水平口縁甕

41 舟久保遺跡 第63地区 1次調査

所在地 今泉六丁目 1590番17

調査面積 6.859 m² (対象面積 172.78 m²)

調査期間 平成30年10月16日

調査の原因 個人住宅新築

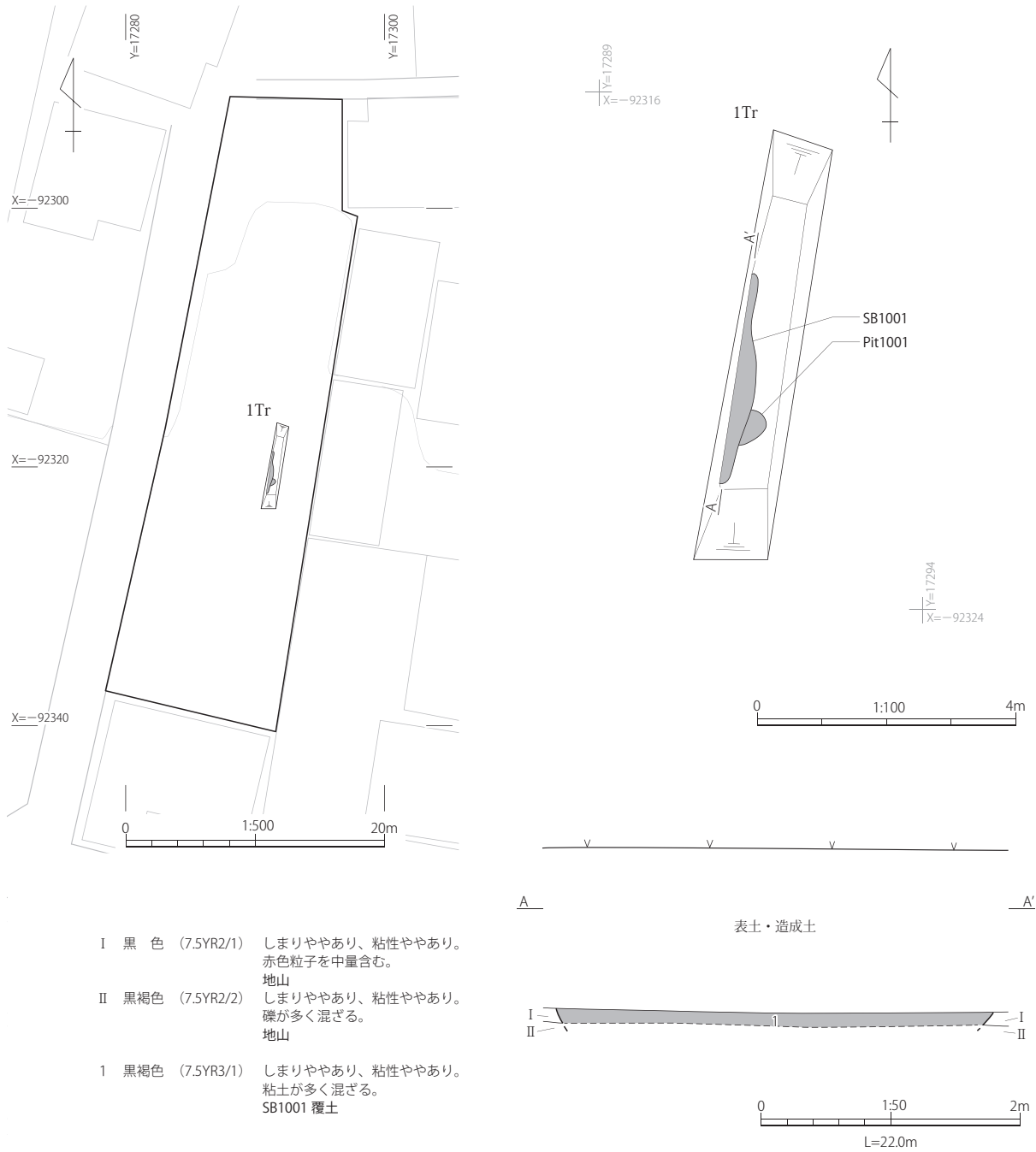
調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.2mから平安時代の竪穴建物跡1軒 (SB1001) とピット1基 (Pit1001) が検出され、遺跡の広がり方を再確認することができた。

遺物は、奈良・平安時代の土器が数点出土したが、図化には至らなかった。



第116図 舟久保遺跡第63地区 位置図



第117図 舟久保遺跡第63地区 トレンチ配置図・平面図・セクション図

42 東平遺跡 第106地区 1次調査

所在地 伝法 2863-3

調査面積 4.564 m² (対象面積 227.48 m²)

調査期間 平成30年10月18日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチを設定し、人力による掘削を行い、遺構・遺物の発見にとめた。

調査の結果 対象地は以前の建物建設に伴い大規模に削平を受けていることが明らかとなった。

敷地壁面において奈良・平安時代の竪穴建物跡の可能性をもつ遺構などの存在を確認した。

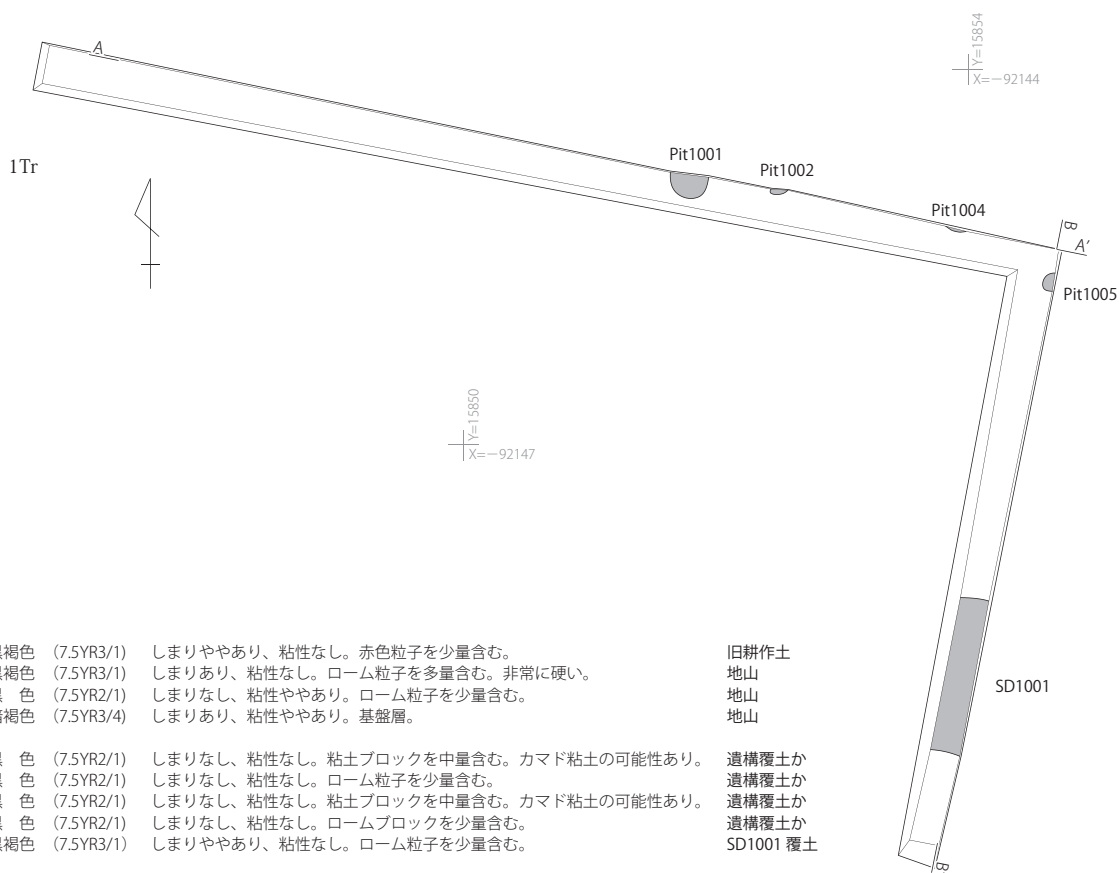
遺物は出土しなかった。



第118図 東平遺跡第106地区 位置図



第119図 東平遺跡第106地区 トレンチ配置図



- | | | | |
|-----|----------------|-------------------------------------|-----------|
| I | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。赤色粒子を少量含む。 | 旧耕作土 |
| II | 黒褐色 (7.5YR2/1) | しまりあり、粘性なし。ローム粒子を多量含む。非常に硬い。 | 地山 |
| III | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。 | 地山 |
| IV | 暗褐色 (7.5YR3/4) | しまりあり、粘性ややあり。基盤層。 | 地山 |
| 1 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。粘土ブロックを中量含む。カマド粘土の可能性あり。 | 遺構覆土か |
| 2 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。ローム粒子を少量含む。 | 遺構覆土か |
| 3 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。粘土ブロックを中量含む。カマド粘土の可能性あり。 | 遺構覆土か |
| 4 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。ロームブロックを少量含む。 | 遺構覆土か |
| 5 | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。ローム粒子を少量含む。 | SD1001 覆土 |

第120図 東平遺跡第106地区 トレンチ平面図・セクション図

43 三日市廃寺跡

(東平遺跡 第107地区 1次調査)

所在地 浅間本町 2991-6 ほか

調査面積 23.181 m² (対象面積 498.80 m²)

調査期間 平成30年10月24日

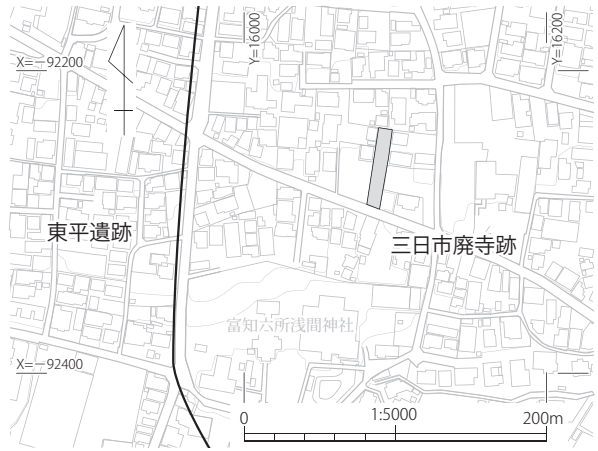
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に3箇所のトレンチ(1~3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

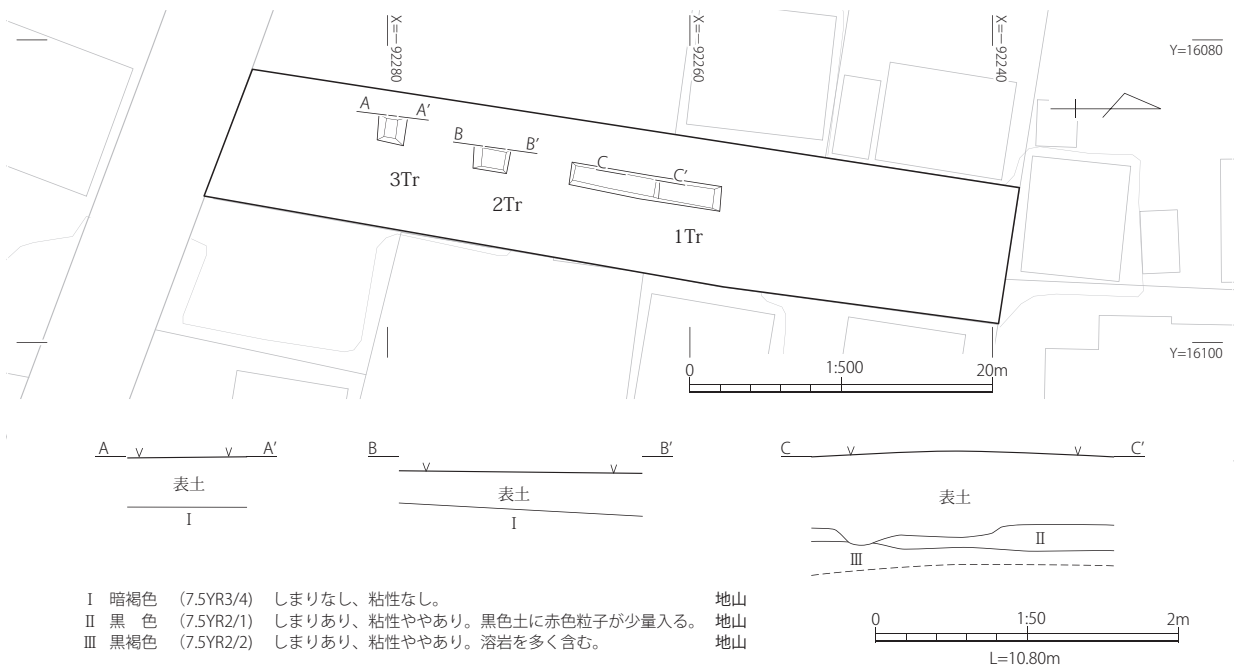
調査の結果 当該地は大規模に削平を受けており、遺構は残存しないことが明らかとなった。

地表面および表土中から土器や瓦が採集されたが、造成時に混入した遺物と考えられる。

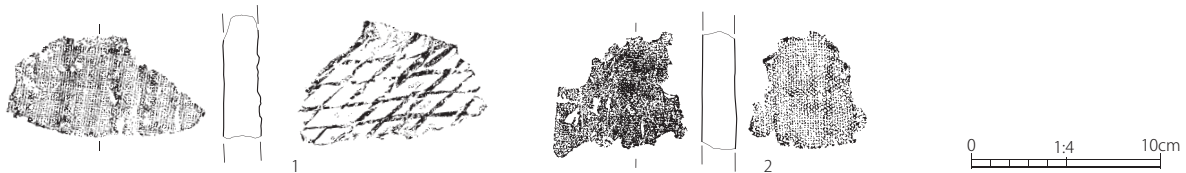
瓦片2点を図化した(第123図)。1は格子目状のタタキが特徴の平瓦、2は丸瓦である。



第121図 東平遺跡第107地区 位置図



第122図 東平遺跡第107地区 トレンチ配置図・セクション図



第123図 東平遺跡第107地区 出土遺物実測図

第13表 東平遺跡第107地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第123図1	R0001	PL.19	表採	瓦	平瓦	7~8C	-	-	(6.5)	良好	-	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR6/3 (にぶい黄橙)
第123図2	R0001	PL.19	表採	瓦	丸瓦	7~8C	-	-	(1.3)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)

44 三日市廃寺跡

(東平遺跡 第108地区1次調査)

所在地 浅間上町 2896番12

調査面積 8.934 m² (対象面積 214.45 m²)

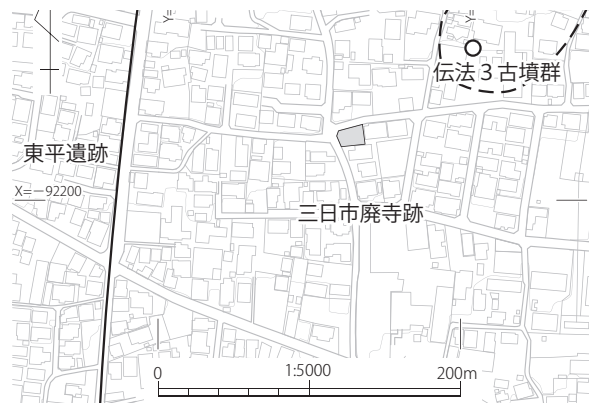
調査期間 平成30年11月13日

調査の原因 個人住宅新築

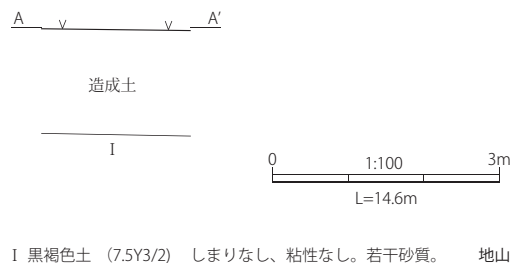
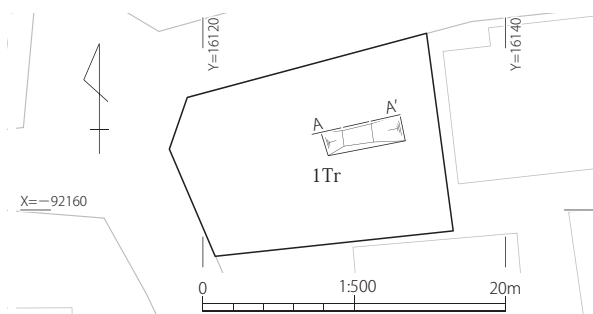
調査の概要 対象地内に1箇所の特レンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。

当該地付近の地形は窪地状となっており、遺跡が形成される場所ではなかった可能性が考えられる。



第124図 東平遺跡第108地区 位置図



第125図 東平遺跡第108地区 トレンチ配置図・セクション図

45 夷城跡 第1地区1次調査

所在地 間門 296-1

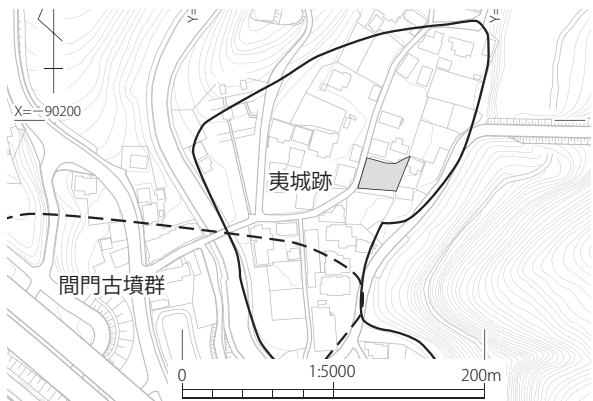
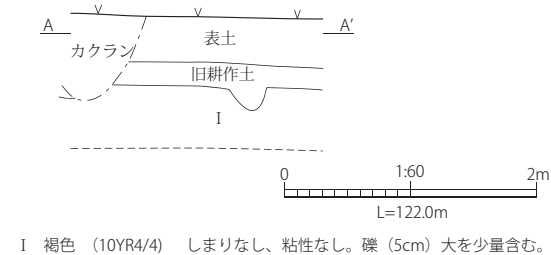
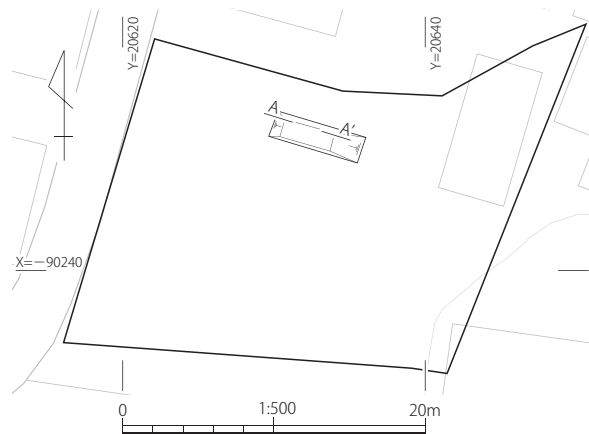
調査面積 10.966 m² (対象面積 595.04 m²)

調査期間 平成30年11月21日～11月22日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所の特レンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。



第127図 夷城跡第1地区
トレンチ配置図・セクション図

第126図 夷城跡第1地区 位置図

46 川坂遺跡 第6地区 1次調査

所在地 天間 836-1

調査面積 10.094 m² (対象面積 516.71 m²)

調査期間 平成30年11月26日～11月28日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。



第128図 川坂遺跡第6地区 位置図



第129図 川坂遺跡第6地区
トレンチ配置図・セクション図

47 大石遺跡 第3地区 1次調査

所在地 厚原 2275-1

調査面積 12.280 m² (対象面積 418 m²)

調査期間 平成30年12月4日

調査の原因 太陽光発電設備設置

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

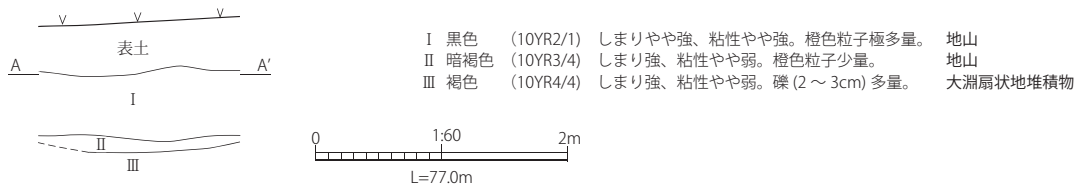
調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。



第130図 大石遺跡第3地区 位置図



第131図 大石遺跡第3地区 トレンチ配置図



第132図 大石遺跡第3地区 セクション図

48 土手内・中原2古墳群 第16地区 1次調査

所在地 伝法120番1

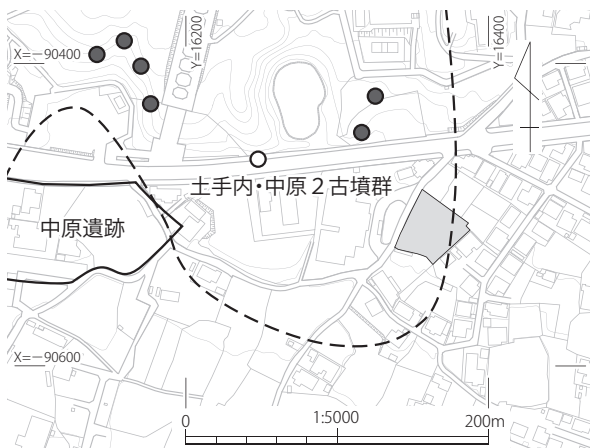
調査面積 182.312 m² (対象面積 1,175.57 m²)

調査期間 平成30年12月5日～12月6日

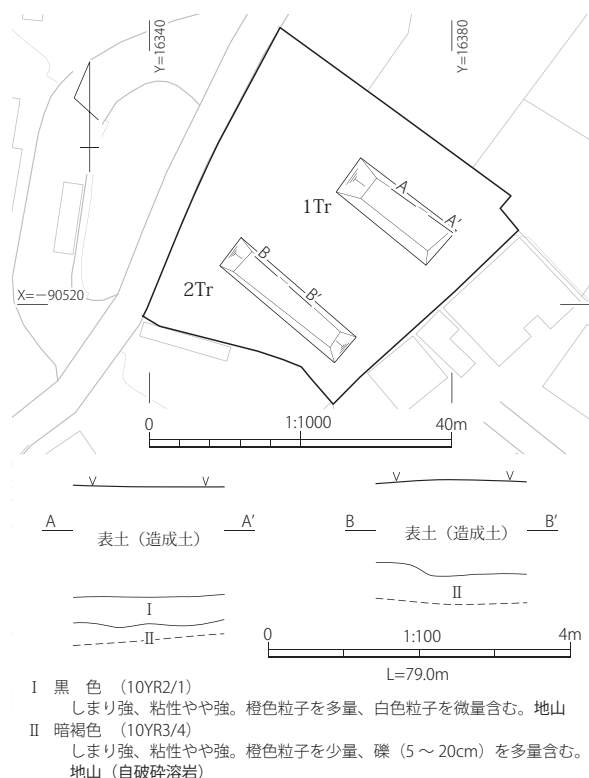
調査の原因 生活介護施設建設

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ(1・2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は発見されなかった。



第133図 土手内・中原2古墳群第16地区 位置図



第134図 土手内・中原2古墳群第16地区
トレンチ配置図・セクション図

49 宇東川遺跡 第27地区 1次調査

所在地 原田646-1ほか

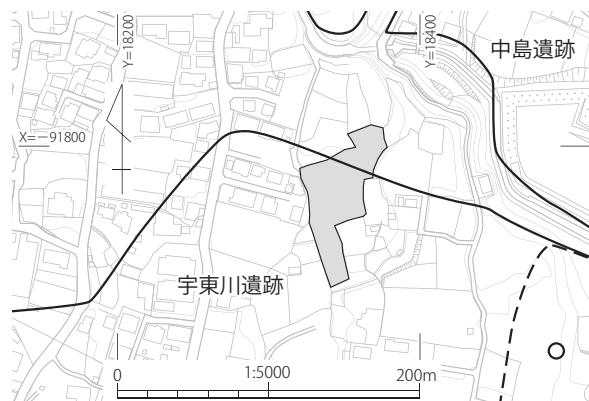
調査面積 42.117 m² (対象面積 1,962 m²)

調査期間 平成30年12月17日～12月20日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象箇所に5箇所のトレンチ(1~5Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 縄文時代中期を中心とした遺物包含層(II層)を検出し、コンテナ1箱ほどの縄文土器片が出土した。



第135図 宇東川遺跡第27地区 位置図

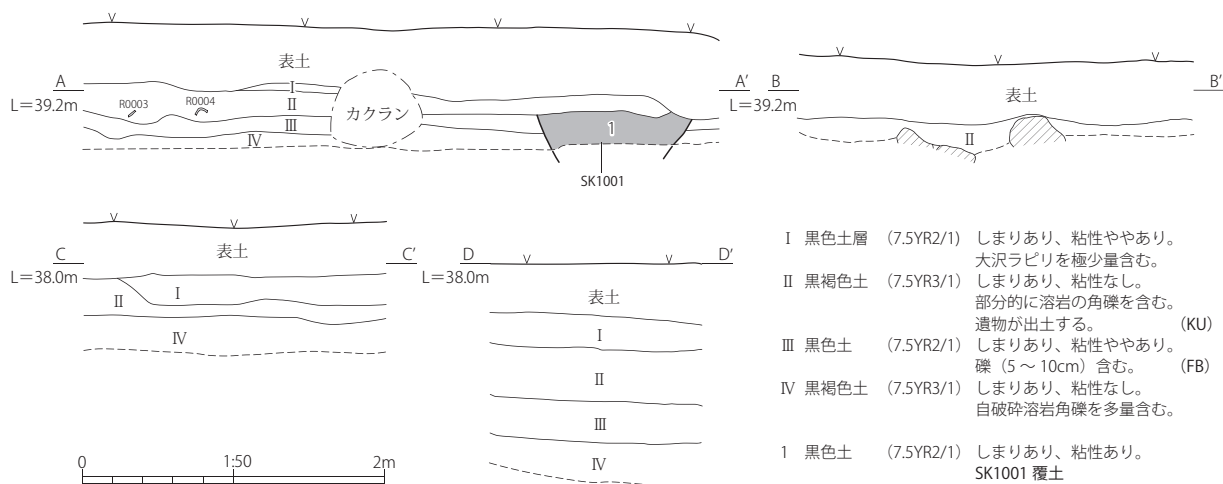


第136図 宇東川遺跡第27地区 トレンチ配置図

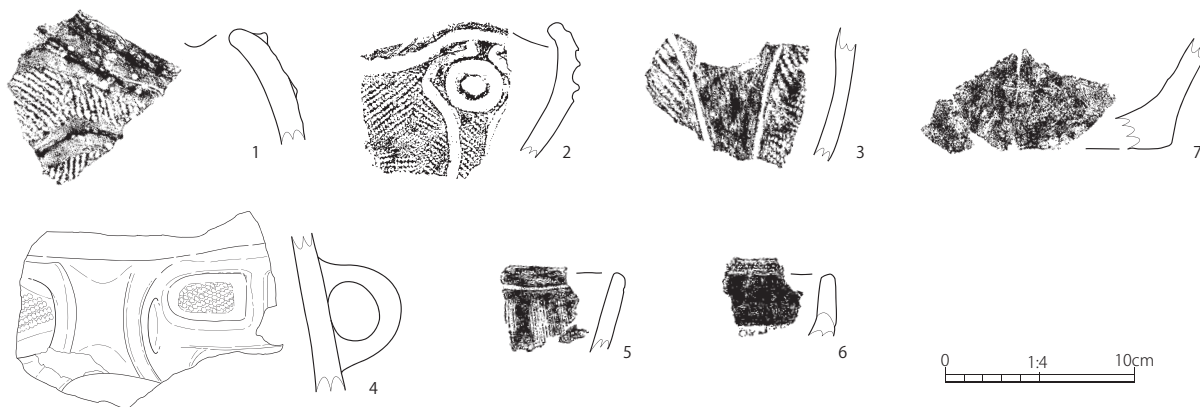
当該地内には縄文時代の遺構・遺物が良好に残存していると考えられる。また、奈良時代の須恵器1点が表面採集されたが、遺構の有無については今回の調査では明らかとならなかった。

7点の縄文土器を図示した(第138図)。1は内湾する波状口縁の口縁部片で、口縁に沿って断面三角形の隆帯が施される。胴部は縄文の地文を隆帯で区画している。2も波状口縁の口縁部片で、全面に縄文を施文した後、波頂部に沈線による円形文を施し、円形文の両脇を垂下する沈線で地文を区画、口縁に

沿って1条の沈線を巡らせる。3は胴部片で、縄文の地文を浅い沈線で区画し、区画間の縄文を磨り消している。1～3は加曾利E4式である。4は曾利Ⅲ式の把手付土器である。把手の両側は縄文を地文とし、隆帯を貼り付けて方形に区画している。5・6は後期の口縁部片である。5は横位の沈線を1条巡らせ、その下に縦位の条線を施文する。6は無文の口縁部の下に縄文が認められる。7は中期のものと思われる底部片で、残存部に施文や網代痕は認められない。



第137図 宇東川遺跡第27地区 セクション図



第138図 宇東川遺跡第27地区 出土遺物実測図

第14表 宇東川遺跡第27地区 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第138図1	R0010	PL.21	表採	縄文土器	加曾利E4	縄文	-	-	(6.1)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)
第138図2	R0004	PL.21	1Tr	縄文土器	加曾利E4	縄文	-	-	(7.1)	良好	-	5YR3/1 (黒褐)	5YR5/3 (にぶい赤褐)
第138図3	R0006	PL.21	3Tr	縄文土器	加曾利E4	縄文	-	-	(7.0)	良好	-	2.5YR3/1 (暗赤灰)	2.5YR4/2 (灰赤)
第138図4	R0001	PL.21	4Tr	縄文土器	曾利Ⅲ	縄文	-	-	(8.3)	良好	-	10YR6/2 (灰黄褐)	7.5YR6/3 (にぶい褐)
第138図5	R0008	PL.21	5Tr	縄文土器	後期	縄文	-	-	(4.0)	良好	-	7.5YR7/6 (橙)	7.5YR6/4 (にぶい橙)
第138図6	R0008	PL.21	5Tr	縄文土器	後期	縄文	-	-	(3.4)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙)	2.5YR6/6 (橙)
第138図7	R0002	PL.21	3Tr	縄文土器	中期	縄文	-	-	(5.8)	良好	-	5YR6/4 (にぶい橙)	2.5YR4/3 (にぶい赤褐)

50 比奈4古墳群 第2地区 1次調査

所在地 比奈 1132-1 外

調査面積 24.32 m² (対象面積 1,085.29 m²)

調査期間 平成31年1月10日～1月11日

調査の原因 社員寮建設

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 表土直下の近代造成土から奈良・平安時代の土師器片が出土したが、遺構の発見には至らなかった。

当該地は大規模に改変されており、遺構は消滅した、もしくはもともと存在しなかったものと考えられる。出土した土師器は近代遺物と共出しており、造成時の混ざり込みと判断できる。



第139図 比奈4古墳群第2地区 位置図



I 黒色 (10YR4/6) しまりやや強い、粘性やや弱い。礫 (20～30cm) を多量に含む。自破砕溶岩層

第140図 比奈4古墳群第2地区 トレンチ配置図・セクション図

51 天間沢遺跡 第54地区 1次調査

所在地 天間 1079 ほか

調査面積 5.143 m² (対象面積 872.41 m²)

調査期間 平成 31 年 1 月 8 日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象箇所に 1 箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

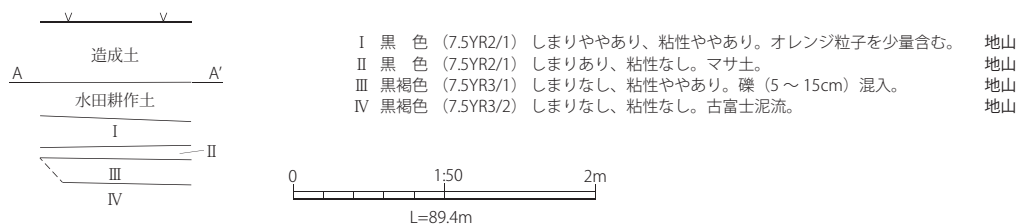
調査地は谷の中に該当することから遺物包含層が形成されない範囲であった可能性が高い。



第 141 図 天間沢遺跡第 53 地区 位置図



第 142 図 天間沢遺跡第 53 地区 トレンチ配置図



第 143 図 天間沢遺跡第 53 地区 セクション図

52 上の段遺跡 第3地区 1次調査

所在地 境 707-17 ほか

調査面積 10.08 m² (対象面積 148 m²)

調査期間 平成 31 年 1 月 15 日～1 月 17 日

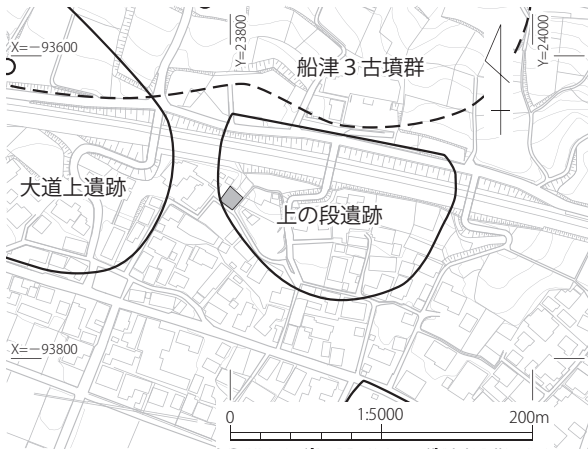
調査の原因 寺院客殿建設造成

調査の概要 対象地内に 1 箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

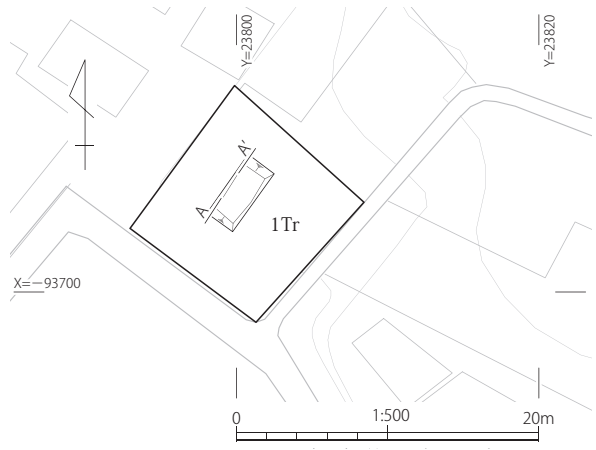
調査の結果 土地は後世に削平を受けており、遺構は存在しないことが明らかとなった。

旧地形は北東から南西に向かってやや傾斜しており、部分的に攪乱が入る。

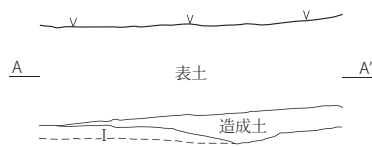
遺物は表土中から奈良・平安時代の土師器片が 2 点出土したのみで、図化には至らなかった。



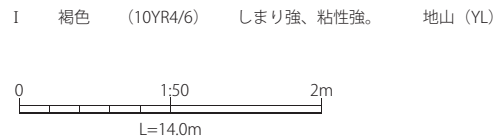
第144図 上の段遺跡第3地区 位置図



第145図 上の段遺跡第3地区 トレンチ配置図



第146図 上の段遺跡第3地区 セクション図



53 東平遺跡 第109地区 1次調査

所在地 浅間上町 2372-1

調査面積 91.605 m² (対象面積 1,460.94 m²)

調査期間 平成31年1月22日～1月23日

調査の原因 店舗建設

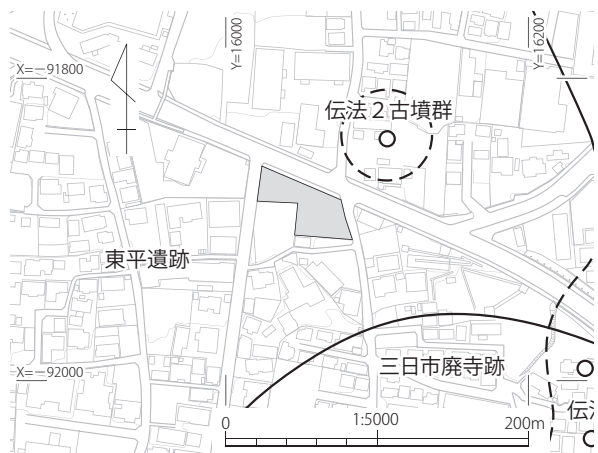
調査の概要 対象地内に3箇所のトレンチ(1～3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 奈良・平安時代の竪穴建物跡1軒(SB1001)、土坑1基(SK1001)と、コンテナ2分の1箱ほどの遺物(土器片・鉄製品)を確認した。

当該地の南東部(1・2Tr)は大規模な削平を受けており、地表下約1mは造成土となっているものの、遺構が残存していることが明らかとなった。

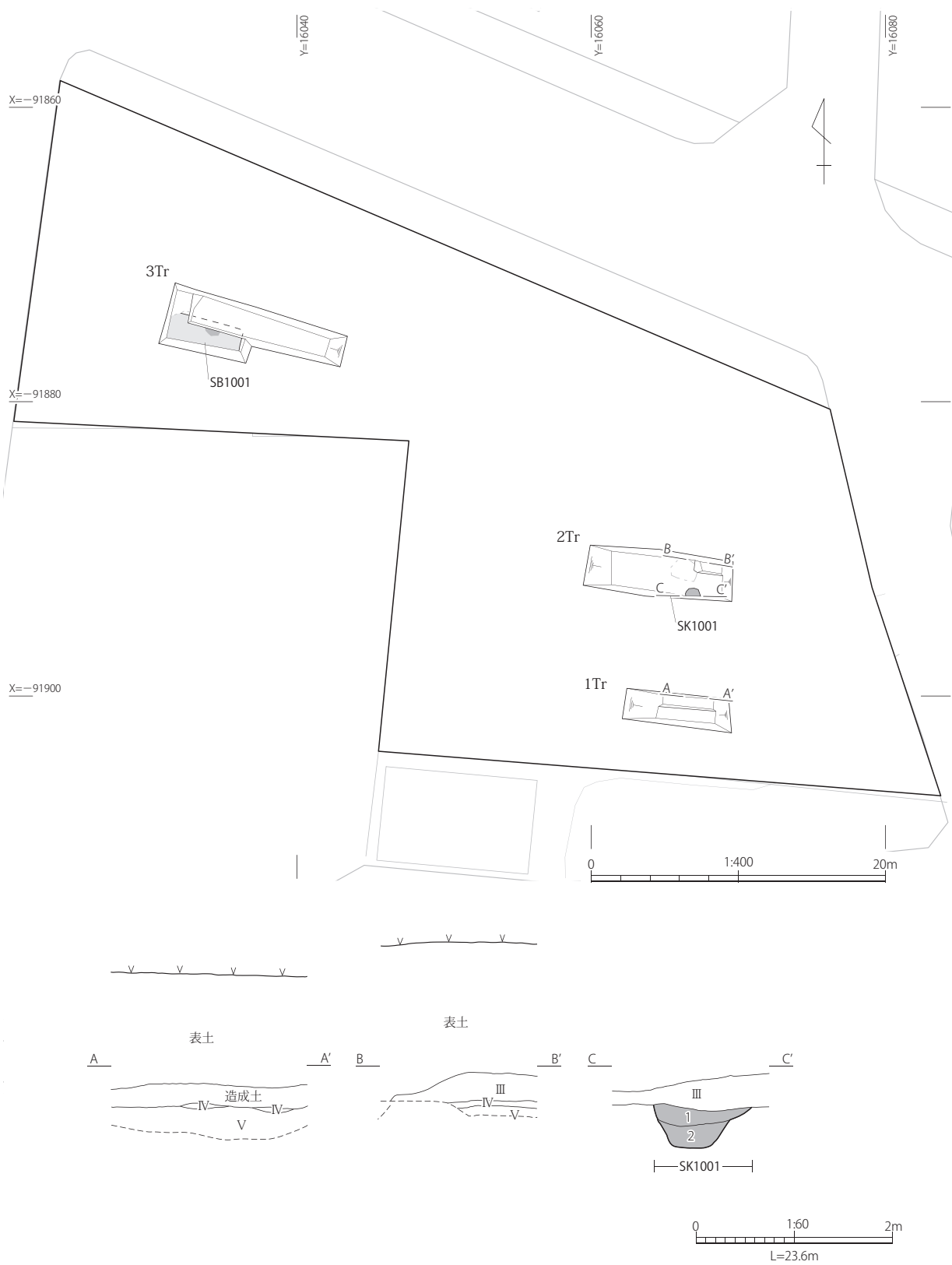
また、西側に設定した3Trでは造成が深くまでは及んでおらず、各所に攪乱が入るものの、竪穴建物跡(SB1001)が検出できた。なお、SB1001の時期は、出土遺物から9世紀に位置づけられる。

遺物は4点を図示した(第150図)。1は坏の破片で、内面に放射状のヘラミガキが施される。外面は刻書が認められるが、判読できない。2は駿東坏で底部径が比較的小さい。3は駿東型長胴甕の口縁



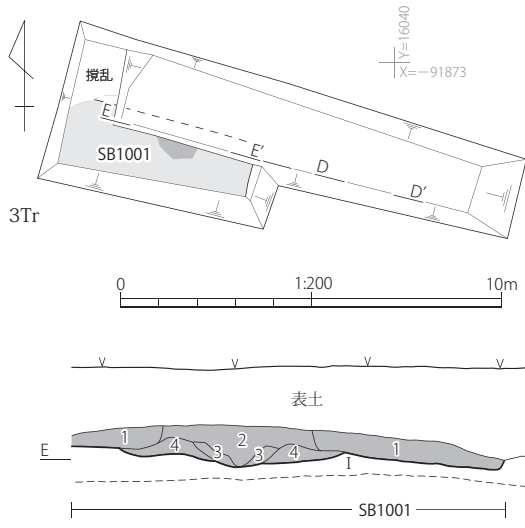
第147図 東平遺跡第109地区 位置図

部で、いずれも9世紀の土器である。4の鉄製品もSB1001からの出土だが、用途不明である。



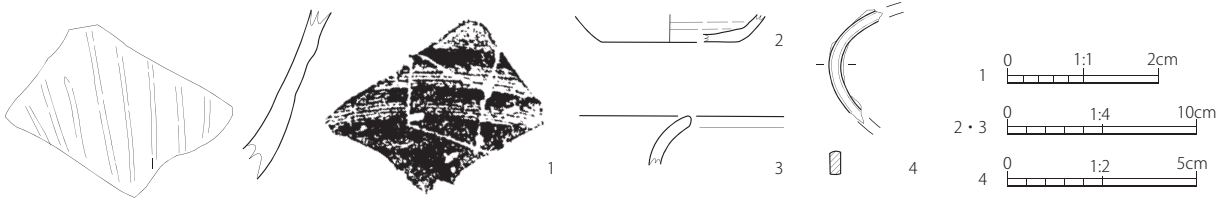
- | | | | | |
|-----|-----|-----------|-----------------------------------|-----------|
| III | 黒褐色 | (10YR3/2) | しまりやや弱い、粘性やや強い。礫(5cm)少量含む。 | 旧表土 |
| IV | 黒色 | (10YR2/1) | しまりやや弱い、粘性やや強い。橙色粒子微量、礫(5cm)多量含む。 | 地山 |
| V | 褐色 | (10YR4/6) | しまり強い、粘性弱い。礫(5cm)極多量含む。 | 自破砕岩層 |
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | しまりやや強い、粘性やや強い。礫(5cm)中量含む。 | SK1001 覆土 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR2/2) | しまり弱い、粘性やや強い。礫(5cm)中量、炭化物微量に含む。 | SK1001 覆土 |

第148図 東平遺跡第109地区 トレンチ配置図・セクション図



- | | | | |
|----------|-----------|--------------------------------------|-----------|
| I 褐色 | (10YR4/4) | しまり強い、粘性強い。
橙色粒子微量含む。 | 地山 |
| II 黒褐色 | (10YR3/1) | しまりやや強い、粘性やや強い。
橙色粒子少量含む。 | 地山 |
| 1 黒褐色 | (10YR2/2) | しまりあり、粘性やや弱い。
炭粒子、焼土粒子、粘土粒子少量含む。 | SB1001 覆土 |
| 2 にぶい黄褐色 | (10YR5/4) | しまりやや弱い、粘性あり。
炭粒子、焼土粒子少量、粘土塊多量含む。 | カマド崩落土 |
| 3 明赤褐色 | (10YR5/6) | しまりやや弱い、粘性やや弱い。
炭粒子少量、粘土塊中量含む。 | カマド袖か |
| 4 暗褐色 | (10YR3/3) | しまりあり、粘性やや弱い。
炭粒子、焼土粒子、粘土塊少量含む。 | カマド掘り方か |

第 149 図 東平遺跡第 109 地区 3Tr 平面図・セクション図



第 150 図 東平遺跡第 109 地区 出土遺物実測図

第 15 表 東平遺跡第 109 地区 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調	備考
						口径	底径	器高					
第 150 図 1	R0003	PL.22	SB1001	土師器	坏	-	-	(2.3)	良好	-	2.5YR6/6 (橙)	2.5YR6/6 (橙)	刻書
第 150 図 2	R0003	PL.22	SB1001	土師器	坏	-	(7.2)	(1.4)	良好	-	5YR6/4 (にぶい橙)	2.5YR6/6 (橙)	
第 150 図 3	R0003	PL.22	SB1001	土師器	甕	-	-	(2.5)	良好	-	2.5YR6/6 (橙)	5YR6/4 (にぶい橙)	
挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	重量 (g)							
第 150 図 4	R0003	PL.22	SB1001	鉄製品	不明	2.30							

54 中島遺跡 第 14 地区 1 次調査

所在地 原田 862-1

調査面積 35.618 m² (対象面積 1,408 m²)

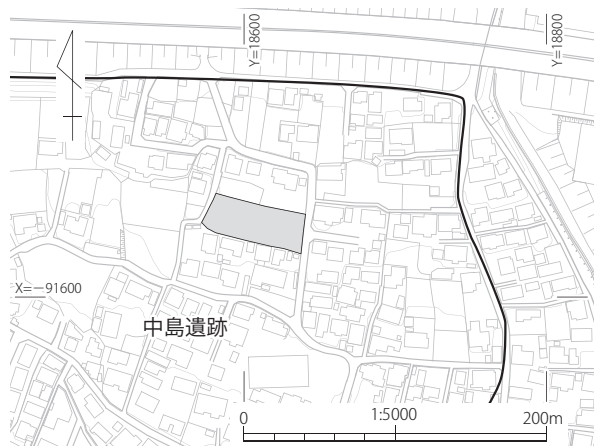
調査期間 平成 31 年 2 月 1 日～2 月 5 日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に 2 箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

本遺跡の集落としての中心部は遺跡南部とみられ、遺跡北部に位置する当該地付近は、遺構が希薄であると考えられる。



第 151 図 中島遺跡第 14 地区 位置図



第152図 中島遺跡第14地区 セクション図

55 川窪遺跡 第5地区 1次調査

所在地 厚原 204-1

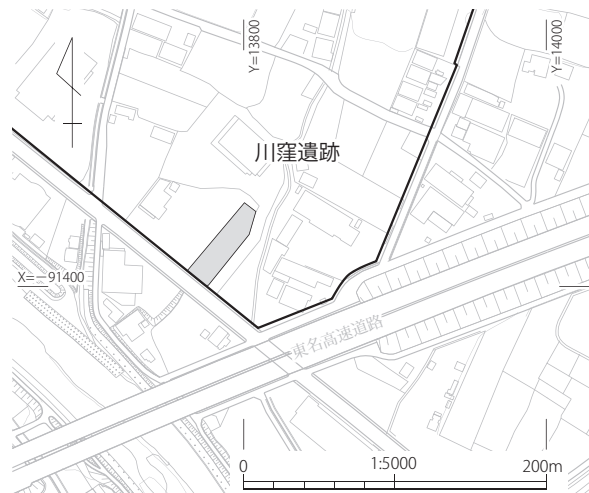
調査面積 27.670 m² (対象面積 843.16 m²)

調査期間 平成31年2月6日～2月12日

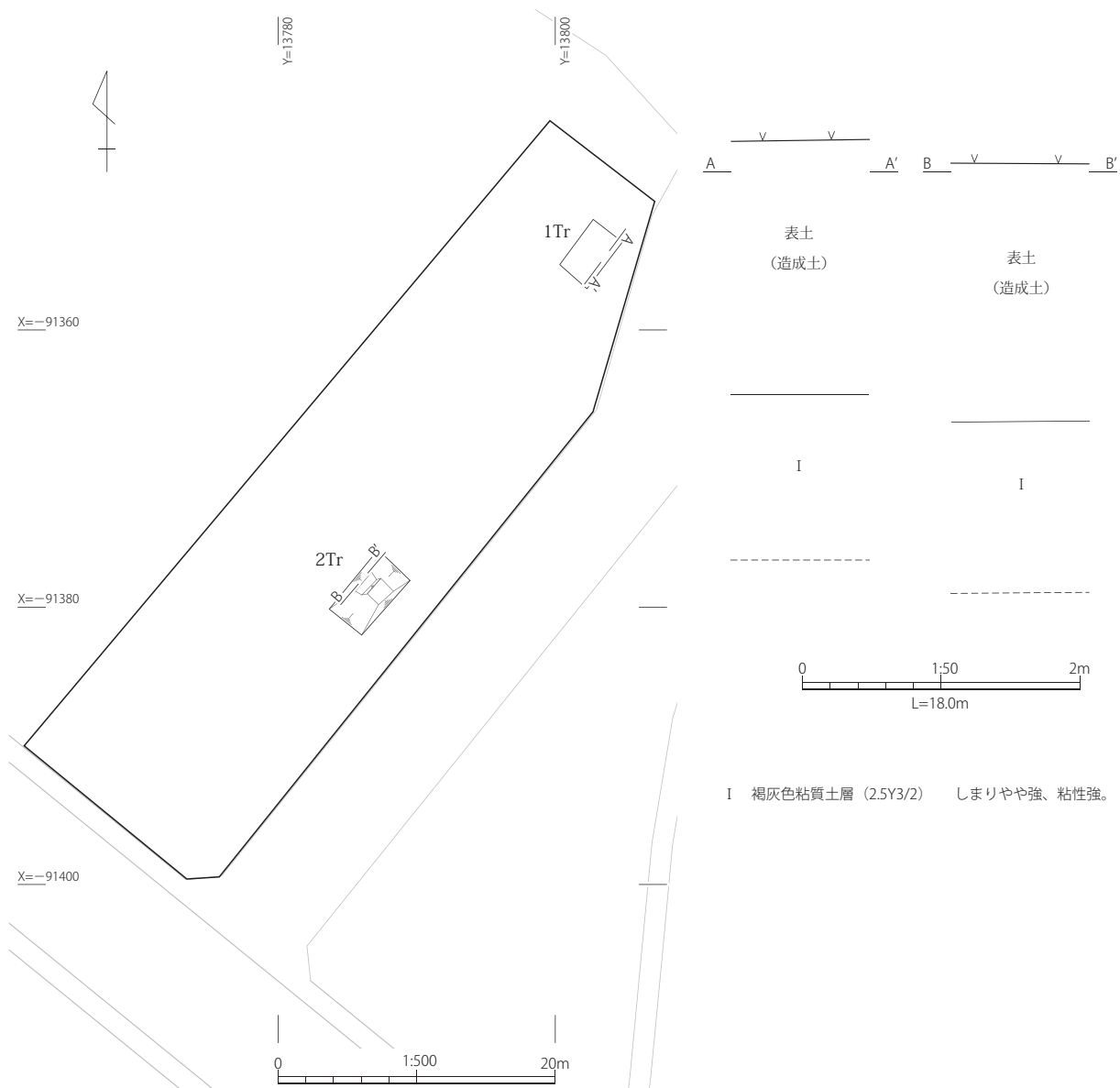
調査の原因 倉庫新設

調査の概要 対象地内に2箇所の特レンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 厚さ約1.8mの造成土の下に、水の影響を受けた粘質土 (I層) の堆積がみられた。湧水により地山には到達しなかったが、遺物等が確認されないことから、当該地に遺跡は存在しないものと考えられる。



第153図 川窪遺跡第5地区 位置図



第154図 川窪遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図

56 砂山遺跡 第1地区 1次調査

所在地 鈴川東町 563-3

調査面積 20.087 m² (対象面積 3,067 m²)

調査期間 平成31年2月20日～2月26日

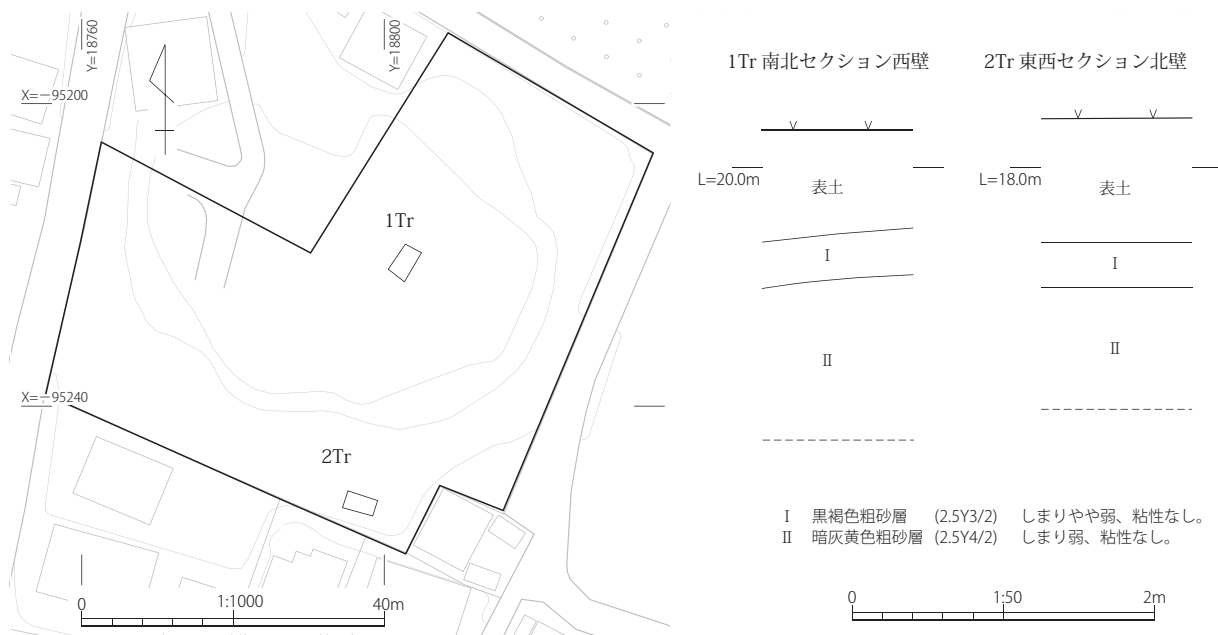
調査の原因 介護施設建設

調査の概要 対象地内に2箇所のトレンチ (1・2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 トレンチ壁面の崩落により、掘削深度を2mに留めたが、砂層が厚く堆積しているのみであり、遺構や遺物は確認されなかった。対象地には埋蔵文化財は存在しないものと考えられる。



第155図 砂山遺跡第1地区 位置図



第156図 砂山遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

57 中里3古墳群 第7地区 1次調査

所在地 中里 2162-2

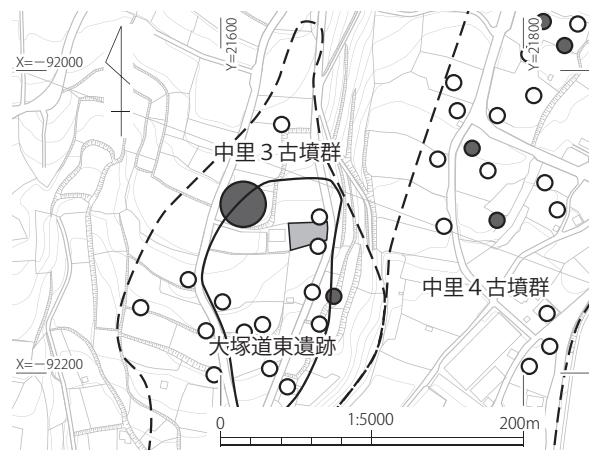
調査面積 3.33 m² (対象面積 296.7 m²)

調査期間 平成31年3月7日

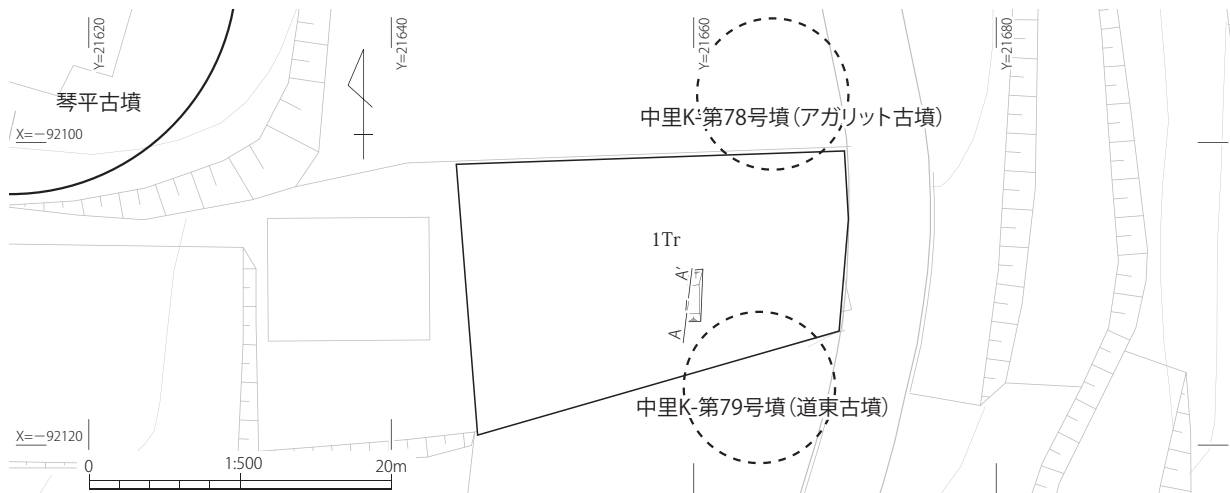
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地は県指定史跡である琴平古墳の南東に位置し、付近には大正6年に発掘されたとされるアガリット古墳(中里K-78号墳)や明治36年に調査されたとされる道東古墳(中里K-79号墳)が存在したとされる。

対象地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削の後、人力精査を行った。



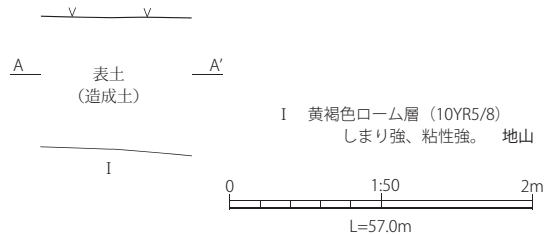
第157図 中里3古墳群第7地区 位置図



第158図 中里3古墳群第7地区 トレンチ配置図

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

造成土の直下から中部ロームに対応すると考えられる土層（I層）が検出された。そのため、土地全体が大規模に削平されていると結論付けられ、当該地に遺跡は存在しないものと考えられる。



第159図 中里3古墳群第7地区 セクション図

58 東平遺跡 第110地区 1次調査

所在地 伝法 2503-9

調査面積 20.421 m² (対象面積 382.63 m²)

調査期間 平成31年3月18日

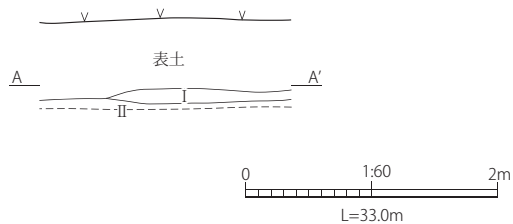
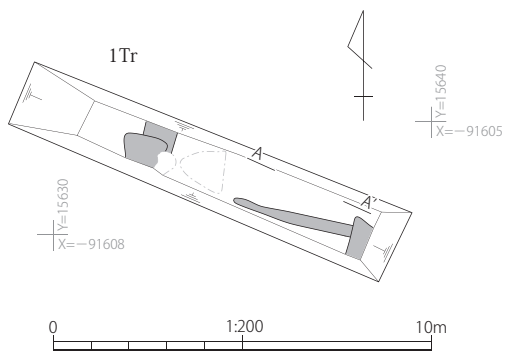
調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地内に1箇所のトレンチ（1Tr）を設定し、重機による掘削の後、人力精査を行った。

調査の結果 近世以降のものと考えられる掘り込みは検出されたが、古代・中世の遺構・遺物は検出されなかった。



第160図 東平遺跡第110地区 位置図



- I 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性やや弱。橙色粒子微量。旧表土褐色ブロック少量。
- II 黒褐色 (10YR4/6) しまり強、粘性やや強。礫 (1cm) 微量。地山

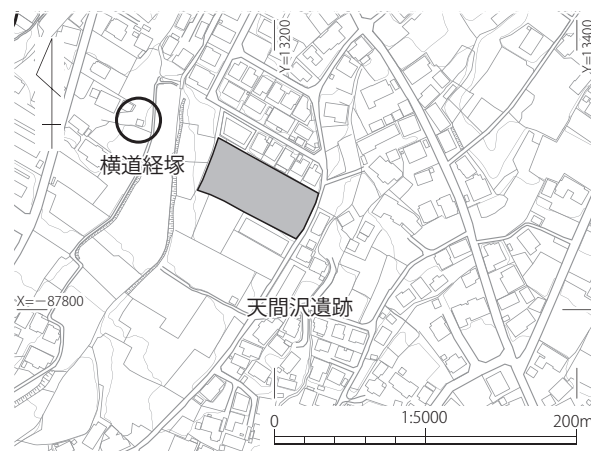
第161図 東平遺跡第110地区 トレンチ配置図・平面図・セクション図

第3節 工事立会の報告

天間沢遺跡第45地区は、宅地造成工事に伴い、道路新設部分のみ本発掘調査が行われ、報告書が刊行されている（富士市教育委員会 2019）。

その後、分譲地における個人住宅新築工事に伴い文化財保護法第93条に基づく届出がなされ、十分な保護層が確保されないものの工事範囲が狭小と判断された工事箇所については、静岡県教育委員会より工事立会の指示がなされた。

それに基づき工事立会をした結果、発見された遺物について報告する。



第162図 天間沢遺跡第45地区 位置図



第163図 天間沢遺跡第45地区工事立会 出土遺物実測図

縄文土器 16 点、石器 2 点を図示した（第 163 図）。

1～10 は井戸尻式の土器である。1 の口縁部片は、口縁端部を内側に断面三角形に肥厚させ、縦位に 3 条の隆帯を貼り付け、外側の 2 条に連続刺突文を施す。2 は直線的な口縁部に隆帯と沈線で逆台形の区画をつくり、そこに三叉文を刺突する。3 は口縁端部を内外に肥厚させている。口縁部文様は縦位の隆帯が貼り付けられる。4・5 は無文の口縁で端部を内側に肥厚させている。6 は強く屈曲する頸部である。上部には刻みが施された弧状の隆帯が認められる。胴部には円形のモチーフがつく。モチーフは右に向けて徐々に高くなり、右半分は縁に刻みが施される。円形モチーフの左には縦位の沈線と刺突が施文される。7 の胴部片は、地文に縄文を施した後、横位の隆帯を 2 条、その上下に波状隆帯を貼り付けている。8 の胴部片は横位の隆帯を 1 条巡らせて上下を区画し、上半は縦位の隆帯でさらに区画し、区画の隆帯上には連続刺突文を施す。縦位隆帯の下端を起点とする斜位の隆帯を左右に貼り付け、区画内に縦位の沈線を施文する。下半は無文である。9 は強く内湾する胴部の肩に楕円形の粘土を貼り付けている。地文は無文である。10 は底部片で、残存部には施文や網代痕などは認められない。

11 は中期に位置づけられる口縁部片である。直線的に開き、口縁端部も平坦に整えている。外面には沈線による渦巻文を施文し、口縁部内面にも沈線

での施文が認められる。

12 は称名寺式の胴部片である。二重の沈線で下がすばまった楕円形に区画し、沈線間に縄文を充填している。

13 は曽利式に位置づけられる。強く屈曲した頸部に太い隆帯が 1 条巡る。両端をナデることにより、隆帯の断面形は台形となっている。口縁部、胴部は無文である。

14 はやや波状を呈する口縁部である。強く内湾する稜の部分に横位の沈線が巡り、2 条の隆帯で弧状に区画される。弧の底には隆帯の円形文が付き、区画内には縦位の条線が施文される。2 条の隆帯による区画は下へも続くようである。加曽利 E1 式の土器である。

15・16 は後期に位置づけられる。15 は外に開く口縁部で、口縁端部を内側に肥厚させ、上面に 1 条の沈線が巡る。欠損しているが突起の痕跡が認められる。口縁部は無文で、頸部に横位の沈線が 4 条認められる。上の 2 条に互い違いに刺突文が施されている。16 の胴部片は、2 条の細隆帯で縦長の弧状の区画をし、弧の頂部からは縦位の 3 条の隆帯が上にのびる。区画内には 2 条の隆帯で「の」の字から長く垂下するような文様が施される。地文は丁寧にナデられている。

17 は石匙。18 の打製石斧は全体的に細長く、やや中膨らみする原礫面をもち、刃部は直刃である。

第 16 表 天間沢遺跡第 45 地区工事立会 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	種別	細別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
					口径	底径	器高				
第 163 図 1	H30-93-027-R0003	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(4.6)	良好	-	10YR4/2 (灰黄褐)	2.5Y3/1 (暗赤灰)
第 163 図 2	H30-93-027-R0003	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(4.8)	良好	-	5YR6/6 (橙)	2.5Y6/6 (橙)
第 163 図 3	H29-93-179-R0005	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(10.0)	良好	-	7.5YR4/1 (褐灰)	7.5YR5/3 (にぶい褐)
第 163 図 4	H29-93-179-R0002	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(5.4)	良好	-	7.5YR5/3 (にぶい褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)
第 163 図 5	H30-93-027-R0002	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(3.1)	良好	-	2.5YR6/8 (橙)	2.5YR6/8 (橙)
第 163 図 6	H30-93-027-R0001	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(9.1)	良好	-	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR4/2 (灰黄褐)
第 163 図 7	H30-93-027-R0002	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(6.7)	良好	-	10YR5/3 (にぶい黄褐)	2.5YR5/4 (にぶい赤褐)
第 163 図 8	H29-93-179-R0005	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(10.9)	良好	-	10YR5/3 (にぶい黄褐)	2.5YR6/6 (橙)
第 163 図 9	H30-93-027-R0002	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	-	(4.9)	良好	-	5YR5/3 (にぶい赤褐)	5YR6/4 (にぶい橙)
第 163 図 10	H30-93-027-R0001	PL.24	縄文土器	井戸尻	-	[6.8]	(2.1)	良好	50%	10YR3/1 (黒褐)	2.5YR4/4 (にぶい赤褐)
第 163 図 11	H30-93-027-R0001	PL.24	縄文土器	中期	-	-	(4.9)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
第 163 図 12	H30-93-160-R0002	PL.24	縄文土器	称名寺	-	-	(9.5)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙)	7.5YR6/4 (にぶい橙)
第 163 図 13	H29-93-179-R0005	PL.24	縄文土器	曽利	-	-	(11.5)	良好	30%	7.5YR4/2 (灰褐)	2.5Y5/4 (にぶい赤褐)
第 163 図 14	H29-93-179-R0005	PL.24	縄文土器	加曽利 E1	-	-	(4.2)	良好	-	2.5YR2/1 (赤黒)	2.5YR5/6 (明赤褐)
第 163 図 15	H29-93-179-R0002	PL.24	縄文土器	後期	-	-	(5.3)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
第 163 図 16	H30-93-027-R0002	PL.24	縄文土器	後期	-	-	(7.1)	良好	-	2.5Y4/1 (黄灰)	7.5YR5/3 (にぶい褐)
挿図番号	R 番号	写真 図版	種別	細別	法量 (cm)			重量 (g)			
					長径	短径	厚さ				
第 163 図 17	H30-93-027-R0002	PL.24	石器	石匙	6.4	4.0	1.25	35.10			
第 163 図 18	H30-93-027-R0002	PL.24	石器	打製石斧	11.7	5.4	1.4	70.90			

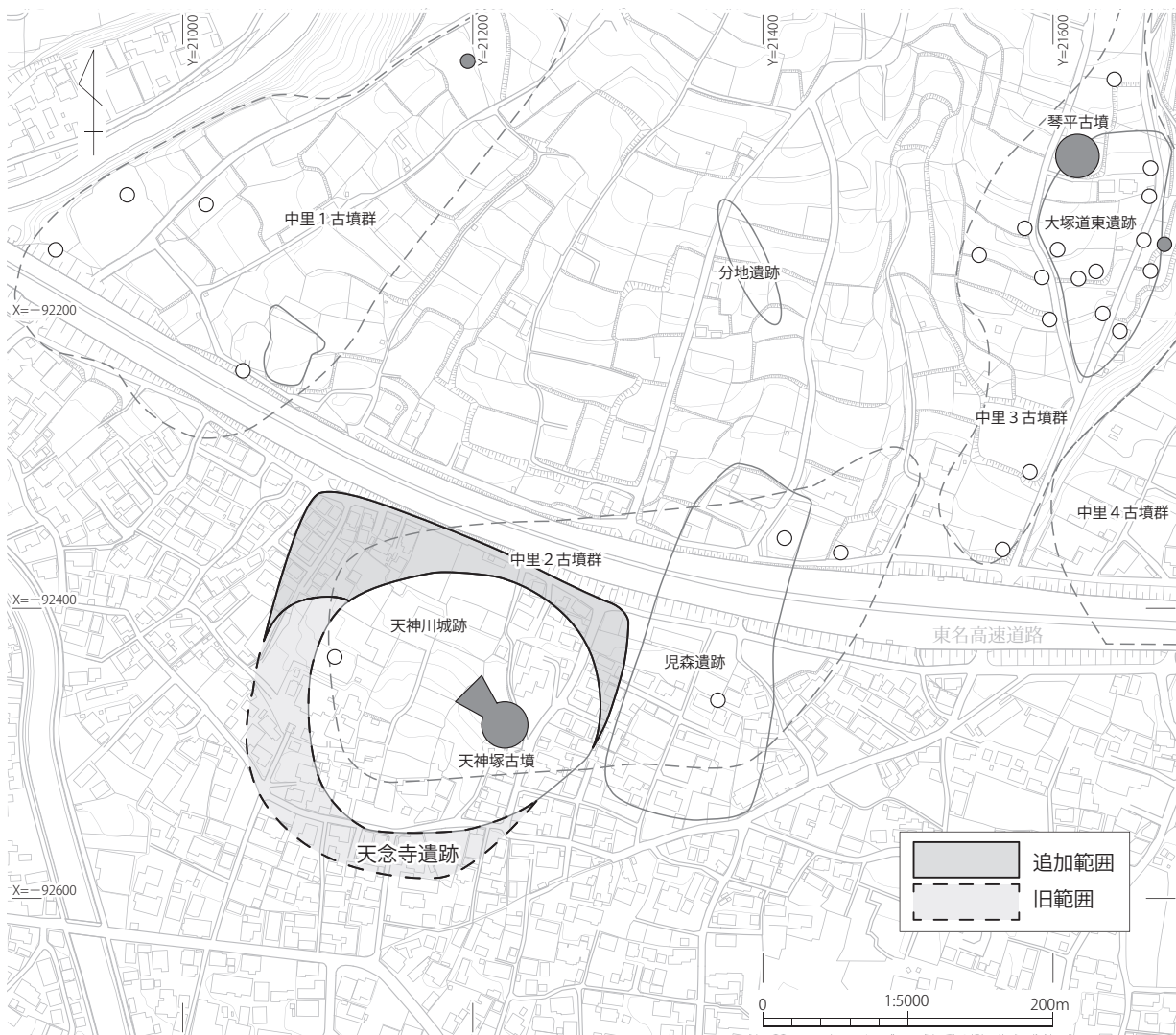
第4節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更

埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺跡種類等の内容については、確認調査や現地踏査により得られた情報に基づいて、随時、変更や新規登録を行っている。

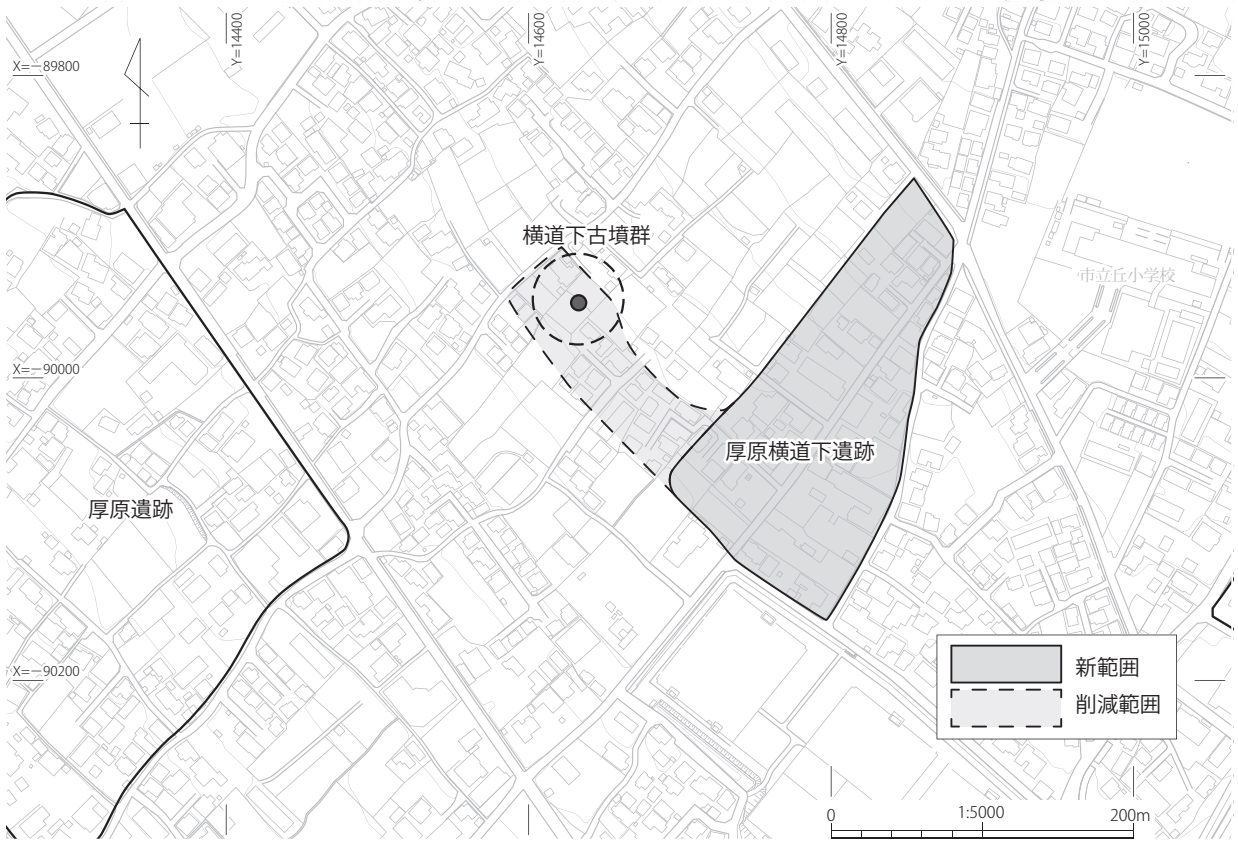
平成31年1月から令和元年9月の間に行われた埋蔵文化財包蔵地の登録内容変更について、ここで報告する。

・登録内容の変更

遺跡番号	遺跡名	変更内容	変更年月日
107	天念寺遺跡	包蔵地範囲を追加（第164図参照） 遺跡の時代「古墳・奈良・平安」→「縄文・古墳・奈良・平安」 遺跡の種類「散布地」→「集落跡」	R1.6.6
15	厚原横道下遺跡	包蔵地範囲を削減（第165図参照）	R1.9.6
44	滝下遺跡	包蔵地範囲を追加（第166図参照）	R1.10.15



第164図 天念寺遺跡の範囲変更



第 165 図 厚原横道下遺跡の範囲変更



第 166 図 滝下遺跡の範囲変更

第2章 柏原遺跡の調査

第1節 柏原遺跡の概要

富士市の東端に位置する柏原遺跡は、北に浮島ヶ原、南に駿河湾を望む田子の浦砂丘上に立地する集落遺跡である。

過去の調査では、第4地区で縄文時代後期（加曽利B式期）に位置づけられる土器が出土しているほか、弥生時代後期から平安時代にかけての遺物が確認されているが、現時点では明らかな縄文時代、弥生時代の遺構は確認されていない。

平成22年（2010年）に調査された第6地区では、古墳時代前期に起きた高潮（あるいは津波）による堆積物層が検出され、さらにその上面では、古墳時代中期後半に起きた富士山の火山活動で噴出した大淵スコリアにより埋没した土器が出土するなど、古墳時代に当地を襲った自然災害の痕跡が確認されている。

その後、柏原遺跡の範囲には古墳時代中期後葉から後期に、首長墓である庚申塚古墳（静岡県指定史跡、双方中方墳）と、山の神古墳（富士市指定史跡、前方後円墳）が築かれる。

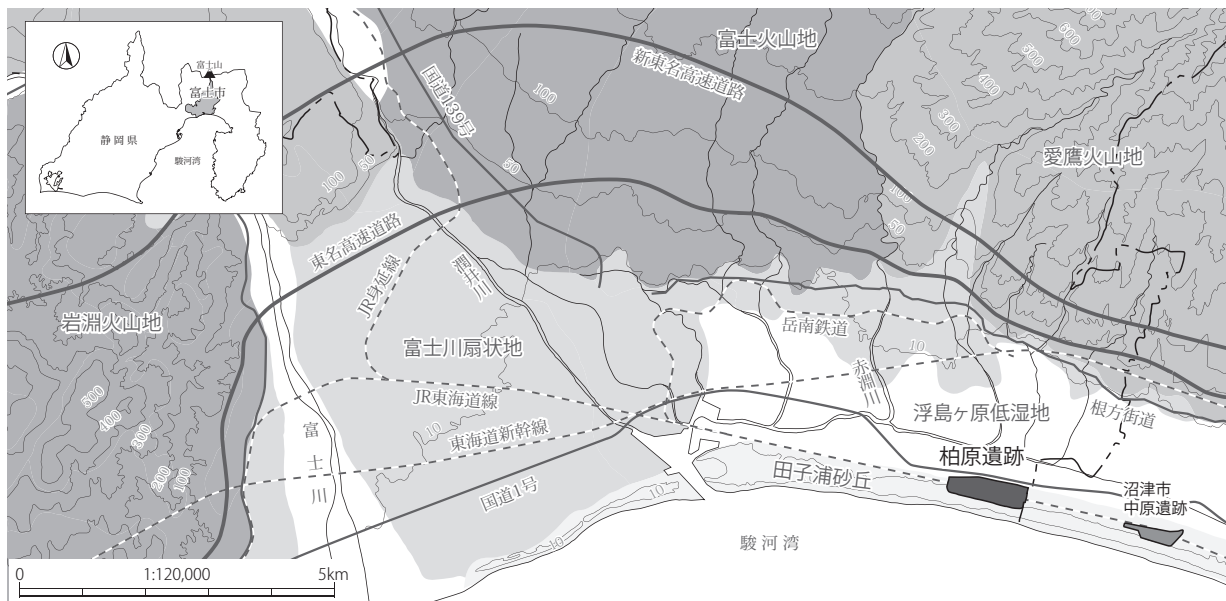
明らかな集落跡が確認されるようになるのは、奈

良・平安時代である。第4地区では、8世紀後半から9世紀に位置づけられる竪穴建物跡と掘立柱建物跡がセット関係をもっていたとみられる状況が認められている。

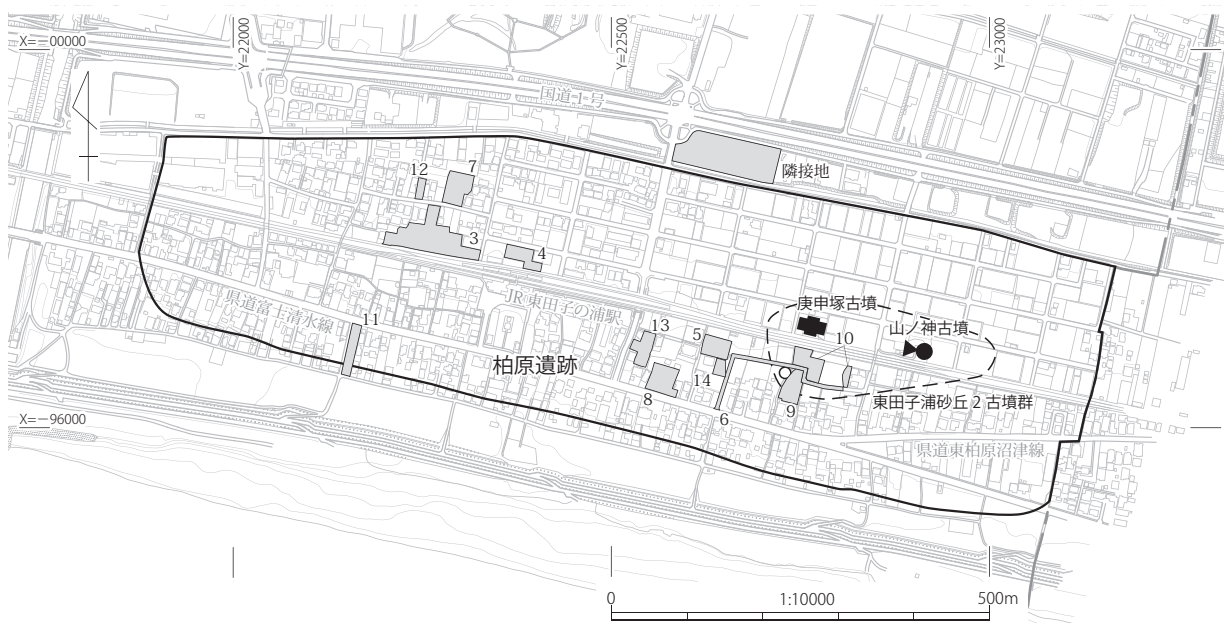
本遺跡の東には7世紀前半に成立し9世紀初頭まで継続する沼津市中原遺跡が位置する。中原遺跡は、鉄鉋や砥石などの鉄製品生産に関わる遺物や、ガラス小玉の鋳型などが出土している生産集落跡であり、その盛期は7世紀後半から8世紀前半と捉えられている。

柏原遺跡の周辺は『三代実録』貞観6年（864）12月10日条に記載のある「柏原駅」の比定地として認識されており、本遺跡や中原遺跡は、田子の浦砂丘上を通る主要街道沿いに営まれた集落の様相を明らかにするものである。

また、第6地区では8世紀後半から9世紀に位置づけられる溝状遺構SD03から馬の歯と下顎骨が出土している。馬歯の時期は未確定であるが、溝状遺構と同時期のものであるならば、「柏原駅」との関連が想定される遺物として注目される。



第167図 柏原遺跡の位置



第168図 柏原遺跡 調査履歴図

第17表 柏原遺跡 調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
3地区	1次	H12	試掘	西柏原新田 113 外	区画整備	20001218 ~ 20001227	竪穴住居跡	土師器・須恵器・鉄鏃	A
4地区	1次	H14	試掘	中柏原新田字宮下 164-1	共同住宅建設	20021028 ~ 20021031	竪穴住居跡、溝	縄文土器、土師器、須恵器	B
4地区	2次	H14	本調査	中柏原新田字宮下 164-1 外	共同住宅建設	20021113 ~ 20021205	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、ピット	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器	C
5地区	1次	H17	試掘	中柏原新田 32	住宅地造成	20060315 ~ 20060320			D
隣接地		H18	試掘	中里 2546-7 外	福祉施設建設	20060810			D
6地区	1次	H21	試掘	東柏原新田 161 外	道路改良	20091109 ~ 20091110	土坑・溝	土師器・須恵器・陶器	E
6地区	2次	H22	試掘	東柏原新田 地先	道路改良	20100611 ~ 20100617	なし	なし	C
6地区	3次	H22	試掘	中柏原新田 29 外	道路改良	20101125	竪穴建物跡?	土師器・須恵器・鉄器	C
6地区	4次	H22	試掘	中柏原新田 198-1 外	道路改良	20101221	なし	土師器	C
6地区	5次	H23	本調査	中柏原新田 198-1 外	道路改良	20110711 ~ 20110909	竪穴建物跡・溝・水害痕跡	土師器・須恵器・陶器・土製品・馬歯	C
7地区	1次	H22	試掘	中柏原新田 155-1 外	宅地分譲	20110112	竪穴建物跡	土師器・須恵器	C
8地区	1次	H25	確認	中柏原新田字向畑 191 番外	貸店舗建設	20140120 ~ 20140124	なし	土師器	F
9地区	1次	H28	確認	東柏原新田 217-1、229	個人住宅新築	20160914	なし	なし	G
10地区	1次	H28	確認	東柏原新田 215-1、216-1、167-1、170-1	個人住宅新築	20161107	ピット・性格不明遺構	土師器・磁器	G
11地区	1次	H28	確認	沼田新田 24-1、-2、135-1、-2、153-1、-2	不動産売買	20170201 ~ 20170206	なし	なし	G
12地区	1次	H30	確認	西柏原新田 138 番 6	不動産売買	20180410	竪穴建物跡	土師器・須恵器	本書 第1章
13地区	1次	H30	確認	中柏原新田 87-1 ほか	宅地分譲	20180607 ~ 20180608	ピット	土師器・石器	本章
13地区	2次	H30	本発掘	中柏原新田 87-1 ほか	宅地分譲	20180709 ~ 20180717	溝状遺構・土坑・ピット	土器(縄文時代・奈良時代)	本章
14地区	1次	H30	確認	中柏原新田 35 ほか	宅地分譲	20180903	なし	土器	本書 第1章

* 1地区・2地区については、富士市河川課による河川等改修に伴う工事立会いの範囲および、富士市農政課による農地整備等に伴う工事立会いの範囲をそれぞれ一括して1地区・2地区としているため、ここでは省略する。

【報告書】

- A 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成11・12年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集 (2012)
- B 『平成14・20年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
- C 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成22・23年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第54集 (2013)
- D 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富教委 (2008)
- E 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
- F 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成24・25年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第57集 (2015)
- G 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成28年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第63集 (2018)

第2節 第13地区の調査成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社K・S不動産企画（以下、事業者）は、富士市中柏原新田87-1ほか（948㎡）において、宅地分譲を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「柏原遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年5月24日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。これを受けて文化振興課は、6月4日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第234号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査

確認調査（1次調査）は6月7日から8日にかけて行った。対象地に2か所のトレンチを設定し（1～2Tr、24.741㎡）、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、地表下約50～60cmでピット4基（Pit1001～1004）を検出した。また、奈良・平安時代の遺物が出土したことから、6月11日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第259号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第259-2号）を提出した。これは7月9日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第788号）。

6月13日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第268号）を提出した。また、事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県教育委員会に進達した結果、遺跡の保護が図れない道路部分について本発掘調査を実施するよう、県教育委員会から指示があった（平成30年6月22日付け教文第682号）。

平成30年7月2日、事業者と富士市長、市教育長の三者間で柏原遺跡における文化財調査に関する協定が締結された。同日、事業者と富士市長の二者間で文化財調査に関わる業務委託契約も締結し、本発掘調査を実施することとなった。

(3) 本発掘調査（2次調査）

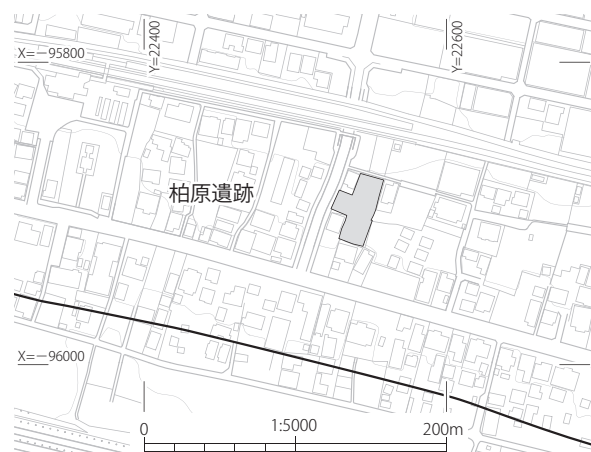
本発掘調査は富士市教育委員会の補助執行機関である市民部文化振興課が担当し、平成30年7月9日から17日にかけて行った。

対象地内の道路となる部分を本調査区（122.387㎡）とし、周辺での調査結果を踏まえて、3面での遺構検出を行った。その結果、第1面（大淵スコリア層上面）で奈良時代とみられる溝状遺構や土坑・ピット等の遺構を検出し、完掘、記録保存を行った。また、少量ではあるが奈良時代の土器片が出土した。

第2面（大淵スコリア層下層）では、遺構・遺物ともに認められなかった。

第3面（褐色砂質土層上面）では、遺構は確認されないものの、土器片が出土した。

出土した遺物については、7月23日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第421号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第421-2号）を提出した。これは8月22日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第982号）。



第169図 柏原遺跡第13地区 位置図

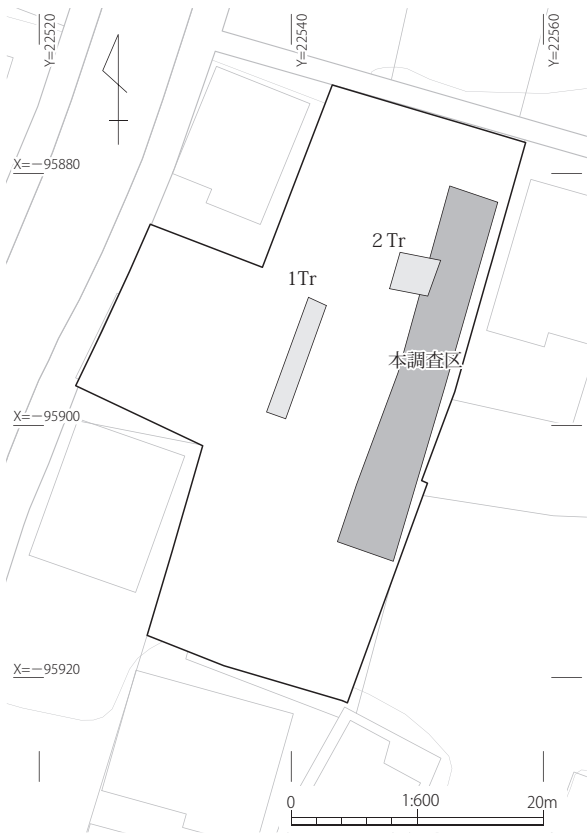
平成30年7月17日、事業者に対し本発掘調査の完了を報告し（富市文発第395号）、8月10日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第495号）を提出した。

11月9日、事業者に対し、文化財調査（発掘作業および整理作業）の完了報告を行い（富市文発第813号）、その後、業務委託金の精算をもって、文化財調査に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 調査の体制

柏原遺跡第13地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 [担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 主事 伊藤 愛
 調査員 小島 利史



第170図 確認調査トレンチおよび本調査区 配置図

2 調査の成果

(1) 確認調査

1 トレンチでは、地表下約50～60cmで大淵スコリアの純粋堆積層（柏原標準土層Ⅲ層）に到達し、その上面でピット1基（Pit1001）を検出した。また、トレンチ東壁の土層観察により、同じ面から掘り込まれたピット3基（Pit1002～1004）を確認した。いずれも深さは約20cmを測る。

2 トレンチでは、地表下約220cmまで掘り下げて、弥生時代の層位の特定を試みたが、遺構や遺物は確認されなかった。大淵スコリア層より下は、砂層が土壌化を繰り返しながら堆積していることが明らかになった。

(2) 本発掘調査

本発掘調査では、対象地内の道路になる部分を調査区とし、周辺での発掘調査結果から、3面での遺構検出を行った。

第1面は、古墳時代中期末に富士山の噴火活動により噴出、降下した大淵スコリアの堆積層（Ⅲ層）上面である。確認調査1トレンチでも、この面で4基のピットが確認されている。本調査では溝状遺構5条（SD2001～2005）、ピット2基（Pit2001～2002）、土坑1基（SK2003）、性格不明遺構1基（SX2001）を検出、完掘した。

第2面は大淵スコリア堆積前のⅣ層上面であるが、この面では遺構および遺物は検出されなかった。

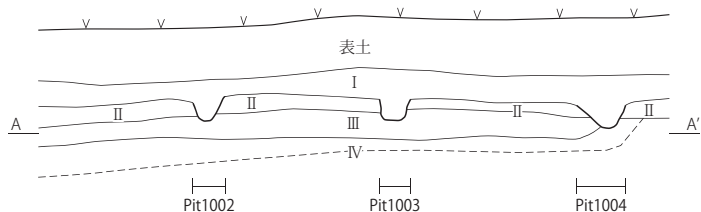
第3面とした褐色砂質土層（Ⅴ層）上面では、縄文土器の可能性のある土器片1点（第176図6）が出土した。過去に周辺で行われた調査では遺物が出土しておらず、Ⅴ層の堆積時期を推定しうる遺物であるが、小破片のため時代や器種の特定が難しい。

SD2001

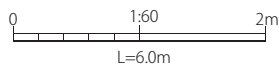
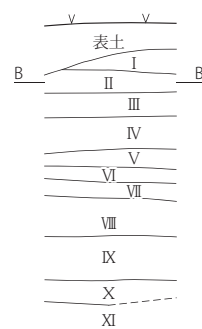
調査区中央で検出された南北方向に延びる溝状遺構である。規模は、南北長7.72m、東西幅0.77m、深さ30cmほどを測る。平面プランは、西辺は直線的だが東辺はやや蛇行し、両端は丸く収まる。断面形は方形を呈する。少量の土器が出土したが図化には至らなかった。遺構の時期は不明だが、古代の可能性はある。



1Tr 南北セクション東壁

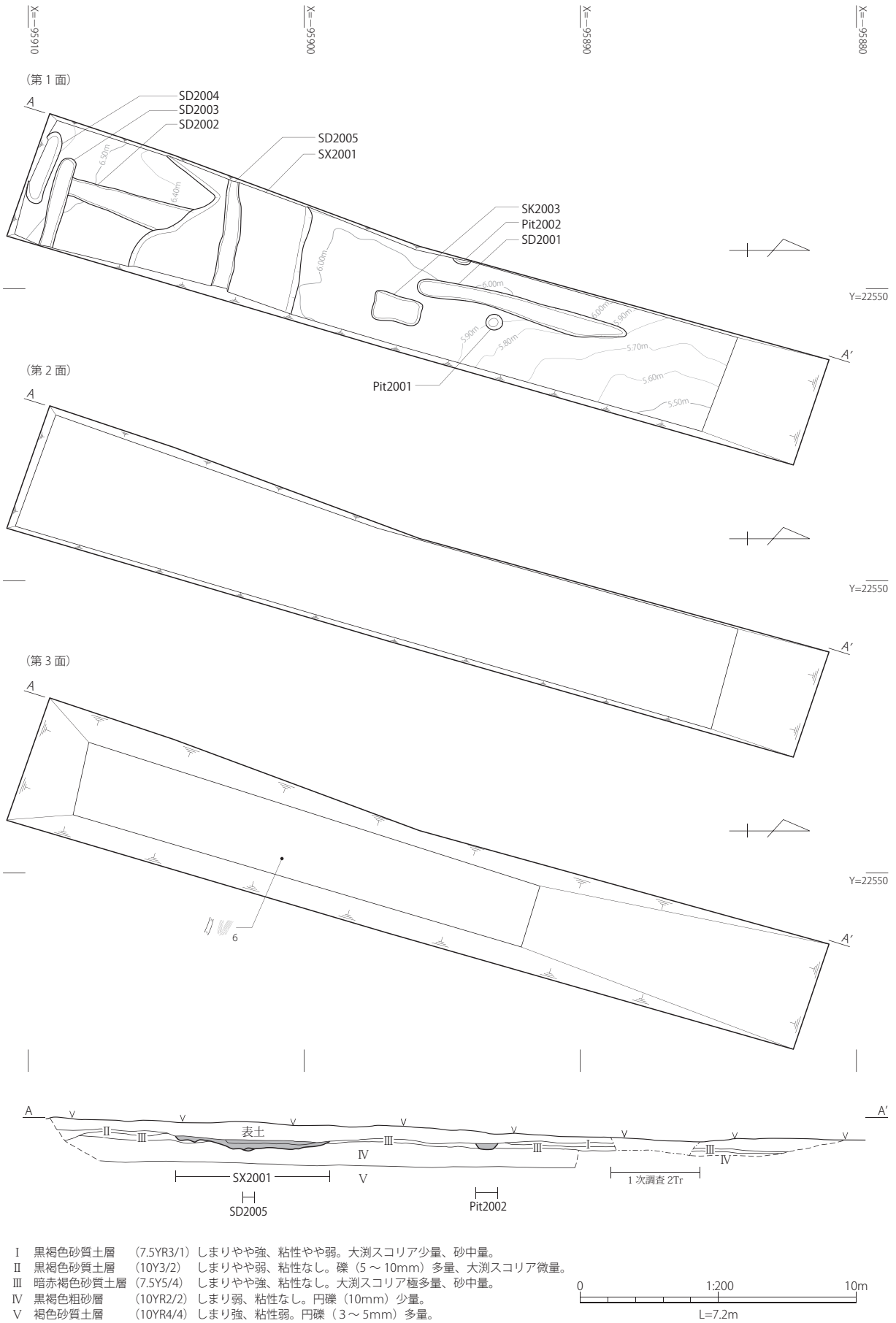


2Tr 南北セクション東壁



I	黒褐色土層 (7.5YR3/1) しまりやや強、粘性やや弱。大淵入り少量。砂中量。	柏原標準土層II層対応
II	暗赤褐色砂質土層 (7.5YR3/4) しまりやや強、粘性なし。大淵入り極多量。砂中量。	柏原標準土層III層対応
III	黒褐色砂質土層 (7.5YR2/2) しまりやや弱、粘性やや弱。大淵入り微量。砂多量。円礫少量。(土壌化)	柏原標準土層IV層対応
IV	褐灰色粗砂層 (7.5YR5/1) しまり弱、粘性なし。円礫微量。	〃
V	黒褐色砂礫層 (10YR3/2) しまり弱、粘性なし。小礫多量。	柏原標準土層V層対応
VI	暗褐色砂質土層 (10YR3/3) しまり強、粘性弱。小礫少量。	(土壌化)
VII	黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまりやや強、粘性弱。砂多量。	(土壌化)
VIII	黒褐色粗砂層 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性なし。	〃
IX	褐灰色粗砂層 (10YR4/1) しまり弱、粘性なし。	〃
X	黒褐色砂質土層 (10YR2/3) しまり強、粘性弱。小礫少量。	(土壌化)
XI	暗褐色粗砂層 (10YR3/3) しまりやや弱、粘性なし。	柏原標準土層VI層対応

第171図 確認調査トレンチ 平面図・セクション図



- I 黒褐色砂質土層 (7.5YR3/1) しまりやや強、粘性やや弱。大漕スコリア少量、砂中量。
- II 黒褐色砂質土層 (10Y3/2) しまりやや弱、粘性なし。礫 (5~10mm) 多量、大漕スコリア微量。
- III 暗赤褐色砂質土層 (7.5Y5/4) しまりやや強、粘性なし。大漕スコリア極多量、砂中量。
- IV 黒褐色粗砂層 (10YR2/2) しまり弱、粘性なし。円礫 (10mm) 少量。
- V 褐色砂質土層 (10YR4/4) しまり強、粘性弱。円礫 (3~5mm) 多量。

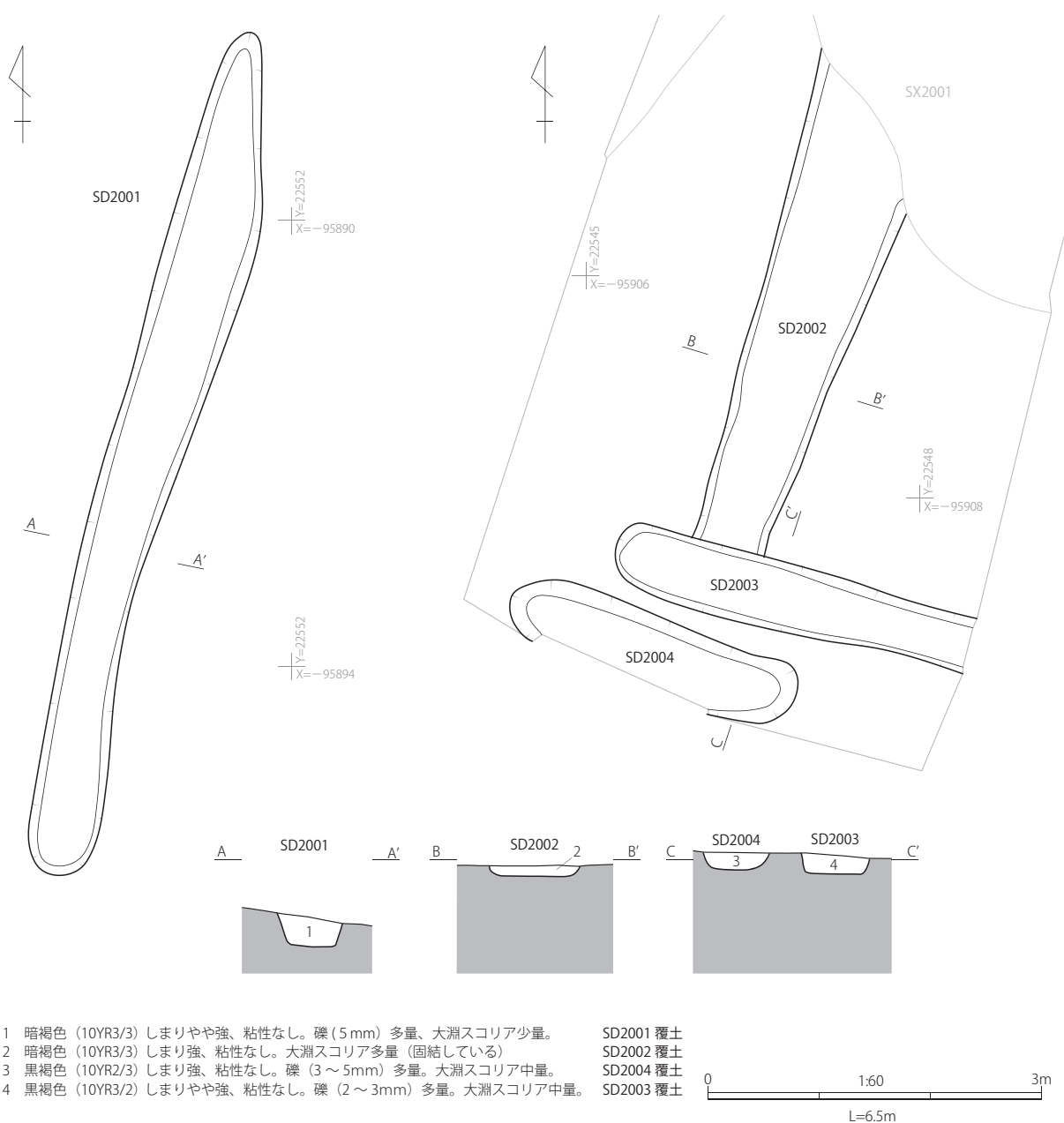
第172図 本調査区 平面図・セクション図

SD2002

調査区南側で検出された南北方向に延びる溝状遺構である。北側をSX2001に、南側をSD2003に切られており、全容は不明である。南北検出長4.16m、東西幅1.1m、深さ10cmほどを測り、断面形は浅い皿状を呈する。覆土は、多量の大淵スコリアが硬く固結しており、大淵スコリアの降下後、あまり時間を経ずに埋まった可能性が考えられる。

SD2003

調査区南側で検出された東西方向に延びる溝状遺構である。西端は調査区内で丸く収まるが、東端は調査区外にあり全長は不明である。東西検出長3.28m、南北幅0.64m、深さ17cmを測り、断面形は逆台形を呈する。遺物が出土せず遺構の時期は不明であるが、SD2002を切っており、近世の可能性はある。



- | | |
|--|-----------|
| 1 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強、粘性なし。礫 (5mm) 多量、大淵スコリア少量。 | SD2001 覆土 |
| 2 暗褐色 (10YR3/3) しまり強、粘性なし。大淵スコリア多量 (固結している) | SD2002 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/3) しまり強、粘性なし。礫 (3~5mm) 多量、大淵スコリア中量。 | SD2004 覆土 |
| 4 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性なし。礫 (2~3mm) 多量、大淵スコリア中量。 | SD2003 覆土 |

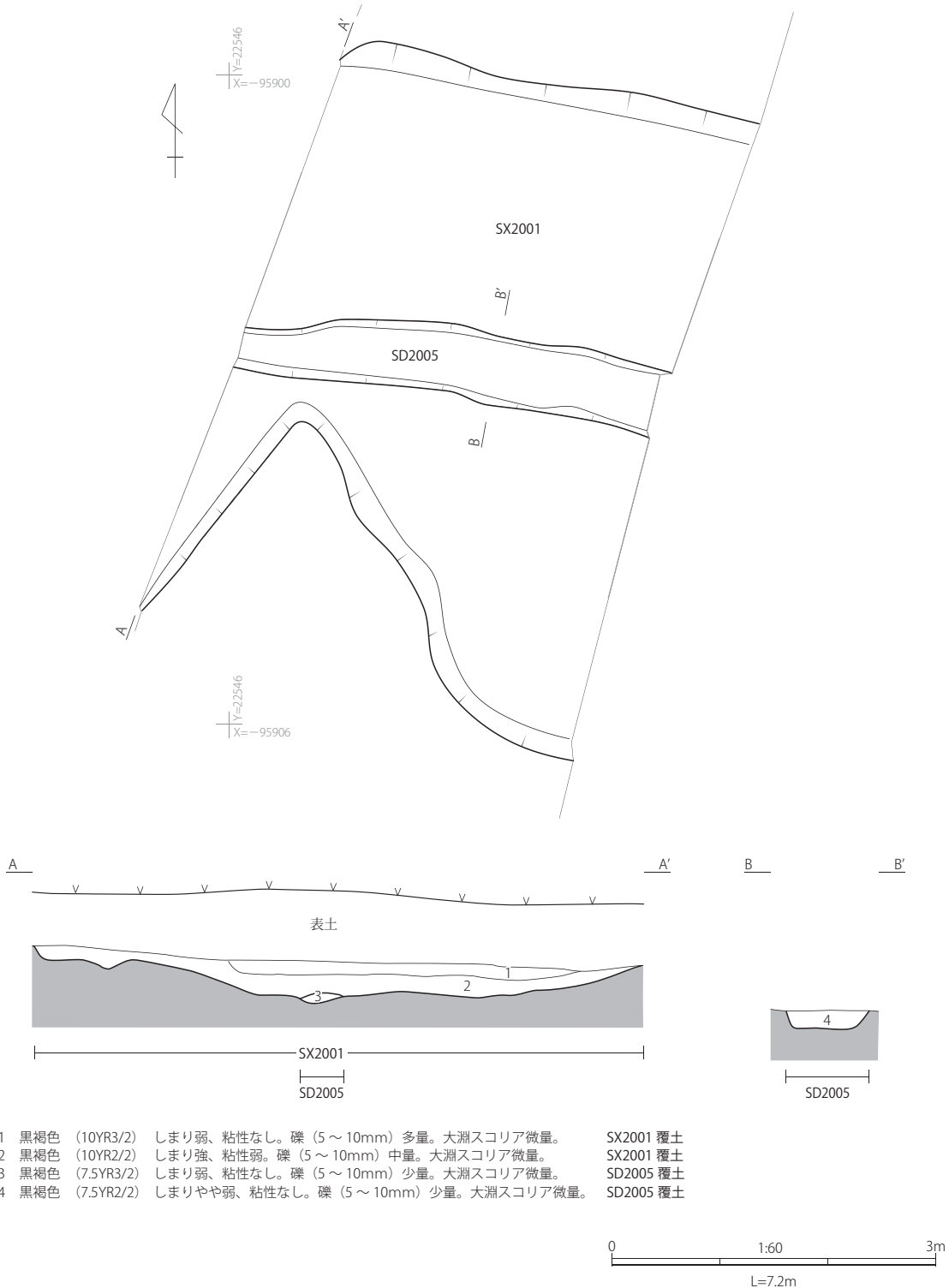
第173図 SD2001・SD2002・SD2003・SD2004 平面図・セクション図

SD2004

調査区南端で検出された東西方向の溝状遺構である。南辺は調査区外にあるが両端は調査区内で丸く収まる。東西長 2.68 m、南北幅 0.65 m、深さ 15cm を測り、断面形は逆台形を呈する。遺物は出土していないが、覆土が SD2003 と似ていることから、同じく近世の可能性はある。

SD2005

調査区の南寄り、SX2001 の底面で検出された溝状遺構である。両端は調査区外にあり、東西検出長 3.85 m、南北幅 0.68 m、深さ 17cm を測り、断面形は逆台形を呈する。遺物は土師器片 1 点が出土したものの、図化には至らなかった。遺構の時期は特定しがたく、SX2001 の一部である可能性も残る。



- | | |
|--|-----------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) しまり弱、粘性なし。礫 (5~10mm) 多量。大淵スコリア微量。 | SX2001 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) しまり強、粘性弱。礫 (5~10mm) 中量。大淵スコリア微量。 | SX2001 覆土 |
| 3 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり弱、粘性なし。礫 (5~10mm) 少量。大淵スコリア微量。 | SD2005 覆土 |
| 4 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりやや弱、粘性なし。礫 (5~10mm) 少量。大淵スコリア微量。 | SD2005 覆土 |

第 174 図 SD2005・SX2001 平面図・セクション図

SX2001

調査区南寄りで見出された性格不明遺構である。北辺は直線的だが、南辺は北に向けて90度に近く屈曲する部分があり、東西方向は両端とも調査区外にある。規模は、南北最大幅6.15m、東西検出幅3.91m、深さは30cmほどを測る。SD2002を切っており、覆土中から陶器の碗や播鉢が出土していることから、近世の遺構と考えられる。

遺物は、陶器5点（第176図1～5）を図示した。

Pit2001

調査区中央、SD2001の東で見出されたピットである。平面形は円形、断面形は逆台形を呈し、規模は長径60cm、短径50cm、深さ23cmを測る。遺物は土師器片1点が見出されたが図化には至らなかった。遺構の時期は不明であるが、古代の可能性はある。

Pit2002

調査区中央、西壁際で見出されたピットである。西半分は調査区外にあり、平面形は不明であるが、

断面形は逆台形を呈する。検出部分で、長径78cm、深さ25cmを測る。遺物は出土せず、遺構の時期は不明であるが、古代の可能性はある。

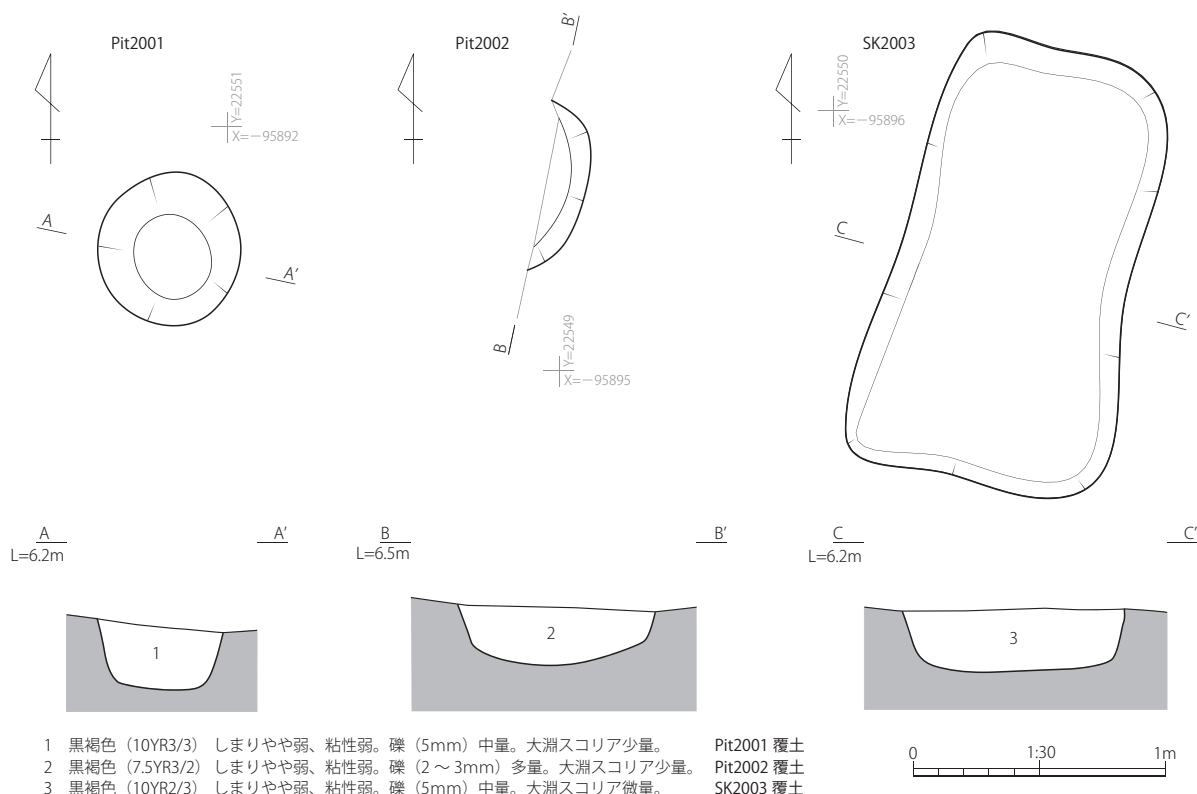
SK2003

調査区の中央、SD2001の南側で見出された土坑である。平面形は南北にやや長い隅丸長方形、断面形は方形を呈する。南北幅148cm、東西幅88cm、深さ25cmを測る。土師器片1点が見出されたが図化には至らなかった。遺構の時期は不明であるが、形態から近世の可能性はある。

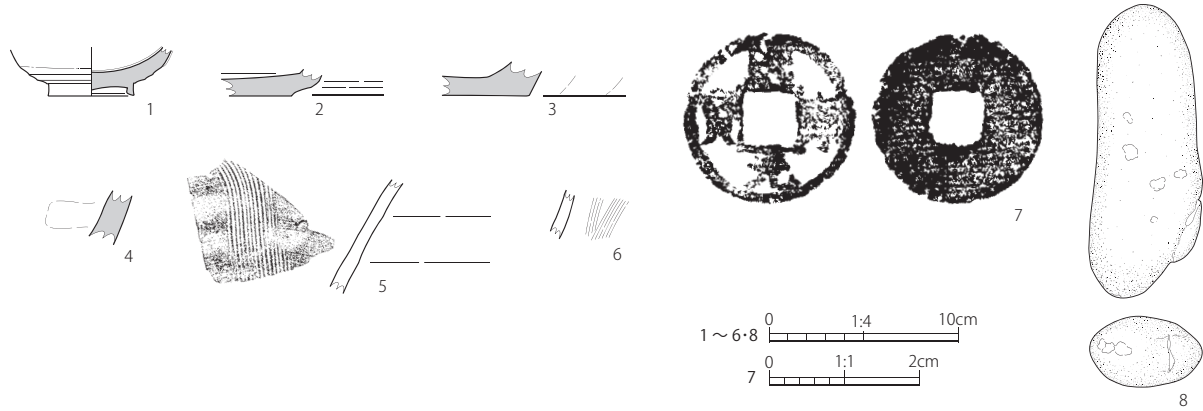
(3) 遺物

1はSX2001出土の碗である。高台は低く、内外面ともに釉が認められる。18世紀中葉の瀬戸・美濃産と考えられる。2は底部回転糸切り痕の残る古瀬戸後期の盤類と考えられる。3・4ともに、胎土・焼成ともに土器に近く、中世にさかのぼる可能性もある。4は常滑の甕の可能性が高い。5は近世のすり鉢で、17世紀後半と考えられる。

6はV層から出土した土器である。外面にケズリ



第175図 土坑・ピット 平面図・セクション図



第176図 出土遺物 実測図

第18表 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調	備考
						口径	底径	器高					
第176図1	R0007	PL.28	SX2001	陶器	碗	-	[4.5]	(2.6)	良好	40%	5YR4/4 (こぶい赤褐)	5YR4/4 (こぶい赤褐)	18世紀中葉
第176図2	R0007	PL.28	SX2001	陶器	盤類	-	-	(1.4)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/3 (浅黄)	古瀬戸後期
第176図3	R0007	PL.28	SX2001	陶器	甕?	-	-	(1.8)	良好	-	7.5YR6/4 (こぶい橙)	7.5YR6/4 (こぶい橙)	
第176図4	R0007	PL.28	SX2001	陶器	甕	-	-	(2.9)	良好	-	10YR5/2 (灰黄褐)	10YR5/2 (灰黄褐)	常滑か
第176図5	R0007	PL.28	SX2001	陶器	すり鉢	-	-	(6.0)	良好	-	2.5YR3/1 (暗赤灰)	2.5YR3/1 (暗赤灰)	17世紀後半
第176図6	R0011	PL.28	V層上面	土師器	-	-	-	(2.6)	良好	-	7.5YR5/4 (こぶい褐)	7.5YR5/3 (こぶい褐)	縄文土器の 可能性あり

挿図番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	備考
第176図7	R0004	PL.28		銭		「熙寧元寶」か

挿図番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
						長さ	幅	厚さ		
第176図8	R0003	PL.28	Pit1001	石器	敲石	14.5	5.9	3.7		安山岩

痕のようなものが確認される。縄文土器の可能性もあるが、弥生時代中期もしくは古墳時代前期の土器と想定される。7は北宋の「熙寧元寶」(初鑄1068年)の可能性はあるが、銭文がつぶれて判読しづらい。8は安山岩製の敲石である。

第3章 東平遺跡の調査

第1節 東平遺跡の概要

1 歴史的環境

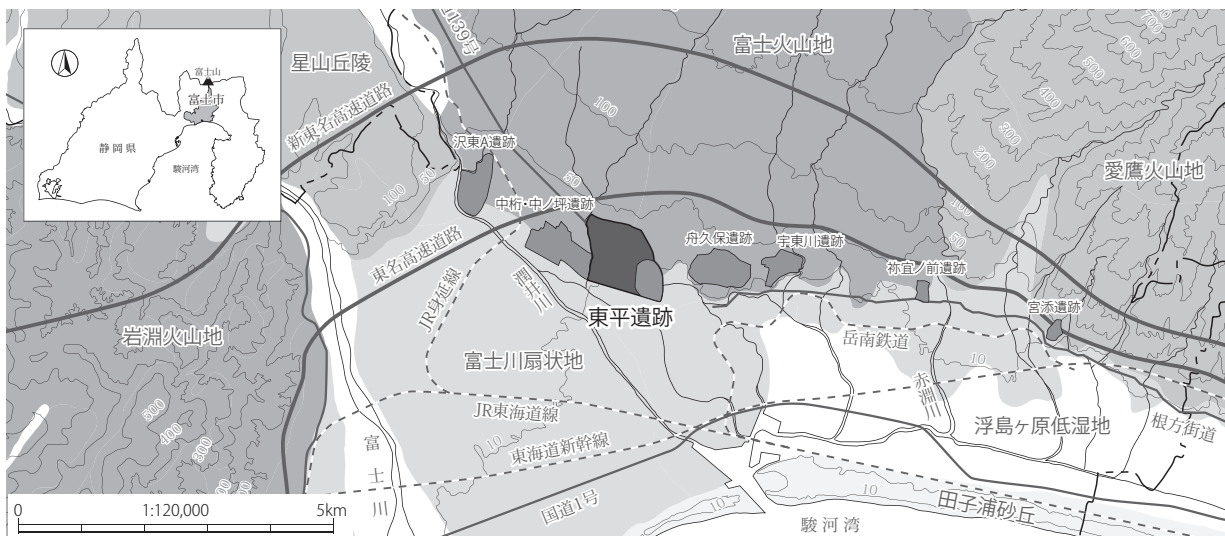
東平遺跡は、富士山南麓の大淵扇状地上に位置し、潤井川東岸に東西南北約1.2kmにわたって展開する集落遺跡である。駿河国富士郡の郡家と想定され、これまでの調査で300軒以上の竪穴建物跡、70棟以上の掘立柱建物跡が確認されている。

大淵扇状地における集落の萌芽は、古墳時代前期に遡る。潤井川流域では沢東A遺跡で僅かに遺構が確認されているほか、東平遺跡と中桁・中ノ坪遺跡でも小規模ながら集落が形成される。しかし、これらは大きな発展を見せることはなく、本格的な集落の出現は、古墳時代中期後半まで待たなければならない。

5世紀後半に入ると、沢東A遺跡で本格的に集落が営まれる。潤井川が東に流れを変える屈曲点に位置しており、初期須恵器が出土している。また、子持ち勾玉や石製模造品など、祭祀に関わるとみられる遺物や遺構も発見されており、水辺の祭祀を行う河岸の集落の姿が想像できる。建物数が増え、他集落に先駆けて中心的集落となった沢東A遺跡は、その後8世紀後半に至るまで、継続して営まれ続ける。

沢東A遺跡の集落形成と同じ頃、東平遺跡の西側に伊勢塚古墳が築造される。全長は52mに及び、幅7～8mの周溝を有する。円墳とされているが、周溝の形状などから、帆立貝形前方後円墳の可能性も指摘されている（富士市教育委員会1988）。被葬者は、沢東A遺跡をはじめとする潤井川流域の本格的な開発を主導的に行った集団の首長であると考えられており（富士市教育委員会2016）、駿河湾から河川を遡って来た際に見えるその立地から、権威を誇示するモニュメントの役割も担っていたと考えられる。伊勢塚古墳の出現を契機とし、中原古墳群では6世紀後半に中原第4号墳が造営される。さらに7世紀以降も、横沢古墳など多くの古墳が築造され、それらのほとんどが伝法沢以東に位置しているのである。こうした現象は、伊勢塚古墳造営以降、伝法沢川以東が墓域として認識されていたことを示している（佐藤2016）。

この頃、沢東A遺跡の南東に位置する中桁・中ノ坪遺跡でも、安定した集落が形成される。6世紀前半にひとつのピークを迎えているが、6世紀後半から7世紀後半までは、目立った展開はみられない。



第177図 東平遺跡の位置

7世紀前半、沢東A遺跡では爆発的に建物数が増加し、これがこの集落の最盛期となる。しかしこの隆盛は長くは続かず、後半期になると早くも縮小傾向をみせる。一方、5世紀の集落形成以来、細々と存続してきた東平遺跡は、この頃東へと集落規模を拡大している。富知六所浅間神社の近隣にあたる第16・28地区にその痕跡がみられ、そこは現在の駿河湾に注ぐ和田川の起点となっている。そのため、集落拡大の要因としては、川をくぐって駿河湾に出ることができること、沼津市や三島市方面へ向かう路の出発点であることなど、流通や交通の要所であったことによるものとみている（富士市教育委員会2013）。

同じ頃、伝法古墳群も広がりを見せ、東平集落の東で東平1号墳が築造される。この古墳からは丁字形利器、金銅製杓子形壺蓋、金銅製辻金具などの特殊な副葬品が出土しており、被葬者がいかに権威ある人物であったかを物語っている。古墳群は7世紀後半以降、終末期古墳が主体となり、その後8世紀にかけて展開していく。

8世紀に入ると東平遺跡は急速に発展し、周辺の遺跡を凌駕する大集落となる。それまで墓域とされていた集落縁辺部も居住域として活用され、規則的に整列した倉庫と思われる掘立柱建物群が建設される。第27地区では「布自」と書かれた墨書土器が出土している。富士郡家として成立した東平遺跡には、多くの人々が移住したとみられ、それを裏付けるように周辺集落では建物数が著しく減少する。かつて中心的集落として栄えた沢東A遺跡は、この時期急激に規模を縮小し、8世紀後半には消滅する。中桁・中ノ坪遺跡は継続するものの、前代に比べて遺構のあり方が不明瞭になる。これは居住域の移動によるものであり、東平遺跡の隆盛に連動しているとみられる（静岡県埋蔵文化財センター2013）。このように、東平遺跡における富士郡家の誕生は、周辺の集落にひとつの画期をもたらしたのである。なお、その北東に位置する滝下遺跡は東平集落の一部と考えられ、建物跡から銅製の鉞尾が出土している。

また、東平遺跡の東側（第16地区）では、8世紀前半の布目瓦が大量に出土している。この場所は三日市廃寺跡とされており、『日本三代実録』貞観

5年（863）6月2日条の「以駿河国富士郡法照寺預之定額」にみえる法照寺に比定される。同地区では三面庇の掘立柱建物が検出されており、寺院に関連する施設と考えられている。さらに、平成30年に実施した103地区の確認調査では、東西方向に直線的に延びる幅約4.2mの人工的な溝が検出されており、大規模な区画溝の姿が想定できる。これについても、寺院との関連性が指摘される。

造墓活動が継続する伝法古墳群にも、富士郡家成立の余波が訪れる。この頃に造営される西平1号墳では、帯金具や蕨手刀が副葬されており、被葬者の特異性を窺わせるが、築造時期からみても、富士郡の官吏の墓であると推定されている（富士市教育委員会2010）。しかし、こうした造墓活動は、8世紀後半には終わりを告げる。

9世紀になって東平が衰退を始めると、中桁・中ノ坪遺跡など、かつて東平遺跡への集住によって縮小した集落が、再び活発化する。この時期になると、郡家と関わりを持ちながら存続してきた宮添遺跡、舟久保遺跡、宇東川遺跡、祢宜ノ前遺跡などの根方街道沿いの集落でも、墨書土器や刻書土器が認められるようになる。10世紀の『扶桑略記』延喜2年（902）9月26日に記されるように、富士郡の官舎が消失したのち、郡家としての東平遺跡は終焉を迎える。そうした中で、東平遺跡と密接にかかわりながら存続してきた中桁・中ノ坪遺跡は、東平遺跡の衰退後も、10世紀前半に至るまで継続して集落が営まれるのである。

参考文献

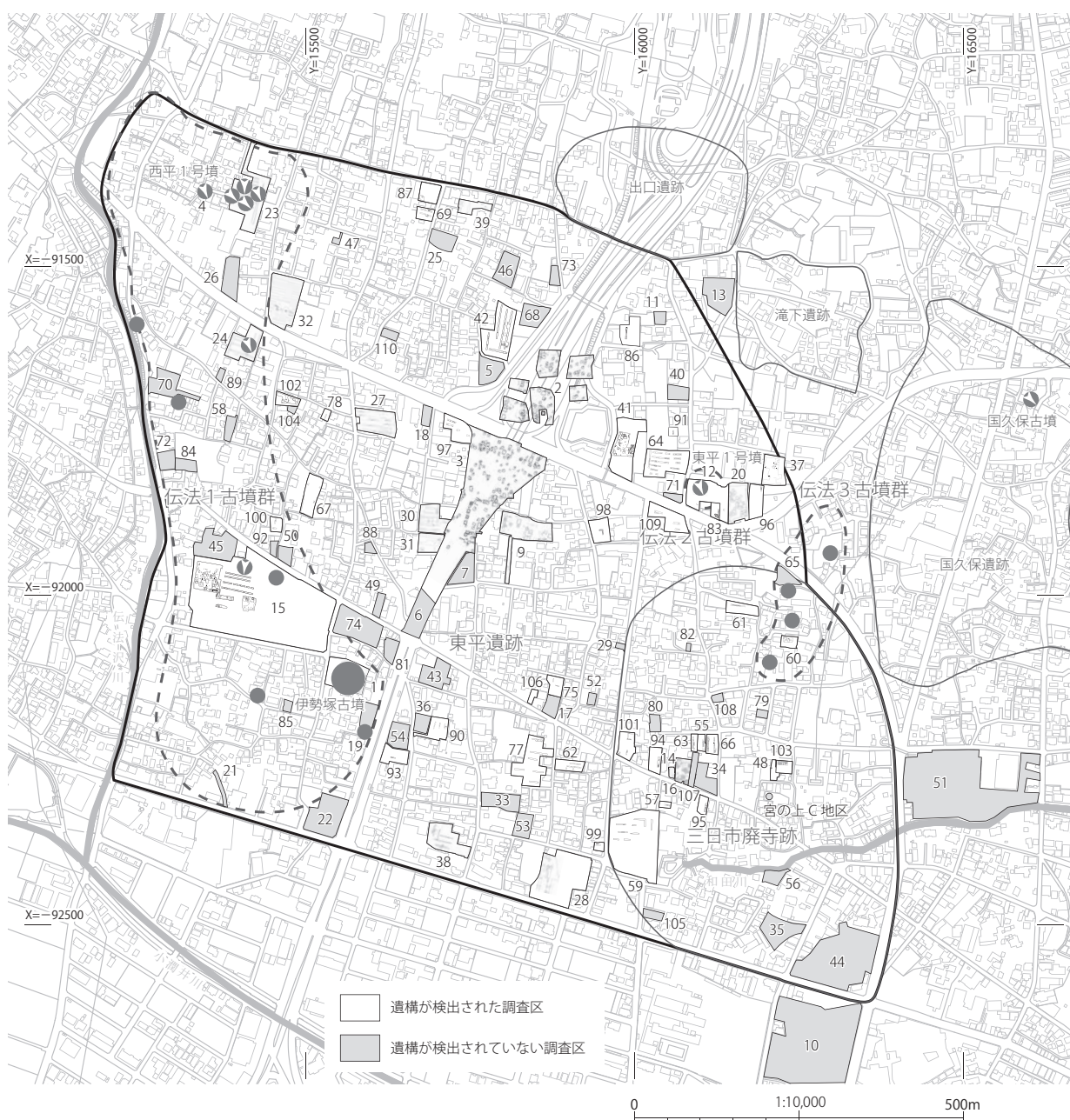
- 佐藤 祐樹 2016「伝法古墳群の展開と地域社会の成立」『伝法 中原古墳群』富士市埋蔵文化財調査報告 第59集
静岡県埋蔵文化財センター 2013『中桁・中ノ坪遺跡』静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第24集
富士市教育委員会 1988『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』
富士市教育委員会 2010「遺跡の概要」『東平遺跡 第15地区』
富士市教育委員会 2013「東平遺跡・三日市廃寺跡の調査」『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成22・23年度一』富士市埋蔵文化財調査報告 第54集
富士市教育委員会 2016『伝法 中原古墳群』富士市埋蔵文化財調査報告 第59集

2 調査履歴

東平遺跡の調査の歴史は、包蔵地内に存在する県指定史跡である伊勢塚古墳の調査から始まる。昭和33年のことであり、墓地造成工事に伴う本調査であった。現在は伝法1古墳群に属するものとして認識されている。集落としての本遺跡の調査は、昭和40年の東名富士IC建設工事に先立って実施された第2地区調査が最初となる。これ以降、伝法1古墳

群や三日市廃寺跡を含めた包蔵地内各所で調査が行われ、平成30年度までで110箇所を数える。遺構の時期はおおむね古墳時代から平安時代までの間に収まるものであり、遺物では中世にまでくだるものも発見されている。

調査履歴の詳細は、第178図と第19表に示した。



第178図 東平遺跡 調査履歴図

第19表 東平遺跡 調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
1地区	1次	S33	本調査	伝法 3103-1 外	墓地造成	1958****	葺石・石堤		
1地区	2次	S55	本調査	伝法 3103-1 外	墓地造成	19800721 ~ 19800820	葺石	埴輪片	C
1地区	3次	H12	試掘	伝法 3102-1 外	庫裡改築	20000906 ~ 20000908		土製品	
2地区		S40	本調査	伝法 2	東名富士 I・C建設	19650904 ~ 19651026	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器・鉄器	A
3地区		S53	本調査		西富士道路建設	19781201 ~ 19800812	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構	土師器・須恵器・鉄器	A・B
4地区		S54	本調査	伝法 2658	墓地造成	19790901 ~ 19790919	古墳(西平第1号墳)	直刀・蔽手刀・銅製腰帯具	C・D
5地区		S54	工事立会	伝法 2515-1	旅館建設	19800317	なし	なし	
6地区		S55	本調査		田子浦臨港線建設	19800401 ~ 19800531	なし	土師器	B
7地区		S55	本調査	伝法 2816	盛土	19800501 ~ 19800630	掘立柱建物跡・竪穴建物跡		
9地区		S63	本調査	伝法 2837 外	保育園建設	19880601 ~ 19880826	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑	土師器・須恵器・鉄鎌・刀子・勾玉・煙管・骨	H
10地区		S63	試掘	永田北町 130-1 外	店舗建設	19890301 ~ 19890308	なし	なし	E
11地区		H01	試掘	伝法 2425-5	住宅建設	19890818 ~ 19890824	土坑・ビット・溝状遺構	土師器・須恵器・陶磁器	F
12地区		H01	本調査	伝法 2369-1 外	貸事務所建設	19891115 ~ 19891229	古墳(東平第1号墳) 竪穴建物跡	直刀・鏡・丁字形利器	G
13地区		H02	試掘	伝法 2401-2	マンション敷地造成	19910318 ~ 19910319	なし	なし	
14地区		H01	学術調査	浅間上町 11-8	三門市廃寺跡範囲確認	19890414 ~ 19890502	竪穴建物跡・柱穴・土坑	土師器・須恵器・布目瓦	F
15地区	1次	H04	試掘	伝法 2743	小学校運動場整備	19920806 ~ 19920811	なし	円筒埴輪片	
15地区	2次	H18	試掘	伝法 2743	屋内運動場・給食棟建設	20060607 ~ 20060620			P
15地区	3次	H18	試掘	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20060724 ~ 20060727	竪穴建物跡		P
15地区	4次	H18	本調査	伝法 2743-2 外	屋内運動場・給食棟建設	20060802 ~ 20061130	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑(中村上第1号墳)	土師器(土師器・須恵器)・金属製品(馬具・刀子等)・石器	P
15地区	5次	H20	試掘	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20080826 ~ 20080827	なし	なし	P
15地区	6次	H20	本調査	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20081219 ~ 20090220	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝状遺構・性格不明遺構	土師器・須恵器	P
15地区	7次	H22	試掘	伝法 3116-1	小学校体育器具庫建設	20100722	なし	なし	R
16地区	1次	S55	試掘	浅間上町 2991-1 外	東平遺跡範囲確認	198008**	竪穴建物跡	土師器・灰釉陶器・瓦	J
16地区	2次	H04	試掘	浅間上町 2991-1 外	駐車場造成	19930311 ~ 19930329	竪穴建物跡・ビット	土師器・須恵器・瓦	J
16地区	3次	H05	学術調査	浅間上町 2991-1 外	三門市廃寺跡緊急調査	19940117 ~ 19940331	竪穴建物跡・土坑・ビット・瓦集中地点	土師器・須恵器 瓦・刀子・鉄釘	J
16地区	4次	H06	学術調査	浅間上町 2991-1 外	三門市廃寺跡緊急調査	19940411 ~ 19940622	竪穴建物跡・土坑・ビット		J
17地区		H05	試掘	伝法 2865-1 外	店舗建設	19930916			
18地区		H05	試掘	伝法 2529-2 外	住宅建設	19940203 ~ 19940208	溝状遺構	土師器・須恵器	
19地区		H06	試掘	伝法 3104-1 外	ガソリンスタンド建設	19941101 ~ 19941108		土師器片・須恵器片	
19地区	2次	H29	確認	伝法 3104-1 外	店舗建設	20170412 ~ 20170413	ビット	埴輪・瓦	X
20地区	1次	H07	試掘	伝法 2327-1 外	宅地造成	19950907 ~ 19950914	竪穴建物跡・土坑	土師器・須恵器	V
20地区	2次	H08	本調査	伝法 2327-1 外	宅地造成	19960527 ~ 19961027	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	V
21地区		H07	工事立会	伝法 3180-8	河川改修	199510**	なし	なし	
22地区		H07	試掘	伝法 3201-1 外	給油所建設	19960301 ~ 19960309	なし	土師器・須恵器・陶器	
23地区	1次	H07	試掘	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960311 ~ 19960319	古墳(西平第2号墳)	須恵器片	D
23地区	2次	H08	測量調査	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960415 ~ 19960510	古墳(西平第2~5号墳)		
23地区	3次	H08	本調査	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960507 ~ 19960531	古墳(西平第2~5号墳)		D
24地区	1次	H08	試掘	伝法 2619-1 外	斎場建設	19961125 ~ 19961209	竪穴建物跡	土師器・須恵器	D
24地区	2次	H08	本調査	伝法 2619-1 外	斎場建設	19961216 ~ 19970116	古墳(西平第6号墳) 竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	D
25地区		H09	試掘	伝法 2497-3	共同住宅建設	19970612 ~ 19970618	なし	なし	
26地区		H10	試掘	伝法 2619-95	店舗建設	19990118 ~ 19990121	なし	なし	
27地区	1次	H11	試掘	伝法 2527-1 外	本市場大淵線代替地造成	19990810 ~ 19990827	竪穴建物跡		J
27地区	2次	H11	本調査	伝法 2527-1 外	本市場大淵線代替地造成	20000111 ~ 20000125	竪穴建物跡	土師器・須恵器・菰編み用の石	J
27地区	3次	H15	試掘	伝法 2527-1 外	倉庫解体	20040203 ~ 20040204			M
28地区	1次	H11	試掘	伝法 3024-1 外	店舗建設	19991004 ~ 19991014	竪穴建物跡	土師器・須恵器	I
28地区	2次	H11	本調査	伝法 3024-1 外	店舗建設	20000203 ~ 20000517	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	I
29地区		H12	試掘	伝法 2879-3 地先	防火水槽築造	20010227	ビット(時期不明)		
30地区	1次	H12	試掘	伝法 2828-1 外	宅地造成	20010219 ~ 20010223	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑	土師器・須恵器	D
30地区	2次	H12	本調査	伝法 2828-1 外	宅地造成	20010307 ~ 20010319	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑	土師器・須恵器	D
31地区		H12	試掘	伝法 2829-1 外	宅地造成	20010307 ~ 20010313	住居跡	土師器・須恵器	D
32地区		H13	試掘	伝法 2559-2	店舗建設	20011203 ~ 20011210	竪穴建物跡・掘立柱建物跡		D
33地区		H16	試掘	伝法 3034-3 外	宅地造成	20041116 ~ 20041122	土坑	須恵器片・宋銭	K
34地区		H16	試掘	浅間上町 11-2	共同住宅建設	20041201 ~ 20041202		土師器片・須恵器片・布目瓦片	K

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
35 地区		H16	試掘	浅間本町 3415-9 外	共同住宅建設	20041004 ~ 20041008			K
36 地区		H15	試掘	伝法 3054-1	共同住宅建設	20030609			M
37 地区	1 次	H17	試掘	伝法 2331-2	共同住宅建設	20050601 ~ 20050617	竪穴建物跡	土器片	L
37 地区	2 次	H17	本調査	伝法 2331-2	共同住宅建設	20050804 ~ 20050812	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	L
37 地区	3 次	H19	試掘	伝法 2323-1 外	葬祭場建設	20071107 ~ 20071109	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器	N
37 地区	4 次	H19	本調査	伝法 2323-1 外	葬祭場建設	20080110 ~ 20080310	竪穴建物跡・ピット・土坑	土師器・須恵器	N
38 地区		H17	試掘	伝法 3068-1 外	共同住宅建設	20050830 ~ 20050909	竪穴建物跡	土師器・須恵器	L
39 地区		H17	試掘	伝法 2496-2	共同住宅建設	20050926 ~ 20050928	掘立柱建物跡		L
40 地区		H18	試掘	伝法 2396-12 外	住宅建設	20060425			L
41 地区	1 次	H18	試掘	伝法 2442-1 外	店舗建設	20070206 ~ 20070213			L
41 地区	2 次	H27	確認	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20150914 ~ 20150915	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器	W
41 地区	3 次	H27	確認	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20151214 ~ 20151215	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・石製品	W
41 地区	4 次	H28	本調査	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20160509 ~ 20160906	竪穴建物跡・土坑・ピット・性格不明遺構	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄器・石製品	W
42 地区		H19	試掘	伝法 2474-1 外	マンション建設	20070927 ~ 20071009	掘立柱建物跡・ピット	土師器・須恵器	M
43 地区		H20	試掘	伝法 2806-3 外	ホテル建設	20080415 ~ 20080416	溝	なし	O
43 地区	2 次	H29	確認	伝法 2806-3 外	不動産売買	20180208	ピット	なし	X
44 地区		H20	試掘	浅間本町 148-1 外	店舗建設	20090226 ~ 20090304	なし	なし	O
45 地区		H21	試掘	伝法 2743-2	まちづくりセンター改築	20090806 ~ 20090817	なし	なし	Q
46 地区		H21	試掘	伝法 2484-5	不動産売買	20100114 ~ 20100115	なし	なし	Q
47 地区		H21	試掘	伝法 2588-1	個人住宅建設	20100305	なし	なし	Q
48 地区		H22	試掘	浅間上町 2697-2	個人住宅建設	20100422 ~ 20100428	竪穴建物跡	土師器・須恵器	R
49 地区		H22	試掘	伝法 2804-12	不動産売買	20100608	なし	なし	R
50 地区		H22	試掘	伝法 2782-1 外	不動産売買	20100706 ~ 20100707	なし	なし	R
51 地区		H22	試掘	国久保二丁目 2161 外	店舗解体新築	20100826 ~ 20100827	なし	土師器・須恵器	R
52 地区		H22	試掘	伝法 2869-1	個人住宅建設	20101006 ~ 20101007	なし	なし	R
53 地区	1 次	H22	試掘	伝法 3031-1	共同住宅建設	20101201	なし	なし	R
53 地区	2 次	H22	試掘	伝法 3031-1	共同住宅建設	20101220	なし	なし	R
54 地区		H22	試掘	伝法 3106-1	動物病院建設	20101217	なし	なし	R
55 地区		H22	試掘	浅間上町 2978-6 外	個人住宅建設	20110127 ~ 20110128	竪穴建物跡	土師器・須恵器・瓦・灰釉陶器	R
56 地区		H22	試掘	浅間本町 3423-1	共同住宅建設	20110301	なし	土師器・石製品	R
57 地区		H23	試掘	浅間本町 2992-37 外	宅地販売	20110418	竪穴建物跡	土師器・須恵器・瓦	R
58 地区		H23	試掘	伝法 2708-1	個人住宅建設	20110614 ~ 20110615	なし	なし	R
59 地区	1 次	H24	試掘	浅間本町 5-1	社殿改築	20120724 ~ 20120821	竪穴建物跡・ピット	須恵器・土師器・瓦	S
59 地区	2 次	H25	確認	浅間本町 5-1	社殿改築	20131216	なし	なし	S
60 地区	1 次	H24	試掘	浅間上町 2921-2 外	個人住宅建設	20130220	竪穴建物跡	土師器・須恵器	S
60 地区	2 次	H25	本調査	浅間上町 2921-2 外	個人住宅建設	20130611 ~ 20130709	竪穴建物跡・ピット・土坑	土師器・須恵器・石器	S
61 地区		H25	確認	浅間上町 2902-23 の一部	宅地造成分譲	20130405	竪穴建物跡・ピット	灰釉陶器、土師器	S
62 地区	1 次	H25	確認	伝法 2988-1 外	宅地造成分譲	20130716 ~ 20130718	土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	S
62 地区	2 次	H25	確認	伝法 2988-1 外	宅地造成分譲	20130828	なし	なし	S
63 地区		H25	確認	浅間上町 2978-4 外	個人住宅建設	20130805 ~ 20130807	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝状遺構	土師器・須恵器・瓦	S
64 地区		H25	確認	伝法 2383-1 外	共同住宅建設	20131121 ~ 20131129	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器	S
65 地区		H25	確認	浅間上町 2912-2 外	個人住宅新築	20131211	なし	土師器	S
66 地区		H25	確認	浅間上町 2978-3	宅地造成・分譲	20140212 ~ 20140214	竪穴建物跡・溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	S
67 地区		H25	確認	伝法 2789-1 外	宅地造成	20131114	不明遺構	土師器	S
68 地区		H26	確認	伝法 2481-3 外	不動産売買	20140409 ~ 20140410	なし	なし	T
69 地区		H26	確認	伝法 2594 外	不動産売買	20140415 ~ 20140417	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・須恵器	T
70 地区		H24	試掘	伝法 2700-11 外	宅地分譲	20130319	なし	なし	S
71 地区		H26	確認	伝法 2380-1 外	不動産売買	20140714 ~ 20140715	なし	土師器	T
72 地区		H26	確認	伝法 2731-3 外	宅地造成	20140903	なし	なし	T
73 地区		H26	確認	伝法 2483-2 外	不動産売買	20140929	なし	なし	T
74 地区	1 次	H26	確認	伝法 2800-1	店舗建替	20141007 ~ 20141008	なし	なし	T
74 地区	2 次	H26	確認	伝法 2800	店舗建替	20141119 ~ 20141120	なし	なし	T
75 地区		H26	確認	伝法 2866-1	宅地造成	20141016 ~ 20141017	土坑・ピット	土師器・須恵器・鉄器	T
76 地区		H26	確認	伝法 3066	個人住宅建設	20141027	なし	須恵器	T
78 地区		H27	確認	伝法 2548-2	個人住宅建設	20150423	ピット	なし	T
77 地区		H27	確認	伝法 3040-1 外	宅地造成	20150727 ~ 20150729	竪穴建物跡	土師器・須恵器	T
79 地区		H28	確認	浅間上町 18-5	個人住宅新築	20160421	なし	なし	U
80 地区		H28	確認	浅間上町 2983-2 外	個人住宅新築	20160422	なし	なし	U
81 地区		H28	確認	伝法 2804-3	駐車場整備	20160803	なし	なし	U
82 地区		H28	確認	浅間上町 2895-14	不動産売買	20160920 ~ 20160921	なし	なし	U
83 地区	1 次	H28	確認	伝法 2370-1	敷地造成	20161003 ~ 20161004	竪穴建物跡・溝・ピット	土師器・須恵器	U
83 地区	2 次	H28	本調査	伝法 2370-1	敷地造成	20161204 ~ 20161207	竪穴建物跡・溝・土坑・ピット・性格不明遺構	土師器・須恵器・灰釉陶器・石器・鉄製品	U

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
84 地区		H28	確認	伝法 2723-1 の内 外	個人住宅新築	20161214	なし	なし	U
85 地区		H28	確認	伝法 3122-3	個人住宅新築	20161215	なし	なし	U
86 地区		H29	確認	伝法 2426 番 1	宅地分譲	20170406	土坑・ピット	土師器	X
87 地区	1 次	H29	確認	伝法 2595 番 1 外	不動産売買	20170418	土坑・ピット・溝状遺構	土師器	X
87 地区	2 次	H29	本調査	伝法 2595 番 1 外	建売住宅建設	20170529 ~ 20170601	土坑・ピット	土師器	X
88 地区		H29	確認	伝法 2795 番 12、13	不動産売買	20170523	なし	なし	X
89 地区		H29	確認	伝法 2619 番 48	保育事業所増設	20170804	なし	なし	X
90 地区		H29	確認	伝法 3054-2 外	アパート新築	20170913 ~ 20170914	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器	X
91 地区		H29	確認	伝法 2389-7 外	個人住宅新築	20171011	不明遺構・溝状遺構・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器	X
92 地区		H29	確認	伝法 2755-3、2755-1	宅地分譲	20171204	なし	土師器	X
93 地区		H29	確認	伝法 3098-7 外	不動産売買	20171205 ~ 20171206	溝状遺構(近世以降か)	土師器・灰釉陶器	X
94 地区		H29	確認	浅間上町 11-10	建売住宅建設	20180219 ~ 20180221	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦	X
95 地区		H30	確認	浅間本町 2992 番 4 ほか	個人住宅	20180514 ~ 20180516	竪穴建物跡	土師器・須恵器・瓦	本書
96 地区		H30	確認	伝法 2326-4	個人住宅	20180521 ~ 20180523	竪穴建物跡	土師器・須恵器	本書
97 地区		H30	確認	伝法 2518-1	住宅展示場新設	20180529 ~ 20180531	土坑・ピット	土師器・須恵器	本書
98 地区		H30	確認	伝法 2449-1 ほか	集合住宅新築	20180612 ~ 20180613	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器	本書
99 地区		H30	確認	伝法 3011-4 ほか	宅地分譲	20180702	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器	本書
100 地区		H30	確認	伝法 2754-8	集合住宅新築	20180718	竪穴建物跡・溝・ピット	土師器	本書
101 地区	1 次	H30	確認	浅間上町 2984-1	店舗建設	20180807	溝状遺構	土器	本書
101 地区	2 次	H30	確認	浅間上町 2984-1	店舗建設	20181107	ピット	土器	本書
101 地区	3 次	H30	確認	浅間上町 2984-1 ほか	サインポール設置	20190128	溝状遺構・ピット	なし	本書
101 地区	4 次	H30	本調査	浅間上町 2984-1 ほか	サインポール設置	20190129	土坑・ピット	なし	本書
102 地区	1 次	H30	確認	伝法 2551-1 ほか	不動産売買	20180806	ピット	なし	本書
102 地区	2 次	H30	本調査	伝法 2551-1 ほか	宅地造成	20181023 ~ 20181122	土坑・ピット	土器(奈良・平安)・陶磁器(中世)	本書
103 地区	1 次	H30	確認	浅間上町 2967-1	宅地分譲	20180821	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝	土器・瓦・鉄製品	本書
103 地区	2 次	H30	確認	浅間上町 2967-1	宅地分譲	20180905 ~ 20180907	竪穴建物跡・溝・ピット・不明遺構	土器・陶器	本書
104 地区		H30	確認	伝法 2550-1	個人住宅新築	20180831	なし	なし	本書
105 地区		H30	確認	浅間本町 92-1 ほか	個人住宅新築	20180910	なし	なし	本書
106 地区		H30	確認	伝法 2863-3	個人住宅新築	20181018	竪穴建物跡?・ピット・溝	なし	本書
107 地区		H30	確認	浅間本町 2991-6 ほか	個人住宅新築	20181024	なし	土器・土製品	本書
108 地区		H30	確認	浅間上町 2896 番 12	個人住宅新築	20181113	なし	なし	本書
109 地区		H30	確認	浅間上町 2372-1	店舗建設	20190122 ~ 20190123	竪穴建物跡・土坑	土器・鉄製品	本書
110 地区		H30	確認	伝法 2503-9	集合住宅新築	20190318	なし	なし	本書

【報告書】

- A 『西富士道路(富士地区)・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』「東平」(1981)
- B 『西富士道路(富士地区)・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』「伝法遺跡群」(1981)
- C 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』(1983)
- D 『東平遺跡発掘調査報告書』(2003)
- E ファイル『昭和 63 年度発掘調査概報』(1988)
- F ファイル『平成元年度発掘調査概報』(1989)
- G 『東平第 1 号墳 発掘調査概報』(1990)
- H 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書第 3 集 東平遺跡第 3 次調査』(1992)
- I 『東平遺跡 第 28 地区発掘調査報告書』(2001)
- J 『東平遺跡 第 16 地区(三日月庵寺跡)、第 27 地区発掘調査報告書』(2002)
- K 『平成 16 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2006)
- L 『平成 17・18 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2008)
- M 『平成 15・19 年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
- N 『東平遺跡』(2009)
- O 『平成 14・20 年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
- P 『東平遺跡第 15 地区』(2010)
- Q 『平成 21 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
- R 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成 22・23 年度一』(2013)
- S 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成 24・25 年度一』(2015)
- T 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成 26・27 年度一』(2017)
- U 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成 28 年度一』(2017)
- V 『東平遺跡 第 20 地区』(2017)
- W 『東平遺跡 第 41 地区』(2018)
- X 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成 29 年度一』(2019)

第2節 第101地区の調査成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（以下、事業者）は富士市浅間上町2984-1ほか（1,225.05㎡）において、店舗建設を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「三日市廃寺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年8月1日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、8月6日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第480号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

なお、「三日市廃寺跡」の包蔵地範囲は「東平遺跡」の範囲に内包されるため、東平遺跡の地区名を付与している。

(2) 確認調査・工事立会い

【1次調査】 確認調査は平成30年8月7日に行った。対象地の中央に東西方向に1箇所のトレンチを設定し（1Tr、8.291㎡）、アスファルトカット後、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、地表下60～70cmほどの深さで、奈良・平安時代の遺構が残存することが明らかとなった。検出された溝状遺構（SD1001～1002）は何らかの区画を目的としたものと考えられる。

また、少量ではあるが奈良・平安時代に位置づけられる土器片が出土したため、8月8日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第482号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第482-2号）を提出した。これは、8月28日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1132号）。

8月10日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第494号）を提出し、事



第179図 東平遺跡第101地区 位置図

業者と埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

【2次調査】 1次調査の終了後、工事計画が定まり、切り土工事が必要となる部分が発生したことから、11月5日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出し（富市文発第788号）、改めて文化振興課職員による確認調査を行うこととなった。

2次調査は平成30年11月7日に行った。対象地の南側に南北方向に1箇所のトレンチを設定し（2Tr、12.447㎡）、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、1次調査と同様に地表下60～70cmほどの深さで、奈良・平安時代の遺構が残存することが明らかとなった。

2次調査においても、少量ながら奈良時代の土器片が出土したため、11月8日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第800号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第800-2号）を提出した。これは、12月10日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1741号）。

11月13日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第818号）を提出した。

【工事立会】 2度の確認調査の結果、対象地内には埋蔵文化財が残存していることが明らかとなった

が、保護層が確保される工事計画となったため、12月13日、県教育長より工事立会い指示が通知された(教文第1774号)。平成31年1月10日、店舗建築物の基礎掘削時に文化振興課職員による工事立会いを実施し、対象地の北部分で、1次調査の溝状遺構とつながる可能性のある遺構プランを確認し記録した。遺物は発見されなかった。

【3次調査】新たに、対象地南西隅へのサインポールの設置が計画され、遺跡に影響を及ぼす可能性があることから、平成31年1月25日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出し(富市文発第1008号)、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

3次調査は平成31年1月28日に行った。サインポール設置部分をトレンチとして設定し(3Tr、16.585㎡)、重機による表土除去後、人力により遺構・遺物の発見に努めた。その結果、地表下40cmほどで、ピットなどの遺構プランが検出された。遺物は発見されなかった。

1月28日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第1009号)を提出した。

(3) 本発掘調査

3次調査の結果を受け、事業者から提出されていた文化財保護法第93条に基づく届け出に対して、1月28日、県教育委員会からサインポール設置部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第1985号)。同日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出し(富市文発第1021号)、文化振興課職員による本発掘調査を行うこととなった。

本発掘調査は1月29日に行った。調査の結果、土坑1基(SK4001)、ピット3基(Pit4002～4004)を完掘し、記録保存を行った。本発掘調査において遺物は出土しなかった。

2月12日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第1064号)を提出した。

(4) 調査の体制

三日市廃寺跡(東平遺跡第101地区)に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
(平成30年12月23日まで)

森田 嘉幸

(平成30年12月24日から)

[担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一

文化振興課 課長 久保田伸彦

文化財担当 統括主幹 植松 良夫

主幹 石川 武男

調査担当者 主査 佐藤 祐樹

主事 伊藤 愛

臨時職員 小島 利史

若林 美希

志崎江莉子

(平成30年12月1日から)

2 調査の成果

(1) 確認調査および工事立会い

対象地中央に東西方向に設定した1トレンチでは、地表面下60～70cmの深さで2本の溝状遺構(SD1001～1002)とピット2基(Pit1001～1002)を検出した。

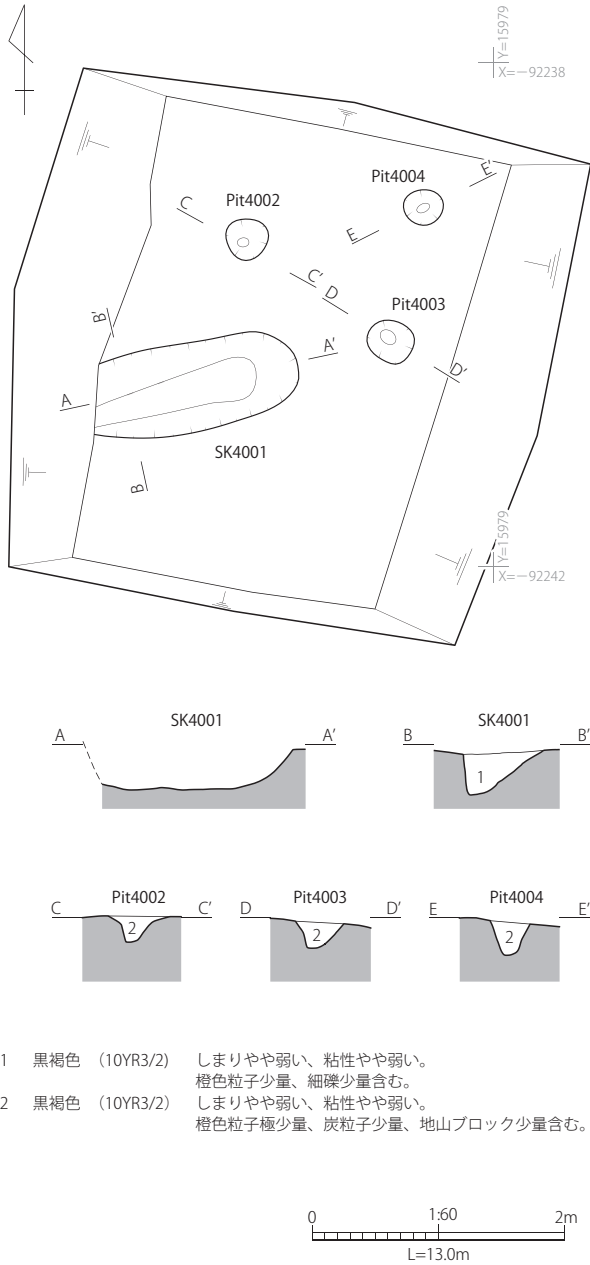
SD1001は南北方向に走る溝で、セクション部分の規模は幅約145cm、深さ約30cmを測る。図化できないものの、出土遺物には9世紀の甕や、中世の可能性のある甕がある。また、工事立会い時に北側で検出された遺構プランは、SD1001とつながる可能性がある。SD1002も南北方向に走る溝で、幅約100cm、深さ約30cmを測る。Pit1001は検出径約30cm、Pit1002は約60cmである。

対象地南側に南北方向に設定した2トレンチでは、地表面下70cmの深さで、密集する14基のピット(Pit2001～2014)を検出した。ピットの規模は径30～60cmを測り、深さは確認できたもので約30cmである。

対象地の南西隅に方形に設定した3トレンチでは、溝状遺構1条(SD3001)とピット6基(Pit3001～3006)を検出した。3トレンチの範囲はそのまま本調査区へと移行した。



第180図 確認調査トレンチおよび工事立会範囲 配置図・セクション図



- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い。
橙色粒子少量、細礫少量含む。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い。
橙色粒子極少量、炭粒子少量、地山ブロック少量含む。

第20表 土坑・ピット 一覧表

遺構番号	遺構種別	規模 (cm)			断面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SK4001	土坑	(166)	68	45	U字形	なし
Pit4002	ピット	32	30	20	U字形	なし
Pit4003	ピット	36	31	20	U字形	なし
Pit4004	ピット	28	25	27	U字形	なし

1次調査および2次調査では少量の遺物が出土したが、図化には至らなかった。工事立会いおよび3次調査では遺物は出土しなかった。

(2) 本発掘調査

本調査では、3トレンチで検出した遺構プランについて精査を行った。

その結果、Pit3001・Pit3003・Pit3005は遺構ではないことが確認された。また、確認調査では溝状遺構と考えたSD3001については土坑と判断した。土坑1基(SK4001)、ピット3基(Pit4002～4004)を完掘し、記録保存を行った。規模等の詳細は第20表に示す。

遺物は出土しなかった。

第181図 本調査区 平面図・セクション図

第3節 第102地区の調査成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者3名(個人)は、富士市伝法2551-1ほか(面積575.64㎡)において宅地造成工事を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」に該当することから、平成30年6月26日、富士市教育委員会教育長宛(文化振興課)に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」「発掘調査承諾書」を提出した為、確認調査を実施する事となった。

(2) 確認調査

確認調査は平成29年8月6日に行った。調査では、敷地内の1箇所にトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による遺構精査に努めた。その結果、ピットなどの遺構が確認された。

8月14日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第503号)を提出し、事業者との間で埋蔵文化財の保護に対する対応について協議を開始した。

(3) 本発掘調査

事業者との協議の結果、今回の工事計画では遺跡の保護が図れないことが判明した。平成30年9月11日、事業者は工事計画に基づき、埋蔵文化財発掘の届出書を静岡県教育委員会教育長に提出し、9

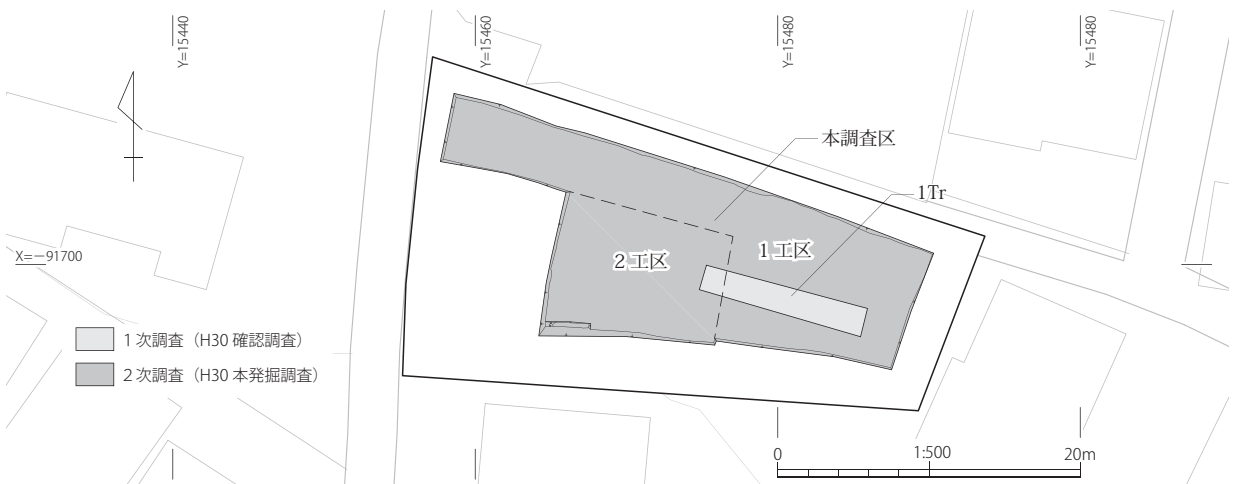
月13日付で本発掘調査依頼書を市教育委員会に提出した。9月19日、静岡県教育委員会教育長より、敷地全面の調査を実施するよう事業者へ通知がなされ(教文第1250号)、これによって本発掘調査を実施することとなった。

平成30年10月9日、事業者3名と富士市長、市教育長の五者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて各事業者と富士市長の二者間で「平成30年度 東平遺跡発掘作業に関わる業務委託契約」を締結し、本発掘調査を実施するに至った。なお、発掘調査は富士市教育委員会の補助執行機関である市民部文化振興課が担当した。

本発掘調査は、平成30年10月23日～平成30年11月22日の期間に行った。



第182図 東平遺跡第102地区 位置図



第183図 確認調査トレンチおよび本調査区配置図

まず、敷地境界にバリケードを設置し、安全面の確保に努めたのち、バックホーによって敷地の北半部および東部の表土除去を行い、これを1工区とした。地山面までの表土掘削終了後、人力精査による遺構検出を経て、遺構の掘削、写真や測量などの記録作業を行った。

1工区の調査終了後、埋め戻しと併行して敷地南西部にあたる2工区の掘削を開始し、同様の内容の調査を行った。事業者との協定により、2工区の埋め戻しは行わずに現場の引渡しに至った。平成30年11月22日、事業者に対する発掘作業の完了報告を経て、平成30年12月7日、事業者と県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第872号）を提出した。その後、業務委託金の変更契約、精算をもって発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

以下、調査経過を日誌より抜粋する。

- 10月23日 重機による1工区表土掘削開始。コンテナ設置部分を先行調査。旧地形確認。
- 10月24日 1工区表土掘削完了。人力による遺構精査開始。
- 10月25日 1工区検出写真撮影。
- 10月26日 遺構掘削開始。写真記録や測量を併せて行う。
- 10月30日 掘削完了。TS計測や図面作業のみ。
- 11月1日 高所作業車による1工区完掘写真撮影。
- 11月2日 1工区埋め戻し。
- 11月5日 重機による2工区表土掘削。人力による遺構精査。
- 11月7日 2工区検出写真撮影。測量作業。
- 11月8日 遺構掘削開始。測量作業。
- 11月14日 測量作業のみ。
- 11月20日 高所作業車による2工区完掘写真撮影。
- 11月21日 器材撤収。道具洗浄。
- 11月22日 調査終了。

(4) 整理作業

事業者3名と富士市長、市教育長の五者間で締結された文化財調査に関する協定に基づき、調査終了後の令和元年6月10日、事業者と富士市長の二者

間で整理作業に関わる業務委託契約が締結され、調査記録および出土遺物の整理作業を開始した。

令和元年10月31日、東平遺跡第102地区2次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって、すべての業務委託契約が完了した。

(5) 調査の体制

東平遺跡第102地区の発掘調査に関わる一連の作業は、以下の体制で実施した。

【発掘調査体制】

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 [担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 主事 伊藤 愛
 調査員 小島 利史
 若林 美希
 臨時職員 牧野かおり
 渡辺美規子
 発掘作業員 社団法人富士市シルバー人材センター

【整理作業体制】

[作業主体] 富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸
 [担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 整理担当者 主査 佐藤 祐樹
 上席主事 藤村 翔
 調査員 小島 利史
 若林 美希
 志崎江莉子
 臨時職員 稲葉万智子
 井上 尚子
 小田 貴子
 金田 純子
 牧野かおり
 渡辺美規子

2 調査成果

(1) 確認調査

確認調査では東西方向に1本(1Tr)のトレンチを設定し、重機による表土掘削後、人力精査によりピット7基(Pit1001～1007)を確認した。後世の攪乱が激しく、遺構の上層はほとんど削平を受けていた。遺物の出土はなかったものの、覆土の様相から古代の遺構と考えた。

(2) 本調査

本調査では、土坑・ピット71基(Pit2001～2077、一部欠番含む)が検出された。確認調査と同様、遺構の上層は削平を受け、調査区の各所に攪乱が入る。確認調査時よりも地面を強めに削ったため、確認調査で検出した遺構のほとんどは消失してしまった。

旧地形は、大淵扇状地堆積物が北東から南西に向かって傾斜し、調査区南西部では旧表土を含め地山が比較的厚く堆積する。調査区内には溶岩の露頭が各所で見られ、その間を縫うように、ピット・土坑が調査区の全域に散在していた。これらの遺構は完掘ののち、記録保存を行った。土坑・ピットの規模等の詳細は第21表に示す。なお、本書では断面で分層できた遺構のみを図示した。

遺物は少量ながら土師器・須恵器・中世陶器が出土した。攪乱内や表土からの出土が多く、土がかなり攪拌されていた。遺物の詳細については、第22表に示す。

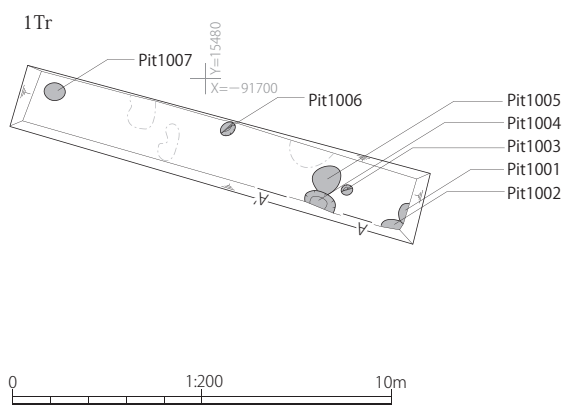
(3) 出土遺物

14点の遺物が出土した。内訳は土師器3点、須恵器2点、かわらけ2点、瀬戸美濃2点(うち壺もしくは瓶1点、縁釉小皿1点)、常滑3点(うち片口鉢2点、甕1点)、志戸呂1点、不明1点である。このうち4点を図化した(第192図)。

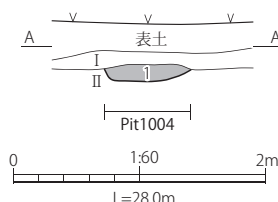
1は縁釉小皿の底部である。口縁部は残存しないため、釉については明らかでないが、灰釉もしくは鉄釉が施釉してあったと考えられる。古瀬戸後期の所産である。2は瀬戸美濃の瓶の胴部で、外面に灰釉を施釉する。時期は古瀬戸中期にあたる。3は常滑の甕で、15世紀に属するものである。4は須恵器の底部片である。有台坏身で、底部が平坦面を呈しており、9世紀の所産と考えられる。

今回図化した遺物のうち、中世にあたる遺物は、おおむね14～15世紀を主体とする。ただし、図化はしていないが、常滑の片口鉢でI類に属するとみられるものも出土しているため、遺跡の時期としては12～13世紀も含むことが出来る。

なお、これまで東平遺跡は古墳～奈良・平安時代の遺跡とされ、中世は対象外としてきた。しかし、近年行った遺物の再検討によって中世の遺物が改めて確認され、この時期にも人的活動があったことが証明されつつある。さらに、今回の調査において数点の中世遺物が出土したことにより、遺跡の内容変更を県教育委員会に申請し、中世を本遺跡の対象時期に含めることとなった。



1Tr 東西セクション南壁



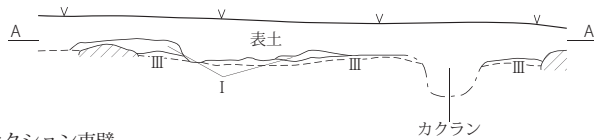
- | | | |
|---------------------|-----------------------------|------------|
| I 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱。橙色粒子微量。礫(5mm)少量。 | |
| II にぶい黄褐色 (10YR5/4) | しまりやや強、粘性弱。礫(2～3cm)多量。地山 | |
| 1 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性弱。橙色粒子少量。礫(5mm)少量。 | Pit1004 覆土 |

第184図 確認調査 トレンチ平面図・セクション図

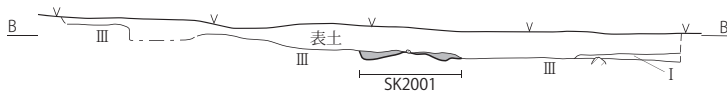


第185図 本調査区 全体図

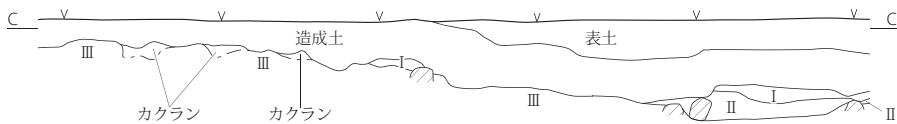
1工区東西セクション北壁



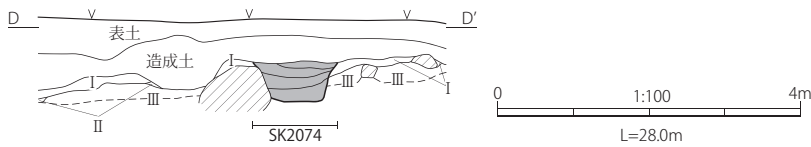
1工区南北セクション東壁



2工区東西セクション南壁



2工区南北セクション西壁



- | | | |
|-------------------|---------------------------|----------|
| I 黒色 (10YR2/1) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子少量。 | 地山 |
| II 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子中量。細礫少量。 | 地山 |
| III 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性弱。岩を含む。 | 大潮扇状地堆積物 |

第186図 本調査区 基本土層図

3 総括

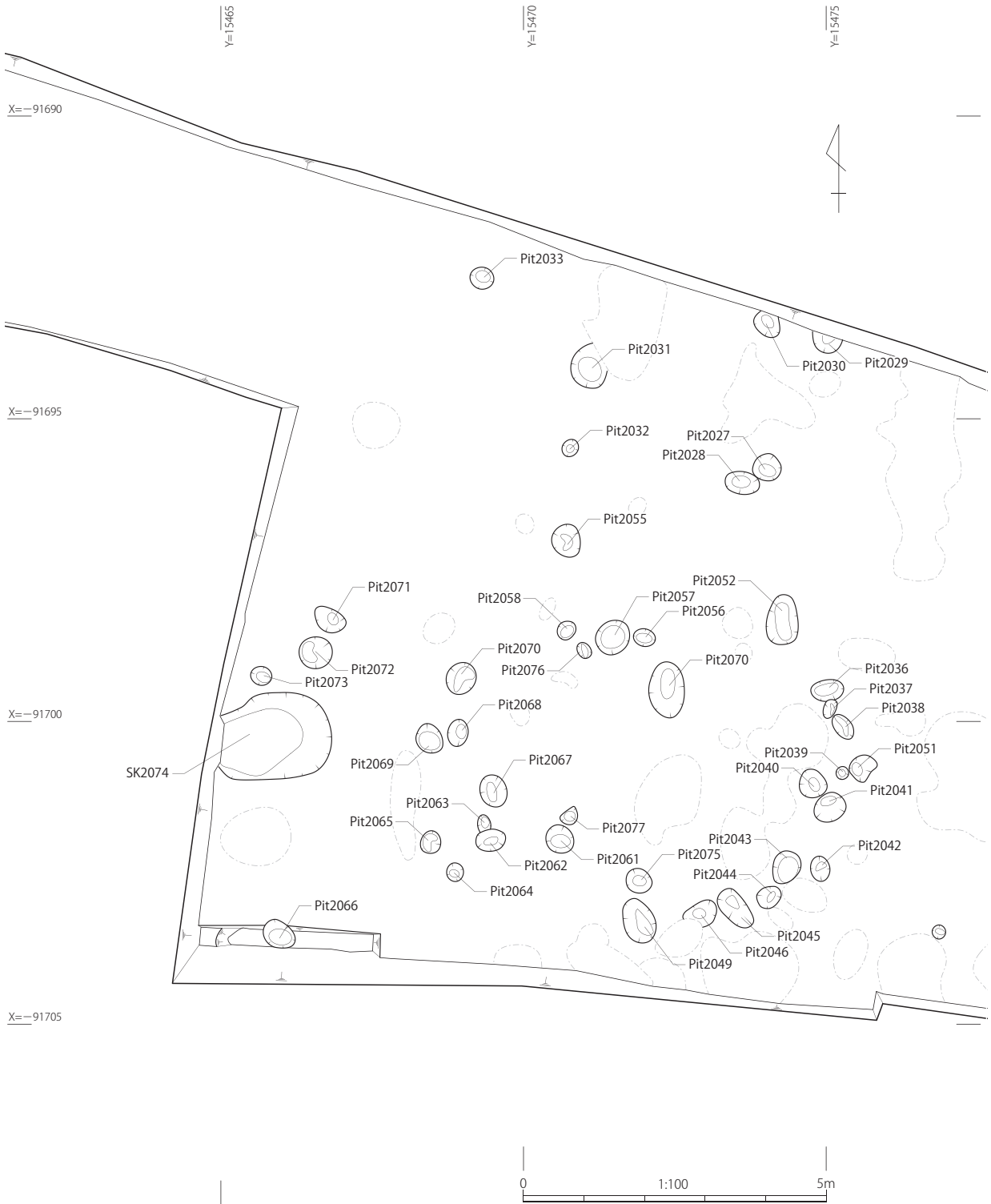
今回の調査において検出した遺構は、土坑・ピット71基である。消失してしまった確認調査の7基も含めると、本調査区における遺構は土坑・ピット78基に及ぶ。内訳は、土坑6基、ピット72基である。遺構出土の土器が極めて少ないため、時期については明確でないが、ピットから土師器が出土していることや覆土の様子から、その多くが古代のものと考えて良いだろう。ただし、撓乱から中世遺物が出土しているため、なかには中世にくだる遺構もある可能性を指摘しておきたい。

本調査区の東方約300m地点は、昭和53年の西富士道路建設工事に伴う調査が行われた第3地区にあたる。第3地区では多くの竪穴建物跡や方形に配置された掘立柱建物群が検出され、東平遺跡の全盛期の様子を窺い知ることができる調査であった。また、第3地区の北は昭和40年に実施された東名富士IC建設工事に伴う第2地区調査地点であり、ここでも数多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡が発見されている。東平遺跡は古代富士郡の郡家であったとされているが、政庁にあたる遺構は確認されておらず、いまだ不明な点が多い。しかし、建物跡の分布状況から、第2・第3地区付近が富士郡家発展期における集落の中心部であったと考えられる。

今回の調査地は、遺構の残存状況が極めて悪く、竪穴建物跡は確認されなかった。また、数多くのピッ

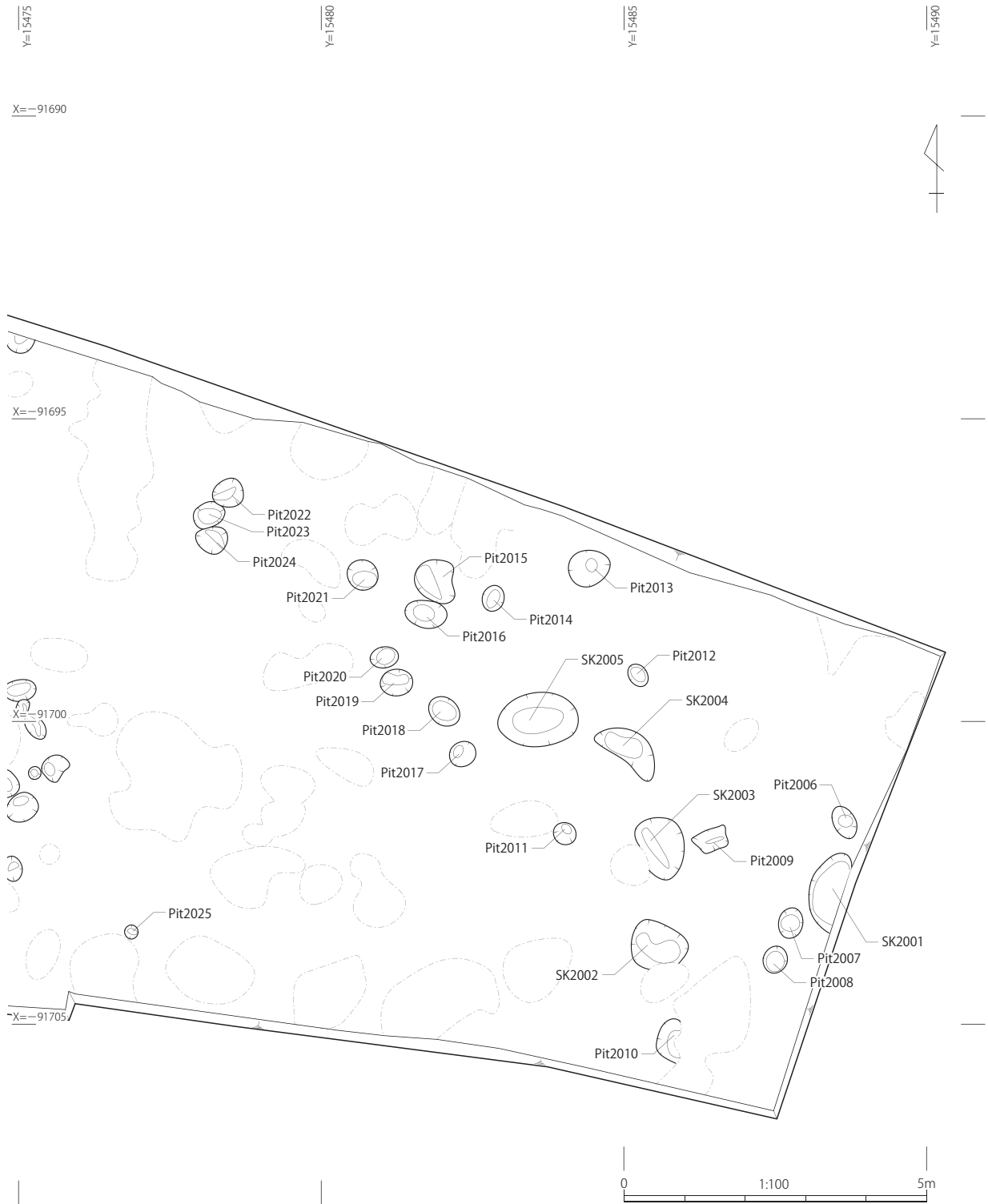
トを検出したものの、掘立柱建物跡を構成するような配列は確認できない。本調査地の東側には伝法1古墳群が伝法沢に沿って展開しているが、東平遺跡が発展する8世紀には、古墳群の範囲内にも集落が進出している。同古墳群の範囲内である第15地区調査地点でも、古墳に近接する場所で多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されているため、この頃にはかつての墓域は居住域として再構成されたようである。本調査地がこうした場所に立地しているにも関わらず、建物跡が確認されなかったのは、後世の削平の影響によるものというより、もともとこの場所には建物が存在していなかったと考えるのが妥当であろう。ただし、本調査地の近隣における過去の調査では、竪穴建物跡と共に「布自」の墨書が施された坏が出土した例もあり（第27地区）、周辺にも居住空間が広がっていたことは間違いない。

本調査地の近隣住民の話によれば、昭和期に当該地に住宅が建てられる以前は、この一帯は桑畑などの畑地であったという。こうした開墾や開発などにより、既に失われた遺構や遺物もあるだろうが、今回の調査において、中世における東平遺跡の存続が確たるものになったことは、意義のある結果だったといえる。今後の調査による更なる事例と、中世期における遺構の発見を期待し、まとめとしたい。

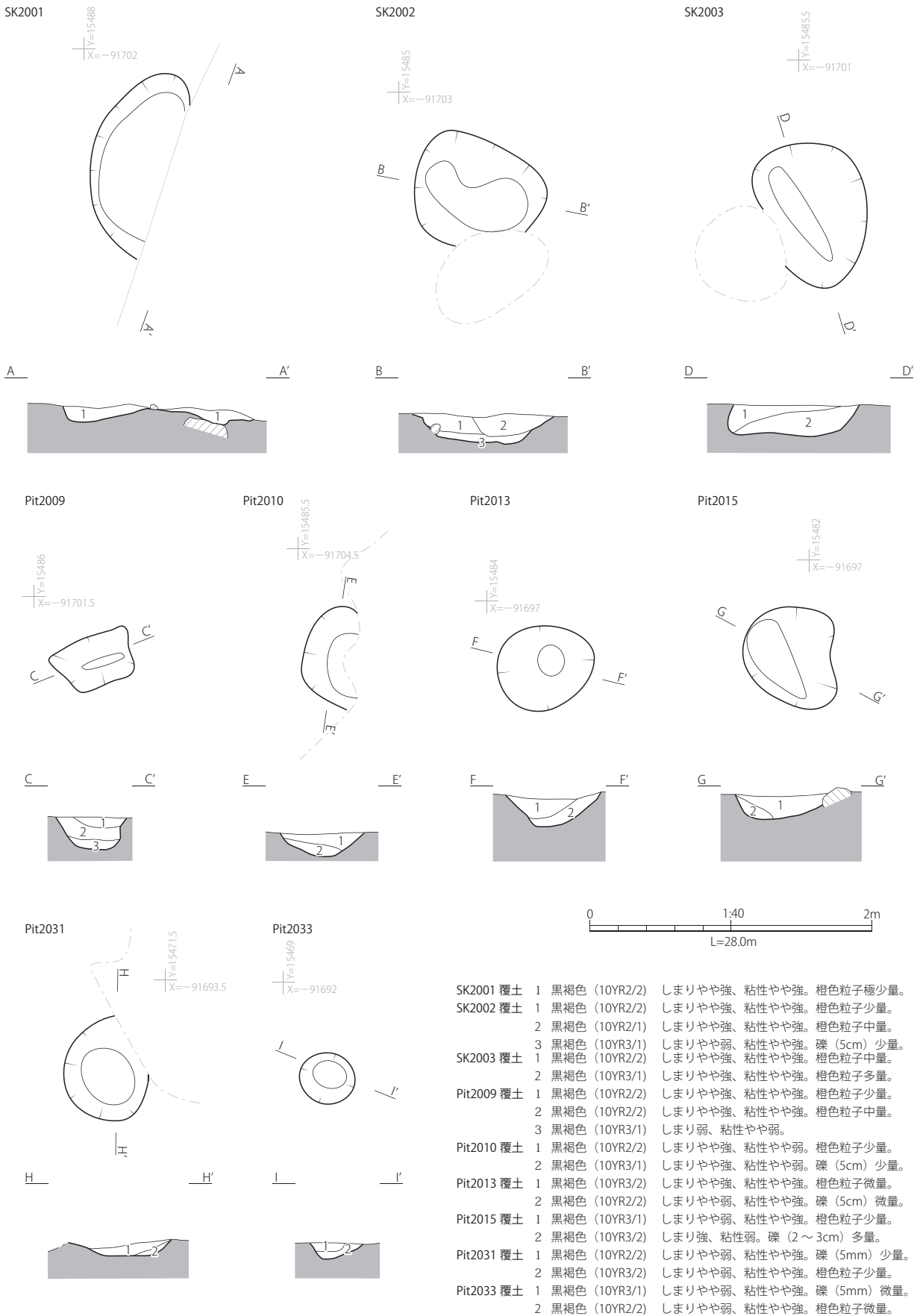


- 土坑・ピット覆土
- A 黒色 (10YR2/1) しまりあり、粘性ややあり。橙色粒子少量。地山ブロック少量。
 - B 黒褐色 (10YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。橙色粒子微量。細礫少量。
 - C 黒褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性やや弱。細礫中量。

第 187 図 土坑・ピット平面図 (西側)

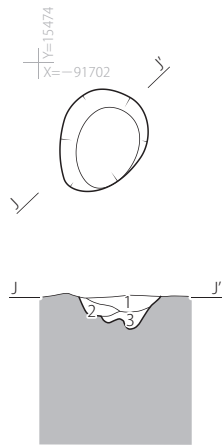


第188図 土坑・ピット平面図（東側）

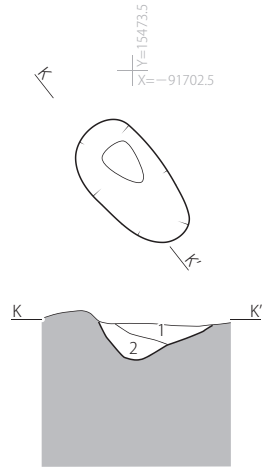


第189図 土坑・ピット 個別平面図・セクション図1

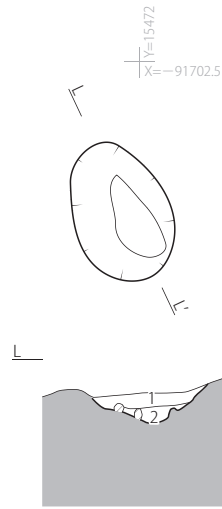
Pit2043



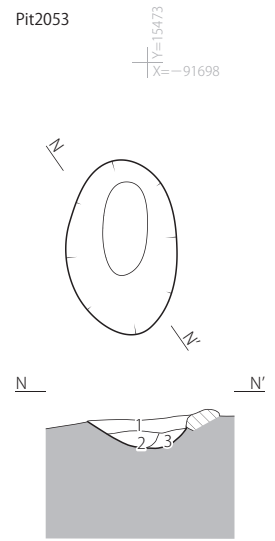
Pit2045



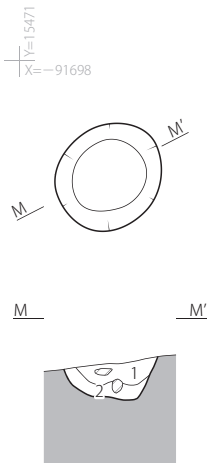
Pit2049



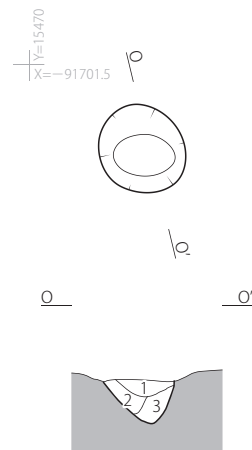
Pit2053



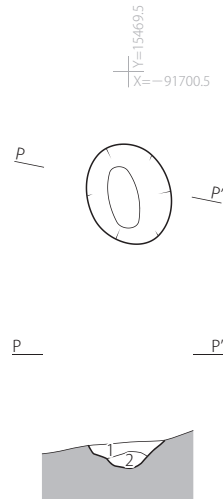
Pit2057



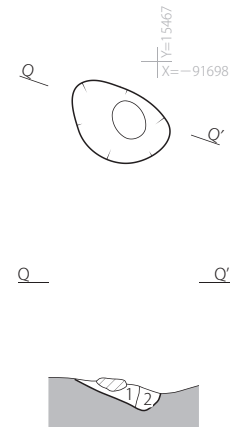
Pit2061



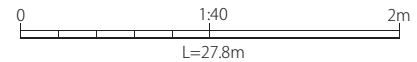
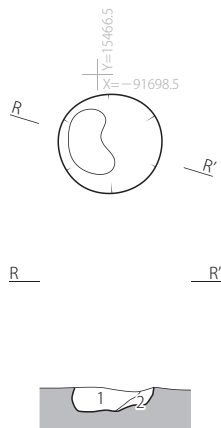
Pit2067



Pit2071

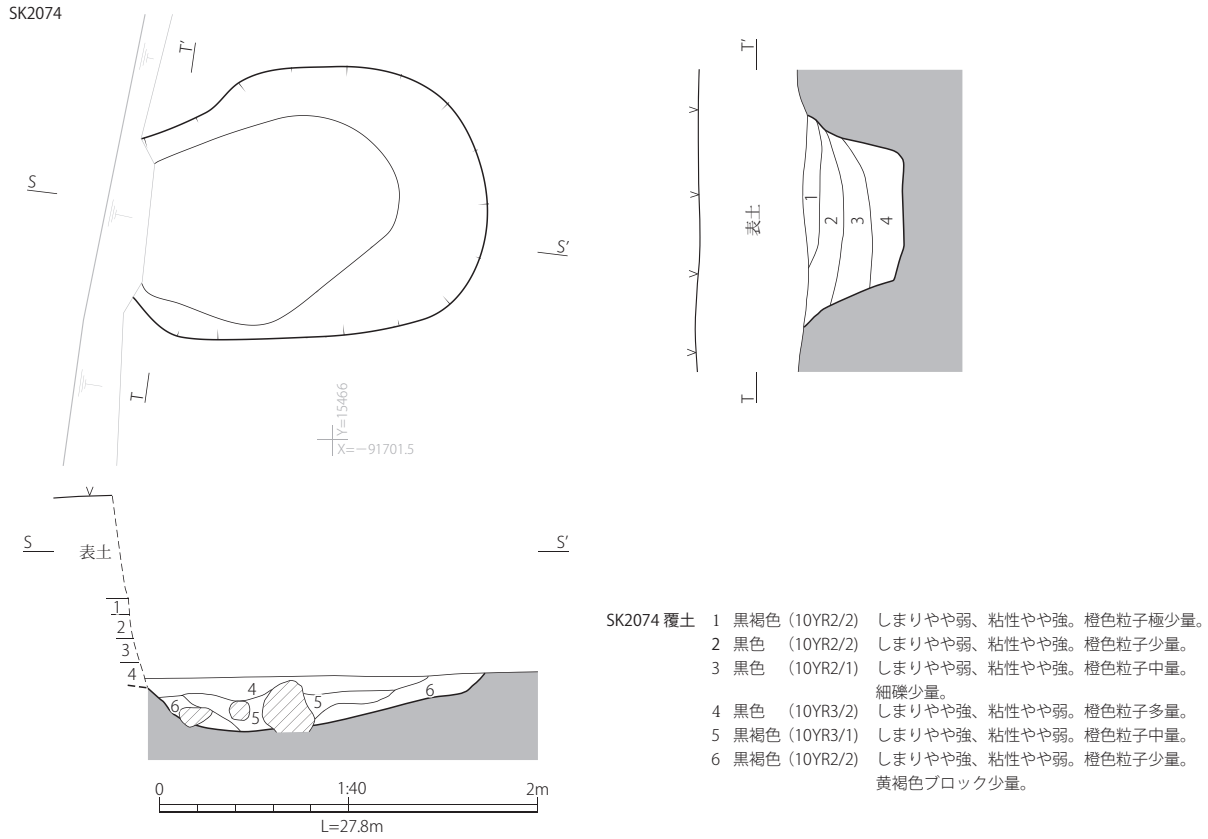


Pit2072



- | | | |
|------------|------------------|--------------------------|
| Pit2043 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまり弱、粘性やや弱。黄褐色ブロック微量。 |
| | 3 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや弱。黄褐色ブロック多量。 |
| Pit2045 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| Pit2049 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性やや弱。黄褐色ブロック微量。 |
| Pit2053 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 3 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性やや弱。礫 (5mm) 中量。 |
| Pit2057 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子中量。 |
| | 2 黒褐色 (10YR3/1) | しまりやや強、粘性やや強。礫 (5mm) 少量。 |
| Pit2061 覆土 | 1 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや弱、粘性やや弱。礫 (5mm) 少量。 |
| | 2 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや弱。黄褐色ブロック中量。 |
| | 3 黒褐色 (10YR3/2) | しまり弱、粘性やや弱。黄褐色ブロック少量。 |
| Pit2067 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。黄褐色ブロック微量。 |
| Pit2071 覆土 | 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや弱、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。黄褐色ブロック微量。 |
| Pit2072 覆土 | 1 黒褐色 (10YR3/1) | しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子微量。 |
| | 2 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強、粘性やや弱。黄褐色ブロック多量。 |

第190図 土坑・ピット 個別平面図・セクション図2

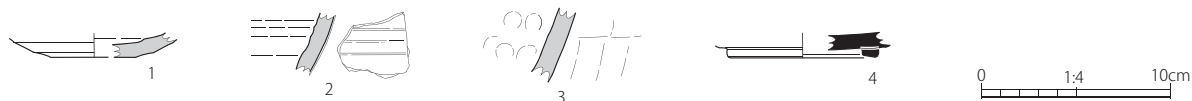


第191図 土坑・ピット 個別平面図・セクション図3

第21表 土坑・ピット 一覧表

遺構番号	種別	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物	土層	切り合い関係 (古→新)	備考
2001	SK	2001	126	(51)	10	逆台形		B		
2002	SK	2002	98	63	22	浅鉢形		A		
2003	SK	2003	91	76	22	逆台形		A		
2004	SK	2004	106	57	11	浅鉢形		C		
2005	SK	2005	115	72	8	逆台形		B		
2006	Pit	2006	36	33	7	浅鉢形		B		
2007	Pit	2007	45	38	8	浅鉢形		B		
2008	Pit	2008	44	37	4	浅鉢形		B		
2009	Pit	2009	50	40	20	逆台形		A		
2010	Pit	2010	61	(30)	15	浅鉢形	R0003	A		
2011	Pit	2011	38	35	16	浅鉢形		B		
2012	Pit	2012	37	35	5	浅鉢形		B		
2013	Pit	2013	56	58	21	浅鉢形		B		
2014	Pit	2014	40	33	4	浅鉢形		B		
2015	Pit	2015	74	60	17	逆台形		B		
2016	Pit	2016	62	42	9	浅鉢形		B		
2017	Pit	2017	37	36	10	逆台形		C		
2018	Pit	2018	50	44	7	浅鉢形		C		
2019	Pit	2019	49	31	12	浅鉢形		C		
2020	Pit	2020	40	34	9	浅鉢形		B		
2021	Pit	2021	51	48	15	浅鉢形		B		
2022	Pit	2022	45	39	9	浅鉢形		C		
2023	Pit	2023	46	37	8	浅鉢形		B		
2024	Pit	2024	47	38	8	浅鉢形		B		
2025	Pit	2025	22	21	4	浅鉢形		B		
2026										欠番
2027	Pit	2027	40	39	11	浅鉢形		B		
2028	Pit	2028	50	35	11	浅鉢形		B		
2029	Pit	2029	46	(28)	16	浅鉢形		B		
2030	Pit	2030	38	(33)	10	浅鉢形		B		
2031	Pit	2031	55	52	10	浅鉢形		A		
2032	Pit	2032	24	19	7	浅鉢形		A		
2033	Pit	2033	41	40	11	浅鉢形		C		

遺構番号	種別	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物	土層	切り合い関係 (古→新)	備考
2034										欠番
2035										欠番
2036	Pit	2036	38	33	3	浅鉢形		B		
2037	Pit	2037	22	20	5	逆台形		B		
2038	Pit	2038	37	30	6	浅鉢形		C		
2039	Pit	2039	22	19	6	浅鉢形		B		
2040	Pit	2040	43	37	12	浅鉢形		B		
2041	Pit	2041	46	40	19	逆台形		C		
2042	Pit	2042	40	31	12	浅鉢形		B		
2043	Pit	2043	50	37	15	浅鉢形		C		
2044	Pit	2044	40	30	9	浅鉢形		A		
2045	Pit	2045	53	39	18	浅鉢形		B		
2046	Pit	2046	54	34	18	浅鉢形		A		
2047										欠番
2048										欠番
2049	Pit	2049	61	39	20	浅鉢形		B		
2050	Pit	2050	45	37	11	浅鉢形		B		
2051	Pit	2051	43	37	14	浅鉢形		A		
2052	Pit	2052	76	48	22	逆台形		A		
2053	Pit	2053	58	45	13	浅鉢形		A		
2054										欠番
2055	Pit	2055	50	41	18	浅鉢形		B		
2056	Pit	2056	38	27	9	浅鉢形		B		
2057	Pit	2057	50	48	20	浅鉢形		B		
2058	Pit	2058	31	25	7	浅鉢形		A		
2059	Pit	2059	53	31	10	浅鉢形		B		
2060	Pit	2060	38	26	15	逆台形		C		
2061	Pit	2061	43	41	23	浅鉢形		B		
2062	Pit	2062	42	31	14	逆台形		B	Pit2063 → Pit2062	
2063	Pit	2063	(26)	19	9	浅鉢形		B	Pit2063 → Pit2062	
2064	Pit	2064	24	25	9	浅鉢形		A		
2065	Pit	2065	34	31	7	浅鉢形		A		
2066	Pit	2066	57	43	13	浅鉢形		A		
2067	Pit	2067	43	37	16	浅鉢形		A		
2068	Pit	2068	42	31	9	浅鉢形		B		
2069	Pit	2069	43	38	12	逆台形		C		
2070	Pit	2070	50	44	8	浅鉢形		C		
2071	Pit	2071	44	34	13	浅鉢形		B		
2072	Pit	2072	44	42	14	浅鉢形		C		
2073	Pit	2073	27	29	16	浅鉢形		A		
2074	SK	2074	(180)	142	32	逆台形		A		
2075	Pit	2075	38	33	16	浅鉢形		B		
2076	Pit	2076	26	22	8	浅鉢形		A		
2077	Pit	2077	24	23	17	U字形		A		



第192図 出土遺物実測図

第22表 東平遺跡第102地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第192図1	R0002	PL.35	1工区	瀬戸美濃	縁袖小皿	古瀬戸後期	—	4.4	—	良好	底部	2.5Y6/2 (灰黄)	2.5Y6/2 (灰黄)
第192図2	R0005	PL.35	攪乱 (K1022)	瀬戸美濃	壺 or 瓶	古瀬戸中期	—	—	—	良好	胴部	5Y7/2 (灰白)	5Y7/2 (灰黄) 釉:7.5Y6/3 (オリーブ黄)
第192図3	R0007	PL.35	1工区南壁	常滑	甕	15c	—	—	—	良好	胴部	5YR5/4 (にぶい赤褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)
第192図4	R0004	PL.35	攪乱 (K1020)	須恵器	坏	9c	—	7.9	—	良好	底部	2.5Y6/2 (灰黄)	5Y5/1 灰

第4節 第103地区の調査成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は富士市浅間上町2967番1ほか（430㎡）において、宅地分譲を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「三日市廃寺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年7月11日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、8月10日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第487号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

なお、「三日市廃寺跡」の包蔵地範囲は「東平遺跡」の範囲内に包まれるため、東平遺跡の地区名を付与している。

(2) 確認調査

【1次調査】確認調査は平成30年8月21日に行った。対象地の北寄りに東西方向に1箇所のトレンチを設定し（1Tr、21.661㎡）、重機による掘削後、遺構および遺物の発見に努めた。

その結果、地表下約0.9mから奈良・平安時代の竪穴建物跡1軒（SB1001）と、5基のピット（Pit1001～1005）が検出された。また、それらを切るような形で、砂岩ブロックを多量に含む土を造成土とする、深さ約1.7mに及ぶ掘り込み（SX1001）が確認された。

遺物は、奈良・平安時代の土器、瓦、金属製品が出土したため、8月23日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第536号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第536-2号）を提出した。これは、9月23日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1254号）。

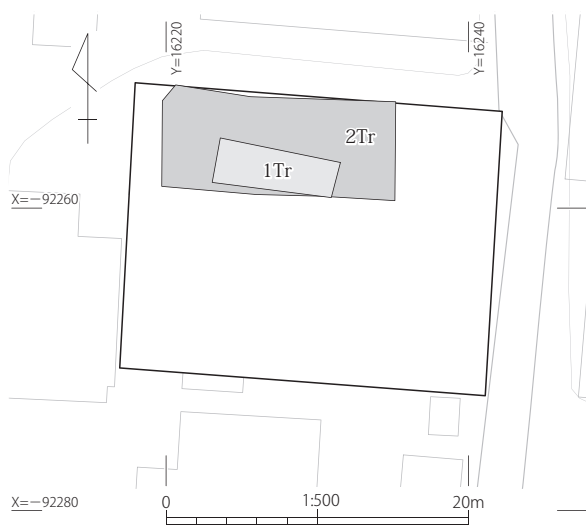
8月31日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第555号）を提出した。

【2次調査】1次調査で確認された大規模な造成（SX1001）について、より綿密な調査が必要と考えられたため、8月31日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出し（富市文発第553号）、文化振興課職員による2度目の確認調査を実施することとなった。

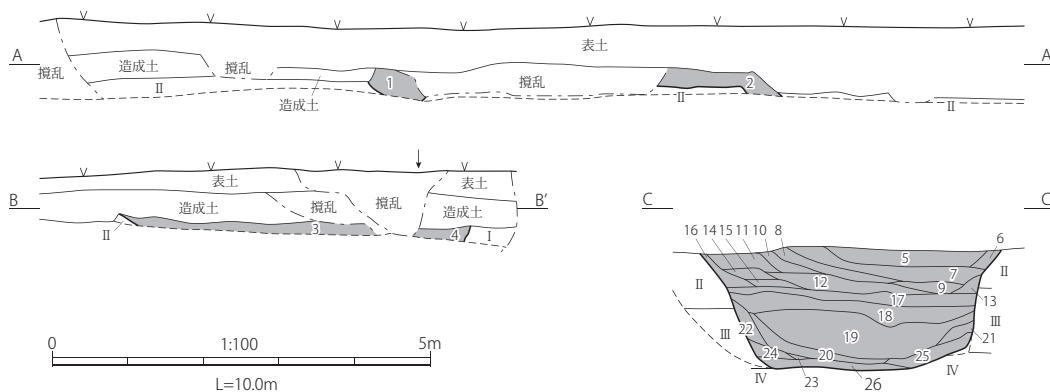
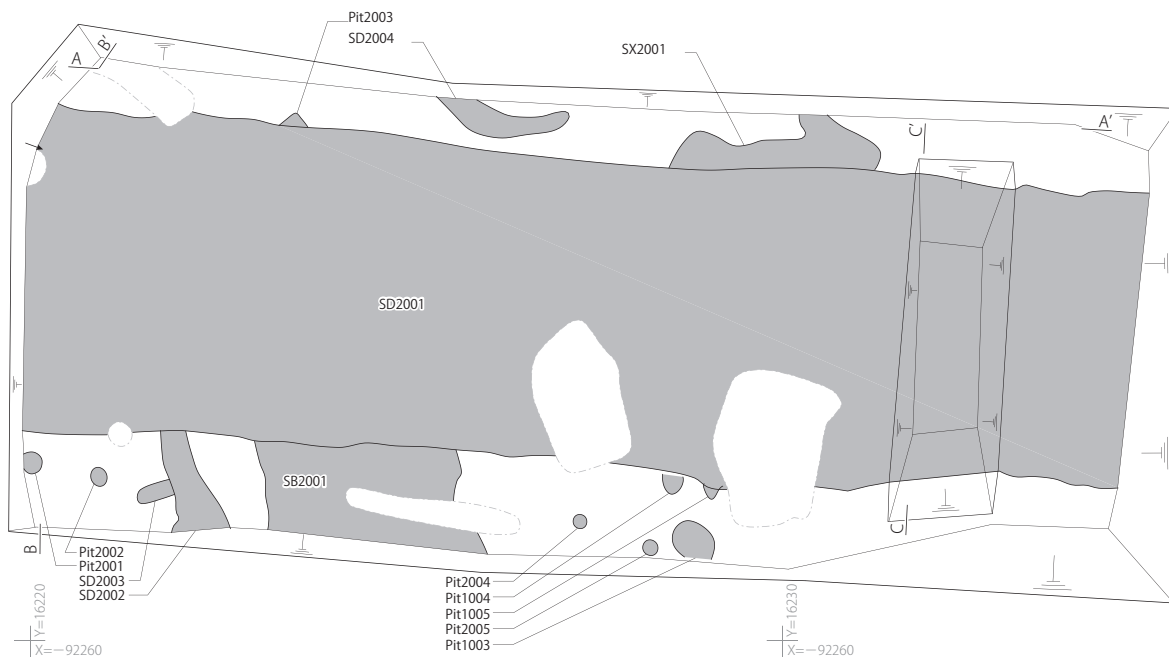
2次調査は9月5日から7日にかけて行った。1次調査の1トレンチを東西と北へ拡張する形でトレンチを設定し（2Tr、100.658㎡）、重機による掘削後、



第193図 東平遺跡第103地区 位置図



第194図 トレンチ配置図



	しまり	粘性			
I 黒褐色 (10YR3/1)	やや弱	ややあり	橙色粒子中量含む。細礫少量含む。		旧表土か
II 褐色 (10YR4/4)	強	弱			地山
III 黒褐色 (10YR3/1)	やや強	やや強	赤色粒子中量、溶岩礫中量含む。		地山
IV 褐色 (10YR4/4)	強	やや強	溶岩礫多量含む。		地山
1 黒褐色 (10YR3/2)	ややあり	ややあり	地山ブロック少量含む。		SD2004 覆土
2 黒褐色 (10YR3/2)	やや弱	ややあり	地山ブロック中量含む。		SX2001 覆土
3 暗褐色 (10YR3/3)	ややあり	やや弱	地山ブロック極多量、砂岩ブロック多量含む。鉄分を部分的に中〜多量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
4 黒褐色 (10YR3/1)	やや弱	やや弱	地山ブロック多量、砂岩ブロック中量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
5 黒褐色 (10YR3/2)	やや強	やや強	地山ブロック少量、炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
6 黒褐色 (10YR3/1)	やや強	やや強	地山ブロック少量、黄褐色土混入。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
7 暗褐色 (10YR3/3)	やや弱	なし	地山ブロック少量、炭化物少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
8 黒褐色 (10YR3/2)	やや弱	やや強	地山ブロック少量、炭化物少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
9 黒褐色 (10YR2/2)	やや弱	やや強	地山ブロック、溶岩礫混入。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
10 にぶい黄褐色 (10YR4/3)	やや弱	やや弱	地山ブロック少量、炭化物少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
11 黒褐色 (10YR3/2)	やや強	弱	地山ブロック少量、炭化物少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
12 にぶい黄褐色 (10YR4/3)	やや弱	やや強	地山ブロック多量、炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
13 黒褐色 (10YR3/2)	やや弱	やや強	地山ブロック少量、黄褐色粒子少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
14 暗褐色 (10YR3/4)	弱	やや弱	地山ブロック多量、炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
15 黒褐色 (10YR3/2)	やや強	やや強	地山ブロック微量、炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
16 黒褐色 (10YR2/2)	やや強	やや強	地山ブロック・溶岩・黒色土少量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
17 暗褐色 (10YR3/3)	やや強	やや強	地山ブロック・溶岩少量、炭化物・黄褐色粒子微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
18 にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強	やや強	地山ブロック多量、黒色土・炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
19 暗褐色 (10YR3/4)	弱	やや弱	地山ブロック・溶岩礫多量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
20 暗褐色 (10YR3/3)	やや強	弱	地山ブロック・炭化物・黄褐色粒子微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
21 暗褐色 (10YR3/3)	弱	やや強	黄褐色粒・炭化物・黒色土微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
22 にぶい黄褐色 (10YR5/4)	やや弱	やや強	地山ブロック少量、黒色土微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
23 暗褐色 (10YR3/4)	やや強	やや強	炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
24 にぶい黄褐色 (10YR4/3)	やや弱	やや強	地山ブロック・黒色土多量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
25 暗褐色 (10YR3/4)	やや弱	やや強	地山ブロック少量、炭化物微量含む。		SD2001 覆土 (人為的な埋土)
26 黒褐色 (10YR2/2)	やや弱	やや強	赤色粒子・黒褐色土少量含む。		SD2001 覆土 (使用中の堆積土か)

第195図 2トレンチ 平面図・セクション図

人力により遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、SX1001 は幅約 4.2 m、深さ約 1.6 m で東西方向に延びる溝 (SD2001) であることが判明した。溝の断面形は逆台形を呈し、覆土は最下層以外はすべて人為的な埋土とみられる。遺物は、弥生時代から平安時代にかけての土器片と平安時代の陶器片が出土し、9月11日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第582号)を、県教育長宛に「出土品保管証」(富市文発第582-2号)を提出した。これは10月9日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1355号)。

9月11日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第591号)を提出した。

(3) 調査の体制

三日市廃寺跡(東平遺跡第103地区)に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教 育 長 山田 幸男

[担当機関] 富士市役所市民部 部 長 高野 浩一

文化振興課 課 長 久保田伸彦

文化財担当 統括主幹 植松 良夫

主 幹 石川 武男

調査担当者 主 査 佐藤 祐樹

主 事 伊藤 愛

臨時職員 小島 利史

若林 美希

2 調査の成果

(1) SD2001

1次調査で検出した性格不明遺構(SX1001)は、南北幅約4.2mで東西方向に走る溝状遺構(SD2001)であることが2次調査において確認された。東西方向は調査範囲外へと延びており、全長は不明である。南北方向にサブトレンチを入れて溝の底面まで掘り下げたところ、深さ約1.6m、底部幅約2.8mを測り、断面形は逆台形を呈する大規模な溝であることが明らかになった。また、最下層に12cmほどの自然堆積層(26層)が認められるものの、それ以外(3~25層)は地山ブロックを含み、すべて人為的な埋土であると想定される。

出土遺物は7世紀から10世紀のものが認められ、

周辺には11世紀までくだる遺物もみられる。

これほどの大規模な溝が古代に掘削されたものなのか、確証がもてない。仮に古代の溝であれば、対象地西側には郡家周辺寺院である三日市廃寺の存在が想定されており、区画を目的とした溝の可能性や、物資を運ぶための運河などの目的が想定されよう。一方、この溝が中世以降に掘削された可能性も否定できないことから、今後この溝がどのようにまわっているのかを含めて慎重に検討したい。

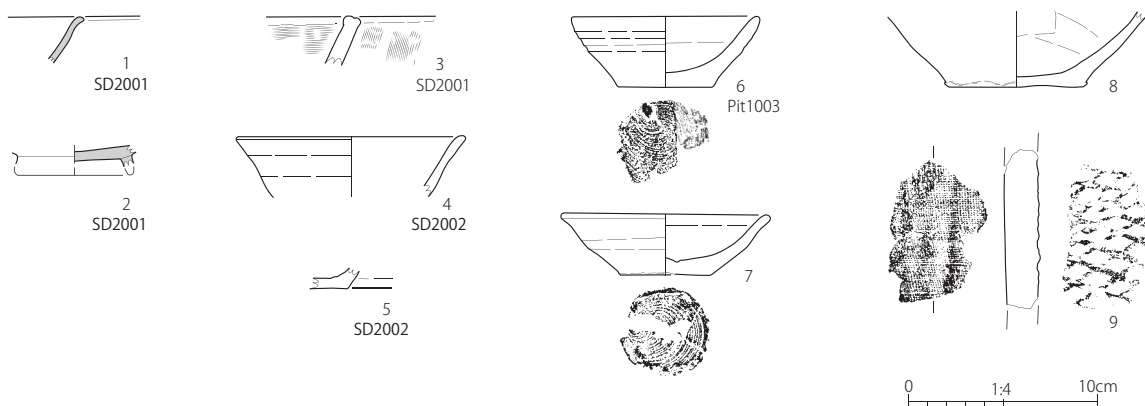
(2) その他の遺構

1次調査で検出した竪穴建物跡(SB1001)は、東西幅約2.6mを測るプランが確認され、遺構名をSB2001に変更した。SK1001は遺構ではないとして抹消となり、Pit1001とPit1002はそれぞれPit2004、Pit2005へと遺構名を変更した。また、トレンチの拡張部分において新たに3基のピット(Pit2001~2003)、3条の溝状遺構(SD2002~2004)、1基の性格不明遺構(SX2001)を検出した。

(3) 出土遺物

9点図示した(第196図)。

1は灰釉陶器の碗である。口縁部が強く外反する。釉はハケ塗りである。9世紀から10世紀のものが、細かな時期決定は出来ない。2は灰釉陶器の高台部分である。高台端部が欠落している。3は甕の口縁部である。胎土にカワゴ平パミスと考えられる白色粒子を多量に含み、色調が薄い黄色を呈するのが特徴である。口唇部内面を若干肥厚させている。内外面ともに細かいハケ目が残る。6世紀後半から7世紀にかけての土器と考えられる。4・5は駿東塚の破片で、全面ナデ調整が施される。9世紀後半頃とされる。6・7はいずれも底部回転糸切り未調整の坏である。形態が異なるがいずれも10世紀代の遺物である。8も6・7の胎土と共通した坏である。底部の外縁が若干盛り上がり、高台を意識したつくりともいえる。9は格子目状のタタキのある平瓦である。



第196図 出土遺物実測図

第23表 東平遺跡第103地区 出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第196図1	R0010	PL.38	SD2001	灰釉陶器	碗	9～10C	-	-	(2.4)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/1 (灰白)
第196図2	R0010	PL.38	SD2001	灰釉陶器	碗	10C	-	[5.7]	(1.1)	良好	20%	2.5Y7/2 (灰黄)	2.5Y7/2 (灰黄)
第196図3	R0002	PL.38	SD2001	土師器	甕	7C	-	-	(2.6)	良好	-	2.5Y7/3 (浅黄)	2.5Y7/3 (浅黄)
第196図4	R0012	PL.38	SD2002	土師器	坏	9～10C	[11.9]	-	(3.2)	良好	20%	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)
第196図5	R0012	PL.38	SD2002	土師器	坏	9～10C	-	-	(1.1)	良好	-	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)
第196図6	R0004	PL.38	Pit1003	土師器	坏	10C	[9.7]	[5.0]	3.7	良好	20%	7.5YR7/4 (にぶい橙)	7.5YR7/4 (にぶい橙)
第196図7	R0001	PL.38	1Tr	土師器	坏	10C	10.7	4.7	3.2	良好	95%	7.5YR8/4 (浅黄橙)	7.5YR7/4 (にぶい橙)
第196図8	R0001	PL.38	1Tr	土師器	坏	10C	-	[7.0]	(4.0)	良好	30%	10YR7/4 (にぶい黄橙)	10YR7/4 (にぶい黄橙)
第196図9	R0003	PL.38	表採	瓦	平瓦	7～8C	-	-	(8.4)	良好	-	7.5YR5/4 (にぶい褐)	7.5YR5/4 (にぶい褐)

第4章 国久保遺跡の調査

第1節 国久保遺跡の概要

国久保遺跡は、富士山南麓に延びる低丘陵上の標高20mほどに立地する集落跡である。

本遺跡内ではかつて、黒曜石の剥片や古墳時代前半頃とみられる土師器片、奈良時代・平安時代の土師器片・須恵器片が採集されているが、現時点では古墳時代以前に位置づけられる建物跡は確認されていない。

平成13年に実施した第2地区の調査では、国久保古墳が新たに発見され、一部調査を行った。7世紀初頭に築かれた横穴式石室墳で、径8mほどの円墳であったと推定されている。50点以上の鉄鏃や馬具（轡）、鉄鐸、雁木玉等の玉類といった副葬品が出土しており、渡来系技術者集団を率いた人物の墳墓とみられている。

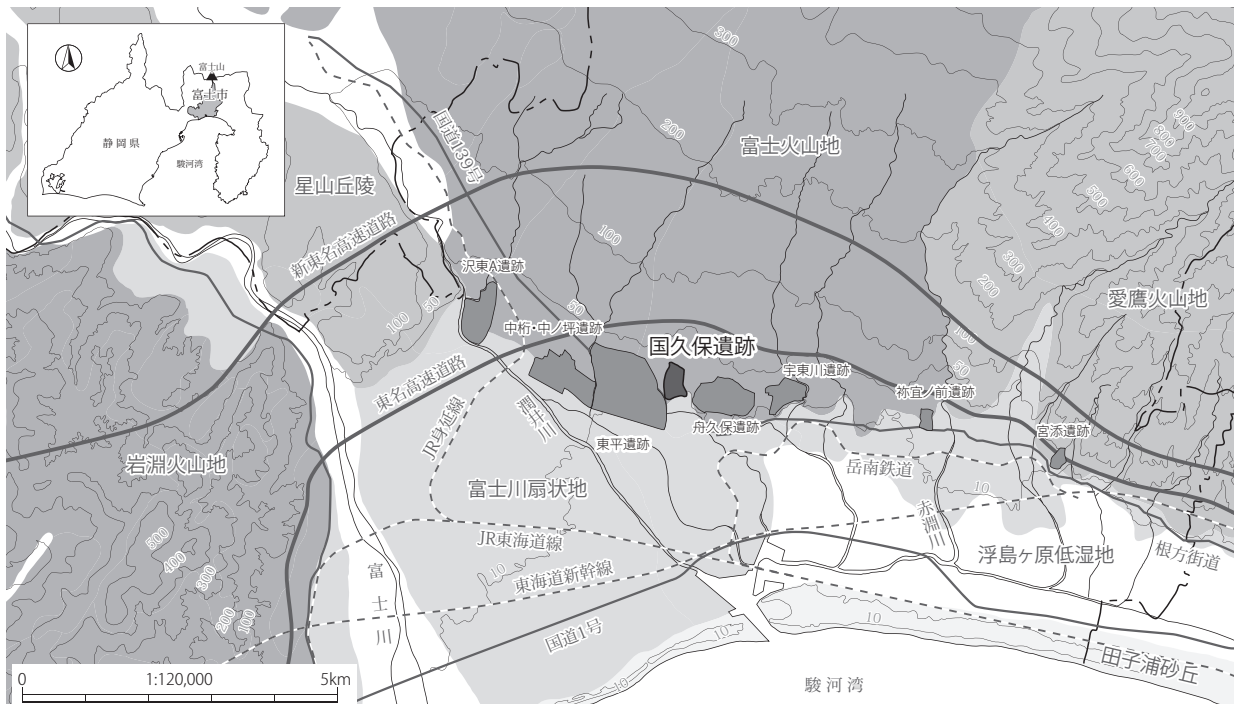
明らかな集落跡が確認されるのは奈良時代からであり、第5地区と第8地区で奈良時代、第3地区と第7地区で平安時代に位置づけられる竪穴建物跡が検出されている。

本遺跡の西には古代富士郡の郡家とみられる東平遺跡が立地し、東には「倉」銘墨書土器が出土し郡家に関わる公的施設が存在したとみられる舟久保遺跡が立地する。

本遺跡での建物跡の検出軒数はまだ多くはないが、8世紀に入って両遺跡が郡家およびその関連施設として整備されるのと同時期に営まれる集落として、注目される遺跡である。



第197図 国久保遺跡第8地区 作業の様子



第198図 国久保遺跡の位置



第199図 国久保遺跡 調査履歴図

第24表 国久保遺跡 調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
1地区	1次	H05	試掘	国久保二丁目 2004-7	マンション建設	19931213 ~ 19931222	なし	なし	
2地区	1次	H13	試掘	国久保二丁目 2015-16 外	宅地造成	20010516 ~ 20010531	古墳1基 (横穴式石室)	須恵器・金属製品・石製品・ガラス製品	A
3地区	1次	H13	試掘	国久保三丁目 2238-2	住宅建設	20011119 ~ 20011123	竪穴住居跡	土師器	A
4地区	1次	H26	確認	国久保二丁目 2204-14 外	個人住宅新築	20140606	なし	なし	B
5地区 (隣接地)	1次	H28	試掘	国久保一丁目 2126 番1 外	貸店舗敷地造成	20160823 ~ 20160824	竪穴建物跡・土坑	土師器、須恵器	C
5地区 (隣接地)	2次	H28	試掘	国久保一丁目 2126 番1 外	貸店舗敷地造成	20160909	竪穴建物跡	土師器	C
6地区	1次	H29	確認	国久保一丁目 2120-6	不動産売買	20180119	土坑	土師器・須恵器	D
7地区	1次	H30	確認	国久保三丁目 1995-7 ほか	不動産売買	20180605	竪穴建物跡	土師器	本書第1章
8地区	1次	H30	確認	国久保三丁目 1999-9	集合住宅新築	20181012	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット	土器	本章
8地区	2次	H30	本発掘	国久保三丁目 1999-9 ほか	集合住宅新築	20181030 ~ 20181102	溝状遺構・土坑・ピット	土器 (奈良・平安)	本章

【報告書】

- A 『平成13年度 富士市内遺跡・伝法国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』(2011)
- B 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成26・27年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第60集(2017)
- C 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成28年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第63集(2018)
- D 『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成29年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第66集(2019)

第2節 第8地区の調査成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は、富士市国久保三丁目1999-9ほか（623.13㎡）において集合住宅新築を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「国久保遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年10月11日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。これを受けて文化振興課は、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第712号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査

確認調査（1次調査）は平成30年10月12日に行った。対象地に3箇所のトレンチを設定し（1～3Tr、34.440㎡）、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、地表下約40cmで奈良時代の竪穴建物跡や溝状遺構、土坑、ピットが検出された。遺物は竪穴建物跡SB1001から土師器坏1点が出土したほか、少量の土器片が発見され、10月15日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第714号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第714-2号）を提出した。これは10月23日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1440号）。

10月15日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第715号）を提出した。また、事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県教育委員会に進達し、遺跡の保護が図れない道路部分について本発掘調査を実施するよう、県教育委員会から指示があった（平成30年10月17日付け教文第

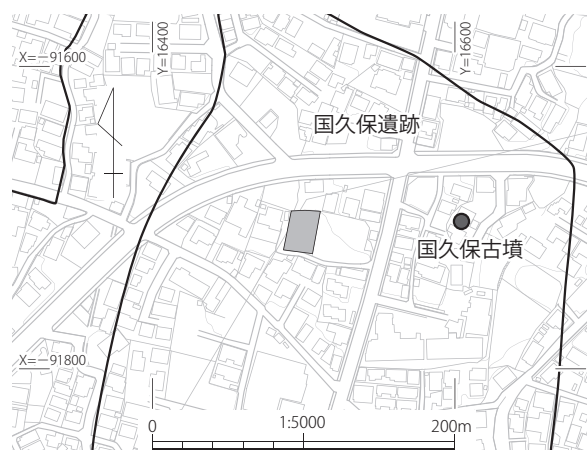
1407号の2）。平成30年10月23日、工事主体者（事業者）と、施工責任者（工務所）、富士市（富士市長）、富士市教育委員会（市教育長）の四者間で、国久保遺跡における文化財調査に関する協定が締結された。同日、施行責任者と富士市長の二者間で文化財調査に関わる業務委託契約も締結し、本発掘調査を実施することとなった。

(3) 本発掘調査（2次調査）

本発掘調査は富士市教育委員会の補助執行機関である市民部文化振興課が担当し、平成30年10月30日から11月2日にかけて行った。

対象地南側の道路からの乗り入れ部分を本調査区（38.672㎡）とし、3トレンチを拡張する形で掘削を行った。その結果、竪穴建物跡は確認されなかったものの、溝状遺構や土坑・ピット等の遺構を検出し、完掘、記録保存を行った。遺物は、奈良時代、平安時代の土器片が出土した。これらの遺物については、11月6日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第791号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第791-2号）を提出した。これは11月19日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1600号）。

平成30年11月2日、工事主体者ならびに施工責任者に対し本発掘調査の完了を報告し（富市文発第



第200図 国久保遺跡第8地区 位置図

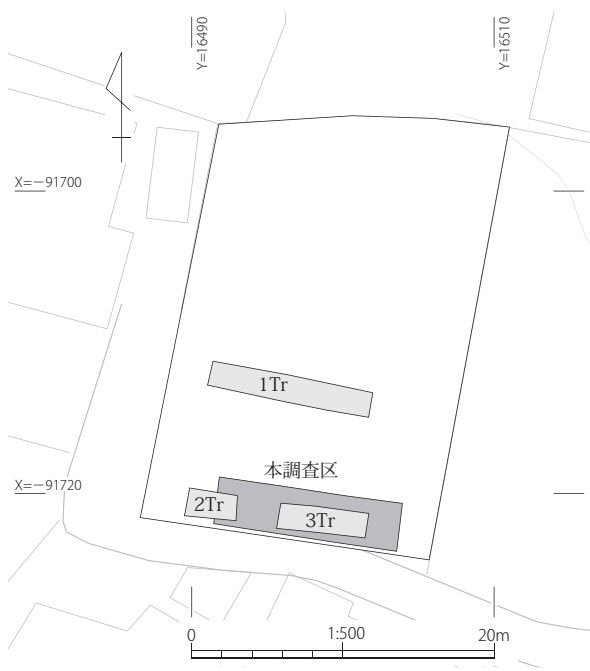
777号)、11月9日、工事主体者、施工責任者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第801号)を提出した。

平成31年1月31日、施工責任者に対し、文化財調査(発掘作業および整理作業)の完了報告を行い(富市文発第1031号)、その後、業務委託金の精算をもって、文化財調査に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 調査の体制

国久保遺跡第8地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 [担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 主事 伊藤 愛
 調査員 小島 利史
 若林 美希



第201図 確認調査トレンチおよび本調査区 配置図

2 調査の成果

(1) 確認調査

対象地中央に東西方向に設定した1トレンチでは、竪穴建物跡2軒(SB1001～1002)と土坑7基(SK1001～1007)を検出した。SB1001は南半分がトレンチ外にあるが、東西幅約2.5mを測り、方形を呈すると推定される。西壁寄りで土師器壊が出土し、図示した(第204図1)。

1はSB1001から出土した土師器の壊である。底部径が大きく比較的古い形態である。みこみには放射状のミガキが施される。9世紀初頭と考えられる。

対象地南西側に東西方向に設定した2トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。

南東側に東西方向に設定した3トレンチでは、東西方向に延びる溝状遺構1条(SD1001)と、等間隔に並ぶ3基のピットを検出した。このピットのうち、両端の2基は本調査において遺構ではないことが確認された。

(2) 本発掘調査

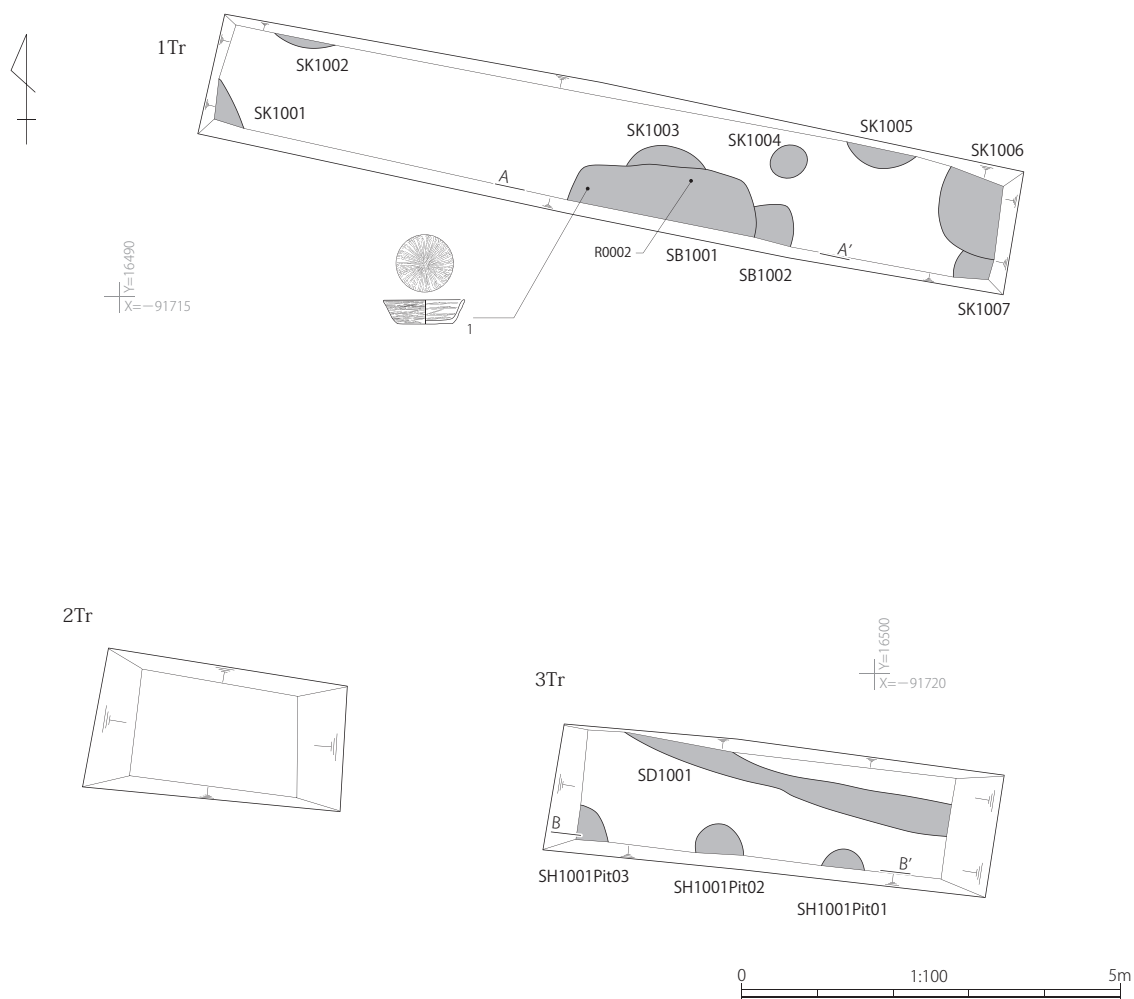
確認調査3トレンチを四方に拡張した本調査区では、溝状遺構1条(SD2001)と、土坑・ピット9基を検出・完掘し記録保存を行った。SD2001は確認調査3トレンチで検出されたSD1001の遺構名を変更したものである。

SD2001

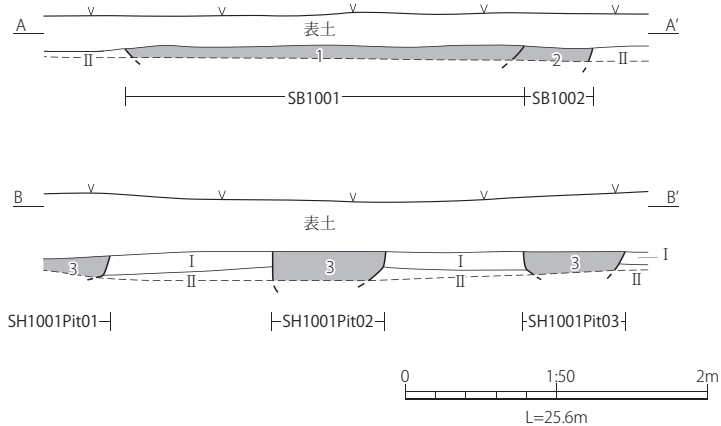
東西方向の溝状遺構である。西端は丸く収まるが、東側は調査区外へ延びており、検出部分で東西長8.92m、南北幅0.4m、深さ10cmを測る。断面形は逆台形を呈する、浅く細長い溝である。遺物は出土せず、その性格や時代は不明である。

土坑・ピット

土坑5基(SK2001～2003・2006・2009)、ピット4基(Pit2004・2005・2007・2008)を検出・完掘し、記録保存を行った。規模等の詳細は第25表に示す。SK2001・2009から少量の遺物が出土したが、図化には至らなかった。

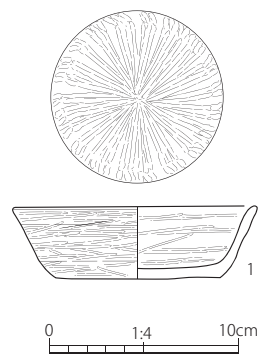


第202図 確認調査トレンチ 平面図

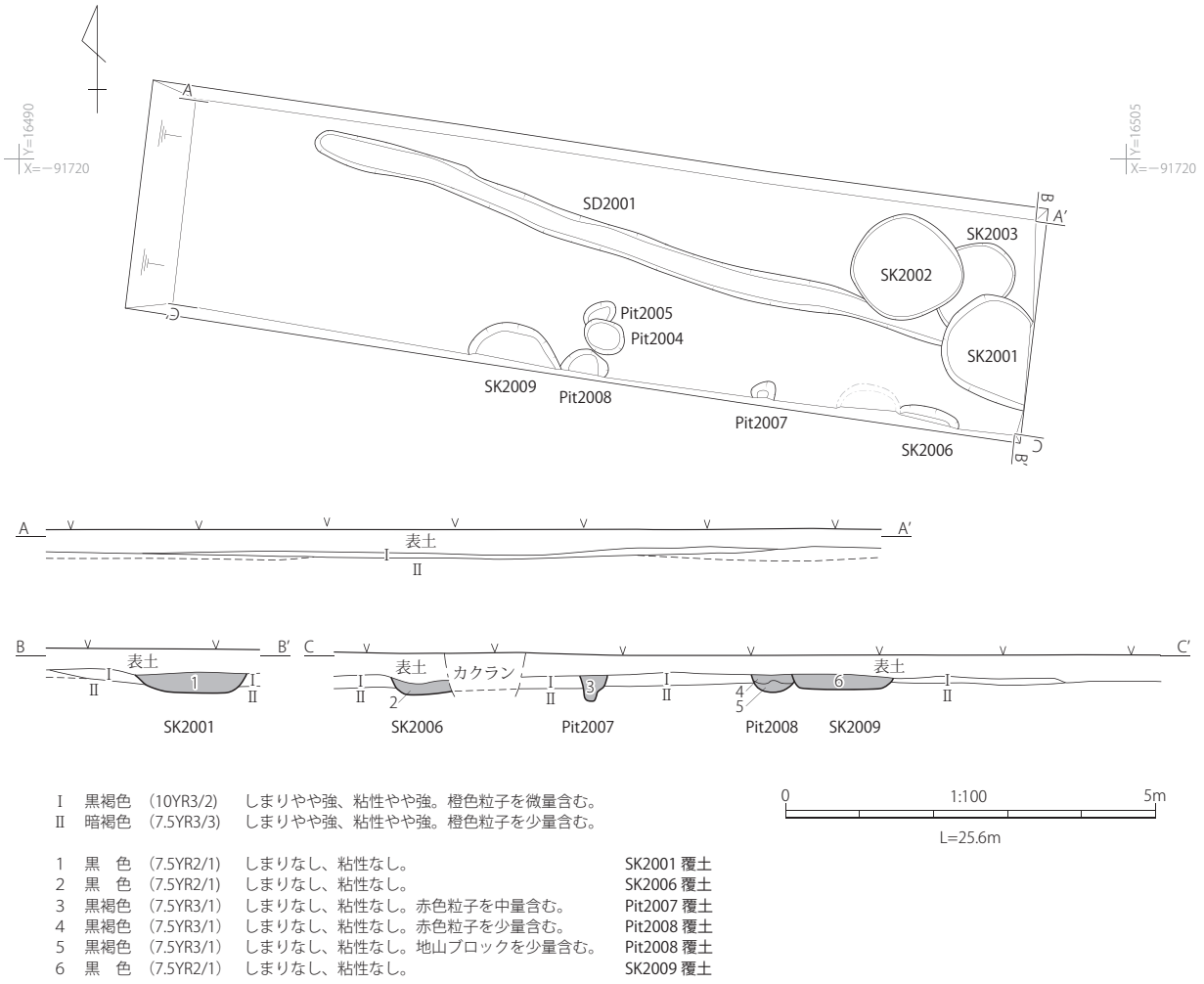


- I 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子を微量含む。
- II 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりやや強、粘性やや強。橙色粒子を少量含む。
- 1 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性やや強。褐色ブロックを少量、礫 (1cm) を少量含む。
SB1001 覆土
- 2 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや弱、粘性やや強。粘土を多量含む。
SB1002 覆土
- 3 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや弱、粘性やや強。礫 (5~10mm) を少量、橙色粒子を微量含む。
SH1001Pit01~03 覆土

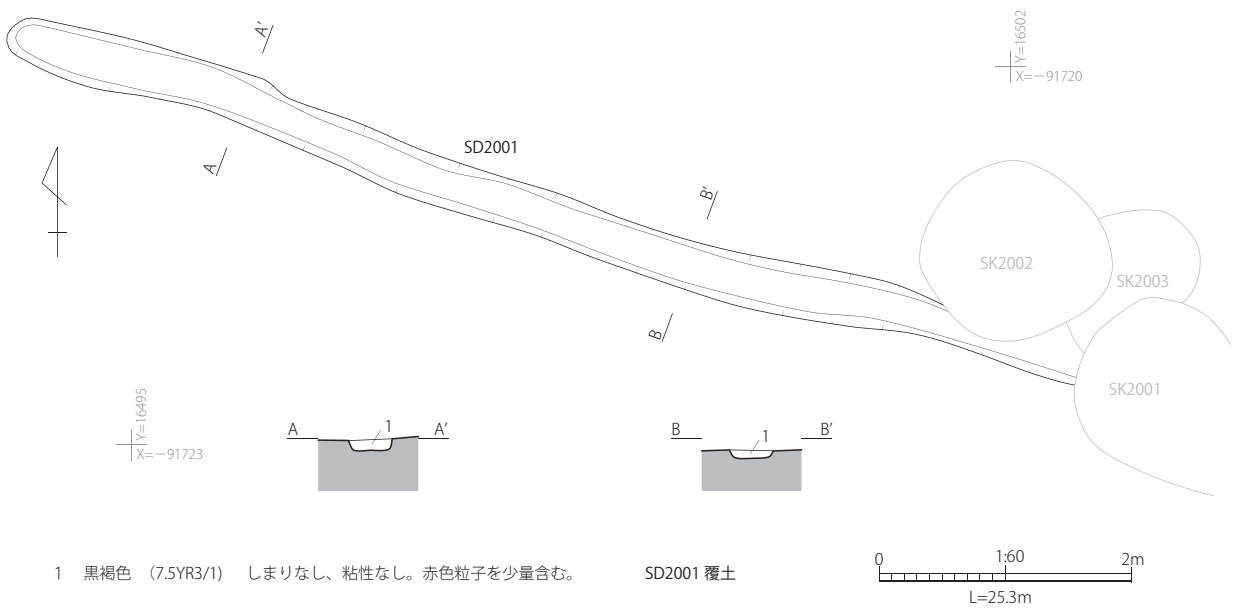
第203図 確認調査トレンチ セクション図



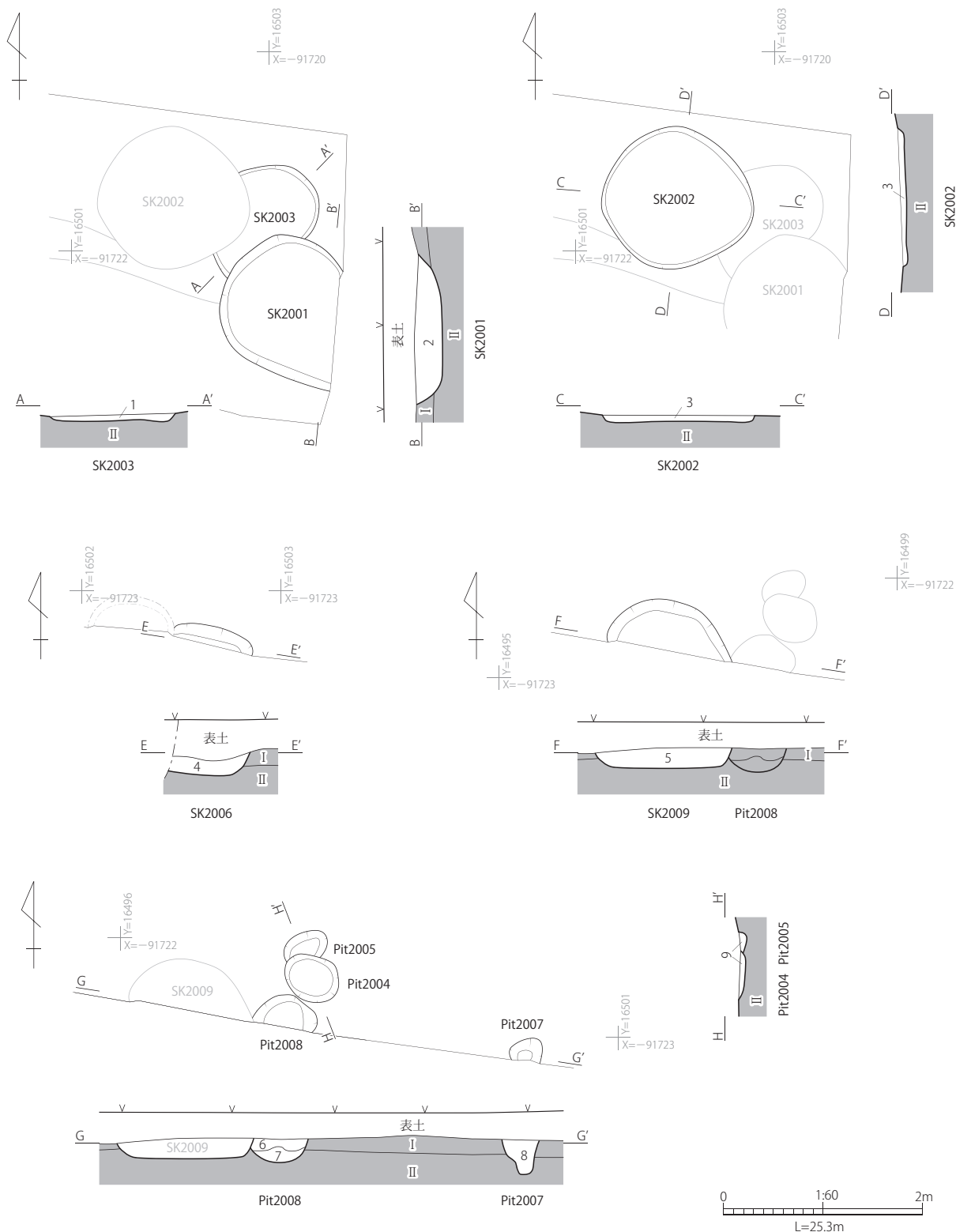
第204図 出土遺物 実測図



第205図 本調査区 平面図・セクション図



第206図 SD2001 平面図・セクション図



- | | | |
|------------------|-------------------------|--------------------|
| 1 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。ローム土をシミ状に含む。 | SK2003 覆土 |
| 2 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。 | SK2001 覆土 |
| 3 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。 | SK2002 覆土 |
| 4 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。 | SK2006 覆土 |
| 5 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。 | SK2009 覆土 |
| 6 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性なし。赤色粒子を少量含む。 | Pit2008 覆土 |
| 7 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性なし。地山ブロックを少量含む。 | Pit2008 覆土 |
| 8 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性なし。赤色粒子を中量含む。 | Pit2007 覆土 |
| 9 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。赤色粒子を少量含む。 | Pit2004・Pit2005 覆土 |

第207図 土坑・ピット 平面図・セクション図

第25表 土坑・ピット 一覧表

遺構番号	遺構種別	規模 (cm)			断面形	出土遺物	切り合い (古→新)
		長軸	短軸	深さ			
2001	SK	(125)	135	33	逆台形	R0006	SK2003 → SK2001
2002	SK	150	140	7	箱形	-	SK2003 → SK2002
2003	SK	126	90	8	逆台形	-	SK2003 → SK2001 SK2003 → SK2002
2004	Pit	47	47	5	逆台形	-	Pit2005 → Pit2004
2005	Pit	37	(20)	7	逆台形	-	Pit2005 → Pit2004
2006	SK	(80)	(20)	23	逆台形	-	
2007	Pit	33	(25)	35	U字形	-	
2008	Pit	(60)	(33)	25	U字形	-	
2009	SK	130	(50)	22	逆台形	R0007	

第26表 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調	備考
							口径	底径	器高					
第204図1	R0001	PL.41	SB1001	土師器	坏	9C	12.8	8.7	3.8	良好	85%	2.5YR4/8 (赤褐)	2.5YR4/8 (赤褐)	駿東型

第5章 琴平古墳の調査

第1節 琴平古墳の概要

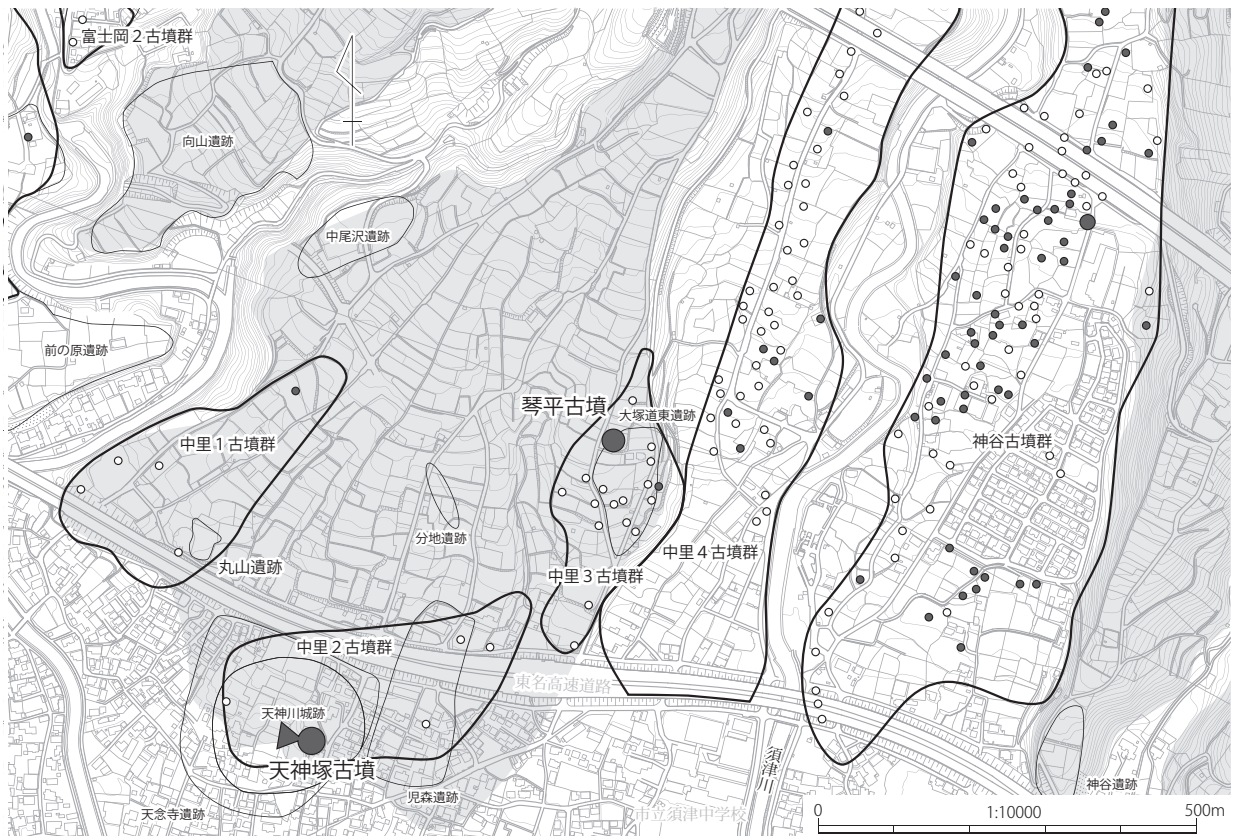
琴平古墳は、愛鷹山南西麓の丘陵上に所在する静岡県指定史跡である。丘陵の眼下には、愛鷹山から流れ込む豊富な水量によりラグーン化した浮島ヶ原低地が広がる。また、東側に流れる須津川を挟んだ丘陵上には全長約90.8mに復元される前方後方墳である浅間古墳が存在している。

富士山南麓から愛鷹山南西麓の古墳の分布とまともりは、中野国雄氏により、西方から伝法A古墳群からアルファベットが振られており（中野1958）、琴平古墳は「中里古墳群（K）」に含まれ、中里K-2号墳という古墳名が与えられている。「中里古墳群（K）」の東には「神谷古墳群（J）」、「増川古墳群（I）」が展開しており、それら「支群」を総称して「須津古墳群」として認識することができる。

中里古墳群は現在、丘陵上の「中里1・2・3古墳群」と須津川西岸の河岸段丘上にひろがる「中里4古墳群」に分けて包蔵地登録されており、琴平古墳は「中里3古墳群」に含まれている。

また、琴平古墳南西の丘陵末端には前方後円墳の可能性が指摘される後期初頭の天神塚古墳が所在しているほか（藤村2012）、周辺には、明治・大正期に発掘調査された中里K-79号墳（道東古墳）や中里K-78号墳（アガリット古墳）、昭和40年代に調査された中里K-95・99号墳など6世紀末から7世紀初頭の古墳が群集する（富士市教委1975）。琴平古墳は南側の駿河湾や浮島ヶ原低地からの視認性を強く意識して築造されており、丘陵上に立地する古墳の中でも盟主墳として位置づけられる。

琴平古墳の立地する丘陵東側には須津川によって



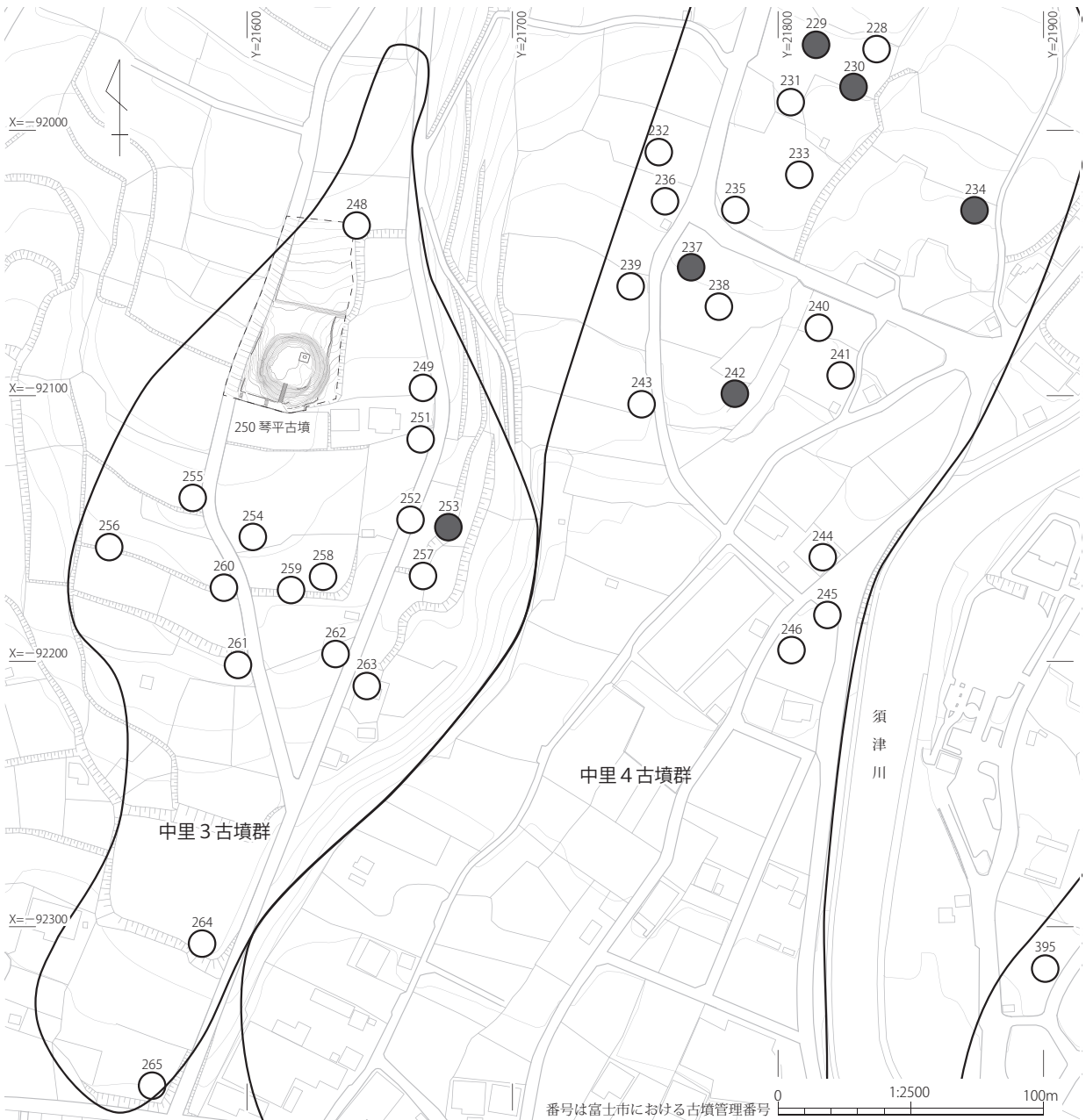
第208図 琴平古墳 位置図

開析された500m程の谷が入り込んでおり、7世紀の横穴式石室墳である市指定史跡千人塚古墳を含む「神谷古墳群」が展開している。

琴平古墳の調査は、静岡大学内藤晃教授によるものが代表的なものと言え、その成果が『吉原市の古墳』に収められている。その中で、直径31m、高さ南より5mの円墳であるとされ、墳裾は畑による土取りにより削り取られていることが報告された。また、墳頂部の金比羅神社を建てる際に墳頂が削平されている可能性が高いこと、墳丘全面を河原石による葺石が覆っていることもあわせて報告された(中野1958)。



第209図 琴平古墳全景(南西から)



第210図 琴平古墳周辺地形図

第2節 測量調査の成果

1 調査に至る経緯

琴平古墳は富士市中里に所在する円墳である。昭和33年刊行の『吉原市の古墳』（吉原市1958）において報告されている墳丘測量以来、調査が行われていなかった。

近年、墳丘盛土の流失が著しく、緊急的に保存を目的とした測量図を作成する必要が生じたため、『平成29年度国宝重要文化財等保存整備費補助金』を申請し、測量調査を行った。

調査は平成30年2月に行い、墳丘部分の測量は株式会社フジヤマに委託し、周辺地形の測量とデータ合成は文化振興課の職員が行った。

2 調査の成果

調査方法 測量調査は4級基準点を設置した後、TS計測により実施した。4級基準点はGNSS測量により設置し（4K1、4K2）、そこから墳頂部へ1点4級基準点を移動した（4K3）。

墳丘 古墳の西側には南北に農道が走り、東側は幅2～3mの平坦部が存在したのち急傾斜の崖にいたる。また、南側も土地が大規模に削平されており、周辺に旧地形を残す部分はあまりない。全体としては南側にむかって緩やかに傾斜する丘陵上に所在すると言える。

墳頂平坦面 墳頂部には琴平古墳の名の由来ともなった金比羅神社の社が存在する。平坦面の傾斜変換線は南側が直線的で、他は直径15m程度とかなり広い平坦面といえ、社建築の際に北側から南側に向けて土を削り取っていると考えられる。最高点は墳頂上北側の68.18mを測る。

墳丘斜面 墳丘の南側には社に向かうための石階段が直線的に作られ、加えて階段下から半時計周りに迂回するような通路がつけられ墳頂部にいたる。墳丘斜面は北東側および南西側の一部を除いて土取りなどの影響を受けている。北東、南西側の一部での傾斜は30度を測る。

墳裾 墳裾の大部分が削平を受けており、特に東側の墳裾部、西側の墳裾部分の削平が著しい。墳丘

傾斜が比較的良好に遺存する北東部、南西部の墳裾が本来の形状をもっとも残している可能性が高い。古墳は南側へ緩やかに傾斜する丘陵上に立地しており、その影響から墳裾の高さは、南側が63.07m付近と最も低く、西側で63.4m付近、北側で最も高く64.95m付近で比高差1.88mを測る。そのため墳丘高も基準とする墳裾により大きく異なり、北側を基準にすると3.23m、南側のもっとも低い墳裾を基準にすると5.11mを測る。

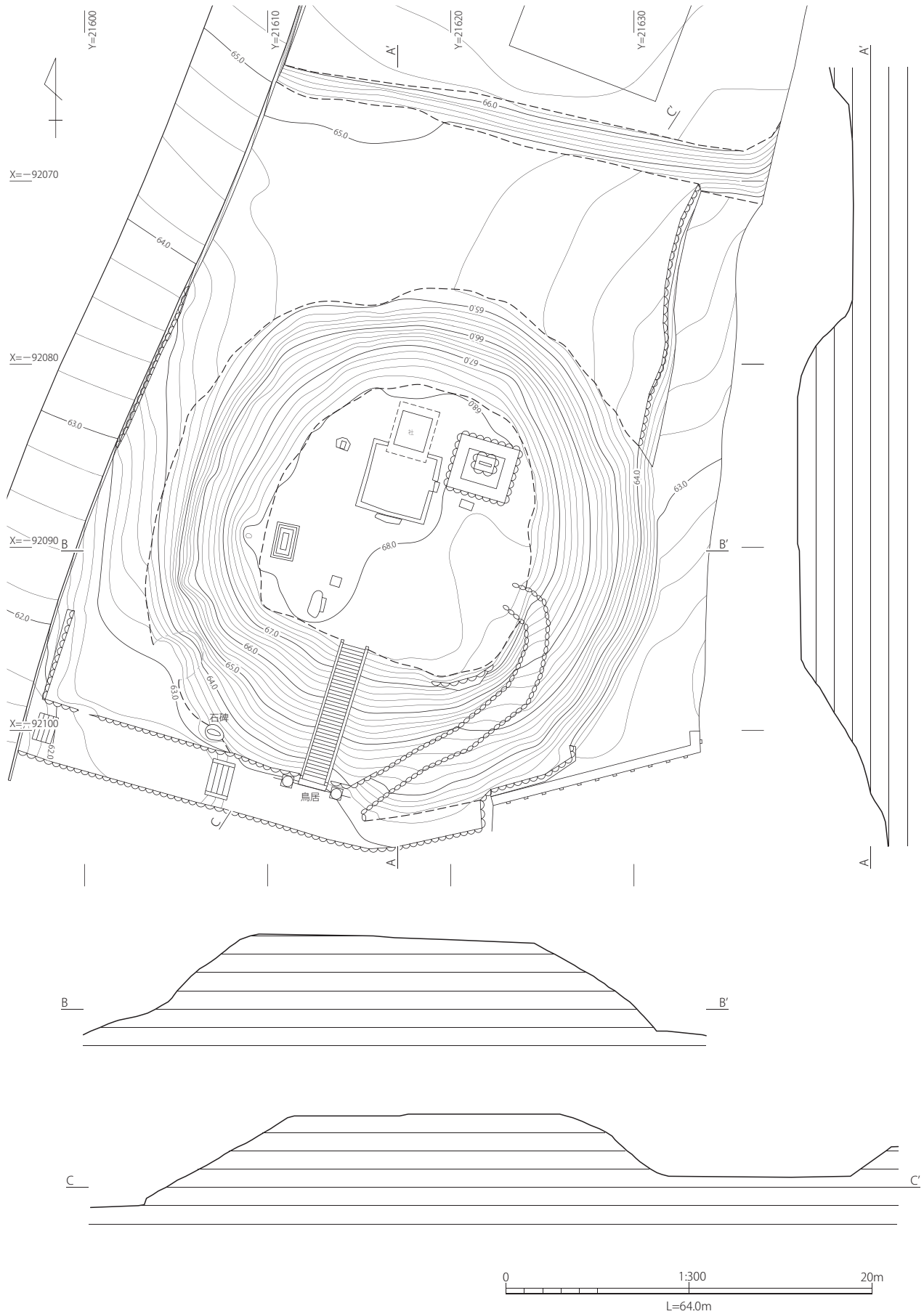
周溝 墳丘の北側には幅8.7mの周溝状の落ち込みが存在する。中野氏も周溝の可能性を指摘している通り、自然地形との分断を図り、盛土を確保する目的により掘削された周溝の痕跡と捉えられる。

周溝については、平成30年度に確認調査を実施し、その規模が明らかとなっており、後述することとする。

墳丘復元 墳丘復元に際しては、平面的な復元に合わせて、墳丘傾斜角度を考慮した立面的な復元も考慮されるべきである。しかし、琴平古墳の場合、墳頂部の本来の高さが明らかではなく、墳頂平面径と立面図の高さとの整合性を検証することができない。また、南側は北側（山側）よりも墳裾が低いことから、墳形も正円ではなかった可能性も残る。そのため、墳丘復元については、根拠が薄弱なものにならざるを得ない。今回は、墳丘が正円であるという前提で復元を行った。その結果、墳頂平径：墳丘径が1:2の墳丘径29.7m程度の円墳として復元しておくのが妥当である。



第211図 琴平古墳測量調査の様子



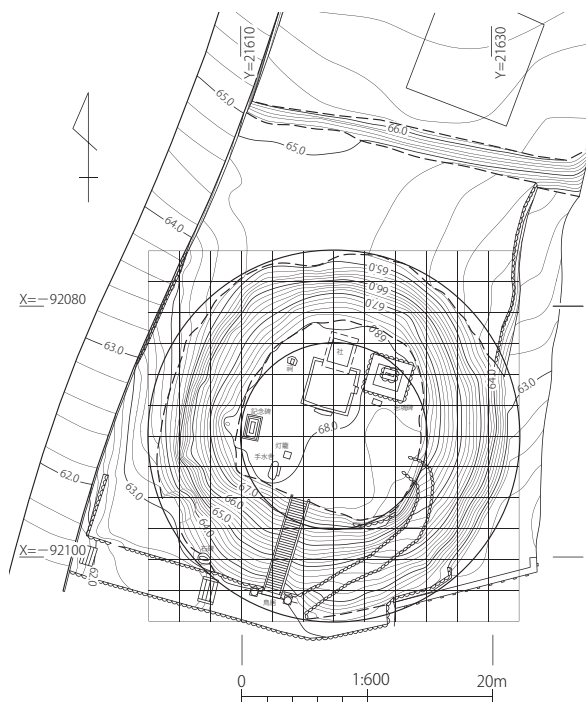
第 212 図 琴平古墳 墳丘測量図



第213図 墳丘・周溝全景（北西から）



第214図 墳丘北側及び墳裾（西から）



第215図 琴平古墳 墳丘復元図

第3節 発掘調査の成果

1 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

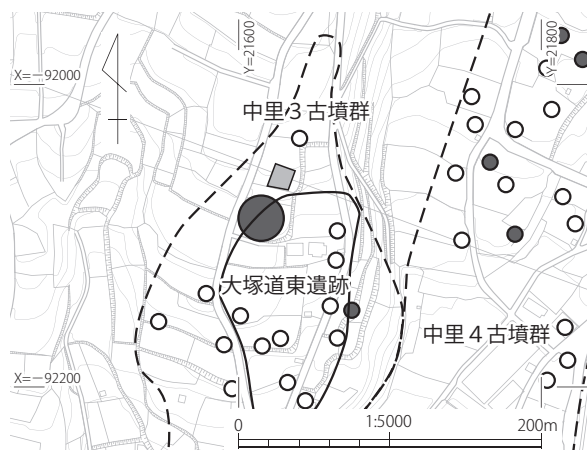
東京電力パワーグリッド株式会社（以下、事業者）は、富士市中里 2164-9（236 m²）において送電鉄塔敷地塔内舗装工事を計画した。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「中里3古墳群」の範囲内に該当し、また、県指定史跡「琴平古墳」に隣接する場所である。そのため、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年12月21日、事業者から「発掘調査承諾書」および「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、平成31年1月18日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査につ

いて」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第982号）、工事範囲と史跡範囲内の一部において、中里3古墳群第6地区として確認調査を実施することとなった。



第216図 中里3古墳群第6地区 位置図

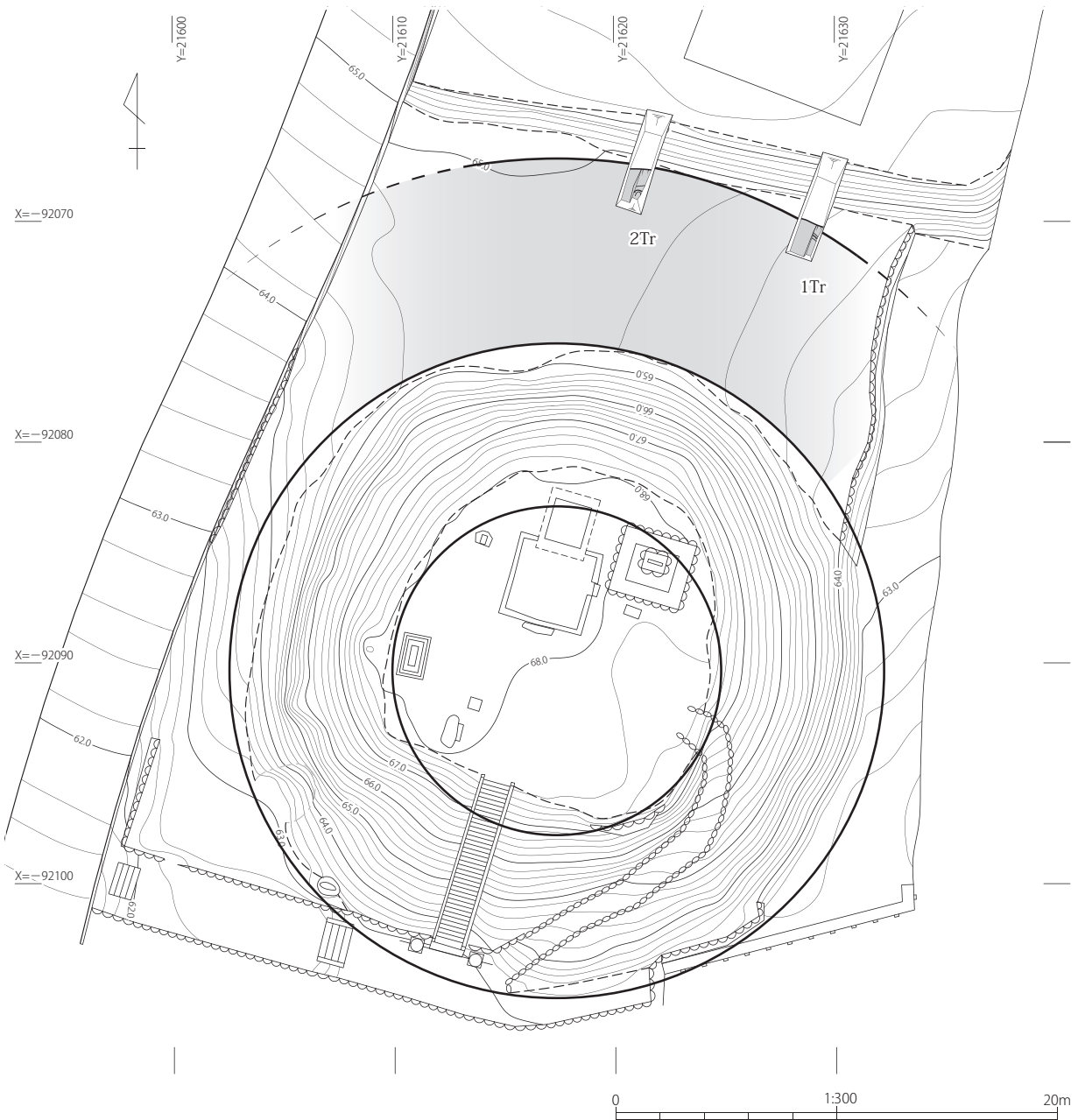
琴平古墳は県指定史跡であるため、平成30年12月25日、市教育委員会は「県指定史跡名勝天然記念物現状変更等許可申請書」を静岡県教育委員会に提出し（富市文発第926号）、現状変更の許可を得ている（平成31年1月8日付け教文第1886号）。

(2) 確認調査

調査は平成31年1月24日から2月1日にかけて行った。工事範囲から史跡範囲の一部にかけて、南北方向に2か所のトレンチを設定し（1～2Tr、11.545 m²）、人力により掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、史跡範囲内にあたるトレンチ南側で琴平古墳の周溝と考えられる遺構（SD1001）を検出した。遺物は、SD1001内で土師器片1点が出土し、2月5日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第1046号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第1046-2号）を提出した。これは2月15日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第2111号）。

工事範囲内では遺構・遺物は確認されなかった。2月1日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1028号）を提出した。また、

工事範囲内では遺構・遺物は確認されなかった。2月1日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1028号）を提出した。また、



第217図 トレンチ配置図

3月27日、「県指定史跡名勝天然記念物現状変更等終了届」を静岡県教育委員会に提出した（富市文発第1126号）。

(3) 調査の体制

中里3古墳群第6地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
(平成30年12月23日まで)

森田 嘉幸

(平成30年12月24日から)

[担当機関] 富士市役所市民部 部長 高野 浩一
文化振興課 課長 久保田伸彦
文化財担当 統括主幹 植松 良夫

主幹 石川 武男

調査担当者 主査 佐藤 祐樹

主事 伊藤 愛

臨時職員 小島 利史

若林 美希

志崎江 莉子

(平成30年12月1日から)

2 調査の成果

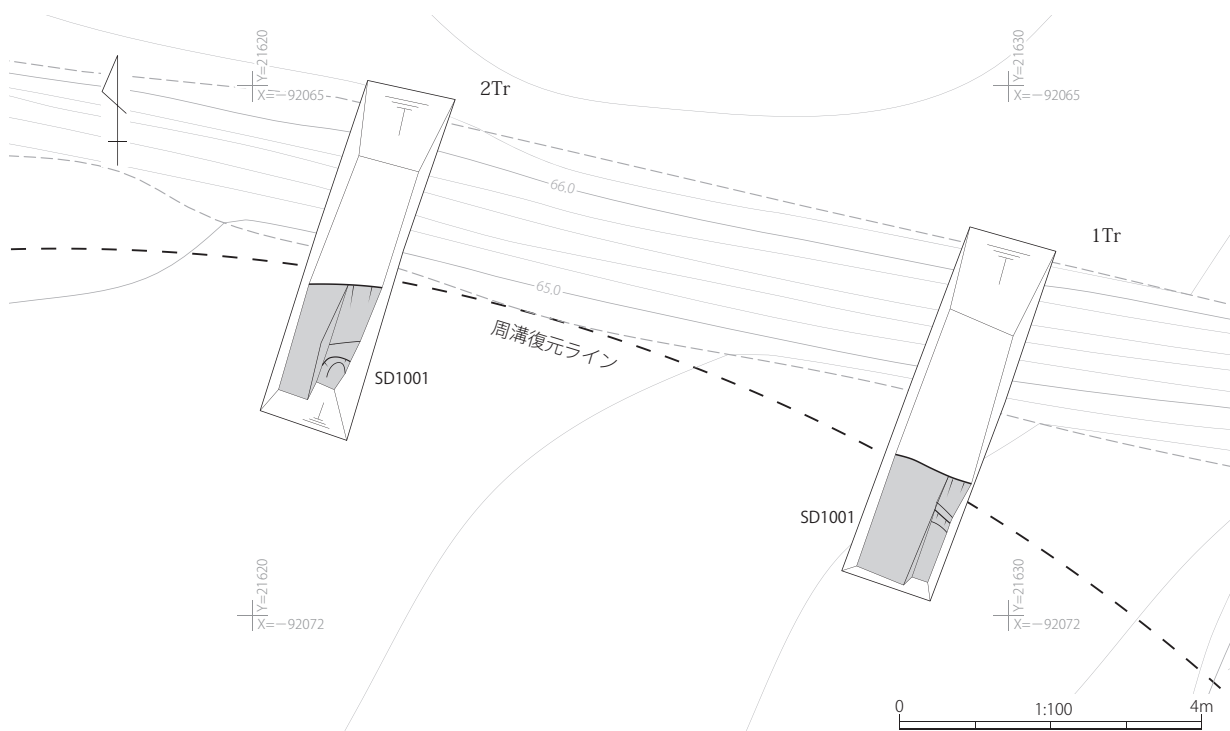
工事対象地は県指定史跡「琴平古墳」の史跡範囲の北に隣接し、史跡範囲の平坦面から南北幅2mほどの傾斜面を経て1.7mほど高くなる土地である。工事対象地から史跡範囲にかけて、傾斜面を断ち割る形で南北方向に2本のトレンチ（1～2Tr）を設定した。

その結果、いずれのトレンチにおいても、史跡範囲内にあたるトレンチ南側で、琴平古墳の周溝と考えられる掘り込み（SD1001）を検出した。

検出されたSD1001の平面プランは弧を描く形につながるものと推定され、周溝の北の立ち上がり部分とみられる。検出面からの深さは75cmを測る。測量調査により復元される琴平古墳の墳裾から、周溝幅は8.5mほどと推定されるが、墳丘を全周するかは不明である。

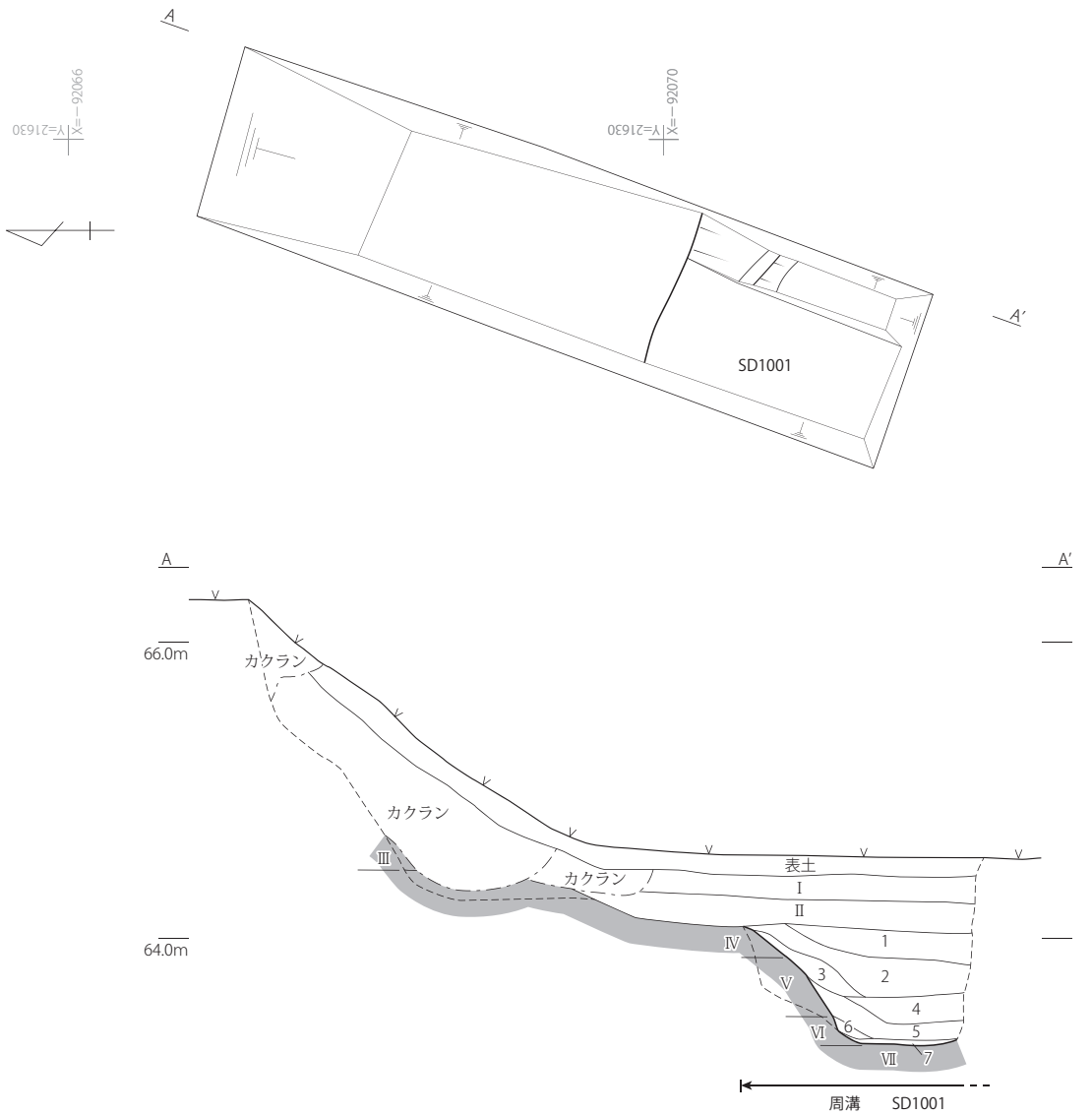
周溝覆土の最下層には、古墳時代中期末の富士山の火山活動により噴出した大淵スコリアが含まれており、琴平古墳の築造時期が古墳時代後期まで降ることが明らかとなった。

2トレンチでは、SD1001の覆土最上面で、径15～40cm、厚さ17cmほどの石がまとまって出土しているが（SX1001）、1トレンチでは認められず、その性格は不明である。

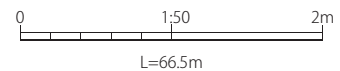


第218図 トレンチ平面図

1Tr 平面図 (サブトレンチ掘削)

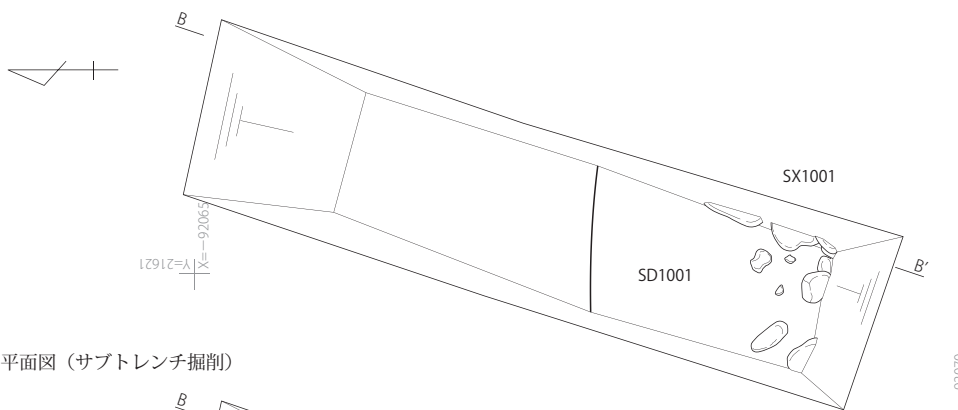


I	10YR2/2	黒褐色	しまりやや弱、粘性弱。	
II	7.5YR2/1	黒色	しまりやや弱、粘性弱。大淵スコリアを少量含む。	
III	10YR3/1	黒褐色	しまりややあり、粘性やや弱。	
IV	10YR4/3	にぶい黄褐色	しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒を少量含む。	
V	10YR3/2	黒褐色	しまりやや弱、粘性ややあり。橙色粒を少量含む。	
VI	10YR4/6	褐色	しまり強、粘性ややあり。スコリアを多量含む。	
VII	10YR4/2	灰黄褐色	しまり強、粘性あり。	
1	10YR2/2	黒褐色	しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリアを中量含む。	SD1001 覆土
2	10YR3/1	黒褐色	しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリアを多量含む。	SD1001 覆土
3	10YR2/2	黒褐色	しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア・ロームブロックを少量含む。	SD1001 覆土
4	10YR2/2	黒褐色	しまりやや弱、粘性ややあり。大淵スコリアを中量含む。	SD1001 覆土
5	10YR3/2	黒褐色	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵スコリアを中量、ロームブロックを少量含む。	SD1001 覆土
6	10YR2/2	黒褐色	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵スコリア・ロームブロックを少量含む。	SD1001 覆土
7	10YR3/1	黒褐色	しまりやや弱、粘性やや弱。	SD1001 覆土

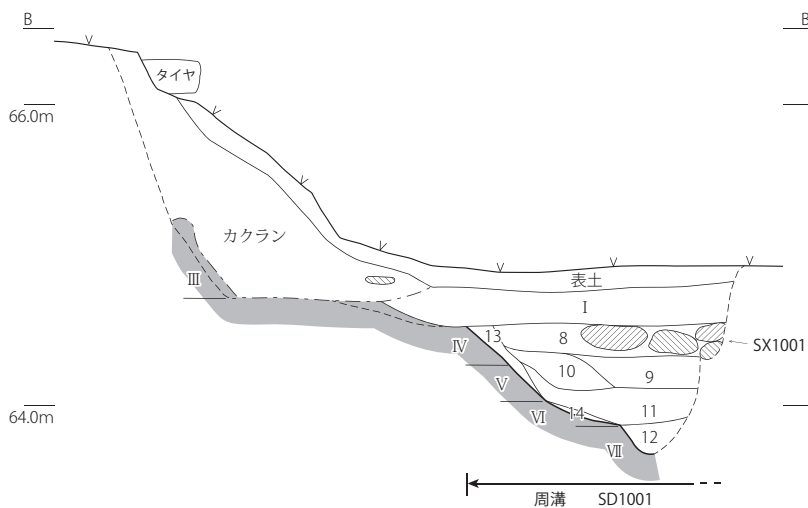
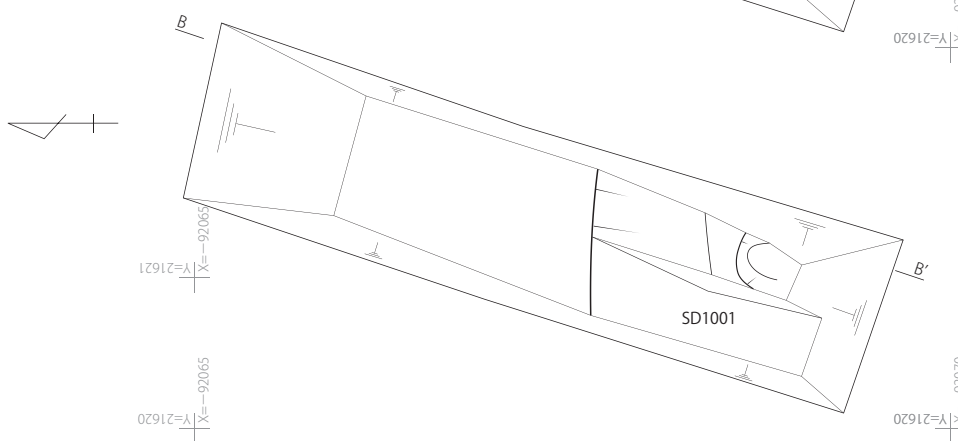


第219図 1トレンチ 平面図・セクション図

2Tr 平面図 (SD1001・SX1001 検出)

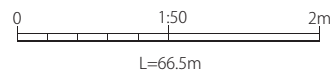


2Tr 平面図 (サブトレンチ掘削)



- | | | | |
|-----|----------|--------|-----------------------------|
| I | 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりやや弱、粘性弱。 |
| II | 7.5YR2/1 | 黒色 | しまりやや弱、粘性弱。大淵スコリアを少量含む。 |
| III | 10YR3/1 | 黒褐色 | しまりややあり、粘性やや弱。 |
| IV | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒を少量含む。 |
| V | 10YR3/2 | 黒褐色 | しまりやや弱、粘性ややあり。橙色粒を少量含む。 |
| VI | 10YR4/6 | 褐色 | しまり強、粘性ややあり。スコリアを多量含む。 |
| VII | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | しまり強、粘性あり。 |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色 | しまり弱、粘性弱。大淵スコリアを多量含む。 |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリアを多量含む。 |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリアを中量含む。 |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色 | しまりややあり、粘性やや弱。大淵スコリアを多量含む。 |
| 12 | 10YR2/1 | 黒色 | しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリアを多量含む。 |
| 13 | 10YR3/1 | 黒褐色 | しまりやや弱、粘性ややあり。 |
| 14 | 10YR3/2 | 黒褐色 | しまりやや弱、粘性やや弱。 |

- SD1001 覆土
- SD1001 覆土
- SD1001 覆土
- SD1001 覆土
- SD1001 覆土
- SD1001 覆土
- SD1001 覆土



第220図 2トレンチ 平面図・セクション図

第4節 総括

琴平古墳のこれまでの認識

これまで琴平古墳の墳丘規模は現状から直径31m、南からの高さ5m程度の円墳であるとされてきた（富士市教委 1988）。

また、築造年代については浮島ヶ原低地を望む丘陵先端で視認性を強く意識した立地から、前期後半の浅間古墳（前方後方・90.8m）、前期末の東坂古墳（前方後円・60m）について、中期初頭に大型円墳として築造されたという認識が学界での一般的な認識であった（鈴木 2011・佐藤 2018）。

琴平古墳の築造年代と規模

しかし、今回の調査によって琴平古墳の築造は古墳時代後期であることが明らかとなった。その根拠は、近年、5世紀末葉（TK23・TK47）の降下年代であることがほぼ確実になった「大淵スコリア」が、今回の調査で検出された周溝最下層に含まれる点である。しかも、大淵スコリアの混入があまり多くはない点も注意が必要である。

琴平古墳の南西に立地する天神塚古墳（中里 K-91 号墳）は、近年の詳細な再検討により大淵スコリア降下直後の5世紀末葉から6世紀前葉（TK47～MT15）に築造が開始されたことが明らかとなっている（藤村 2012）。天神塚古墳は前方後円墳であれば墳長51.5mに復元されるが、墳丘北側の周溝覆土には大淵スコリアが極多量に含まれており、琴平古墳の周溝覆土における大淵スコリアの混入状況とは大きな違いが指摘される。

その違いの原因は、2つの古墳の周溝掘削年代の違いによるものと考えられ、琴平古墳の築造は天神塚古墳よりも明らかに後とすることができる。

琴平古墳の周辺でほかに築造年代が明らかな古墳に中里 K-95 号墳、中里 K-97 号墳、中里 K-98 号墳、中里 K-99 号墳がある。中里 K-95 号墳からは圭頭大刀が出土しており、6世紀末葉から7世紀初頭（TK209～飛鳥 I）の築造で、他の3基はTK209の築造と考えられる。



第 221 図 琴平古墳周辺の古墳立地

また、琴平古墳からはこれまでに埴輪の採集は認められず、築造当初から埴輪は樹立されていなかったと考えられる。東駿河・伊豆における埴輪の受容は5世紀末葉（TK47）において伊豆の多田大塚6号墳を始めとして、6世紀前葉（MT15）の長塚古墳、伊勢塚古墳（MT15～TK10）、山ノ神古墳（TK10）などで認められ、その終焉はTK43とされる。（藤村 2018）。琴平古墳の周辺では、寺屋敷古墳において馬形埴輪が認められているのみである（藤村

2012）。東駿河において埴輪を樹立する古墳としない古墳が同時期に並存していても不思議ではない。

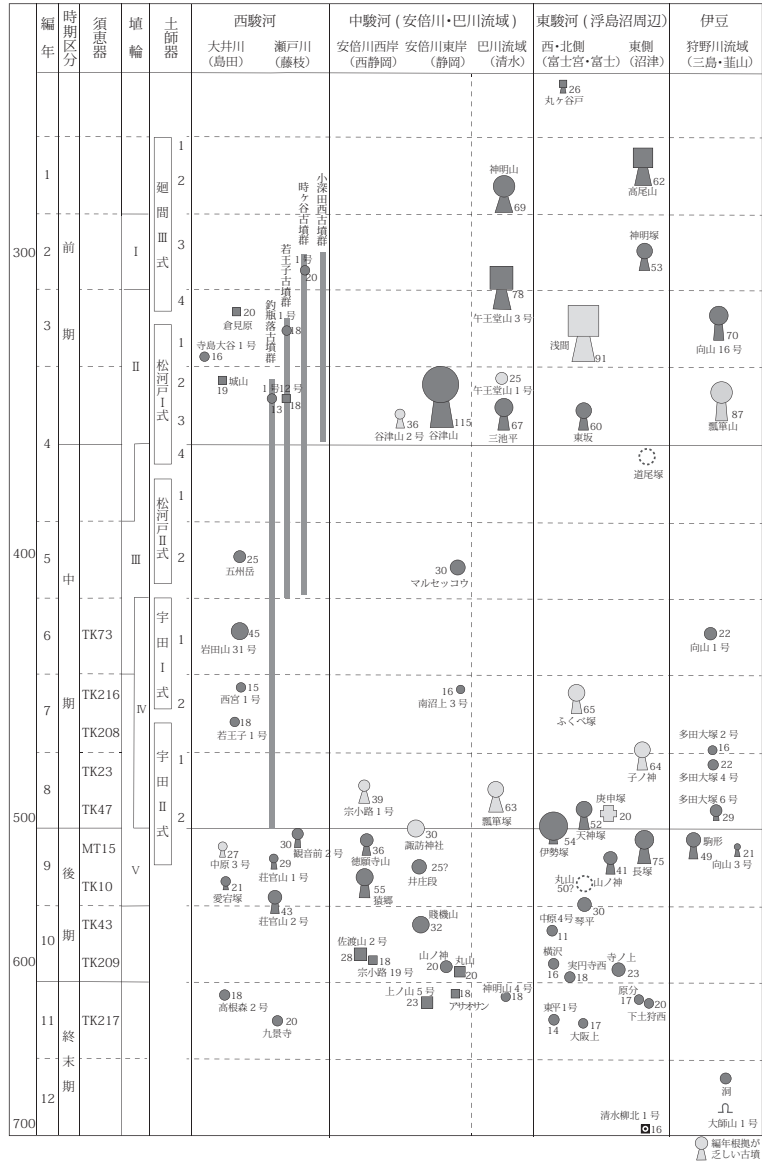
大淵スコリアの分析から琴平古墳の築造はMT15以降とされることも勘案すると埴輪受容時の後期中葉（TK10）から埴輪が一般的ではなくなる後期後葉（TK43）頃の築造としておくのが妥当だろう。

また、墳丘規模は径 29.7m 程度の円墳に復元され、幅 8.5m 程度の周溝の存在が明らかとなった。

第 27 表 周辺古墳一覧

古墳番号	古墳名	現状	墳形	墳長	内部主体	築造時期	主な出土遺物	備考	参考文献
248	中里 K-77 号墳	消滅			(横穴式石室)				中野 1958
249	中里 K-78 号墳 アガリット古墳	消滅			(横穴式石室)		鏡(乳文鏡)1、耳環、大刀3、馬具(轡1、鉸具)、須恵器(埴、ハソウ)	大正6年調査	静岡県 1930 中野 1958
250	中里 K-2 号墳 琴平古墳	現存	円墳	直径 29.7m	不明	6c (TK10～ TK43)		昭和33年 県指定	中野 1958
251	中里 K-79 号墳 道東古墳	消滅			(横穴式石室) (長 5.4m・幅 1.61m・ 高 1.21m)		装身具(勾玉10、耳環2)、大刀1、銅碗1、 砥石1	明治36年 調査 昭和30年採土 にて消滅	静岡県 1930 中野 1958
252	中里 K-80 号墳	消滅	(円墳)		(横穴式石室) (組合せ式箱式石棺)				中野 1958
253	中里 K-209 号墳	消滅			(横穴式石室)				
254	中里 K-84 号墳	消滅							中野 1958
255	中里 K-83 号墳	消滅							中野 1958
256	中里 K-85 号墳	消滅							中野 1958
257	中里 K-97 号墳	消滅				6c 末	大刀2、刀装具(賁金具1)、鉄鏃4+、刀子2、 須恵器(提瓶1)	昭和34年 8月発見	富士市教委 1975
258	中里 K-98 号墳	消滅				6c 末	大刀2、刀装具(鏢1)、鉄鏃16+、馬具(轡1、 飾金具25、鉸具1、素環辻金具?8)、須恵器(提 瓶1)	昭和42年 秋発見	富士市教委 1975
259	中里 K-99 号墳	消滅				6c 末	装身具(耳環2+2、切子玉3+1、丸玉8+6、小玉4)、 大刀6～7、刀装具(鏢1、賁金具3+)、鉄鏃 21+、馬具(轡1、飾金具3、鉸具1)、刀子3～4、 須恵器(坏蓋4、坏身4、横瓶1、提瓶1、フラ スコ瓶1、ハソウ3)、土師器(高坏4、坏2)	昭和43年 1月7日発見	富士市教委 1975
260	中里 K-86 号墳	消滅	(円墳)		(横穴式石室)				中野 1958
261	中里 K-88 号墳	消滅							中野 1958
262	中里 K-81 号墳	消滅			(横穴式石室)				中野 1958
263	中里 K-82 号墳	消滅			(横穴式石室)				中野 1958
264	中里 K-87 号墳	消滅	(円墳)		(横穴式石室)				中野 1958
265	中里 K-89 号墳	消滅	(円墳)		(横穴式石室)				中野 1958
266	中里 K-95 号墳 中里大久保古墳	消滅	(円墳)	(直径 12m)	横穴式石室 長 6m+	7c 第1 ～第2	装身具(耳環6、切子玉1、丸玉19、小玉7)、 大刀1、刀装具(圭頭柄頭1、賁金具3、足金物 1、鞆尻金具2)、鉄鏃30+、馬具(轡1、吊金具 3、鉸具2)、刀子4、須恵器(平瓶1、ハソウ1、 プラスチック瓶2)、土師器(坏1)	昭和46年調査	富士市教委 1975
267	中里 K-96 号墳	消滅							中野 1958
268	中里 K-90 号墳	消滅					(周囲から土師器・須恵器採集)		中野 1958
269	中里 K-91 号墳 天神塚古墳	現存	前方後円墳 or 円墳	51.5m or 32m		6c 初頭 TK47～ MT15			富士市教委 2012
270	中里 K-92 号墳 慶昌院古墳	消滅	(円墳)	(直径 8m)	(横穴式石室)		(大刀、鏢、須恵器)		中野 1958
271	中里 K-94 号墳 丸山古墳	消滅	(円墳)	(直径 50m?)					中野 1958
272	中里 K-93 号墳 寺屋敷古墳	消滅	(前方後円墳) or (円墳)		(幅4尺、長13尺 ベンガラ敷き石室)		(大刀、剣) 馬形埴輪		静岡県 1930 中野 1958
273	中里 K-210 号墳	消滅							富士市教委 1988
274	中里 K-211 号墳	消滅							富士市教委 1988
275	中里 K-212 号墳	消滅							富士市教委 1988

中野国雄 1958 『吉原市域の古墳』『吉原市の古墳』
静岡県 1930 『静岡県史 第1巻』
富士市教委 1988 『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』
富士市教委 1975 『中里大久保(K第95号)古墳 付載 K第97・98・99号墳の副葬品』
富士市教委 2012 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成11・12年度-』



第 222 図 駿河・伊豆における主要古墳の変遷

琴平古墳の位置づけ

琴平古墳の立地する丘陵上には、天神塚古墳の築造を契機として、6世紀代の古墳が点在している。また、現存しないものの中里 K-94 号墳（丸山古墳）は直径 50m 近い円墳であった可能性も指摘されており、前述の寺屋敷古墳も大型の石棺を持つ前方後円墳であった可能性も残る。琴平古墳は 29.7m とやや小型の円墳ではあるものの、幅 8.5m の周溝の存在は他の古墳との階層差は明らかである。

また、その立地は 7 世紀以降の大群集墳である須津古墳群が展開する須津川方面からの視認性を意識したかのような占地であり、中里古墳群における 6 世紀中葉から後葉の盟主的な古墳であったと結論付けられよう。

参考文献

佐藤祐樹 2018 「駿河・遠江における古墳出現期の様相－浮島ヶ原における首長系譜を中心に－」『東海地方における古墳出現期の様相 2』考古学研究会東海例会
 鈴木一有 2011 「東海東部」『講座日本の歴史 7 古墳時代(上)』青木書店
 富士市教委 1975 『中里大久保 (K 第 95 号) 古墳 付載 K 第 97・98・99 号墳の副葬品』
 富士市教育委員会 1988 『富士市の埋蔵文化財 (古墳編)』
 藤村 翔 2012 「古墳時代後期初頭における 2 つの首長墳とその評価」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成 11・12 年度－』富士市教育委員会
 藤村 翔 2018 「駿河・伊豆地域における埴輪祭祀の受容とその意義」『東海の埴輪－出現と終焉、地域性を探る－』考古学研究会東海例会

写真図版

PLATE



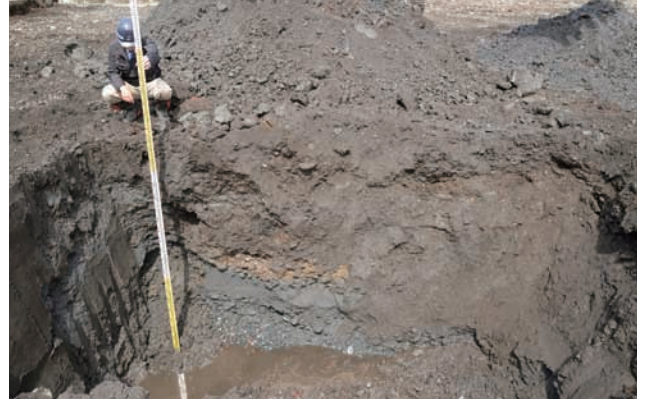
琴平古墳 1Tr 周溝 (北から)【第5章】

1 柏原遺跡 第12地区 1次調査



1. 1Tr (北東から)

2 沖田遺跡 第157次調査地点 2次調査



1. 4Tr 西壁 (東から)



出土遺物

3 川坂遺跡 第5地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

4 中島遺跡 第12地区 1次調査



1. 1Tr (北から)

5 厚原遺跡 第8地区 1次調査



1. 1Tr (南から)

6 中島遺跡 第13地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

7 滝川4古墳群 第3地区 1次調査



1. 2Tr (南西から)



1. 1Tr (北東から)

8 東平遺跡 第95地区 1次調査



1. 1Tr 南半部遺構検出状況 (北から)



2. SK1001 遺物出土状況 (北東から)



出土遺物

9 東平遺跡 第96地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)



2. 1Tr 西壁 (東から)



出土遺物

10 東平遺跡 第97地区 1次調査



1. 1Tr (西から)



出土遺物

12 東平遺跡 第98地区 1次調査



1. 1Tr (北から)

12 東平遺跡 第98地区 1次調査



1. SB1001・SB1002 断面 (北西から)



2. Pit1001・Pit1002 断面 (北から)



1



2

3

4

出土遺物

11 国久保遺跡 第7地区 1次調査



1. 1Tr (東から)



2. 1Tr 南壁 (北から)



1

出土遺物

13 高德坊遺跡 第5地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

14 三度蒔B遺跡 第4地区 1次調査



1. 1Tr (北から)

15 中桁・中ノ坪遺跡 第13地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

16 中桁・中ノ坪遺跡 第14地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)



2. 1Tr 東壁 (西から)



出土遺物

17 清水岩の上遺跡 第1地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

20 善得寺廃寺跡 第5地区 1次調査



1. 1Tr (北東から)

18 東平遺跡 第99地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

19 中桁・中ノ坪遺跡 第15地区 1・2次調査



1. 2Tr (南から)



2. SB1001 (南から)



2. 1Tr (東から)

21 花守遺跡 第5地区 1次調査



1. 1Tr (東から)

23 天間沢遺跡 第50地区 1次調査



1. 1Tr (南から)

24 天間沢遺跡 第51地区 1次調査



1. 1Tr (南から)

22 東平遺跡 第100地区 1次調査



1. 2Tr (東から)



2. 1Tr (南東から)



3. 1Tr 西壁 SD1001 土層 (東から)

25 包蔵地外 大淵地先



1. 1Tr (南西から)

26 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査



1. 2Tr (南東から)

27 川窪遺跡 第4地区1次調査



1. 1Tr (南から)

28 清水久保遺跡 第1地区1次調査



1. 1Tr (北から)



2. 2Tr 西壁 (東から)



3. 遺物 (1・2) 出土状況 (南から)

26 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査



出土遺物



1. 二タ子塚第2号墳（南西から）



2. 二タ子塚第2号墳（北西から）

29 石坂2古墳群 第5地区 1次調査



1. 1Tr (北西から)



2. 2Tr (北西から)



3. 1Tr 南壁 (北西から)



4. 6Tr～11Tr (北東から)

30 花守遺跡 第6地区 1次調査



1. 1Tr 西壁 (東から)

31 天間沢遺跡 第52地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

32 東平遺跡 第104地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

34 天間沢遺跡 第53地区 1次調査



1. 1Tr (東から)

33 柏原遺跡 第14地区 1次調査



1. 1Tr (北から)



2. 1Tr 東壁 (西から)



出土遺物

35 神谷古墳群 第11地区 1次調査



1. SZJ-09・SZJ-07 (北から)



2. SZJ-09 (南西から)



3. SZJ-07 (南東から)



1. SZJ-07 5Tr (南東から)



2. SZJ-07 奥壁検出 5Tr (南から)



3. SZJ-07 5Tr 西部分 (南から)



4. SZJ-07 5Tr 東部分 (南東から)



5. SZJ-07 6Tr (南西から)



6. SZJ-07 7Tr (南東から)



7. 調査区東西土層 (南から)

35 神谷古墳群 第11地区 1次調査



1. SZJ-09 (西から)



3. SZJ-09 3Tr (南から)



2. SZJ-09 奥壁検出 1Tr (北西から)



4. SZJ-09 4Tr (南西から)



5. SZJ-09・SX1001 (西から)



1



2

出土遺物

36 東平遺跡 第105地区 1次調査



1. 1Tr (東から)

37 丸崎遺跡 第3地区 1次調査



1. 1Tr (東から)

38 元吉原宿遺跡 第4地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

39 二本松遺跡 第1地区 1次調査

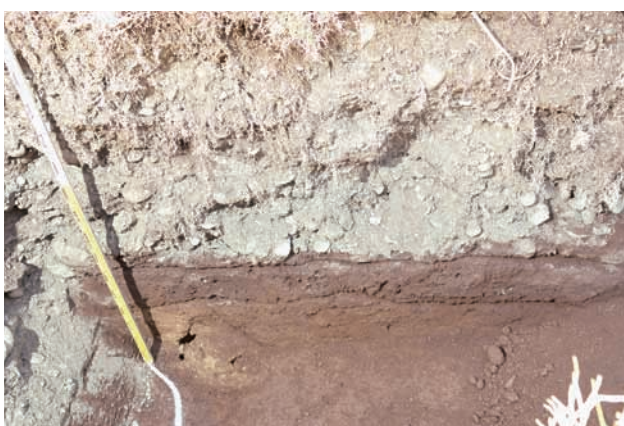


1. 1Tr (南から)

40 中桁・中ノ坪遺跡 第16地区 1次調査



1. 1Tr (北から)



2. 1Tr 東壁 (西から)



出土遺物

41 舟久保遺跡 第63地区 1次調査



1. 1Tr (北から)

42 東平遺跡 第106地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)



2. 1Tr北壁 (南から)

43 東平遺跡 第107地区 1次調査



1. 1Tr (南から)



2. 1Tr西壁 (東から)



出土遺物

44 東平遺跡 第108地区 1次調査



1. 1Tr (北西から)

45 夷城跡 第1地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

46 川坂遺跡 第6地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

47 大石遺跡 第3地区 1次調査



1. 1Tr (南から)

48 土手内・中原2古墳群 第16地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)



2. 1Tr 西壁 (東から)

49 宇東川遺跡 第27地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)



2. 1Tr 東壁 (西から)



3. SK1001 (南西から)



4. 3Tr (北西から)



4



1

2

3

7

5

6

出土遺物

50 比奈4古墳群 第2地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

51 天間沢遺跡 第54地区 1次調査



1. 1Tr (南西から)

53 東平遺跡 第109地区 1次調査



1. 3Tr (西から)

52 上の段遺跡 第3地区 1次調査



1. 1Tr (南から)



2. SB1001 東西土層 (北から)



出土遺物

54 中島遺跡 第14地区 1次調査



1. 1Tr (南東から)

55 川窪遺跡 第5地区 1次調査



1. 2Tr (南から)

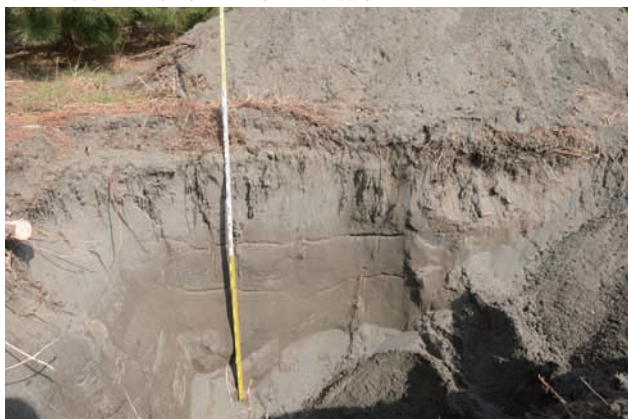


2. 2Tr 北壁 (南から)



2. 2Tr 西壁 (東から)

56 砂山遺跡 第1地区 1次調査



1. 2Tr (南から)

57 中里3古墳群 第7地区 1次調査



1. 1Tr (北東から)



1. 1Tr (西から)



2. 1Tr北壁 (南から)

工事立会い (天間沢遺跡 第45地区)



出土遺物

柏原遺跡 第13地区



1. 本調査区全景（第1面・南東から）



1. 確認調査 1Tr (南西から)



2. 確認調査 2Tr (南西から)



3. SD2001・Pit2001・SK2003 (北東から)



4. SK2003 (北東から)



5. Pit2001 (北東から)



6. Pit2002 (北東から)

柏原遺跡 第13地区



1. SD2003・SD2004 (東から)



3. SD2005 (北東から)



2. SD2002・SD2005・SX2001 (北東から)



4. 本調査区全景 (第2面・北東から)



5. 本調査区全景 (第3面・北東から)



1. 第3面 遺物(6)出土状況(北東から)



2. 第3面 土層堆積状況(東から)



1



5



3

4

2

6

7



8

出土遺物

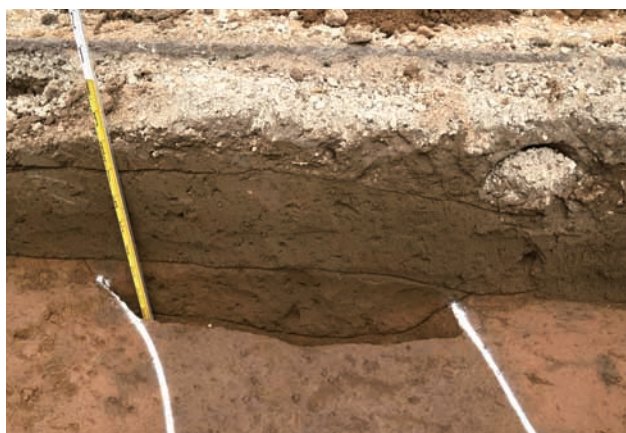
東平遺跡 第101地区



1. 本調査区全景（北東から）



1. 1次調査 1Tr (東から)



2. SD1001 北壁セクション (南から)



3. SD1002 北壁セクション (南から)



4. 2次調査 2Tr (南から)



5. Pit2003・Pit2004 (東から)



6. 2Tr 重機掘削の様子 (南西から)

東平遺跡 第101地区



1. SK4001 (北東から)



2. Pit4002 (南から)



3. Pit4003 (南東から)



4. Pit4004 (南から)



5. 本調査区北壁セクション (南から)



6. 調査の様子 (西から)



7. 工事立会い 遺構検出 (南西から)



1. 1 工区全景 (西から)

東平遺跡 第102地区



1. 2工区全景（北西から）



1. 1工区北壁（南から）



2. 1工区東壁（南西から）



3. 2工区南壁（北西から）

東平遺跡 第102地区



1. 2工区西壁（東から）



2. SK2074 東西断面（南東から）



3. Pit2057 東西断面（南から）



4. Pit2069（西から）



5. 調査の様子（北西から）



出土遺物



1. 2Tr 全景 (北東から)

東平遺跡 第103地区



1. SD2001 検出状況 (東から)



2. 調査風景 (北東から)



3. SD2001 南北セクション (東から)



1. 2Tr 西壁セクション (東から)



出土遺物

国久保遺跡 第8地区



1. 本調査区全景（北西から）



1. 1Tr (東から)



2. SB1001 遺物出土状況



3. SD2001 南北断面 (西から)



4. SK2001・SK2002・SK2003 (南西から)



5. Pit2004・Pit2005 (北東から)



1



1

出土遺物

中里3古墳群 第6地区 (琴平古墳)



1. 調査地全景 (北西から)



1. 調査前の様子 (西から)



3. 2Tr (北から)



2. 2Tr 東壁 (西から)



4. 1Tr 東壁 周溝覆土 (西から)

報告書抄録

ふりがな	ふじしないいせきはつかつちょうさほうこくしょ
書名	富士市内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成30年度
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第67集
編著者名	佐藤 祐樹・若林 美希 (編著) 伊藤 愛 (著)
編集機関	富士市教育委員会 (担当課: 市民部 文化振興課)
所在地	〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地 TEL 0545-55-2875
市町村コード	22210
発行年月日	令和元年11月1日

調査番号	所収番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名	調査原因	北緯	東経		
		調査面積		調査期間	市遺跡番号		特記事項
H30-102	2章	<small>カシノハライセキ</small> 柏原遺跡 第13地区2次調査		中柏原新田 87-1 ほか		集落跡	溝状遺構・土坑・ビット
		122.387 m ²	本発掘調査	35° 08' 07.14"	138° 44' 50.63"	縄文・奈良	土器 (縄文時代・奈良時代)
				20180709 ~ 20180717	97		
H30-103	3章	<small>ヒコシゲイセキ</small> 東平遺跡 東平第102地区2次調査		伝法 2551-1 ほか		集落跡	土坑・ビット
		293.325 m ²	本発掘調査	35° 10' 23.85"	138° 40' 11.58"	奈良・平安・中世	土器 (奈良・平安)・陶磁器 (中世)
				20181023 ~ 20181122	42		
H30-104	4章	<small>クニタケボイモキ</small> 国久保遺跡 第8地区2次調査		国久保三丁目 1999-9 ほか		集落跡	溝状遺構・土坑・ビット
		38.672 m ²	本発掘調査	35° 10' 23.40"	138° 40' 51.93"	奈良・平安	土器 (奈良・平安)
				20181030 ~ 20181102	45		
H30-106	3章	<small>ミツコイサハイセキ</small> 三日月庵寺跡 東平遺跡第101地区4次調査		浅間上町 2984-1 ほか		集落跡・社寺跡	土坑・ビット
		16.585 m ²	本発掘調査	35° 10' 06.65"	138° 40' 31.94"	奈良・平安	なし
				20190129	43		
H30-01	1章2節 1	<small>カシノハライセキ</small> 柏原遺跡 第12地区1次調査		西柏原新田 138番 6		集落跡	堅穴建物跡
		6.285 m ²	確認調査	35° 08' 14.20"	138° 44' 38.76"	奈良・平安	土師器・須恵器
				20180410	97		
H30-02	1章2節 2	<small>ウツノイセキ</small> 沖田遺跡 第157次調査地点2次調査		今泉二丁目 81番 5 ほか		その他の遺跡・その他の墓	なし
		40.565 m ²	確認調査	35° 09' 46.36"	138° 41' 41.01"		なし
				20180412	53		
H30-03	1章2節 3	<small>カサガハイセキ</small> 川坂遺跡 第5地区1次調査		天間 919-11		散布地	ビット
		11.079 m ²	確認調査	35° 12' 29.81"	138° 38' 21.52"	不明	なし
				20180416 ~ 20180417	5		
H30-04	1章2節 4	<small>ナカシマイセキ</small> 中島遺跡 第12地区1次調査		原田 906-1		集落跡	
		63.221 m ²	確認調査	35° 10' 23.50"	138° 42' 16.51"	不明	なし
				20180416 ~ 20180419	49		
H30-05	1章2節 5	<small>アサノイセキ</small> 厚原遺跡 第8地区1次調査		厚原 747-2		散布地	なし
		6.039 m ²	確認調査	35° 11' 18.01"	138° 39' 26.03"		なし
				20180423	12		
H30-06	1章2節 6	<small>ナカシマイセキ</small> 中島遺跡 第13地区1次調査		原田 926-1		集落跡	なし
		8.023 m ²	確認調査	35° 10' 30.34"	138° 42' 20.12"		なし
				20180426	49		
H30-07	1章2節 7	<small>カサガハイセキ</small> 滝川4古墳群 第3地区1次調査		原田 1369-1		古墳	なし
		8.591 m ²	確認調査	35° 10' 21.52"	138° 42' 52.15"		なし
				20180517 ~ 20180518	177		
H30-08	1章2節 8	<small>ミツコイサハイセキ</small> 三日月庵寺跡 東平第95地区1次調査		浅間本町 2992番 4、2992番 27		集落跡・社寺跡	堅穴建物跡
		39.128 m ²	確認調査	35° 10' 03.79"	138° 40' 36.51"	奈良・平安	土師器・須恵器・瓦
				20180514 ~ 20180516	43		
H30-09	1章2節 9	<small>ヒコシゲイセキ</small> 東平遺跡 東平第96地区1次調査		伝法 2326-4		集落跡	堅穴建物跡
		14.293 m ²	確認調査	35° 10' 18.46"	138° 40' 39.59"	奈良・平安	土師器・須恵器
				20180521 ~ 20180523	42		
H30-10	1章2節 10	<small>ヒコシゲイセキ</small> 東平遺跡 東平第97地区1次調査		伝法 2518-1		集落跡	土坑・ビット
		79.761 m ²	確認調査	35° 10' 22.31"	138° 40' 21.77"	奈良・平安	土師器・須恵器
				20180529 ~ 20180531	42		
H30-11	1章2節 11	<small>クニタケボイモキ</small> 国久保遺跡 第7地区1次調査		国久保三丁目 1995-7 ほか		集落跡	堅穴建物跡
		5.493 m ²	確認調査	35° 10' 21.68"	138° 40' 51.93"	平安	土師器
				20180605	45		

調査 番号	所収 番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H30-12	2章	キナハラノミヤノキ 柏原遺跡 第13地区1次調査		中柏原新田 87-1 ほか 35 08' 07.14" 138 44' 50.63"		集落跡	ビット
		24.741 m ²	確認調査	20180607 ~ 20180608		97	土師器・石器
H30-13	1章2節 12	ヒギンダイイセキ 東平遺跡 東平第98地区1次調査		伝法 2449-1 ほか 35 10' 17.37" 138 40' 30.34"		集落跡	堅穴建物跡・土坑・ビット
		25.519 m ²	確認調査	20180612 ~ 20180613		42	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器
H30-14	1章2節 13	ウツノツツノミヤノキ 高徳坊遺跡 第5地区1次調査		岩本 537-97 35 10' 59.69" 138 38' 16.15"		集落跡	なし
		10.355 m ²	確認調査	20180614 ~ 20180615		11	なし
H30-15	1章2節 14	キナハラノミヤノキ 三度蔭 B 遺跡 第4地区1次調査		三ツ沢 676-1 ほか 35 11' 10.11" 138 42' 44.49"		散布地	なし
		44.673 m ²	確認調査	20180618 ~ 20180619		24	なし
H30-16	1章2節 15	キナハラノミヤノキ 中桁・中ノ坪遺跡 第13地区1次調査		伝法 1085-1 ほか 35 10' 28.23" 138 39' 49.61"		集落跡	溝・ビット
		25.310 m ²	確認調査	20180625 ~ 20180626		128	土師器・須恵器
H30-17	1章2節 16	キナハラノミヤノキ 中桁・中ノ坪遺跡 隣接地 (第14地区1次調査)		伝法 1439-1 ほか 35 10' 08.55" 138 40' 01.67"		集落跡	ビット・不明遺構
		11.886 m ²	試掘調査	20180627		128	土師器
H30-18	1章2節 17	シメズイワノクワノミヤノキ 清水岩の上遺跡 第1地区1次調査		北松野 1616 番 6 35 11' 14.68" 138 35' 32.52"		散布地	なし
		7.952 m ²	確認調査	20180627		225	なし
H30-19	1章2節 18	ヒギンダイイセキ 東平遺跡 東平第99地区1次調査		伝法 3011-4 ほか 35 10' 01.82" 138 40' 30.27"		集落跡	堅穴建物跡・土坑・ビット
		18.865 m ²	確認調査	20180702		42	土師器
H30-20	1章2節 19	キナハラノミヤノキ 中桁・中ノ坪遺跡 第15地区1次調査		伝法 1294 ほか 35 10' 29.03" 138 39' 31.75"		集落跡	なし
		8.043 m ²	確認調査	20180703 ~ 20180704		128	なし
H30-21	1章2節 20	セントラジヘイジヤント 善得寺廃寺跡 第5地区1次調査		今泉 5 丁目 1155-1 ほか 35 10' 05.28" 138 41' 45.44"		社寺跡	なし
		17.637 m ²	確認調査	20180709		126	なし
H30-22	1章2節 21	ハナモリイセキ 花守遺跡 第5地区1次調査		富士岡 297-1 ほか 35 09' 36.37" 138 43' 32.78"		散布地	なし
		4.957 m ²	確認調査	20180717		66	なし
H30-23	1章2節 22	ヒギンダイイセキ 東平遺跡 東平第100地区1次調査		伝法 2754-8 35 10' 17.62" 138 40' 10.89"		集落跡	堅穴建物跡・溝・ビット
		25.229 m ²	確認調査	20180718		42	土師器
H30-24	1章2節 23	アンマロイセキ 天間沢遺跡 第50地区1次調査		天間 1889-14 35 12' 46.04" 138 38' 39.82"		集落跡	なし
		4.429 m ²	確認調査	20180724		7	なし
H30-25	1章2節 24	アンマロイセキ 天間沢遺跡 第51地区1次調査		天間 1884-1-1 35 12' 41.76" 138 38' 39.69"		集落跡	なし
		13.530 m ²	確認調査	20180725		7	なし
H30-26	1章2節 25	ウツノツツノミヤノキ 包蔵地外 大淵地先		大淵 3784-1 ほか 35 12' 56.03" 138 40' 27.12"		散布地	なし
		42.414 m ²	試掘調査	20180719 ~ 20180724		999	なし
H30-27	1章2節 26	オキライセキ 沖田遺跡 第158次調査地点1次調査		比奈 967-2 35 09' 51.53" 138 42' 54.88"		その他の遺跡・その他の墓	土坑・ビット
		56.429 m ²	確認調査	20180730 ~ 20180801		53	弥生・古墳・奈良・平安 土師器・須恵器・陶磁器・金属製品
H30-28	1章2節 27	カワタロイセキ 川窪遺跡 隣接地 (第4地区1次調査)		厚原 302 35 10' 39.38" 138 39' 13.23"		集落跡・その他の墓	なし
		20.294 m ²	試掘調査	20180730		127	なし
H30-29	3章	ミツキオホヘイジヤント 三日月廃寺跡 東平遺跡第101地区1次調査		浅間上町 2984-1 35 10' 06.65" 138 40' 31.94"		集落跡・社寺跡	溝状遺構
		8.291 m ²	確認調査	20180807		43	奈良・平安 土器
H30-30	3章	ヒギンダイイセキ 東平遺跡 東平第102地区1次調査		伝法 2551-1 ほか 35 10' 23.85" 138 40' 11.58"		集落跡	ビット
		19.988 m ²	確認調査	20180806		42	奈良・平安 なし
H30-31	1章2節 28	シメズイワノクワノミヤノキ 清水久保遺跡 第1地区1次調査		入山瀬 666-4 35 11' 47.11" 138 38' 40.03"		散布地	なし
		14.288 m ²	確認調査	20180810		9	なし
H30-32	3章	ミツキオホヘイジヤント 三日月廃寺跡 東平遺跡第103地区1次調査		浅間上町 2967-1 35 10' 05.63" 138 40' 41.42"		集落跡・社寺跡	堅穴建物跡・土坑・ビット・溝
		21.661 m ²	確認調査	20180821		43	奈良・平安 土器・瓦・鉄製品
H30-33	1章2節 29	イシノサカノミヤノキ 石坂 2 古墳群 第5地区1次調査		石坂 618-81 ほか 35 11' 15.80" 138 40' 59.99"		古墳	古墳
		419.694 m ²	確認調査	20180820 ~ 20180830		152	土器

調査 番号	所収 番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H30-34	1章2節 30	花守遺跡 第6地区1次調査		富士岡 233-1 ほか		散布地	なし
		6.662 m ²	確認調査	20180827	35 09' 39.05"		
H30-35	1章2節 31	天間沢遺跡 第52地区1次調査		天間 1130-2		集落跡	なし
		4.845 m ²	確認調査	20180830	35 12' 25.99"		
H30-36	1章2節 32	東平遺跡 東平第104地区1次調査		伝法 2550-1		集落跡	なし
		9.778 m ²	確認調査	20180831	35 10' 23.46"		
H30-37	3章	三日市廃寺跡 東平遺跡第103地区2次調査		浅間上町 2967-1		集落跡・社寺跡	堅穴建物跡・溝・ビット・不明遺構
		100.658 m ²	確認調査	20180905～20180907	35 10' 05.63"		
H30-38	1章2節 33	枯原遺跡 第14地区1次調査		中柏原新田 35 ほか		集落跡	なし
		11.864 m ²	確認調査	20180903	35 08' 06.54"		
H30-39	1章2節 34	天間沢遺跡 第53地区1次調査		天間 569番 1 ほか 11 筆		集落跡	なし
		56.246 m ²	確認調査	20180906	35 12' 16.82"		
H30-40	1章2節 19	中桁・中ノ坪遺跡 第15地区2次調査		伝法 1294		集落跡	ビット
		12.024 m ²	確認調査	20180903	35 10' 29.03"		
H30-41	1章2節 35	神谷古墳群 第11地区1次調査		川尻 480-1 ほか		古墳	古墳・不明遺構
		155.926 m ²	確認調査	20180910～20181009	35 10' 21.51"		
H30-42	1章2節 36	三日市廃寺跡 東平遺跡第105地区1次調査		浅間本町 92-1 ほか		集落跡・社寺跡	なし
		13.079 m ²	確認調査	20180910	35 09' 58.34"		
H30-43	1章2節 37	丸崎遺跡 第3地区1次調査		南松野 2194-1		集落跡・生産遺跡	なし
		10.922 m ²	確認調査	20180918	35 10' 52.67"		
H30-45	1章2節 38	元吉原宿遺跡 第4地区1次調査		今井二丁目 58番		集落跡	なし
		1.799 m ²	確認調査	20180921	35 08' 30.39"		
H30-46	1章2節 39	二本松遺跡 第1地区1次調査		伝法 676番 1		散布地	なし
		8.035 m ²	確認調査	20181001～20181003	35 11' 07.96"		
H30-47	1章2節 40	中桁・中ノ坪遺跡 第16地区1次調査		伝法 1173番 8		集落跡	堅穴建物跡
		5.316 m ²	確認調査	20181011	35 10' 17.56"		
H30-48	1章2節 41	舟久保遺跡 第63地区1次調査		今泉六丁目 1590番 17		集落跡	堅穴建物跡・ビット
		6.859 m ²	確認調査	20181016	35 10' 03.79"		
H30-49	1章2節 42	東平遺跡 東平第106地区1次調査		伝法 2863-3		集落跡	堅穴建物跡?・ビット・溝
		4.564 m ²	確認調査	20181018	35 10' 09.10"		
H30-50	4章	国久保遺跡 第8地区1次調査		国久保三丁目 1999-9		集落跡	堅穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・ビット
		34.440 m ²	確認調査	20181012	35 10' 23.63"		
H30-51	1章2節 43	三日市廃寺跡 東平遺跡第107地区1次調査		浅間本町 2991-6 ほか		集落跡・社寺跡	なし
		23.181 m ²	確認調査	20181024	35 10' 05.55"		
H30-52	3章	三日市廃寺跡 東平遺跡第101地区2次調査		浅間上町 2984-1		集落跡・社寺跡	ビット
		12.447 m ²	確認調査	20181107	35 10' 06.65"		
H30-53	1章2節 44	三日市廃寺跡 東平遺跡第108地区1次調査		浅間上町 2896番 12		集落跡・社寺跡	なし
		8.934 m ²	確認調査	20181113	35 10' 09.05"		
H30-54	1章2節 45	夷城跡 第1地区1次調査		間門 296-1		城館跡	なし
		10.966 m ²	確認調査	20181121～20181122	35 11' 10.99"		
H30-55	1章2節 46	川板遺跡 第6地区1次調査		天間 836-1		散布地	なし
		10.094 m ²	確認調査	20181126～20181128	35 12' 23.78"		
H30-56	1章2節 47	大石遺跡 第3地区1次調査		厚原 2275-1		散布地	なし
		12.280 m ²	確認調査	20181204	35 11' 15.99"		

調査 番号	所収 番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H30-57	1章2節 48	ヒラシナイ・ナラハラコワンゲン 土手内・中原2古墳群 第16地区1次調査		伝法 120番1 35 11' 02.58" 138 40' 46.80"		古墳	なし
		182.312㎡	確認調査	20181205～20181206		147	なし
H30-58	1章2節 49	ウラキガタケ 宇東川遺跡 第27地区1次調査		原田 646-1ほか 35 10' 19.30" 138 42' 05.00"		集落跡	ビット
		42.117㎡	確認調査	20181217～20181220		50	土器（縄文時代・奈良時代）
H30-59	1章2節 50	ヒラシナイコワンゲン 比奈4古墳群 第2地区1次調査		比奈 1132-1外 35 10' 05.20" 138 42' 55.90"		古墳	なし
		24.320㎡	確認調査	20190110～20190111		181	土器
H30-60	1章2節 51	シラカサキ 天間沢遺跡 第54地区1次調査		天間 1079ほか 35 12' 25.40" 138 38' 33.10"		集落跡	なし
		5.143㎡	確認調査	20190108		7	なし
H30-61	1章2節 52	ウツノダニ 上の段遺跡 第3地区1次調査		境 707-17ほか 35 09' 18.70" 138 45' 40.40"		散布地	なし
		10.080㎡	確認調査	20190115～20190117		82	土器
H30-62	5章	ナカノサコワンゲン 中里3古墳群 第6地区1次調査（琴平古墳）		中里 2164-9ほか 35 10' 11.80" 138 44' 15.00"		古墳	古墳の周溝
		236.000㎡	確認調査	20190124～20190201		198	土師器
H30-63	1章2節 53	ヒラシナイ 東平遺跡 第109地区1次調査		浅間上町 2372-1 35 10' 18.10" 138 40' 34.40"		集落跡	堅穴建物跡・土坑
		91.605㎡	確認調査	20190122～20190123		42	土器・鉄製品
H30-64	3章	ミツノイテヘマツ 三日月庵跡 東平遺跡第101地区3次調査		浅間上町 2984-1ほか 35 10' 06.65" 138 40' 31.94"		集落跡・社寺跡	溝状遺構・ビット
		16.585㎡	確認調査	20190128		43	なし
H30-65	1章2節 54	サカヅメ 中島遺跡 第14地区1次調査		原田 862-1 35 10' 28.70" 138 42' 15.30"		集落跡	なし
		35.618㎡	確認調査	20190201～20190205		49	なし
H30-66	1章2節 55	カワノイセ 川窪遺跡 第5地区1次調査		厚原 204-1 35 10' 34.70" 138 39' 04.70"		集落跡・その他の墓	なし
		27.670㎡	確認調査	20190206～20190212		127	なし
H30-67	1章2節 56	スナヤマ 砂山遺跡 第1地区1次調査		鈴川東町 563-3 35 08' 29.30" 138 42' 22.40"		散布地	なし
		20.087㎡	確認調査	20190220～20190226		95	なし
H30-68	1章2節 57	ナカノサコワンゲン 中里3古墳群 第7地区1次調査		中里 2162-2 35 10' 10.20" 138 44' 15.80"		古墳	なし
		3.330㎡	確認調査	20190307		198	なし
H30-69	1章2節 58	ヒラシナイ 東平遺跡 第110地区1次調査		伝法 2503-9 35 10' 27.20" 138 40' 17.70"		集落跡	なし
		20.421㎡	確認調査	20190318		42	なし

富士市埋蔵文化財調査報告 第67集

富士市内遺跡発掘調査報告書 —平成30年度—

発行年月日 令和元年11月1日

編集・発行 富士市教育委員会

〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目100番地

TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789

E-mail: si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社

〒410-0871 静岡県沼津市西間門68番地の1

(富士市行政資料登録番号 R1-44)